

科目名	科目担当代表教員	ページ数
心理学概論	小塚 美由記	4
総合教養講座	白戸 力弥	13
文章表現	佐々木 雅哉	22
食生活論	荒井 三津子	31
生活と社会環境	辻 幸美	40
キャリア入門	木村 悠里菜	49
現代医療と福祉・介護	高岡 哲子	56
日本国憲法	奥谷 知冬	65
キャリア形成	木村 悠里菜	74
情報処理	常見 裕子	81
生命科学	宮下 和夫	90
数理・データサイエンス・AI入門	松岡 審爾	99
数理・データサイエンス・AI実践	松岡 審爾	106
統計の基礎	武田 裕康	113
英語Ⅰ	Patrick Hall	122
英語Ⅱ	相馬 哲也	131
韓国語Ⅰ	曹 順姫	140
韓国語Ⅱ	半田 光	149
生涯スポーツⅠ	平岡 英樹	158
生涯スポーツⅡ	平岡 英樹	167
教育学概論Ⅰ	中田 和彦	176
教育学概論Ⅱ	中田 和彦	185
生涯学習概論Ⅰ	吉岡 亜希子	194
生涯学習概論Ⅱ	吉岡 亜希子	203
教育心理学Ⅰ	木谷 岐子	212
教育心理学Ⅱ	木谷 岐子	221
アカデミックライティング	宮崎 隆志	230
地域未来概論(地域の未来を語る)	熊野 稔	239
世界と北海道	中山 大将	248
日本政治経済論	宮本 融	257
自治体を知る	松田 祐	266
北海道の食文化	藤井 駿吾	275
持続可能な地域社会と地域創生	木村 俊昭	284
北海道の社会と文化(多文化共生)	松田 剛史	293
地域パートナーシップを知る	松田 祐	302
教育から考える地域と未来Ⅰ	中田 和彦	311
教育から考える地域と未来Ⅱ	中田 和彦	320
社会教育論	中田 和彦	329
教育から考えるサステナビリティ	松田 祐	338
人口減少時代の地域と大学	松田 祐	347
教育から考える社会貢献	吉岡 亜希子	356

生涯学習支援論	吉岡 亜希子		365
社会教育経営論	中田 和彦		374
コミュニティ教育論Ⅰ	宮崎 隆志		383
コミュニティ教育論Ⅱ	宮崎 隆志		392
こども家庭支援論	吉岡 亜希子		401
こども家庭支援の心理学	吉岡 亜希子		410
教育行政学	中田 和彦		419
地域商業概論	木村 悠里菜		428
人口減少時代の対話と合意形成	松田 祐		437
地域と文化	木村 悠里菜		446
地域イノベーション論	熊野 稔		455
地域創生の実践と経営	木村 悠里菜		464
地域・防災まちづくり	熊野 稔		473
地域とコミュニティ	木村 悠里菜		482
国際社会が抱える課題と対応	青 晴海		491
国際地域開発論	青 晴海		500
健康社会と福祉	松本 洋子		509
まちづくり法規	熊野 稔		518
公衆衛生学	續 佳代		527
都市計画学	熊野 稔		536
社会福祉	松岡 是伸		545
景観デザイン論	熊野 稔		554
統計と社会調査法	小田 史郎		563
アントレプレナーシップ概論	木村 真理恵		572
公務員講座Ⅰ	高橋 保夫		581
公務員講座Ⅱ	高橋 保夫		590
日本語ビジネスライティング	佐々木 雅哉		599
ビジネス会計の基礎	篠本 智之		608
地域を知る(地域未来創造入門)	熊野 稔		617
地域を知る(地域未来創造入門)	木村 俊昭		626
地域を知る(地域未来創造入門)	中田 和彦		635
地域を知る(地域未来創造入門)	宮崎 隆志		644
地域を知る(地域未来創造入門)	吉岡 亜希子		653
地域を知る(地域未来創造入門)	木村 悠里菜		662
地域を知る(地域未来創造入門)	松田 祐		671
地域未来創造基礎(Adventure)	熊野 稔		680
地域未来創造基礎(Adventure)	木村 俊昭		689
地域未来創造基礎(Adventure)	中田 和彦		698
地域未来創造基礎(Adventure)	宮崎 隆志		707
地域未来創造基礎(Adventure)	吉岡 亜希子		716
地域未来創造基礎(Adventure)	木村 悠里菜		725
地域未来創造基礎(Adventure)	松田 祐		734

地域未来創造演習Ⅰ (Beginning)	熊野 稔		743
地域未来創造演習Ⅰ (Beginning)	木村 俊昭		757
地域未来創造演習Ⅰ (Beginning)	中田 和彦		771
地域未来創造演習Ⅰ (Beginning)	宮崎 隆志		785
地域未来創造演習Ⅰ (Beginning)	吉岡 亜希子		799
地域未来創造演習Ⅰ (Beginning)	木村 悠里菜		813
地域未来創造演習Ⅰ (Beginning)	松田 祐		827
地域未来創造演習Ⅱ (Creative)	熊野 稔		841
地域未来創造演習Ⅱ (Creative)	木村 俊昭		855
地域未来創造演習Ⅱ (Creative)	中田 和彦		869
地域未来創造演習Ⅱ (Creative)	宮崎 隆志		883
地域未来創造演習Ⅱ (Creative)	吉岡 亜希子		897
地域未来創造演習Ⅱ (Creative)	木村 悠里菜		911
地域未来創造演習Ⅱ (Creative)	松田 祐		925
地域未来創造演習Ⅲ (Driven)	熊野 稔		939
地域未来創造演習Ⅲ (Driven)	木村 俊昭		953
地域未来創造演習Ⅲ (Driven)	中田 和彦		967
地域未来創造演習Ⅲ (Driven)	宮崎 隆志		981
地域未来創造演習Ⅲ (Driven)	吉岡 亜希子		995
地域未来創造演習Ⅲ (Driven)	木村 悠里菜		1009
地域未来創造演習Ⅲ (Driven)	松田 祐		1023

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		心理学概論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小塚 美由記						
授業の位置づけ							
本科目は、リハビリテーション学科理学療法専攻と作業療法専攻のディプロマポリシーでは「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」に位置付けられ、2年前期の「臨床心理学」と連携している。看護学科のディプロマポリシーでは、「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」に位置付けられており、1年次後期の「メンタルヘルス」と連携している。地域未来学科のディプロマポリシーでは「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。(知識・技能)」地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」に位置付けられている。健康栄養学科では、「幅広い教養を身につける」「教養人文系」に位置付けられている。							
授業の概要							
本科目では、人格論に焦点を合わせながら現代心理学の概観を試みる。まず学習、動機づけ、知覚等の心理学的概念を用いて人格の形成過程を説明する。さらに摂食障害、薬物依存、多重人格等、広く人格障害に関与する異常行動の病理に言及する。履修者は、心理学を通して、人間が、外側からは知ることのできない人間のこころの内側とそのしくみをどのように解き明かしてきたのかを知ると同時に、その方法を自分自身にも適用し、自分を客観的に見つめ、いまの自分がどのように形成されてきたのか、また、、今の自分をどのように変えていくことができるのかという問題に答えられることを期待する。							
到達目標							

- ①心理学が辿った歴史的研究の過程と特徴を理解できる。(知識・技能)
 ②心理学概論の研究の変遷を適切にとらえ表現することができる。(思考・判断・表現)
 ③心理学概論の学習を他のメンバーと協力し、学習課題を解決することができる。(関心・意欲・態度)

授業の方法

パワーポイントにより講義形式で行う。
 アクティブラーニングとして題材を提示し、グループワークも行う。

ICT活用

Googleフォームを使用する

実務経験のある教員の教育内容

課題に対するフィードバックの方法

質問は授業中、Googleフォームで質問を受け付け、都度回答を行う。問題に関する解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 基礎心理学の進化心理学による行動的形質であるヒューマン・ユニバーサルズの意味、自己の発見、ヒポクラテスの単純元素、プラトンの自己概念、イスラムと精神医学について理解できる。	シラバスにより学習の見通しを持ち、第1回のテーマに関する配布資料に目を通す。(90分)	ヒューマン・ユニバーサルズ、自己の発見、ヒポクラテスの単純元素、プラトンの自己概念、イスラムと精神医学について整理する。(90分)
担当教員			
第2回	古代心理学における共通感覚の意味からデカルトの思考機械と松果体とその役割、ウィリスの脳解剖とウィリス動脈輪、さらにジョン・ロックの知性の本性としての自己の記憶内容について理解できる。	共通感覚から知識の本性までの該当テーマについて、事前配布資料を熟読し学習内容の把握をする。(90分)	デカルトの思考機械、ウィリスの脳解剖、ウィリス動脈輪、知識の本性について、配布資料をもとに整理する。(90分)
担当教員			
第3回	パークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、キルケゴールの自己の選択、フィニアス・ゲージの記憶による前頭前野・大脳皮質の実行機能を中心に学習内容を理解できる。	パークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、キルケゴールの自己の選択、フィニアス・ゲージの記憶による前頭前野等の機能について、配布資料を読み理解する。(90分)	パークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、キルケゴールの自己の選択、特にフィニアス・ゲージの記憶の研究内容を中心に整理する。(90分)
担当教員			

第4回	モーズリーの気分障害からダーウィンの情動、フランシス・ゴルトンの優生学、シャルコーのヒステリー法則、情動のジェームズ・ランゲ説及び感情心理学と情動の2要因理論について理解できる。	気分障害、情動、優生学、ヒステリー法則、ジェームズ・ランゲ説についての範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	気分障害から情動、優生学、ヒステリー法則、ジェームズ・ランゲ説及び感情心理学と情動の2要因理論について整理する。(90分)
担当教員			
第5回	大脳半球優位性、特にフロイトの精神分析理論を中心に、心理学の原理、自律神経系の研究を理解できる。	大脳半球優位性、フロイトの精神分析、心理学の原理、自律神経系の研究の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	大脳半球優位性、フロイトの精神分析を中心に、心理学の原理、自律神経系の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	双極性障害から劣等コンプレックスを中心に、サイコドラマの研究について理解できる。	双極性障害からサイコドラマの研究までの範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	双極性障害から劣等コンプレックスを中心に、サイコドラマの研究を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	知能指数から発達心理学を中心に、心理学の場理論の研究について理解できる。	知能指数、発達心理学、心理学の場理論の研究の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	知能指数、発達心理学を中心に、心理学の場理論の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	自閉症(自閉症スペクトラム・ASD)から知能の心理学、アルバート・エリスの認知行動療法(研究)を中心に理解できる。	自閉症、知能の心理学、アルバート・エリスの認知行動の研究の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	自閉症、偏見の学習、アルバート・エリスの認知行動の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	人生の八つの段階と、欲求の段階構造の研究を中心に理解できる。	人生の八つの段階、欲求の段階構造の研究の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	人生の八つの段階、欲求の段階構造の研究の学習内容を整理する。(90分)
担当教員			

第10回	言語の獲得からフェスティンガーの認知的不協和、モデリング行動を中心に学習内容を理解できる。	言語の獲得、認知的不協和、「スイッチを入れて、波長を合わせ、社会に背を向けよ」の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	言語の獲得から認知的不協和、モデリング行動を中心に学習内容を整理する。(90分)
担当教員			
第11回	フーコーの人間観から抑うつテスト、学習の中心課題であるボウルビィの愛着理論、家族療法の研究を理解できる。	フーコーの人間観、抑うつテスト、愛着理論、家族療法の研究の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	フーコーの人間観から抑うつテスト、愛着理論、家族療法の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	学習の中心となる記憶地図からヒューリスティックス、アイデンティティ、衝動性と強迫性の研究について理解できる。	記憶地図、ヒューリスティックス、アイデンティティ、衝動性と強迫性の研究の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	記憶地図からヒューリスティックス、アイデンティティ、衝動性と強迫性の研究について整理する。(90分)
担当教員			

第13回	感覚データから、学習の中心である自己肯定感、フロー体験、機能的MRIの研究までを理解できる。	感覚データ、フロー体験、機能的MRIの研究の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	感覚データから自己肯定感、フロー体験、機能的MRIの研究までを整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学習のまとめとしての小テストを実施し、六つの基本感情、心的外傷後ストレス(PTSD)、意識に関する難問について理解できる。	小テストに向けての準備をし、六つの基本感情、心的外傷後ストレス、意識に関する難問の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	六つの基本感情、心的外傷後ストレス、意識に関する難問の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	ミラーニューロン、社会的調和、再現可能性の危機、パーソナリティ・ビッグファイブ理論について理解でき、本科のまとめを行う。	ミラーニューロン、社会的調和、再現可能性の危機、ビッグファイブ理論の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	ミラーニューロン、社会的調和、再現可能性の危機、ビッグファイブ理論を整理し、本科目のまとめを行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	各授業で理解度確認問題やミニレポート(各14回)70%
その他	30	まとめテスト(1回)
教科書		
適宜資料配布		
参考文献		

『図鑑心理学～歴史を変えた100の話～』(トム・ジャクソン著・清水寛之／井上智義監訳・NEWTON PRESS・2020年発行)

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		総合教養講座				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	白戸 力弥、松岡 審爾、大森 圭、小塚 美由記						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学での学習から生活、さらに課外活動や大学祭、建学の理念など広範な分野を理解を深める。本科目の履修により、今後4年間の大学生活がより有意義なものになるよう、新入生を導く道標を示す授業である。 国際教養学科のディプロマ・ポリシー (DP) の「複数の専門分野を総合的に理解するとともに、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている。【思考・判断・表現】」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。【関心・意欲・態度】」と関連する。国際コミュニケーション学科のDPの「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。【思考・判断・表現】」、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。【関心・意欲・態度】」と関連する。地域未来学科のDPの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。【関心・意欲・態度】」と関連する。看護学科のDPの「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任感を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。【関心・意欲・態度】」と関連する。リハビリテーション学科理学療法学専攻のDPの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。【関心・意欲・態度】」、「幅広く教養を深め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会をさせることができる。【関心・意欲・態度】」と特に関連する。また作業療法学専攻のDPの「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。【関心・意欲・態度】」、「幅広く教養を高める向上心を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。【関心・意欲・態度】」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。【思考・判断・表現】」と特に関連する。							
授業の概要							
この科目は、初年次教育として本学の学生としての所属意識を育み、学生生活をどう有意義に過ごすかを意識化してもらうためのものである。また、これからの社会の変化に対応できる学際的で教養豊かな人間性を養い、本質的な物の見方、捉え方をより豊かなものとし、不確実な時代を自分らしく生きるための柔軟性と自立性を養うことを目的とした科目である。さらに、SDGsの本質を理解し、地球規模の視野で持続可能について考え、地域創生の視点で行動できるグローバルな思想を兼ね備えた人材を育成することを目的としている。							
到達目標							

- ・本学の建学の理念、宗教と食事制限、SDGsやカーボンニュートラルの取り組みの重要性を理解できること。
- ・4年間を通して、しっかりとした履修計画を立てられること。
- ・大学生活を快適に送るために必要な規則を理解し、それに沿った行動を取れること。
- ・Google Classroomの利用ができること。
- ・図書館を利用し、学習に必要な図書を借りることができること。
- ・充実した大学生活を送るため、勉学、課外活動を含めた効率の良い1日の行動計画を立案・実行出来ること。
- ・大学を盛り上げるための具体的な提案が出来ること。

授業の方法

パワーポイントを用いた授業を行う。また、学内Wi-Fiを用いたICTを用いた授業を行う。さらに、えこりん村でSDGs研修を行う。

ICT活用

一部の授業回で、提示したURLにアクセスし、操作を行ってもらう予定である。また、グーグルフォームなどを使用する

実務経験のある教員の教育内容

ゲスト講師として、恵庭市職員による恵庭市の紹介、警察官とIT企業の職員によるインターネット上の脅威と防御方法を予定している。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルフォームを用いた授業の感想等を述べてもらい、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	北海道文教大学建学の理念 鶴岡夫妻が遺した灯火 学訓「清く 正しく 雄々しく進め」に込められた、真理を探究する明晰な頭脳、誠実な精神、チャレンジ精神を目指す理念を共有する。	本学の創設者である鶴岡夫妻について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で鶴岡夫妻の建学理念を実現する方法についてまとめる。(90分)
担当教員	大森 圭		
第2回	授業を受講するには① 履修方法・登録方法について、具体的に説明する。また、履修要件、進級基準や卒業要件について説明する。	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、WSDBを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	授業を受講するには② Google Classroomの使い方について	本学から付与されるGoogleアカウントでログインする。(90分)	各科目のClassroomに参加する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第4回	授業に役立つ図書館の利用法 本学図書館の概要と利用方法について説明する。 レポート作成や発表資料作成で必要になる資料について、 蔵書検索機(OPAC)を含めた探し方の方法を習得する。 (図書館)	学生便覧の「図書館」の部分を 読んでおく。(90分)	実際に図書館を訪れ、蔵書検索で興味のある本を探してみる。 また、インターネット経由で蔵書を検索してみる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	SNSの利用上の注意について 大学生活におけるSNSの利用上の注意点について理解を 深め、良識あるSNSの利用ができるようになる。	現在までのSNSのトラブルで社会的問題となった内容を調べる。 (90分)	大学生活で節度のあるSNSの利用法について復習する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	グローバル化に対応した食知識 グローバル化が進んでいる現代において、外国の食文化や知識を得ることは、どの職業においても円滑なコミュニケーションをとるための一助となる。	宗教によって禁忌とされている食べ物(あるいは食べることが許されている食べ物)について調べておく。(90分)	食事に対する宗教上の戒律の理由についてまとめる。(90分)
担当教員	小塚 美由記		

第7回	サイバーセキュリティについて スマートフォンやパソコン等が普及し誰でも気軽にインターネットを利用できるようになっている一方で、インターネットにまつわるトラブルが増加している。本学では全館Wi-Fiが利用できるためインターネットを安全に使用するためには、より注意が必要である。そこで、無線LANにおいてどのような脅威がありどのように対処すればよいのか、また、無線LANを利用するにあたっての注意事項をゲスト講師を招いて学ぶ。 (NTT東日本、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部)	インターネット使用にあたってどのような脅威があるかを調べておく。(90分)	セキュリティ対策や身につけるべき情報モラルを復習しておく。(90分)
担当教員	松岡 審爾		
第8回	学友会・課外活動団体紹介 中央執行委員会の役割と位置付けについて知り、学生としての自覚を持ち、自ら積極的に大学生活をより有意義にするため、各自が出来ることを考える一助とする。(学友会) 各団体の活動内容と団体所属学生の大学生活を紹介し、勉学と課外活動の両立を図るための具体的な方法を把握する。(各団体)	学生便覧で、学友会に関する項目に目を通しておく。また、大学ホームページなどで、本学所属の課外活動団体について調べておく。(90分)	自らの大学生活を有意義なものにするための目標と計画を立てる。また、勉学時間、課外活動、アルバイトなど各自の1日の行動を見直し、有意義な時間を過ごせるよう計画を立てる。(90分)
担当教員	大森 圭		
第9回	大学祭実行委員会紹介 大学祭実行委員会の役割と位置付けと、大学祭の歴史について紹介する。	各大学の大学祭内容について調べておく。(90分)	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)
担当教員	大森 圭		

第10回	学生支援について 教職センターの取り組み	本学の学生支援、教職センター について調べておく。(90分)	本学の学生支援、教職センター について復習する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第11回	恵庭市の歴史と特徴 恵庭市役所からゲスト講師を招き、これからの4年間のほと んどの時間を過ごす恵庭市について理解を深め、地域社 会との連携を深める。 (恵庭市企画課)	恵庭市のホームページなどから 、恵庭市の概要、特長について 調べておく。(90分)	各自の目指す職業で、恵庭市 の未来に貢献する施策を考える 。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	未来のために、今この一瞬を大切に ゲスト講師: 青木さやか 氏	ゲスト講師のこれまでの活動、取 り組みについて、インターネット 等で調べておく。(90分)	講義内容を振り返り、自ら実践 できることを考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第13回	主にモスバーガーの経営、商品開発、現場での体験に基づく組織論や人材育成の経験から、「正解を探すより、自分で選んだ道を正解にする力を身につける」方法について紹介する。 ゲスト講師: 田村茂 氏	ゲスト講師のこれまでの活動、取り組みについて、インターネット等で調べておく。(90分)	講義内容を振り返り、自ら実践できることを考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	えこりん村SDGs研修① えこりん村の取り組みを研修し、持続可能な社会の在り方について学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第15回	えこりん村SDGs研修② えこりん村の取り組みを研修し、持続可能な社会の在り方について学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の感想等の提出(50%)および授業参加の積極性(50%)
その他	0	なし。
教科書		
なし。		
参考文献		

渡部俊弘／人とつながる「笑いと涙」の40年一恵庭で描く地方大学のプラットフォーム構想／丸善プラネット
 渡部俊弘／トシさんが行く！～北海道の食の礎を築いた鶴岡トシのパワフル人生記～／北海道文教大学出版会

履修条件・留意事項等

ゲスト講師等の都合により、授業計画の順序通りの内容とならないため、決定次第、別途連絡する。合理的な理由による欠席は点数を考慮するので欠席届を出すこと。14回・15回の授業は、えこりん村での日帰り研修を行う。研修日程は別途、連絡する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		文章表現				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木 雅哉						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学の授業や実習に必要なスタディスキル(読み・書きの基本、レポートやプレゼンテーション表現、情報の活用や処理の方法)を学ぶための科目である。
幅広い教養を身につけるために、社会で必要となる文章作成能力、プレゼンテーション能力の基礎を修得する科目である。

授業の概要

本科目では、大学生活の基本となる日本語の文章表現能力を学ぶ。日本語そのものの基本を押さえた上で、思考法を鍛え、レポート・論文の作成力を修得し、日本語の基礎的な法則を確実に定着させながら、日本語の文章表現の能力を高める。また、文章作成と添削または相互批評を組み合わせた実践的な学習によって習得することで、社会で必要となるスキルを身につける。
また、「新聞製作の現場」からゲスト講師を招聘し、新聞ならではの文章表現の知見について概説する。

到達目標

- ・社会に存在する様々な文章について、分類することができる。
- ・各講義の目標とする文章表現技術を習得し、実地的な文章作成ができる。
- ・文字・漢字、言葉や文の正誤・適否・美醜等が区別できる。

授業の方法

- 1.講義形式で、文章作成の要素を中心に説明を行う。
- 2.説明に基づいて実際に各自文章作成や相互評価を行う。
- 3.インタビュー・ドキュメンテーション・投稿・観察等を実際に行い、その結果を文章作成に反映させる。
- 4.完成させた文章を、担当教員の指示により提出する。

ICT活用

必要に応じてパワーポイント等を用いた授業を実施し、ICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校での担任、管理職経験や研究団体での研究歴があり、学校教育や国語科教育に幅広い知識と経験を有する。これらを生かし、多面的な視野に基づく文章表現の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

作成した課題は、提出後の講義において適宜紹介したり、例示したりして評価内容を可視化していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】 講義内容を概観し、到達目標や評価について理解する。 「文章の書き方」の基本について学ぶ。 ・学生時代に書く文章には何がある？ ・タイトルの意図 ・「作文」と「小論文」	これまでに書いた文章について、どんなものがあつたかを想起する。	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第2回	ゲスト講師による講義①【新聞って何だろう】 当日の新聞を教材に、「テレビとネットの違い」、「信頼できる情報源」などを学ぶ。	新聞の入手方法を調べたり、実際に紙面を観察したりする。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第3回	【会話表現から学ぶ①】 聞き取りやすさ／あいさつ／敬語の使い方	新書などから好きな本を選び、通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第4回	ゲスト講師による講義②【新聞を呼んでみよう】 当日の新聞を教材に、「新聞製作の仕組み」、「面建て」、「読者参加(投稿)面」などについて学ぶ。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第5回	ゲスト講師による講義③【新聞の作り方】 新聞製作における、「5W1H」、「取材・執筆法」、「レイアウト」などを学ぶ。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第6回	ゲスト講師による講義④【友だち新聞を作ろう】 ペアをつくり、前回までの講義を参考に、取材一記事執筆を体験する。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第7回	ゲスト講師による講義⑤【オールドメディアとSNSの功罪】 SNSやオールドメディアの功罪を学ぶ。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第8回	【会話表現から学ぶ②】 発声／自己紹介文／先方を意識した話し方／声かけ／電話／面接	新書などから好きな本を選び、通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第9回	ゲスト講師による講義【表現・基礎① 瑞々しい文章とは】 谷川俊太郎を通して	新書などから好きな本を選び、通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第10回	【表現・基礎②】 文章を書くときの留意点／書き方の基本／正しい表記	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の 課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第11回	【表現・応用①】 実習日誌／礼状・手紙／メール	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の 課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第12回	【表現・応用②】 履歴書／エントリーシート／送付状／送り方	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の 課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第13回	【表現・応用③】 小論文の基本的な書き方を学ぶ ・テーマ設定の仕方、具体例と問題意識 ・様式の復習	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時 の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第14回	【表現・応用④】 効果的な(広告)宣伝フレーズを考える。 イベントポスターや新聞広告などのキャッチコピーに注目 する。	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時 の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第15回	【まとめ】 これまで学んできた文章表現の技法を反芻しながら、再確 認していく。 得た知見をまとめる。	これまで授業で使用した資料類 をまとめ、復習しておく。(90分)	指定された提出課題の完成・提 出。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業参加度 20% ・課題 80%(提出の指示があった課題を、すべて評価の対象とする)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

必要に応じて提示する。

履修条件・留意事項等

状況により、講義内容の変更や順序が変わる場合がある。
出席の確認をGoogle classroom で行うことがあるので、スマートフォンなどの端末を持ちこむこと。
連絡はGoogle classroom を通じて行う。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		食生活論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	荒井 三津子						

授業の位置づけ

ヒトが食べるモノ、食べるコト、食べる理由を広く学び、食生活全般を扱う学習に必要な基礎知識を身につける教養科目である。また、人間の文化を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。リハビリテーション学科理学療法専攻と作業療法学科のディプロマ・ポリシーでは、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。（関心・意欲・態度）」に位置付けられ、「リハビリテーション栄養学」と連携している科目である。看護学科ではのディプロマポリシーでは「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。（思考・判断・表現）」に位置付けられられている。地域未来学科のディプロマポリシーでは「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。（思考・判断・表現）」に位置付けられ、「北海道の食文化」と連携した科目である。健康栄養学科では、「幅広い教養を身につける」「教養人文系」に位置付けられ、「栄養学入門」「応用栄養学」と特に連携した科目となる。さらに、栄養学系教科、調理学および調理科学系教科、食品学系教科の学習の理解に役立つだけでなく、生物学や食文化に視野を広げることで、さまざまな領域の指導者、教育者に必要な教養と実践力を身につけることができる科目である。

授業の概要

ヒトはなぜ食べるのか。なぜダイエットするのか。なぜ食卓に花を飾るのか。人間にとって「食」は単に栄養補給のための餌ではなく「食事」である。生命を維持するための「食事」の機能と重要性を確認し、国内外の食事の歴史、文化、食器、食の様式や食事作法、食に関する広告や現在の食事情、将来予測される問題点等について多角的に学習する。

到達目標

医療現場や教育機関で食事に関する指導を行う上で必要な食器、食具の歴史や種類、使い方、食空間の演出方法に関して説明できる。

○ 国内外の食事様式の歴史を学ぶことで、食べることの文化的な意味を説明できる。

○ 食に関する情報や広告、外食産業などの仕組みや戦略を理解し、多様化する食事の未来を予測できる。

○ インターネット時代の食事やキャラクター弁当、遺伝子組み換えや環境問題など、食事に関する幅広いテーマについて、将来、医療や教育の現場で問題を提起し議論を展開できる。

授業の方法

- ①必要に応じて板書とパワーポイントを利用し、視覚的な理解を深める。
- ②内容に合わせ、学生たちの調査報告をとりいれ、活発な議論により、食生活への関心を深める。
- ③中間テストとレポート提出により理解度をはかり指導する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

北海道立の高等学校と歯科衛生士専門学校で生物学、調理師学校食文化等の教育経験がある。また長く生活文化研究所を運営しており、人間の生活と食文化、食生活に関する幅広い知識と指導経験がある。この経験を生かし、卒業後の実務に活かせる知識と技術、指導者になるための心構えも指導する。

課題に対するフィードバックの方法

調査レポートと確認試験を採点評価後返却し、講義時間内に解説を行う。提出してもらったレポートと確認試験に質問欄を設け、質問があった場合は直接コメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	「食」は生理的、文化人類学的、社会学的、生物学的、環境学的など様々な方向からアプローチできる興味深いテーマである。初回は自分たちが食べる理由や目的について真摯に考察し、15回の講義内容を俯瞰して学習の意味を確認する。	私たちが食べる理由について考えてくること。90分程度。	生き物とはなにか、たべるとはなにかをまとめる 90分程度。
担当教員			
第2回	私たちが食べなければならない理由について、イキモノとはなにかという生物学的視野から学び直す。動物に共通する食べる仕組みの精巧さを確認し、同時に他の動物と人間の「食べる」理由の違いについて考察する。	私たちが食べる理由について考えてくること。90分程度。	生き物とはなにか、たべるとはなにかをまとめる 90分程度。
担当教員			
第3回	＜食べるヒト・食べる仕組みと最新の「腸内」事情＞ ヒトの消化の仕組みを概観し、食べモノと健康、腸内細菌および消化器官系医療の最新事情について学ぶ。	ヒトが食べない理由を考えてくる 90分程度。	食べる理由と食べない理由をまとめる。90分程度。
担当教員			

第4回	＜ヒトが食べない理由・ダイエットと肥満＞ ダイエットの起源とその変遷、現状と背景を学習する。過食の原因と効果的なダイエット法、機能性食品についての知識も確認し、栄養や健康の指導者としての姿勢を考える。	ヒトが食べない理由を考えてくる。90分程度。	食べる理由と食べない理由をまとめる。90分程度。
担当教員			
第5回	＜ヒトが食べない理由・ベジタリアン事情とフードファディズム＞ 世界にひろがるベジタリアンの実状とその思想の背景、および、特定の食品に過剰な健康効果を期待したり否定するフードファディズムについて学習する。	マスコミが話題にする食を調べる。90分程度。	食事作法の学習の意義をまとめる。90分程度。
担当教員			
第6回	＜「食べ方」を学ぶ理由＞ 学校における栄養教育と家庭と社会における「食べ方」の学びについて学習する。国内外のさまざまな食事作法が誕生した背景と食事作法の意味、さらに継承されつづける理由について考察する。	マスコミが話題にする食を調べる。90分程度。	食事作法の学習の意義をまとめる。90分程度。
担当教員			

第7回	＜ヒトから人間へ・食べるモノの変遷＞ 私たちの「食」の過去と現在を概観する。日本の食事様式の歴史や、外食と中食の歴史と現状についても学習する。そのプロセスで「餌」から「食事」へとその意味を変えてきた人間の「食」の複雑さについて考察する。 アクティブラーニングとして、周囲と自分たちの食事について話し合いをし、発表してもらう。	動物の餌と人間の食事の違いを考える。90分程度。	カラダに良いとはどういうことか、まとめる。90分程度。
担当教員			
第8回	＜おいしさとはなにか＞ 「からだにいい」とはなにか。「栄養がある」とはどういうことか。「おいしい」とはどのようなものか。普段なにげなく口にする表現の意味するところを科学的に学び、食事の機能と意味を理解する。	動物の餌と人間の食事の違いを考える。90分程度。	カラダに良いとはどういうことか、まとめる。90分程度。
担当教員			
第9回	＜ヒトはなぜ食べるのか＞ 講義の前半の総まとめを行い、人間が食べる理由、食べない理由について多方面から考察する。	前半のノートを整理してくる。90分程度。	最新のバイオテクノロジーについて整理する。90分程度。
担当教員			

第10回	<「食」の未来> 染色体操作や遺伝子組み換えなど、最新の品種改良や魚介類の養殖について、その手法や課題、可能性について詳しく学習する。同時に食をめぐる地球規模の環境問題についても学び、未来の「食」に関する課題を考察する。	前半のノートを整理してくる。90分程度。	最新のバイオテクノロジーについて整理する。90分程度。
担当教員			
第11回	<食事空間を学ぶ> 火と水、道具の利用がなければ私たちの「食」の発展はなかった。火と水がどのように扱われ、「台所」はどのように進化してきたか、その変化の社会的文化的意味も合わせて学習する。配膳や食事様式についても学び、食空間の機能についての知識を深める。	自分の料理道具と食空間を調査する。90分程度。	日本の食文化の歴史をまとめる。90分程度。
担当教員			
第12回	<「食」をめぐる仕掛け・外食の歴史と広告> 外食の歴史を概観し、現代の外食産業を支える広告の機能と種類を学習する。そのことから私たちの食行動の変化や時代の流れ、加えて食の未来と問題点を広く考察する。	自分の料理道具と食空間を調査する。90分程度。	日本の食文化の歴史をまとめる。90分程度。
担当教員			

第13回	＜「食」の演出＞ 料理・食器・盛り付け・食卓・食空間のインテリアなど、人間はなぜ「食」の場面を飾るのか。なぜ演出が必要なのか。色彩学やデザインの基礎を学び、食卓装飾の歴史をたどりながら、食べることの意味を広く考察する。	自分の料理道具と食空間を調査する。90分程度。	日本の食文化の歴史をまとめる。90分程度。
担当教員			
第14回	＜餌場から食事の場へ・テーブルコーディネートの機能＞ 食欲やコミュニケーションに大きく作法する食卓の演出について、具体的に学習する。色彩学やテーブルコーディネートの基礎知識を確認し、「食」の場面に必要な知識や技術の深さと広さについて学ぶ。	食の未来と教育について考察する。90分程度。	食の未来と教育について考察する。90分程度。
担当教員			
第15回	＜年中行事と祭り・儀礼の食・縁起について＞ 食の場面における「ハレ」と「ケ」、および日本の冠婚葬祭や年中行事の食の多様性と意味について幅広く学習する。「食」がもつコミュニケーションツールとしての機能や、人間のこころの「よりどころ」や「やすらぎ」としての役割についても考察する。 試験	試験範囲復習。90分程度。	試験の見直し。90分程度。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	確認テスト2回
その他	30	調査レポートの評価
教科書		
なし		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

私語厳禁。

備考欄

特になし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		生活と社会環境				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	辻 幸美、金子 翔拓						

授業の位置づけ

各該当学科のディプロマ・ポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを鑑み、現代日本の社会環境を高齢者や代表的な疾患による身体障害を持つ人を通して理解するとともに科学的思考力と創造的思考力を活用して医療の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につける共通重要科目であり、更に人の生活全般と関連し、地域医療や社会環境を考える基礎となると共に、将来医療職種専門職を希望される学生においては、必要と考える。また「人間の文化を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。」特に看護科においては、看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を会得する重要科目である。（思考・判断・表現）

授業の概要

現代日本においては、様々な疾患や障害を持つ人々が地域社会で生活している。この現状を踏まえ、疾患や障害といった背景を持ちながらも快適な生活を送るためにはどのような生活環境の整備が求められているのかについて、生活環境が生活の質に大きく影響する疾患や障害の特徴を理解したうえで考察する。

到達目標

- ① 現代日本の地域医療の現状を説明できる。
- ② 代表的な疾患に適合した生活環境の整備について説明できる。
- ③ 今後の日本における生活環境のあるべき姿を考え、説明することができる。

授業の方法

パワーポイントを用い講義形式ですすめる。また、講義後に課題を提示し講義内容の確認を行う。

ICT活用

授業中の課題の一部にグーグルクラスルームを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

金子翔拓:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として勤務した経験を活かし、社会と生活環境の授業を行う。

辻幸美:22年間、脳神経外科病院で看護師として務めた経験を活かし、社会と生活環境の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

前回授業の最後に提出された課題に関して、次回の授業で補足説明や解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 医療保険制度の現状を理解する(診療報酬制度等も含む)	自身を取り巻く生活環境について考えてくること。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第2回	高齢者の生活と社会環境① 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)と生活について理解を深める。	高齢者と生活について調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第3回	高齢者の生活と社会環境② 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)に適する生活環境の整備について理解を深める。	高齢者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第4回	高齢者の生活と社会環境③高齢者(虚弱老人・認知症を含む)が生活するうえでの「リスク」について理解を深める。	高齢者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第5回	障害者の生活と社会環境① 筋ジストロフィー疾患患者の生活環境の整備について考える。	筋ジストロフィー疾患患者の生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第6回	障害者の生活と社会環境②重症心身障害児(者)の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	重症心身障害児(者)はどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第7回	障害者の生活と社会環境③ 精神疾患患者の生活環境の整備について考える。	精神疾患患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	ハンセン病とハンセン病療養施設の生活と社会環境について、過去の日本における偏見と差別を鑑み考える。	ハンセン氏病を取り巻く社会の歴史を調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第9回	介護保険制度の現状を理解し、地域社会で在宅サービスを受ける対象者について理解する。	介護保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第10回	障害者の生活と社会環境④ 脳卒中患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	脳卒中とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第11回	障害者の生活と社会環境④ 脳卒中患者の生活環境の整備について考える。	脳卒中患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第12回	障害者の生活と社会環境⑤ パーキンソン病患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	パーキンソン病とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第13回	障害者の生活と社会環境⑤パーキンソン病患者の生活環境の整備について考える。	パーキンソン病患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第14回	障害者の生活と社会環境⑥脊髄損傷患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	脊髄損傷患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	障害者の生活と社会環境⑥脊髄損傷患者の生活環境の整備について考える。 まとめ 1～14回までの内容について総復習を行い、障害を持つ人の生活環境について理解する。	脊髄損傷患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。 1～14回の内容について、これまでに作成したノートを確認しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の課題、授業への参加態度 なお、レポート課題等の提出期限を厳守についても評価の対象である。 辻50% 金子50%
その他	0	・授業への参加態度 ・レポート課題等の提出期限を厳守すること
教科書		
なし(プリントにて対応)		
参考文献		

特に指定しない

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア入門				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、初年次教育の一貫として、大学生活の充実や社会で活躍するために、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解するための科目である。なお本科目は、「キャリア形成」と連携している教養科目である。

授業の概要

グローバル化と高度情報化が益々進展する現代社会においては、自己のアイデンティティを確立することが重要である。そのために、我々をとりまく文化、環境を再認識しながら自らの生き方や生活、仕事について考えることを目指す。

到達目標

- ・「キャリア」や「キャリアデザイン」を説明できる。
- ・自己理解の方法(「人生曲線」、「ジョハリの窓」等)、「計画的偶発性」について述べることができる。
- ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」を説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、確認テストや事後レポート課題を実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

病院で勤務した経験を活かし、実際の医療現場の視点を交えながら講義を行う(白戸、大森、高岡)。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」などを理解する。	これまで「キャリア」という言葉を使ったり聞いたりした事があれば、その場面はどのようなものだったかを具体的に思い出す。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	学習内容: ・人間関係づくりの5つの視点 ・信頼関係、自己開示、傾聴、相互理解、フィードバック ・社会人基礎力の3つの能力 *前に踏み出す力(アクション) *考え抜く力(シンキング) *チームで働く力(チームワーク) 行動目標: ・実社会でのキャリア形成において「人間関係」と「社会人基礎力」が果たす役割を理解することができる。 ・具体的事例を分析し、5つの視点と社会人基礎力を用いて説明できる。 評価:確認テスト(10点)実施	教科書を熟読して人間関係作りの5つの視点を確認し、ノートにまとめる。	講義で学んだ「5つの視点」や「社会人基礎力」を、自分の体験や今後の目標にどう活かせるかを200字程度で記述する。
担当教員			
第3回	自己分析から自己理解のあり方、計画的偶発性等を講義、関連DVDを視聴し、対話する。理解度をみつつ、小テスト(自己紹介の内容確認)を実施し、学び、習い、問い立ての場とする。	「私は…」から始まる文で、自己紹介の内容を考える。(10個以上)(90分) 例:私は、北海道文教大学の学生です。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などの概要を理解する。 ゲスト講師:健康栄養学科 田中弘之学科長	生まれてから現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理する。(90分) 例:高校に合格した。失恋した。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点に関する講義、関連DVD視聴を実施し、理解度を確認のうえ、小テスト(コミュニケーション方法)を実施する。	自分自身の日頃のコミュニケーション方法を振り返る。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	「人間関係づくりとコミュニケーション」の”むきあう”の概要について理解し、不合理な信念とどのように向き合うのか、ワークを通して体験的に学ぶ。 ※教科書を持参すること。 確認テスト(10点) ゲスト講師:看護学科 坂東奈穂美	これまでの人生において苦痛や怒り、悩み・不快・不安のあった出来事と、その出来事をどうしてほしかったのかを考え、教科書P.40にある「エクササイズⅡ」のA、C、Bの欄に記述してくる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	仕事力向上マニュアルの解説及び「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などの概要を理解する。	自分自身の興味・性格・能力・動機を整理する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	仕事力向上マニュアルの解説及びこれまでの講義の総括を実施した上で、大学4年間の目標などを考える。	大学4年間で成し遂げたいことを考えた上で、そのための方法を調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事後レポート、確認テスト
その他	0	
教科書		
人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房		
参考文献		
授業内で順次紹介する。		
履修条件・留意事項等		

- ・各講義で使用する資料はGoogle Classroom上にアップロードするため、必要に応じ、各自印刷し持参する。
- ・出欠管理は、講義内で実施する予定である。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		現代医療と福祉・介護				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高岡 哲子						
授業の位置づけ							
各該当学科のディプロマポリシーを鑑み、地域包括ケアシステムにおいて高齢者障害者等が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、[住まい][医療][介護][看護][予防][生活支援]が切れ目なく一体的に提供ができ、「心/意 欲/態度」が養われる重要な科目である。更に日本の社会事情を広く理解するうえで必要な知識としての[医療/福祉/介護]に焦点をあて、近未来 の社会制度を思考し、構築するための基礎的能力の向上を目指す。							
授業の概要							
少子高齢化、人口減少、人材不足、医療技術の進化など、社会構造の変化に伴い、医療・福祉・介護の制度や考え方も大きく変化している。本授業では、制度の理解だけでなく現場の課題を分析し、解決策を考える力を養う。日本と世界の医療・福祉制度を比較し、各国の特徴や課題を把握するとともに、ケーススタディやディスカッションを通じて、未来の医療・福祉のあり方を主体的に考える。また、多職種連携の重要性や、ICT技術の活用がもたらす医療・福祉の変革について学び、理想的な医療・福祉・介護の姿を考察する。							
到達目標							

- ・現代社会における医療・福祉・介護の制度と役割を体系的に理解し説明できる。
- ・人間理解・倫理・ICFの視点を踏まえ、利用者の尊厳と意思を尊重した支援のあり方を考察できる。
- ・現場の課題を分析し、多職種連携やICT・DXの活用を含めた解決策を提案できる。
- ・これからの地域共生社会における専門職としての役割を自覚し、主体的に学び続ける姿勢を示すことができる。

授業の方法

講義:教員による解説を中心に、最新のデータや事例を交えながら、医療・福祉・介護の制度や現場の課題について学ぶ。
 グループワーク:学生同士でディスカッションし、現場の課題を分析し、解決策を考える。
 発表:各グループの成果を発表し、全体で学びを共有する。

ICT活用

本授業では、Googleフォームを活用した課題の収集を通じて、学習の効率化を図る。またAI、遠隔医療など、医療・福祉分野でのICT活用事例を授業内で紹介し、現場での実践的な活用方法を学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

総合病院において看護師として約7年間勤務し、多職種と連携しながら高齢者のケアに携わった経験を活かし、本授業を実施する。現場で直面した医療・福祉・介護の課題やチーム医療の重要性を具体的な事例を交えて伝えることで、制度や理論だけでなく実践的な視点での学びを深める。

課題に対するフィードバックの方法

本授業では提出された課題に対し、共通フィードバックを中心に実施し、全体の理解を深める。また、個別のフィードバックは、単位取得が危うい場合や、課題の理解が大きくずれている場合に実施する。該当する学生には具体的な改善点を提示し、学習の方向性を修正できるよう支援する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	テーマ:オリエンテーション(講義) 内容:講義のねらいを含む授業の説明	・シラバスを熟読する(約90分)。 ・ノートを一冊用意する。	本日の講義内容をまとめて記載する(90分)。
担当教員			
第2回	テーマ:人間理解 内容: ・多様な存在としての人間 ・ICF(国際生活機能分類) ①ノート提出	ICFについて調べ、「生活を見る」とはどういう意味か考えて記載する(約90分)。	実際の場면을想像して、生活を大切にしたい関わり方を記載する(約90分)。
担当教員			
第3回	テーマ:自立と自律 内容:「自分でできること」と「自分で決めること」の違い ②ノート提出	「自立」と「自分で決めること」の違いを調べ、自分の考えを記載する(90分)。	授業を通して気づいたことを整理して記載する(90分)。
担当教員			

第4回	テーマ:倫理 内容:生命倫理、情報の取り扱い、職業倫理の基礎 ③ノート提出	・医療や福祉の仕事で大切にされている考え方やルールを調べて記載する。 ・ルールと心構えの違いを調べて記載する。 (90分)	難しい判断が必要な場面を考え、自分ならどうするかを記載する(90分)。
担当教員			
第5回	テーマ:生命科学と健康 内容:生物学的な生と死、予防医学の重要性 ④ノート提出	WHOが考える健康の意味を調べ、自分にとっての健康について記載する(約90分)。	授業後、健康の考え方がどう広がったか振り返り、記載する(約90分)。
担当教員			
第6回	テーマ:社会における医療の役割 内容:救急から慢性期まで、医療の公共性 ⑤ノート提出	医療の役割についてニュースや資料を見て調べて記載する(90分)。	社会の中で医療がどんな意味を持つか自分の言葉でまとめて記載する(90分)。
担当教員			

第7回	テーマ: 社会問題と医療・福祉 内容: 格差、ヤングケアラー、孤独死の実態 ⑥ノート提出	孤立や生活の大変さについての例を調べて記載する(90分)。	社会の問題と支援の関係について考えを記載する(90分)。
担当教員			
第8回	テーマ: 福祉の役割 内容: ・セーフティネットとしての機能 ・基本的人権 ⑦ノート提出	・福祉が何を目標しているのか調べて記載する。 ・セーフティネットの意味を調べて記載する。 (90分)	福祉がどんな人に関係するか整理して記載する(90分)。
担当教員			
第9回	テーマ: 社会と福祉 内容: ・制度(保険制度)の仕組みと持続可能性 ・各国との比較 ⑧ノート提出	日本の介護のしくみについて調べて記載する(60分)。	介護制度を良くするためのアイデアを記載する(90分)。
担当教員			

第10回	テーマ:介護の目的と役割 内容: ・「お世話」ではなく「生活の再構築」としての介護 ・多職種連携 ⑨ノート提出	いろいろな職種が協力している例を調べて記載する(90分)。	生活の再構築とは何かを整理して記載する(90分)。
担当教員			
第11回	テーマ:超高齢社会のニーズ 内容: ・2040年問題 ・認知症ケアの広がり ⑩ノート提出	高齢者が増えている社会の課題を調べて記載する(約90分)。	よりよく暮らすために大切なことを考えて記載する(約90分)。
担当教員			
第12回	テーマ:医療・福祉のDX 内容: ・テクノロジーによる変革と人間らしさ ・医療現場の人手不足 ⑪ノート提出	医療や介護で使われているロボットやICT,AI技術の例を調べて記載する(90分)。	技術と人の関わりについて自分の意見を記載する(90分)。
担当教員			

第13回	テーマ:地域共生社会 内容: ・制度の壁を超えた支え合い ・インクルージョン ⑫ノート提出	地域で支え合うしくみについて調べて記載する(90分)。	地域共生社会を実現するために必要なことを記載する(90分)。
担当教員			
第14回	テーマ:最期にかかわる意思決定支援(ACP) 内容:人生の幕引きをどうデザインするか ⑬ノート提出	人生の最終段階のケアについて調べて記載する(90分)。	自分で決めることの大切さについて考えて記載する(90分)。
担当教員			
第15回	テーマ:全体総括 内容: ・14回までのふりあえりと、これからの社会での役割 ・ケーススタディ・ディスカッション	これまでの授業(第2回～第14回)を振り返り、次の問いについて記載する。 1.最も印象に残っているテーマは何か 2.自分の考えが変わった内容は何か (90分)	課題レポートを記載する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	20	レポート:1回×20点=20
その他	80	ノート提出:13回×6点=78点 (13回全部提出した場合+2点)
教科書		
なし		
参考文献		

必要時講義中に提示する。

履修条件・留意事項等

私語、指示時以外の携帯電話の使用を禁止する。
 学習は主体的に行う。
 欠席した場合は、必ず欠席届を提出する。
 遅刻早退する、もしくはした場合は、必ず、教員へ申し出る。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		日本国憲法				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	奥谷 知冬						

授業の位置づけ

人間の社会を学ぶことにより幅広く教養を身に付ける科目である。

授業の概要

日本国憲法が定める基本的人権及び統治の仕組みを概説することにより、憲法の意味、基本的人権の内容・重要性、日本の統治の制度を理解する。その上で、日本の法令や判例の学習を通じて、法令・判例へのアクセス及びその読解方法や、法学的見地を踏まえて社会課題に対する批評を行う能力を習得する。

到達目標

- 憲法の意味内容について説明できる。
- 基本的人権の種類及びその重要性について説明できる。
- 日本の統治の仕組みについて説明できる。
- 以上の能力を活用して、とりわけ法的な社会課題を発見、分析、評価した上で、当該社会課題に対する自身の見解を論じることができる。

授業の方法

- パワーポイントによる資料、教科書、その他適宜配布する資料を用いた、講義形式の授業を実施する。
- Googleフォーム等を利用した確認テストを行う。

ICT活用

授業の資料を事前にGoogleクラスルームにアップロードし、予習・復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の概要、成績評価の方法について説明を行う。 憲法の歴史や意味について解説する。 日本の法令・判例の調べ方を習得する。	授業資料及び配布資料を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、憲法の条文や配布資料の中に紹介されている判例にアクセスする(120分)。
担当教員			
第2回	人権享有主体に係る諸論点、とりわけ子どもの人権及び外国人の人権に係る判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme1及びTheme2を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第3回	日本国憲法が明示的に規定していない新しい人権、とりわけプライバシー権及び自己決定権に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme3、Theme4を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			

第4回	法の下の平等に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme5、Theme6を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第5回	信教の自由に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme7を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第6回	表現の自由に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme8、Theme9を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			

第7回	営業の自由に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme10を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第8回	生存権に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme11を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第9回	教育権に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme12を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			

第10回	適正手続の保障、とりわけ行政手続・刑事手続・死刑制度に係る条文及び判例について解説する。	授業資料、配布資料(参考文献の70-73ページをコピーしたもの)、教科書のTheme13を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第11回	天皇及び平和主義に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme14、Theme15を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第12回	国会に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme16、Theme17を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			

第13回	内閣及び憲法改正に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme18、Theme22を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその当否を検討する(120分)。
担当教員			
第14回	裁判所に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme19、Theme20を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその当否を検討する(120分)。
担当教員			
第15回	地方自治に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme21を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその当否を検討する(120分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する確認テスト(75%)及び授業参加度(25%)
その他	0	
教科書		
いちばんやさしい憲法入門〔第7版〕／初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行著／有斐閣		
参考文献		

図録日本国憲法〔第3版〕／斎藤一久、堀口吾郎編／弘文堂
その他、講義中に適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

資料はGoogleクラスルームにアップロードするため、各自用意し持参すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア形成				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、社会で活躍する事を視野にいれ、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解し、役立てるための科目である。なお本科目は、「キャリア入門」の発展となる。

授業の概要

これからの人生を、職業を通じて社会に貢献し、生計を立て、また職業人として日々充実感を持つことのできるよう、自らの職業観・勤労観を培うとともに、自らの生き方や生活デザインについて基本的な展望を身につける。

到達目標

- ・「キャリア」や「キャリアデザイン」、「計画的偶発性」を説明できる。
- ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」について論じることができ、活用することができる。
- ・キャリアに関する具体的な事例に対し、「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」から説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

大手消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「計画的偶発性」などを理解する。	・「キャリア」の意味やイメージについて思いつくまに考える。 ・「キャリア」の意味について調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	人生曲線、パーソナリティ検査、ジョハリの窓などを学び、テストを実施することで自己理解を深める。「社会人基礎力」について学ぶ。	家族や友人、知人などから、自分自身がどのようにみえているかをヒアリングする。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	人生曲線などの作成や、基本的なORJIサイクル・落とし穴などの理解をとおして、「人間関係づくりとコミュニケーション」のきつづくの視点などを理解する。	出生から現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理した上で、今後の人生の見通しを立てる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	コミュニケーションの分類を学んだ上で、アサーティブな表現などを中心に理解することで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などを理解する。	相手を尊重し、自分の意見や感情をうまく相手に伝えるためのコミュニケーション方法を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	不合理な信念(ビリーフ)やABCD理論などを学び、「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などを理解する。	自分が持つ思い込みにどのようなものがあるのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	ライフ・キャリアのレインボー、統合的ライフ・プランニング、価値観、人間の能力の3つの領域などを学ぶことで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などを理解する。	自分がどんなことに価値を見出し、やる気を起こすのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	社会人基礎力などを理解する。加えて動画の視聴を通して学ぶ。	様々な人々と仕事をするために必要なことを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	これまでの講義の総括を実施する。加えて、キャリアデザインなどについて考える。	なりたい自分ややりたい仕事について考えた上で調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲・グループワークなどの状況など
教科書		
人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房		
参考文献		
授業内で順次紹介する。		
履修条件・留意事項等		

- ・講義資料はGoogle Classroomにアップロードするため、各自印刷し持参
- ・出欠管理は、講義内で実施予定
- ・グループワークが中心となるため、積極的参加が必須
- ・授業態度が不適切な場合(例:私語、授業と関係のない行為)、欠席扱いとなることがある
- ・本科目は、キャリア入門の振返りを含む

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		情報処理				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	常見 裕子						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学の学修や社会に必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目である。また、国際教養学科と国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」と特に関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係があり、「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる」とも関係がある科目である。数理・データサイエンス・AI実践につながる科目である。							
授業の概要							
本科目では、コンピュータを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションを行うために必要な基本操作を学ぶ。また、コンピュータのセキュリティ対策方法、情報モラルにもとづくインターネットの利用について習得する。コンピュータを使うためのスキルを身に付けるだけでなく、コンピュータに関する諸問題についても学ぶ。							
到達目標							

1. ワードプロソフトWordを用いて表、図なども挿入されたドキュメント作成を行なうことにより情報のアウトプットができる。
2. 表計算ソフトExcelを用いて基本的な計算や関数の使用、グラフ作成、データベースの操作を行うことができる。
3. ウェブサイトからデータを取得し、Excelを用いて情報の加工や分析ができる。
4. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。
5. コンピュータ等のセキュリティおよび情報モラルを念頭において情報を運用することができる。

授業の方法

Wordを用いたレポート等作成、Powerpointを用いたプレゼンテーション技法、Excelを用いた分析については各人がパソコンを操作して習得する。情報の探索、データの分析法、セキュリティと情報モラルに関する内容はパワーポイントを用いて講義形式で行う。これらのOfficeソフトの操作を理解するために、教科書会社が提供するeラーニングシステム(NESS)により各自が主体的に確認テスト問題を行う(第3回～第7回、第9回、第10回、第13回、第14回)。

ICT活用

教科書に付属してアカウントを得られるeラーニングシステム(NESS)を用いて練習問題を提供し、授業時間外における自主学習を促す。また、教科書会社が提供するOffice2021のリファレンス動画サイトを用いて基本的な操作の自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

eラーニングシステム(NESS)により確認テストの結果がすぐに表示されフィードバックされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》Wordの基本的操作として、起動、画面構成、リボンを概観し、文書の新規作成や保存方法を習得する(§ 2-STEP1のLesson1)。また、文字の変換や記号、特殊文字、読みが不明の漢字の入力方法を再確認する(§ 2-STEP1のLesson2)。 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防技術についての知識を得る(§ 5-STEP1のLesson1)。コンピュータウィルス感染予防の心構えとスパイウェアについての知識を得る(§ 5-STEP1のLesson2)。	シラバスを読み、教科書のp30～p47, p250～p257を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。また、タッチタイピングの練習を行う。セキュリティと情報モラルの内容を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》Wordの基本的操作として文字の修正・範囲指定・変換、文字の変更、文字の移動・複写方法を習得する(§ 2-STEP1のLesson3)【セキュリティと情報モラル】不正アクセスを防ぐ技術としてのcookie, パスワードの管理を習得する。また、不正アクセス法について学ぶ。ソーシャルエンジニアリングとフィッシング詐欺対策の知識を得る(§ 5-STEP1のLesson3)。	教科書のp47下～p59,p258～p267を読んでおく。不正アクセス禁止法について調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。セキュリティと情報モラルの内容を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として文字書式の設定方法、インデント、タブ設定、均等割り付けを習得する(§ 2-STEP2のLesson1)【セキュリティと情報モラル】著作権に違反しないための注意点(§ 5-STEP2のLesson2)および個人情報の漏洩対策を学ぶ(§ 5-STEP2のLesson3)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp60～p68上半分, p271～p275を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの § 2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。セキュリティと情報モラルの内容を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、表の作成方法、ワードアートや画像の挿入方法を習得する(§ 2-STEP2のLesson1)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp67下半分～p76を読 んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。 NESSの § 2Word-STEP2-確認 テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第5回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、図形の挿入、ページ罫線の作成、印刷の方法を習得する(§ 2-STEP2のLesson1)。レポート作成に必要なページ設定、表紙の作成法、ページ番号、Excelグラフ、図表番号の挿入について習得する(§ 2-STEP2のLesson2)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp77～p90を読んでおく。 (90分)	本日習った操作を復習しておく。 教科書のp80練習7を行 う。NESSの § 2Word-STEP2-確 認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第6回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》レポート作成に必要な、脚注の挿入、見出し作成、文章校正機能について習得する(§ 2-STEP2のLesson2)。 【情報の分析評価】《Excel》表計算ソフトの概略を理解しExcelのファイル操作を習得する(§ 3-STEP1のLesson1)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp91～p97, p100～ p106を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。 教科書のp98練習8を行 う。NESSの § 2Word-STEP2-確 認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第7回	【情報の分析評価】《Excel》データの表示設定(文字・表示形式、罫線の設定、行の高さ・列幅の変更)を習得する(§ 3-STEP2のLesson1)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp107～p121を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp122練習9を行う。NESSの§ 2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析評価】《Excel》印刷手法(改ページプレビュー、基本的な印刷、印刷イメージの確認、印刷タイトル)を習得する(§ 3-STEP2のLesson2)。数式の入力方法・コピー、合計の計算、相対参照と絶対参照の使い分けを習得する(§ 3-STEP2のLesson3)。§ 2Word-Section2の試験(20問)を実施する。	教科書のp123～p141を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp137練習12を行う。NESSの§ 3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第9回	【情報の分析評価】《Excel》よく使用する関数の利用法、数学／三角関数を習得する。また、条件に応じて処理を変えるIF関数、ネストを習得する(§ 3-STEP2のLesson3)。あるデータに別のデータ列を結合するVLOOKUP関数を習得する(教科書にはない)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp139～p152を読んでおく。VLOOKUP関数について調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp152練習16を行う。NESSの§ 3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第10回	【情報の分析評価】《Excel》グラフの要素、縦棒グラフおよび円グラフの作成法、レーダーチャートの作成、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷方法を習得する（§3-STEP3のLesson1,2）。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp153～p176を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp163練習17, p169練習18, p173練習20を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第11回	【データの分析演習】《Excel》ウェブサイトからデータを取得する方法を学ぶ。また、そこで得られたデータを加工しデータを分析する方法を学ぶ。(教科書にはない)。 【データベース】《Excel》データベース機能を理解し、基本的な操作である並べ替え、オートフィルターによる抽出と並べ替えを修得する。データベース機能における数値フィルター、テキストフィルター、トップテン機能を修得する。(教科書にはない)。	データベースについて調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの§3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第12回	【ピボットテーブル】《Excel》データベースから集計表を作成できるピボットテーブルを修得する。§3 Excel-Section3(STEP2,STEP3合同20問)の試験を実施する。	ピボットテーブルについて調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。(90分)
担当教員			

第13回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》プレゼンテーションの基本とPowerPointの画面構成(§ 4-STEP1)、スライドの作成、コピーや移動方法、編集方法を習得する。また、ワードアートの作成法、図解を用いた説明に適したSmartArtの作成法、画像の挿入方法を習得する(§ 4-STEP2のLesson1)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp178, p181, p186～p210を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第14回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》Excelの表やグラフを挿入し編集する方法を習得する。図形の作成方法を習得する。(§ 4-STEP2のLesson1)。スライドショーにおける画面切り替え効果、文字に対するアニメーション効果の設定を習得する。(§ 4-STEP2のLesson2) SmartArtと図形に対するアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作を習得する(§ 4-STEP2のLesson2)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp211～p234を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp220練習22, p234練習23を行う。NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第15回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》発表の準備に関する機能として、ノートの入力、スライド印刷、リハーサル機能の操作方法を習得する(§ 4-STEP3のLesson1)。発表時の服装、態度、話し方について学ぶ(§ 4-STEP3のLesson2)。 § 4 PowerPiont-STEP2の試験(10問)を実施する。	教科書のp235～p248を読んでおく。(90分)	これまでの操作を復習し教科書のp182～p185を読んでおく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	87	授業参加度(授業内で作成したファイルの提出):全15回分で55点(回数に応じて比例配分) 授業内で実施する試験3回:約32点(=225÷7点)
その他	13	セキュリティと情報モラルに関する内容の宿題(第1回目から第3回目)約13点(=90÷7点)
教科書		
イチからしっかり学ぶ! Office基礎と情報モラルMicrosoft365・Office2021対応／ノア出版		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

教科書は必ず北海道文教大学のキャンパスショップで購入してください(キャンパスショップのネット販売もしくは学内の売場)。やむを得ずネット通販で購入の場合は必ず新品を購入してください。メルカリ等中古品の購入および未購入の場合は試験サイトへのアクセス権を発行できず試験を受験できないため単位は取得できません。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		生命科学				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮下 和夫						
授業の位置づけ							
科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である。 「解剖学」、「生理学」、「生化学」(健康栄養)、「解剖学I」、「解剖学II」、「生理学I」、「生理学II」(看護、リハビリ)、「免疫学」(看護)、「教科教育法 理科」(こども発達)と連携する教養科目である。							

- ・生物が物質から成る細胞を単位に構成されることを理解する
- ・遺伝子の重要性と役割を理解する
- ・細胞・分子レベルでの栄養素の重要性と代謝の仕組みについて理解する
- ・疾病と関係する諸因子(遺伝、食品、環境)について理解する

授業の方法

本授業で学ぶべき内容をわかりやすく解説したパワーポイントスライドの映写により講義を進め、指定した教科書も参照しながら学ぶ。授業への出席確認はGoogleクラスルームを活用して行う。
アクティブラーニングとして、学期末の講義において、小グループでのディスカッションに基づく課題研究発表を行う。

ICT活用

実習等との日時重複、その他不可避の状況により授業が対面実施できない場合には、Googleクラスルームよりオンデマンドビデオ配信授業を実施する。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業後、復習教材として、Googleクラスルームに各回の授業で用いたパワーポイントスライドから抜粋してPDFにした授業資料、および各回の授業内容の理解・定着度をチェックする確認小テスト(自己採点、解答解説もGoogleクラスルームに掲載、成績評価には含めない)を掲載するので、筆記試験に向けた準備・復習に活用されたい。
2回実施する筆記試験後には、解答解説を授業内で行うとともにGoogleクラスルームに掲載する。
授業内容等に関する質問は、授業の前後に直接対面で、あるいはGoogleクラスルームへのメールで受け付ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	物質から成る生物：科目ガイダンスとして、本科目の位置づけ、概要、到達目標、授業方法・進め方、成績評価等について、シラバスに基づき説明する。授業内容としては、非生物と異なる生物の特性、生物が細胞から成ることを理解する。	シラバスをよく読んで、この科目で学ぶこと、学習目標等を把握しておく。また教科書のp.2～6、p.14～16を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、生物を構成する分子で最も多い水分子の意義を説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			
第2回	タンパク質：分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、タンパク質について、基本構造と性質、生物・生命現象における機能・重要性について学ぶ。	教科書p.7～8, p.116, p.175を読み、疑問点・不明点を整理しておく。また、アミノ酸について簡単に調べておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、タンパク質の変性について説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			
第3回	核酸①(DNA)：分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、核酸(DNA、RNA)について、共通する構造を学び、さらにDNAについて、特徴的な構造・性質、生物・生命現象における重要性について学ぶ。DNA、遺伝子、ゲノム、染色体を正しく区別して認識できるよう解説する。	教科書p.11～16, p.18～19を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、DNA、遺伝子、ゲノム、染色体の言葉の意味を正しく理解して、それぞれ説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			

第4回	核酸②(RNA)：分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、RNAについて、特徴的な構造・性質、生物・生命現象における重要性について学ぶ。	教科書 p.14～17を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、ノートを整りし、遺伝暗号コードがなぜ3文字(3塩基)配列なのか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			
第5回	細胞の基本構造：生物の最小構成単位である細胞について、基本構造を学び、原核生物・真核生物の違いを学ぶ。真核生物を構成する真核細胞がもつ細胞内小器官、特に細胞膜、核、ミトコンドリアについて、構造・機能を学ぶ。	教科書p.3～12を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、ノートを整りし、なぜウイルスは現代生物学では生物とみなされないのか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			
第6回	遺伝情報の複製と細胞周期：遺伝情報の複製について、2本鎖DNAの半保存的複製の分子機構の基礎を学ぶ。細胞の生活環である細胞周期の中で、細胞分裂に先立つ特定の時期においてのみ遺伝情報の複製が行われること、また真核生物のDNA末端の繰り返し配列テロメアについても学ぶ。	教科書p.62～71を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、真核生物のDNA末端複製問題とはどのようなことか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テスト、第6回分の回答・自己採点とともに、筆記試験Aに向けて、第1回から第5回の講義内容、出題された確認小テストの問題も復習する。(120分程度)
担当教員			

第7回	筆記試験A: 第1回から第6回までの授業内容に関する筆記試験(60分程度)を実施する。試験答案回収の後、試験問題と解答の解説を行う。	授業ノートを整理して、第1回から第6回の講義内容、出題された確認小テストの問題を復習する。(120分程度)	筆記試験Aの確認・復習をして、理解・定着の不足していたところを拡充する。(60分程度)
担当教員			
第8回	ヒトを始めとする動物における栄養素の役割を正しく理解する。特に消化の仕組みとして、口、胃、十二指腸、小腸、大腸の働きと、各臓器が分泌する消化酵素とその特徴について学ぶ。	食物の消化・吸収について簡単に調べ、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、食物の消化と吸収の仕組みを簡単に説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			
第9回	タンパク質、糖質、脂質などの消化について理解する。それぞれの栄養素の分解を理解するために、その化学構造の特徴について学ぶ。	教科書p.120～124を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、タンパク質、糖質、脂質の化学構造的な特徴を説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			

第10回	栄養素の代謝によるエネルギー産生とそのメカニズムについて理解する。糖質と脂質の分解によって生み出されるエネルギーの特徴や肥満と痩せすぎの問題点について学ぶ。	教科書p.127～132を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、栄養素の代謝について説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			
第11回	体を正常に維持する上で必要な仕組み(呼吸、血液循環、体内環境維持)について理解する。特に栄養摂取のアンバランスによって引き起こされる疾病リスクについて学ぶ。	教科書p.133～147を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、適切な栄養素の摂取について説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			
第12回	がんについて基本的な仕組みについて理解する。がんの原因として考えられる要因、アポトーシス、細胞の寿命とがんとの関係などについて学ぶ。	教科書p.61～73を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、がんの原因について説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テスト、第12回分の回答・自己採点とともに、筆記試験Bに向けて、第1回から第11回の講義内容、出題された確認小テストの問題、筆記試験Aも復習する。(120分程度)
担当教員			

第13回	筆記試験B: これまでの全授業内容に関する筆記試験 (60分程度)を実施する。試験答案回収後、試験問題と解答の解説を行う。 翌週の第14回, 第15回授業で実施するグループ発表に向け、グループに分かれて準備作業を開始する。	授業ノートを整理して、第1回から第6回、第8回から第12回までの講義内容、出題された確認小テストの問題、筆記試験Aの復習をする。(120分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理する。グループ発表の準備を始める。(60分程度)
担当教員			
第14回	グループ発表: 設定された課題テーマについて、グループごとにパワーポイントスライドを使った発表を行い、参加者全員でディスカッションする。	グループごとに課題テーマに関するディスカッション、パワーポイントスライド作成、発表練習などを行う。(90分程度)	グループ発表に向けた準備作業を行う。(90分程度)
担当教員			
第15回	グループ発表: 前回授業に引き続いて、設定された課題テーマについて、グループごとにパワーポイントスライドを使った発表を行い、参加者全員でディスカッションする。課題レポートについて解説する。	グループごとに課題テーマに関するディスカッション、パワーポイントスライド作成、発表練習などを行う。(90分程度)	自身のグループだけでなく他のグループの発表も踏まえ、課題レポートを作成・提出する。(90分程度)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	出席：15回の授業のうち第7, 13, 14, 15回を含む12回以上の出席を単位取得要件とする 筆記試験：第7回、第13回の授業内に実施する2回の筆記試験の得点を成績評価対象とする(筆記試験A 30点、筆記試験B 50点)
その他	20	グループ発表：第14, 15回の授業時に実施する、予めグループで準備した発表について成績評価対象とする(10点) 課題レポート：第15回の授業で提示する決められた書式で作成し、Googleクラスルームを通じて期日までに提出するレポートを成績評価対象とする(10点)
教科書		
みんなの生命科学 第2版 北口哲也・塚原伸次・坪井貴司・前川文彦 化学同人 ISBN 9784759820997		
参考文献		

授業において適宜紹介する

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI入門				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」、国際教養学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と特に関係がある科目であり、国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。また、看護学科の「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある。理学療法学専攻の「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と特に関係があり、作業療法学専攻の「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。							
授業の概要							
ICT(情報通信技術)の進歩によってビッグデータをはじめとする様々なデータから、統計、科学的手法、人口知能(AI)を駆使して価値を引き出すデータサイエンスが求められている。この授業ではデータサイエンスの概略や代表的な数理的手法、なかでもAIのさまざまな手法や活用事例を学ぶ。さらに、データやAIの利活用において留意すべき事項も学習する。							
到達目標							

数理・データサイエンス・AIが、現在進行中の社会変化に深く寄与し、生活に影響を与えていることを説明できる。 数理・データサイエンス・AIが日常生活や社会の課題を解決するうえで有用であると同時に限界もあることについて説明できる。 数理・データサイエンス・AIが適用されることにより様々な領域であらたな価値がうみだされている実例をあげることができる。 数理・データサイエンス・AIを活用するにあたって留意すべき事(ELSI、個人情報保護、データを扱う上での倫理)について説明できる。 実際のデータが与えられたとき、そのデータの全体像をよみとり、その特徴を可視化するための手法を説明することができる。			
授業の方法			
パワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。			
ICT活用			
Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。			
実務経験のある教員の教育内容			
該当なし			
課題に対するフィードバックの方法			
フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データ・AI利活用により社会で起きている変化および最新動向】ICT(情報通信技術)の進歩によるビッグデータの集積やIoTの登場、およびAI((Artificial Intelligence:人工知能)の技術の発達、それらがもたらすSociety 5.0の社会をイメージできるようにする。【社会で活用されているデータ】データの種類、および社会でどのようにデータが活用されているかを学ぶ。【データ・AIの活用領域】AIとはなにか、AIの社会における利活用事例を学ぶ。【生成AIの活用の留意点】近年急速に発展した生成AIの特徴、弱点、利用にあたって留意すべき点を概説する。	ビッグデータ、IoT、Society 5.0、生成AIについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【データ分析のプロセスとデータ収集】データ分析のプロセスを概説したのち、外部団体(e-Stat等)の実データをインターネットから取得する方法、実データの加工解析の概要を学ぶ。【データの可視化・基本統計量】データが得られたら、まず行うべきデータの可視化、基本統計量(代表値、散布度)の確認について概説する。【2つの変数の間の関係】2つの量的変数の間の関係を可視化する散布図からわかること、および相関と因果関係について学ぶ。また、2つの質的変数の間の関係の把握するクロス集計について学ぶ。	データの特徴を表す方法および2変数の関係を調べる方法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【機械学習における学習方法】AIの分析で用いられる機械学習の3つの学習方法(教師あり、教師なし、強化学習)を理解する。 【AIの手法1:教師あり機械学習(回帰)】このうち教師あり機械学習の手法には回帰と分類があることを学ぶ。この中でまず回帰分析とそれらの応用事例を学ぶ。	機械学習とその学習方法について調べておく。また、このうち教師あり機械学習の回帰について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	【AIの手法2:教師あり学習(分類)】 教師あり機械学習の分類を行う手法のひとつとしてよく用いられるロジスティック回帰分析および決定木分析の概略を理解する。また、機械学習の分類性能の評価指標である正答率、適合率、偽陽性率、真陽性率、ROC曲線、AUCについて理解する。	教師あり機械学習の分類、特にロジスティック回帰分析および決定木分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【AIの手法3 :教師なし学習】 教師なし機械学習の手法のうち、クラスタリング、アソシエーション分析(=連関分析)について学ぶ。クラスタリングはデータを似たもの同士にグループ分けする手法であり、ここではk-means法を紹介する。アソシエーション分析は同時に購入される商品セットやその確率を算出してマーケティング施策に活かすことができる手法である。 【AIの手法4 :ニューラルネットワーク】 ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概略を学ぶ。ディープラーニングによる画像認識の概略を理解する。 【過学習】訓練データに対して適合しているが、検証データに対しては適合できていない状態である過学習について理解する。	教師なし機械学習のクラスタリング、アソシエーション分析およびニューラルネットワークについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	【社会におけるAIの利活用の現場】 ロボティクス、生成AI、データサイエンスの3つの視点から社会におけるAI利活用の現場レベルの事例を紹介する。その中で共通の重要事項である【データの有用性×人の価値観】のアプローチについて学ぶ。 【実データを用いた解析と結果の共有・伝達方法】 データの共有・伝達に関して、ある企業のクラウドデータプラットフォームの活用事例を用いてデータ解析、共有、伝達の流れを紹介する。 【データ・AI利活用の最新動向】 国内・国外それぞれの最新のAI活用事例を解説する中で、これからの社会の変化についての予測視点の提供を行う。 (ゲスト講師:山本光喜EZOAI代表)	AIが社会において利活用されている例を調べておく。また、クラウドデータプラットフォームとはなにかを調べておく(90分)	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第7回	【データを守るうえでの留意事項ー情報セキュリティ・情報倫理】情報化社会におけるデータの守り方である情報セキュリティ、個人情報の保護、情報を扱う上での法規や倫理について理解する 【データ・AIを扱う上での留意事項1ーELSI、AIの公平性・平等性】すべての科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI (Ethical: 倫理的、Legal: 法的、Social Issues: 社会的課題)について学ぶ。公平性、平等性を疎外するバイアスとはなにか、どのようなバイアスがありどのような問題が生じているのかについて学ぶ。	科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI、AI利用における公平性、平等性を損なう原因となるバイアスについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【データ・AIを扱う上での留意事項2ーAIの透明性・説明可能性、AIに関する社会的課題】AIの透明性・説明可能性がなぜ必要なのか、それを実現するための技術などについて学ぶ。また、AIに関する様々な社会的課題 (AIにより人間が支配される可能性、人間の仕事の激減、AIによるトラブルと責任の所在、ビッグデータとプライバシー、AIの創作物に対する著作権)について学ぶ。	AI技術の発展がもたらすであろう様々な社会的課題について調べておく(90分)。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	55	授業参加度:全8回分で55点(回数に応じて比例配分)
その他	45	宿題:全8回分で45点(出席回の提出分を回答状況に応じて加算、欠席回の提出はDH適用時に配慮)
教科書		
なし		
参考文献		
AI/テラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社		
履修条件・留意事項等		

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI実践				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						

授業の位置づけ

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」、国際教養学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と特に関係がある科目であり、国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。また、看護学科の「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある。理学療法専攻の「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と特に関係があり、作業療法専攻の「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI入門」からつながる科目である。

授業の概要

表計算ソフトやプログラミング言語であるPythonを用いて、インターネットから情報を取得してその特徴をとらえる方法、およびデータサイエンスで用いられるAIの手法を駆使してデータを分析する方法を習得する。

到達目標

インターネットから取得したデータを分析できる形に整えることができる。
 データを分析できる形に整えることができる。
 データの基本統計量の計算や可視化を行うことによりデータを読みとることができる。
 データの特徴を説明することができる。
 任意のデータファイルを読み込み、機械学習の教師あり学習の回帰、分類の手法でデータを分析することができる。

授業の方法

各人がパソコンを操作してExcelやPythonを実際に動かしながら学習してゆく(全8回)。説明部分はパワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データを扱う方法】インターネットから取得されたデータを分析できる形に整える方法を習得する。 【データを読む方法】データの特徴を得るために表計算ソフトの分析ツールを用いて基本統計量(代表値の計算、データのばらつき(分散、標準偏差))を実際に計算する。データの分布を表すヒストグラムの作成法を習得する。	Excelで基本統計量を求める方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	【表計算ソフトを用いたデータの可視化による説明】グラフによるデータの表現を概観する。特に2変数のデータの間の関係を調べるために、表計算ソフトを用いた散布図の作成、相関係数の計算、および散布図から単回帰式を求める方法を習得する。また、分類の様子を概観するための層別散布図の作成方法を習得する。 【クロス集計】二つの質的変数の間の関係を調べるクロス集計表をピボットテーブルを用いて作成する方法を習得する。	Excelによる散布図の作成、ピボットテーブルの作成方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	【AI開発を行う道具・Python入門】Google Colaboratoryを用いてプログラム言語であるPythonを実行する方法を習得する。 【プログラミングの基本1】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち順次処理、条件分岐を体験する。	プログラミングの基本のうち順次処理、条件分岐について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第4回	【プログラミングの基本2】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち反復処理を体験する。 【Pythonを用いたデータの可視化】Pythonを用いてパソコン上のデータファイルを読み込み、代表値の計算、データの分布やばらつき等のデータの可視化を行うプログラムを生成AIを用いて作成する。	プログラミングの基本のうち反復処理について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第5回	【機械学習 教師あり学習(回帰)】回帰分析の概要を復習したのち重回帰において説明変数が量的変数の場合に限らず説明変数にダミー変数を含む場合の意味について学習する。生成AIを用いて機械学習としての重回帰を実行するPythonプログラム作成を体験する。Pythonを用いて実際に回帰分析(単回帰、重回帰)を行う方法を習得するとともに、その活用法を学習する。	回帰分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	【機械学習 教師あり学習(分類)】Pythonのscikit-learnというライブラリーを用いて、分類を行うロジスティック回帰分析、決定木分析、ランダムフォレストなどの特徴を理解し、それらの実装を体験する。	機械学習における分類の手法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第7回	【機械学習 教師なし学習】多くの変数を少数の合成変数にまとめる手法である主成分分析について理解し、Pythonのscikit-learnを用いて主成分分析後の分類(ロジスティック回帰など)を体験する。アソシエーション分析を体験する。k-means法によるクラスタリングを実データを用いて実行し、その解釈について学習する。	主成分分析、アソシエーション分析およびクラスタリング手法であるk-means法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	【ニューラルネットワークによる分類】ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概要を復習したのち、さらに詳細な理解をするためにA Neural Network Playgroundを用いてニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについて学習する。 【Pythonによるニューラルネットワークの実装】Pythonを用いたニューラルネットワークによる分類を実行プログラムを用いてデータを分析する方法を習得する。	ニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについてこれまで習ったことを復習しておく。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	授業参加度:全8回分で55点(回数に応じて比例配分) 授業内の提出物:全8回分で15点(回数に応じて比例配分)
その他	30	宿題:全8回分で30点(出席回の提出分を回答状況に応じて加算、欠席回の提出はDH適用時に配慮)
教科書		
なし		
参考文献		
AI/テラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社		
履修条件・留意事項等		

CL教室のパソコンでGoogle Classroomのログインができるように本学のGoogleのID、パスワードがわかるようにしておいて下さい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		統計の基礎				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	武田 裕康						
授業の位置づけ							
教養科目のカリキュラムマップの「科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である」および、「数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養う科目である。」と関連する。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関連する。また作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」と主に関連する。さらに地域未来学科のディプロマ・ポリシーの「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる(思考・判断・表現)」と関連する科目である。							
授業の概要							
主としてネイマン-ピアソン理論に基づき、個々の数量的現象の変動や差異と有意性、および集団の特性と変化の推移を理解する手段として統計学の基本的な知識を身につける。さらに統計手法を利用して様々な自然現象や社会現象を把握する際の留意点を十分に理解したうえで、代表値の求め方や分散の取り扱い、相関関係の検討法、各種検定法の特性などを学び、コンピュータを利用して統計処理するための基本理論を学ぶ。							
到達目標							

1. データをもとにして統計的な記述を行いその特徴を見出すことができる。
2. 統計的推定の考え方を説明することができる。
3. 統計的検定の考え方を説明することができる。
4. 各種検定法の特性を理解し、データに適した方法を選択できる。
5. 統計検定を正しく行い、適切な検定結果から正しい結論を導くことができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施するとともに、宿題を課す(全15回)。第6回以降の後半は問題解決を通じて能動的に学ぶアクティブ・ラーニング型となる。
フィードバックとして理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【記述統計①】データの整理と視覚化をおこなうための度数分布表とヒストグラム、また、データを代表する値である平均値と中央値、最頻値について高校までに学習した内容を確認する。また、統計処理の対象となるデータが4つの尺度(比例尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度)に分類されることを学ぶ。	配布資料及び教科書1のp14～p27を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	【記述統計②】データのばらつきを表す指標(散布度)である分散、標準偏差、四分位偏差について高校までに学習した内容を確認し、データの代表値と散布度の表し方を学ぶ。また、確率分布を理解し、二項分布および代表的な分布である正規分布の性質を理解する。	配布資料及び教科書1のp28～p31、p42～p48、p60～p67を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	【推測統計①】統計的調査を母集団全体に行うことは実用的ではないので、標本を抽出して母集団の性質を推測する。まず母集団が正規分布することを仮定して標本から母数を推定する考え方を学んだのち、正規母集団の分散が既知のときに母平均を区間推定する方法を学ぶ。	配布資料及び教科書1のp84～p89、p96～p98、p100～p102、p106～p109、p112～p117を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第4回	【推測統計②】正規分布する母集団から標本抽出し、母分散を区間推定する方法を学ぶ。また、正規分布するが分散が未知の母集団、さらには分布も分散も未知の母集団から標本抽出し、母平均を区間推定する方法を学ぶ。これらの理解に必要な自由度、中心極限定理、t分布、カイ二乗分布を学ぶ。	配布資料及び教科書1のp94、p133～136、p71～p73、p96～p98、p118～p128、p68～p70を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第5回	【推測統計③】統計的検定の基本的手順を習得し、検定における「帰無仮説」「危険率」「棄却」等の考え方を理解する。あわせて、片側検定、両側検定の使い分けや判定の誤り(第1種の過誤、第2種の過誤)を学ぶ。	配布資料及び教科書1のp138～p154を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第6回	【実践編①】関連2群の差の検定法として「対応あるt検定」「ウィルコクソン符号付順位和検定」を学ぶ。これは同じ個体内での変化など、関連のある2つの量に差があるかどうかを判定できる。2つの検定のうちどれを用いるかは正規性の有無で判断するので、正規性の検定も習得する。	配布資料及び教科書2のp48～p51、p101～p110を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第7回	【実践編②】独立2群の差の検定法として「スチューデントのt検定」「ウェルチのt検定」「マン・ホイットニー検定」を学ぶ。これらの検定のうちどれを用いるかは正規性の検定、等分散性の検定により判断する。なお、等分散性の検定に必要なF分布についても紹介する。	配布資料、教科書1のp74～p76、p167～p170 及び教科書2のp81～99を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	【実践編③】独立な多群(3群以上)の差を検定する方法として「一元配置分散分析」を分散分析の原理の基本とともに学ぶ。また、正規性や多群の等分散性がないときに用いる「クラスカル・ウォリス検定」、多群の等分散性の検定である「バートレット検定」を学ぶ。	配布資料、教科書1のp192～p206 及び教科書2のp111～p124 を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第9回	【実践編④】関連ある多群の差を検定する「重複(または反復)測定一元配置分散分析」を紹介する。また、2要因を同時に分析する「二元配置分散分析」を学ぶ。ここでは2要因の組合せに対してデータが1つの場合に用いる「繰り返しのない二元配置分散分析」「フリードマン検定」を学ぶ。	配布資料、教科書1のp207～p213 及び教科書2のp125～p130、p139～p148を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第10回	【実践編⑤】分散分析では多群のどこかに差があるかを検定するが、どの群とどの群に差があるかはわからない。これを明らかにする検定が多重比較である。ここではその概念を学び様々な多重比較法を紹介する。	配布資料を読んでおくこと。また、教科書2のp165～p195が範囲だが、このうちp165、p168～p172を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第11回	【実践編⑥】2要因の組合せに対してデータが複数存在する場合に用いる「繰り返しのある二元配置分散分析」について学ぶ。またここで得られる2要因の絡みあいの指標＝「交互作用」の解釈も学ぶ。さらに、「重複測定二元配置分散分析」についても紹介する。	配布資料、教科書1のp218～p226 及び教科書2のp149～p163を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第12回	【実践編⑦】2つの変量の間に相関関係があるかどうかを調べる「ピアソンの相関係数の検定」「スピアマンの順位相関係数検定」を学び、ここで得られる相関係数の意味を学ぶ。また、回帰分析のうち単回帰分析について学ぶ。	配布資料、教科書1のp34～p40、p172～p184 及び教科書2のp197～p218を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第13回	【実践編⑧】「2×2分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度の変数があり、各変数が2つの値しかとらないとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは、「カイ2乗独立性の検定」、「フィッシャーの直接確率計算法」、「マクニマー法」について学ぶ。	配布資料及び教科書2のp239～p253を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第14回	【実践編⑨】「m×n分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度か順序尺度の変数があり、少なくとも1つの変数が3つ以上の値をとるとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは「カイ2乗独立性の検定」等について学ぶ。	配布資料及び教科書2のp259～p276を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	【実践編⑩】実践編の総まとめとして、調査したいデータに対してどの検定を選択したらよいかを習得する。 【番外編】統計的検定の問題点について考察する。効果の大きさをあらわす統計的指標である効果量について簡単に紹介する。	教科書2でこれまで行った検定法を復習しておくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	各講義中に提出する理解度チェック問題の提出(15回)
その他	50	各回ごとの宿題の提出(15回)
教科書		
1. 統計解析がわかる／涌井良幸, 涌井貞美／技術評論社 2. 4steps エクセル統計(第5版)／柳井久江／オーエムエス出版		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
特になし
備考欄
特になし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Patrick Hall						

授業の位置づけ

本科目では、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、プレゼンテーションのスキルを取得する。これらのスキルは、英語で効果的にコミュニケーションを行う為に必要であり、講義は参加型の学習スタイルを取る。ネイティブスピーカーと英語を話す機会を得るとともに、第2言語として英語を話す機会が提供される。後期開講の英語Ⅱと連携している教養科目である。

授業の概要

本授業では、様々なスピーキングとライティングの学習を行い、ペアおよびグループワークを通して、英語でコミュニケーションを取るためのスキルを修得する。

到達目標

- 自信を持って英語でコミュニケーションを取ることができる。
- スピーキングとリスニングの自信を持つことができる。
- 発音とイントネーションの上達を図ることができる。

授業の方法

パワーポイントを中心に英語活動や会話を行う。

ICT活用

パワーポイントとグーグルクラスルームを活用して課題提出を行う。

実務経験のある教員の教育内容

特に無し

課題に対するフィードバックの方法

授業内や提出する物のフィードバックを行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 自己紹介	自己紹介の準備 (25分)	今週の授業の復習 (20分)
担当教員			
第2回	好きな物:動物、スポーツ、食べ物に関する表現を学ぶ	先週の授業の復習、好きな物の準備 (25分)	今週の授業の復習 (20分)
担当教員			
第3回	ショーアンドテル:気に入りの物を紹介する表現を学ぶ	先週の授業の復習をする、紹介する物を用意する (25分)	今週の授業の復習 (20分)
担当教員			

第4回	英語で折り紙① 折り方の語彙と表現を学ぶ	先週の授業の復習をする、折り紙を用意する (25分)	今週の授業の復習 (20分)
担当教員			
第5回	英語で折り紙② 発表	先週の授業の復習をする、発表を練習する。(25分)	今週の授業の復習 (20分)
担当教員			
第6回	時間:時間の読み方と何時に何を・したに関する表現を学ぶ	先週の授業の復習と自分が何時に何をすることを考えておく(25分)	今週の授業の復習 (20分)
担当教員			

第7回	数字と値段(日本円とニュージーランドドル)に関する表現を学ぶ	先週の授業の復習(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員			
第8回	体と健康: 体の部分と健康状態に関する表現を学ぶ	先週の授業の復習(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員			
第9回	英語で手遊び①: 2種類の手遊びを勉強する、発表の準備	先週の授業の復習をする、自分 が出来そうな手遊びを調べておく(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員			

第10回	英語で手遊び②:発表	先週の授業の復習をする、発表を練習する。(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員			
第11回	学校案内:教室と学校の案内に関する表現を学ぶ	先週の授業の復習(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員			
第12回	学校の行事:学校の行事と日付けに関する表現を学ぶ	先週の授業の復習(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員			

第13回	フォニックス:英語の発音の仕方、フォニックスで遊ぶ	先週の授業の復習(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員			
第14回	英語で絵本の読み聞かせ①英語で絵本の読み聞かせの仕方、発表の準備	先週の授業の復習、絵本を用意する(25分)	今週の授業の復習(20分)
担当教員			
第15回	英語の絵本の読み聞かせ②発表	先週の授業の復習(25分)	今期学んだ事を振り返る(10分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	60% Attitude and effort in all classes 30% Presentations 10% Feedback
その他	0	
教科書		
無し		
参考文献		

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	相馬 哲也						

授業の位置づけ

本科目は、外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。前期に配置されている「英語Ⅰ」はネイティブ・スピーカー教員によるすべて英語で行われる会話の授業であるが、この後期に配置されている「英語Ⅱ」は日本人教員による専門用語等の説明において、必要に応じて日本語を使用する授業である。こうしたことを通じて、英語圏の国で日常生活に不便を感じないレベルの英語力を身に付けることを目指す授業である。

授業の概要

本授業では、高等学校での学習を基に比較的まとまりのある英文を正しく、丁寧に読み取ることを目的に、発音、語彙、語法、慣用的表現の解説と訓練を行うとともに、具体的な場面を設定して英語で自己表現することができるようになることを目的とする。

到達目標

- 基礎的語彙に慣れ親しむことができる。
- 日本語に訳することなしに英文の意味を理解するとともに、パラグラフ単位で意味が把握できる。
- 具体的な場面における英会話の基礎を身に付け、発話できる。

授業の方法

教科書を中心に、プレゼン資料や板書と配布印刷物を用いた演習形式で行う。
 ほぼ毎回、単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。

ICT活用

プレゼンテーションソフトによる教材提示やリスニングを行うとともに、グーグルクラスルームを活用して、課題提出などを行う。

実務経験のある教員の教育内容

中学校・高校で17年間、英語教員として指導した経験を生かす。

課題に対するフィードバックの方法

ほぼ毎回単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方や評価方法を理解する。 ◎Unit1 For here, or to go? ・ファストフード店での注文に関する表現を学ぶ。	・Unit1 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit1 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	◎Unit2 How many are in your party? ・レストランでの来客対応に関する表現を学ぶ。	・Unit2 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit2 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第3回	◎Unit3 I'll be right back. ・レストランでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit3 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit3 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第4回	◎Unit4 Would you like me to heat this up? ・コンビニやスーパーでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit4 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit4 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第5回	◎Unit5 Your total comes to 3,240 yen. ・買い物や飲食の会計に関する表現を学ぶ。	・Unit5 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit5 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第6回	◎Unit6 I'm truly sorry for the trouble ・商品やサービスへの苦情とその対応に関する表現を学ぶ。	・Unit6 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit6 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第7回	◎Review1 (Unit1-6) ・Unit1からUnit6までの復習をする。	・Review1 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review1に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第8回	◎Unit7 Do you have a reservation? ・ホテルや旅館での宿泊受付に関する表現を学ぶ。	・Unit7を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit7 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第9回	◎Unit8 Wi-Fi is available in this area. ・客が利用できるサービスや近隣情報の案内に関する表現を学ぶ。	・Unit8 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit8 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第10回	◎Unit9 I highly recommend Sakura Restaurant. ・旅行者の希望に応じた店や観光地などの提案に関する表現を学ぶ。	・Unit9 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit9 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第11回	◎Unit10 Turn right at the first intersection. ・道案内に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第12回	◎Unit11 Take the subway to Hommachi. ・交通案内や観光施設の情報提供に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第13回	◎Unit12 First, put the money in the machine. ・券売機や電化製品の使用方法の説明に関する表現を学ぶ。	・Unit12 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit12 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第14回	◎Review2 (Unit7-12) ・Unit7からUnit12までの復習をする。	・Review2 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review2に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第15回	◎まとめ ・この授業のまとめを行う。	・総復習して、課題に取り組むこと。(35分)	・学んだ内容のポイントを整理しておくこと。(10分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組状況(20%)、授業内小テスト(70%)、課題(10%)
その他	0	
教科書		
You're welcome! / Tae Kudo / センゲージラーニング		
参考文献		

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		韓国語 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	曹 順姫						

授業の位置づけ

韓国語Ⅱは韓国語Ⅰより、一歩進んだ発話と基礎文法を学ぶ。
グローバル社会の中で世界の人々と交流するためのコミュニケーション能力を備えるための初級韓国語を学ぶ。

授業の概要

「韓国語Ⅰ」同様に教科書に沿って文法を学び会話力を身につける。本授業では、基本的なコミュニケーションを可能なものにするための手助けになり、話したい内容をより豊かに表現できるよう正しい発音で音読したり、学んだ表現を用い会話したりする練習をも行う。

到達目標

韓国語で趣味や好きなことなどを話せ、相手にも聞けるようにする。韓国のwebサイトや新聞から情報を入手できるようにする。

授業の方法

パワーポイントや視覚教材、メディアなどを用いる
学生の積極的な参加を要する実技形式の授業である

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを用いて実施した、理解度確認テストおよび課題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業ガイダンス 前期復習	前期復習(90分)	授業内容の復習と課題。(90分)
担当教員			
第2回	第8課 これは何ですか。① こそあど、体言の否定、助詞 の、も 家族の呼称	第1回目の授業内容の復習(90分) 教科書p36～p38	こそあど、体言の否定、助詞 の、も 家族の呼称 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第3回	第8課 これは何ですか。② 会話⑧、基本名詞 小テスト①	第2回目の授業内容の復習(90分) 教科書p39～p42	会話⑧、基本名詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第4回	第9課 学校はどこにありますか。① 助詞 が、に、と、存在詞 ある/いる・ない/いない	第3回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p44～p47	助詞 が、に、と、存在詞 ある/いる・ない/いない 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第5回	第9課 学校はどこにありますか。② 位置名詞、会話⑨、場所名詞 小テスト②	第4回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p48～p49	会話⑨ 場所名詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第6回	第10課 午後に何をしますか。① 用言＋です/ます 助詞 時間 に、場所 に、で、を	第5回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p50～p53	用言＋です/ます 助詞 時間 に、場所のに、で、を 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第7回	第10課 午後に何をしますか。② 会話⑩ 基本動詞 と反対語 小テスト③	第6回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p54～p55	会話⑩ 基本動詞 と反対語 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第8回	第11課 誕生日はいつですか。① 漢数詞、曜日	第7回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p56～p58	漢数詞(年月日、電話番号)、曜日 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第9回	第11課 誕生日はいつですか。② 後置否定形、会話⑪ 小テスト④	第8回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p58～p61	後置否定形、会話⑪ 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第10回	第12課 どちらにお住まいですか。① 尊敬形、口語体助詞 と、副詞	第9回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p62～p64	尊敬形、口語体助詞 と、副詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第11回	第12課 どちらにお住まいですか。② 会話⑫ 体の名称 小テスト⑤	第10回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p65～p67	会話⑫ 体の名称 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第12回	第13課 どんな映画が好きですか。① へヨ体	第11回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p68～p70	へヨ体 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第13回	第13課 どんな映画が好きですか。② 前置否定形、会話⑬、趣味名詞 小テスト⑤	第12回目の授業内容の復習(90分) 教科書p71～p73	前置否定形、会話⑬、趣味名詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第14回	韓国文化を学ぶ:映画鑑賞	第13回目の授業内容の復習(90分)	感想文を書く
担当教員			
第15回	第14課 固有数詞 前期復習	前期復習(90分) 教科書p74～p75	前期復習 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	課題40% 小テスト30% 参加度20%
その他	10	遅刻、理由無き欠席は減点します。
教科書		
「教養韓国語 初級」金智賢 著:朝日出版社		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
授業15回中5回以上の欠席は単位が出せません。(5回まで)
備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		韓国語Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	半田 光						
授業の位置づけ							
本授業は、外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。 韓国語Ⅱは韓国語Ⅰより、一歩進んだ発話と基礎文法を学ぶ。 グローバル社会の中で世界の人々と交流するためのコミュニケーション能力を備えるための初級韓国語を学ぶ。							

韓国語で趣味や好きなことなどを話せ、相手にも聞けるようにする。韓国のwebサイトや新聞から情報を入手できるようにする。

授業の方法

パワーポイントや視覚教材、メディアなどを用いる
学生の積極的な参加を要する実技形式の授業である

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを用いて実施した、理解度確認テストおよび課題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業ガイダンス 前期復習	前期復習(90分)	授業内容の復習と課題。(90分)
担当教員			
第2回	第8課 これは何ですか。① こそあど、体言の否定、助詞 の、と 家族の呼称	第1回目の授業内容の復習(90分) 教科書p36～p38	こそあど、体言の否定、助詞 の、と 家族の呼称 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第3回	第8課 これは何ですか。② 会話⑧、基本名詞 小テスト①	第2回目の授業内容の復習(90分) 教科書p39～p42	会話⑧、基本名詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第4回	第9課 学校はどこにありますか。① 助詞 が、に、と 存在詞 ある/ない	第3回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p44～p47	助詞 が、に、と 存在詞 ある/ない 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第5回	第9課 学校はどこにありますか。② 位置名詞、会話⑨、場所名詞 小テスト②	第4回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p48～p49	会話⑨ 場所名詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第6回	第10課 午後に何をしますか。① 用言＋です/ます 助詞 時間 に、場所 に、で、を	第5回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p50～p53	用言＋です/ます 助詞 時間 に、場所のに、で、を 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第7回	第10課 午後に何をしますか。② 会話⑩ 基本動詞 と反対語 小テスト③	第6回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p54～p55	会話⑩ 基本動詞 反対語 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第8回	第11課 誕生日はいつですか。① 漢数詞、曜日	第7回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p56～p58	漢数詞、曜日 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第9回	第11課 誕生日はいつですか。② 後置否定形、会話⑪ 小テスト④	第8回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p58～p61	後置否定形、会話⑪ 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第10回	第12課 どちらにお住まいですか。① 尊敬形、口語体助詞 と、副詞	第9回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p62～p64	尊敬形、口語体助詞 と、副詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第11回	第12課 どちらにお住まいですか。② 会話⑫ 体の名称 小テスト⑤	第10回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p65～p67	会話⑫ 体の名称 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第12回	第13課 どんな映画が好きですか。① へヨ体	第11回目の授業内容の復習 (90分) 教科書p68～p70	へヨ体 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			

第13回	第13課 どんな映画が好きですか。② 前置否定形、会話⑬、趣味名詞 小テスト⑤	第12回目の授業内容の復習(90分) 教科書p71～p73	前置否定形、会話⑬、趣味名詞 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
第14回	韓国文化を学ぶ:映画鑑賞	第13回目の授業内容の復習(90分)	感想文を書く
担当教員			
第15回	第14課 固有数詞 前期復習	前期復習(90分) 教科書p74～p75	前期復習 授業中に学んだ単語の暗記と課題。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	課題40% 小テスト30% 参加度20%
その他	10	遅刻、理由無き欠席は減点します。
教科書		
「教養韓国語 初級」金智賢 著:朝日出版社		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
授業15回中5回より多く欠席した場合は単位が出せません。(5回まで) 前期の韓国語Ⅰを履修しているか、韓国語の基礎(ハングルの読み書き)を理解していることを前提とします。
備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツ I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。

授業の概要

体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。

到達目標

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バレーボール② ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール③ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	レクリエーション種目(1) ヘルスパレーボール、テニポン、ピロポロ、ドッジボール等に親しむ	レクリエーション種目にはどのようなものがあるか調べる(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第11回	レクリエーション種目(2) ヘルスパレーボール、テニポン、ピロポロ、ドッジボール等に親しみ理解する	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			

第13回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等について解説する。	シラバスで授業内容を確認する (20分)	受講にあたっての注意事項等を確認する(25分)
担当教員			
第2回	バドミントン・卓球(1) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第3回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			

第4回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第5回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第6回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)ー一個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			

第7回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー) 一個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第8回	フットサル(1) ゲーム(技術の応用) ルールを理解し、個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第9回	フットサル(2) ゲーム(技術の応用) 一個人技術を活用し、2人・3人のプレーを生かし、5人でゲームを行う。	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			

第10回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う	ニュースポーツにはどのような競技があるかかを調べる(20分)	基本技術・ルールの確認(25分)
担当教員			
第11回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンビプレーを活用しゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(3) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			

第13回	ニュースポーツ(4) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第14回	モルック(1) ルールを理解しゲームを行う。	モルックとはどのような種目なのかを調べる(20分)	基本技術・ルールの確認(25分)
担当教員			
第15回	モルック(2) ルールを理解し、戦術を考えながらゲームを行う。	技術・戦術を確認する(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性について考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
 天候その他状況により種目が変更となる場合がある
 積極的にプレーに参加すること

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		教育学概論 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」とも関係し、教育学及び社会教育の基礎知識・技能を身につけるための基礎科目である。さらに、初年次教育の一環として、これから専門領域を学習するに当たっての心構えを養うための科目である。

授業の概要

本科目は、教育学の学習・研究活動を進めるに当たって、コンピュータやインターネット、オンライン会議等のICTの技能の修得や積極的に活用する態度の育成をはじめ、文脈を踏まえた文章の読解や要約、それらに基づいた主張の明確化と効果的な表現方法、特に聴くことを重視したコミュニケーションスキル、異なる考えへの共感的な理解や合意形成の方法等のミーティングマネジメント、問題解決の考え方等、主体的な学習・研究活動のために不可欠なツールの獲得を目的とする。

到達目標

- ①学ぶことの意義を説明できる。
- ②参加型の学びの意義を説明できる。
- ③他者の話を共感的に聞きながらグループワークに参加できる。
- ④文書作成やプレゼンテーションソフト等の基本を理解し、相手に伝わる資料を作ることができる。

授業の方法

・導入として、パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。

ICT活用

- ・プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。
- ・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校教諭、校長として9年の学校現場勤務と市町村や国立青少年教育施設への派遣等、24年の社会教育行政の勤務経験があり、公教育や生涯学習について幅広い知識を有している。この経験を活かし、学びの構造をはじめ、これからの時代に求められる学びや具体的な支援方策等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- ・次回の講義で前時の気づき等について、受講生同士の意見交換やコメントの時間を設ける。
- ・提出を要する課題は、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 共に学ぶ仲間を知り、教育と学びの違いについて理解を深める。	教育・学習・学びについて調べ、自分なりのイメージを持って授業に臨む(90分)。	教育・学習・学びなどについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	学びの基礎1 読書やメモなど、学びを深め、気づきを得るための具体的な手立てについて理解を深める。(講義内課題①予定)	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、読書やメモの取り方についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第3回	学びの基礎2 体験学習法やふりかえり、わかちあいの意義について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、体験学習法やふりかえり、わかちあいの意義についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第4回	学びの基礎3 教育や学びの場における望ましいコミュニケーションの在り方について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、聴く力の重要性についての気づきを整理するとともに、課題に取り組む(90分)。
担当教員			
第5回	学びの基礎4 傾聴や適切なリアクションなど、学びにおける聴く力の重要性について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、文脈を読み、簡潔に考えを表現する話し方や伝え方についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第6回	学びの基礎5 文脈を読み、簡潔に考えを表現する話し方や伝え方について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、文脈を読み、簡潔に考えを表現する話し方や伝え方についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第7回	学びの基礎6 プレゼンテーションソフトを用いた資料づくりの方法について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、プレゼンテーションの意義や方法についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第8回	学びの基礎7 資料や考えを簡潔に要約し、共感を得る、資料づくりや発表の方法(レジュメやKP法等)を学ぶ。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、プレゼンテーションの意義や方法についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第9回	学びの基礎8 資料や考えを簡潔に要約し、共感を得る、資料づくりや発表の方法(レジュメやKP法等)を学ぶ。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、資料を簡潔に伝えることの意義や方法についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第10回	学びの基礎のまとめ 第1～9回までの講義内容や気づきをふりかえる。	これまでの講義資料やノート、参考資料等を読み返して授業に臨む(90分)。	参加型の学び(ワークショップ)を体験し、意義や効果についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第11回	学びの場と場づくり1 参加型の学び(ワークショップ)を体験し、意義や効果についての理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、参加型の学びにおけるファシリテーターの役割やファシリテーション技術の基礎についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	学びの場と場づくり2 参加型の学びにおけるファシリテーターの役割やファシリテーション技術の基礎を理解する。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、参加型の学びにおける様々な思考ツールについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第13回	学びの場と場づくり3 参加型の学びにおける様々な思考ツールを理解する。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、会議 の意義合意形成の方法につい ての気づきを整理するとともに、 課題に取り組む(90分)。
担当教員			
第14回	学びの場の応用 模擬的な会議を通して、望ましい会議・ミーティングの在り 方について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	レポート課題をまとめて期限内 に提出するとともに発表の練習 を行う(90分)。
担当教員			
第15回	まとめ レポートを発表し、講義全体をふりかえるとともに、学びや 気づきを共有する。	授業のテーマについて調べると ともに、レポートの発表練習を行 い授業に望む(90分)。	講義全体ををふりかえり、気づき を整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業ごとのふりかえり15回 45% ②授業内の課題2回 30% ③授業外レポート1回 15% ④授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

・人間関係トレーニング 私を育てる教育への人間学的アプローチ 津村俊充・山口真人 編 ナカニシヤ出版
 ・対話を生みだすKP法 川嶋 直 著 みくに出版
 ・ファシリテーション革命 参加型の場づくりの技法 中野民夫 著 岩波書店
 ・わかりあえないことから 平田オリザ 著 講談社
 ・教えから学びへ 汐見稔幸 著 河出新書
 ※その他授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

・できる限りPC(難しければスマートフォン)を持参する。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		教育学概論Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」とも関係し、教育学及び社会教育の基礎知識・技能を身につけるための基礎科目である。

授業の概要

本科目は、教育学研究の基礎コースとしての位置づけである。「教育学概論Ⅰ」での学びを基盤として、教育の目的、教育と学習、公教育と私教育、学校教育と社会教育、生涯学習社会における教育の使命や役割、教育に対する社会的な要請・課題の把握、生涯各期の学習課題、学習者主体の学びの促進と支援の在り方等、より専門的な教育学の探求に向けて、大切かつ必要な知識・論理の理解と前向きな探求姿勢の修得を目的とする。

到達目標

- ①教育が法令に基づき行われていることを理解し、説明できる。
- ②教育活動の現状や問題点を理解し、課題点や解決のアイディアと関連付けることができる。
- ③適切な資料を探し出せるよう、検索ソフト等を操作できる。
- ④多様な考えを踏まえた、自分らしい教育観を形成し、述べることができる。

授業の方法

- ・導入として、パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。
- ・ゲストによる講話も予定する。

ICT活用

- ・プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。
 - ・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。
- ※Google meet等を活用し、ゲストによる講話等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校教諭、校長として9年の学校現場勤務と市町村や国立青少年教育施設への派遣等、24年の社会教育行政の勤務経験があり、公教育や生涯学習について幅広いの知識を有している。この経験を活かし、教育活動の法的根拠や現状と課題をはじめ、教育現場と教育行政の連携等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- ・次回の講義で前時の気づき等について、受講生同士の意見交換やコメントの時間を設ける。
- ・提出を要する課題は、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 公教育が日本国憲法や教育基本法に基づいて行われていることについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	公教育が日本国憲法や教育基本法に基づいて行われていることについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	教育制度等の歴史 公教育の歴史的な経緯や施策の背景について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、公教育の歴史や施策の背景についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第3回	教育関係法令について 公教育の法体系や仕組みについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、公教育の法体系や仕組みについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第4回	学校教育の現状と課題 学校で行われている教育活動のや生徒指導の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、学校 で行われている教育活動のや 生徒指導の現状や課題につい ての気づきを整理するとともに、 課題に取り組む(90分)。
担当教員			
第5回	家庭教育の現状と課題 家庭教育の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、レポ ート課題をまとめて期限内に提 出するとともに発表の練習を行う (90分)。
担当教員			
第6回	社会教育の現状と課題1 地域における社会教育や社会教育主事の役割について 理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、社会 教育の現状や課題についての 気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第7回	社会教育の現状と課題2 社会教育行政の仕組みや社会教育主事の役割について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、社会教育行政の仕組みや社会教育主事の役割についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第8回	社会教育の現状と課題3 公民館、図書館、博物館における教育活動の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、公民館、図書館、博物館における教育活動の現状や課題についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第9回	社会教育の現状と課題4 青少年の体験活動の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、青少年の体験活動の現状や課題についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第10回	社会教育の現状と課題5 青少年教育施設における教育活動の実際についての理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、青少年教育施設における教育活動の実際についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第11回	社会教育の現状と課題6 青少年教育施設における職務の実際についての理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、青少年教育施設における職務の実際についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	社会教育の現状と課題7 民間が取り組む社会教育活動の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマやゲストについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、民間が取り組む社会教育活動の現状や課題についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第13回	社会教育の現状と課題8 広域行政における社会教育活動の現状や課題について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	広域行政による社会教育活動の現状や課題についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第14回	教育学概論のまとめ 小テストを行うとともに、今後の教育に求められる役割について理解を深める。	これまでの講義資料やノート、参考文献等を読み返して授業に臨む(90分)。	今日的な教育の課題と解決手段についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第15回	まとめとふりかえり 講義全体をふりかえるとともに、グループ協議によって学びや気づきをさらに深める。	これまでの講義資料やノート、参考文献等を読み返して授業に臨む(90分)。	教育学概論を通しての気づきをふりかえり、整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業ごとのふりかえり(15回) 45% ②授業外レポート1回 計30% ③小テスト1回 15% ④授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

・生涯学習・社会教育行政必携 令和6年版 生涯学習・社会教育行政研究会 編集 第一法規出版
 ・生涯学習の支援 伊藤俊夫 編 実務教育出版
 ・北海道立生涯学習推進センターHP 等
 ※その他授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

・できる限りPC(難しければスマートフォン)を持参する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		生涯学習概論 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している(知識・技能)」、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。「生涯学習概論Ⅱ」へとつながる科目である。

授業の概要

本科目では、生涯学習の概念を歴史的に捉えながら、その意義と成り立ちを概観する。従来、教育は学校教育に限定的に捉えられる傾向があったが、生涯学習は生まれてから高齢期に至るまで、生涯を通した教育・学習の在り方を構想するものといえる。学ぶことが人間の生存にとって不可欠な要件であり、普遍的な価値を有していることを理解する。また、生涯学習社会の基盤となる社会教育について、戦後社会教育実践における学習観を辿りながらその意義を理解する。

到達目標

- ① 生涯学習の意義を説明することができる。
 ② 生涯学習を支える社会教育の意義を説明することができる。

授業の方法

配布資料を用いた講義形式で行う。受講生の予定を調整した上で、学外での現地学習を予定している。

ICT活用

webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

子育て支援組織の社会教育実践者としての経験を活かし、理論と実践を往還する指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

webアプリを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「学習権宣言」の内容を検討した上で、人間の生存と学びの関係を考える	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第2回	生涯学習の基礎的理解～生涯学習の概念について学ぶ	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第3回	社会教育の基礎的理解～社会教育の概念について学ぶ	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第4回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その1 公立夜間中学の現状	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第5回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その2 自主夜間中学の現状と教育内容	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第6回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その3 現地学習(見学～札幌市内の自主夜間中学への訪問を予定)	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第7回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その4 現地学習(札幌市内の自主夜間中学の代表者へ聞き取りを予定)	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第8回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その5 現地学習の振り返りと共有～Aグループ	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第9回	地域における学習課題:義務教育未修了者等の学び直し その5 現地学習の振り返りと共有～Bグループ	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第10回	不登校の児童生徒の教育保障 その1 不登校の子どもの現状	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第11回	不登校の児童生徒の教育保障 その2 子どもの教育保障～日本における教育の枠組みを問う	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第12回	不登校の児童生徒の教育保障 その3 不登校の子どもの学びの場と教育内容	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第13回	フリースクールにおける教育～事例検討:フリースクールの教育内容について	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第14回	フリースクールにおける教育～事例検討:フリースクールの教育方法について	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ～自主夜間中学とフリースクールの事例から生涯学習の意義と生涯学習を支える社会教育の意義についてまとめる。	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	現地学習の報告30%、レポート40%、リアクションペーパー30%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

社会教育推進全国協議会編「社会教育・生涯学習ハンドブック第9版」、エイデル研究所

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		生涯学習概論Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している(知識・技能)」、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。「生涯学習支援論」へとつながる科目である。

授業の概要

本科目では、人間の発達・成長、自己実現と生涯学習の関連と社会における諸課題に対し、共同による学習実践がどのような役割を果たしてきたのかを検討する。日本における生涯学習は、国際的な動向とも連動している。講義の後半は、国際的な生涯教育・生涯学習思想の展開と成人学習論の理論的枠組みの理解を目指す。

到達目標

- ① 生涯学習の概念、政策の展開を説明することができる。
- ② 社会教育の概念と歴史、戦後の社会教育の特徴を説明することができる。
- ③ 日本の社会教育実践史、国際的な成人学習論の展開を説明することができる。

授業の方法

教科書を用いて行う。各回リアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。第1回と第15回にグループワークを行い、理解を深める。

ICT活用

webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

子育て支援組織の社会教育実践者としての経験を活かし、理論と実践を往還する指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

webアプリを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 「生涯学習の基礎的理解」①グループワーク～生涯学習とは何か？	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第2回	「生涯学習の基礎的理解」②日本における生涯教育論の導入と政策の展開	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第3回	「生涯学習の基礎的理解」③生涯学習政策の動向と展開	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第4回	「生涯学習の基礎的理解」④生涯学習支援の取り組み	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第5回	「生涯学習の基礎的理解」⑤成人学習者の理解	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第6回	「社会教育の基礎的理解」①社会教育の概念	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第7回	「社会教育の基礎的理解」②社会教育の歴史	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第8回	「社会教育の基礎的理解」③社会教育の法制度	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第9回	「社会教育の基礎的理解」④社会教育の施設と職員	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第10回	「社会教育の基礎的理解」⑤社会教育主事と社会教育士	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第11回	「成人学習論の展開」①社会教育の思想と実践の系譜	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第12回	「成人学習論の展開」②生涯学習論と学習権宣言、パウロ・フレイレの教育思想～被抑圧者の教育学―人間化の課題をめぐって	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第13回	「成人学習論の展開」③アンドラゴジー論、実践コミュニティ	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第14回	「成人学習論の展開」④省察的实践論、学び合うコミュニティのコーディネーター	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ	教科書を参考に14回までの学びを振り返りまとめる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート60%、リアクションペーパー30%、授業参加の態度10%
その他	0	なし
教科書		
小林 繁・平川景子・片岡 了著「生涯学習概論 学び合うコミュニティを支える 第3版」、エイデル研究所		
参考文献		

授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		教育心理学 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	木谷 岐子						

授業の位置づけ

教育学及び社会教育の基礎知識を身につける教育基礎に位置し、ディプロマポリシーの、「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯に渡り学び続ける教養を有している(知識・技能)」との関連が強い。また、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献する(関心・意欲・態度)」に関連する。教養科目である心理学概論との連続性を有している。

授業の概要

本科目では、人間の発達過程および特徴について心理学の基礎理論を学ぶとともに、発達段階をふまえての主体的な学習を支える指導の在り方やクラス集団形成について学ぶ。また、保育や教育現場で生じる様々な現象に対し、その背景を正しく把握し、有効な対処方法を見つけ出す力を身に付けることを目的に講義を行う。

到達目標

- ①心理学や教育心理学の体系の基礎的な知識を身につけ説明できる。
- ②発達を捉える理論を理解できる。
- ③パーソナリティの発達や自己形成、社会性の発達について理解できる。
- ④学習理論や動機付けの理論について説明できる。

授業の方法

授業とグループ単位で取り組む演習を組み合わせで行う。アクティブな学習環境を提供し、受講学生中心の授業展開とする。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

臨床心理士/公認心理師として、発達相談及び、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事してきた実務経験を活かし、現実の教育現場で起きている諸問題についての知識と理解、さらに対応方法についての学びを提供する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートにコメントを書き添えてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 講義担当者の臨床実践や研究の経過を紹介し、講義の内容や目的、進め方についての説明を行う。心理学に対して持っているイメージや、各自の興味関心を確認する。	シラバスを読み、学習内容を確認し、特に興味がある内容を書き出す。(90分)	配布された資料を基に、これからの授業の見通しを持つ。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	心理学の歴史と教育心理学の範囲①	心理学、教育心理学とはどのような学問分野なのかについて調べておく。(90分)	授業で取り扱われた内容について、重要と思われる事柄を取り上げ、まとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	心理学の歴史と教育心理学の範囲②	教育心理学の範囲と他の心理学の範囲について違いを調べる。(90分)	様々に分かれた心理学の分野について、理解したことをまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第4回	発達を捉える考え方① タテ軸の発達観	胎児期・新生児期・乳児期・幼児期・児童期・思春期・青年期・成人期・老年期の発達の概要について調べておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、各発達期の特徴について要点をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第5回	発達を捉える考え方② ヨコ軸の発達観を知る	発達保障という考え方について調べておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、発達保障論についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	発達を捉える考え方③ ヨコ軸の発達観で捉える	障がいがある人の発達の考え方について調べ、自分なりの考えをまとめておく。(90分)	授業で視聴した映像資料についての感想をまとめ、周囲の人とディスカッションする。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第7回	発達を捉える考え方④ 障がいがある人の発達をヨコ軸の発達観で考える	障がいがあるこどもを育てる親の心情について調べておく。(90分)	授業で聞いたゲストスピーカーの講話についての感想をまとめ、周囲の人とディスカッションする。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	絵本とともに学ぶ発達と教育ー絵本の活用	これまでの発達の過程で自分自身が好んだ絵本を想起し、それらの絵本について調べ、まとめておく。(90分)	授業で紹介する絵本について、その絵本が意味すること、伝えたい内容について説明できるよう準備する。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	絵本とともに学ぶ発達と教育ー絵本の世界の表現を考える	絵本の読み聞かせの準備をする。(90分)	絵本を読み聞かせる側の留意点について調べたり、まとめたりする。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第10回	絵本とともに学ぶ発達と教育―絵本の世界を伝える	絵本を読み聞かせる際の留意点を念頭においてリハーサルを行う。(90分)	読み聞かせる側の心境や、読み聞かせをしてもらう側の心境など、様々な立場で体験を振り返る。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第11回	パーソナリティの発達―様々なパーソナリティ理論を知る	様々なパーソナリティの理論について調べておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、パーソナリティ理論についての自身の理解をまとめる。また、物語やドラマに描かれる人物を一人選び、パーソナリティ理論を活用して、その人物像を解釈する。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	パーソナリティの発達―様々なパーソナリティ理論の活用	物語やドラマに描かれる人物を一人選び、パーソナリティ理論を活用して、その人物像について解釈したことを発表できるように準備する。(90分)	パーソナリティ検査についての自身の理解をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第13回	自己理解と他者理解—心の世界を表現する方法を知る	箱庭やコラージュについて調べておく。(90分)	体験的な学びを通して得た気づきを書き出す。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	自己理解と他者理解—自分や他者の心の世界を味わう	風景構成法について、調べておく。(90分)	体験的な学びを通して得た気づきを書き出す。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	この授業についての全体的な内容を振り返り、学びの定着を確認する。	第14回までの講義で配布された資料を見直し、学んだことを確認する。(90分)	授業全体を通しての感想や意見をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート内容と、学びの定着を確認するテストの点数(50%) ディスカッションへの参加の積極性等、授業参加態度(50%)
その他	0	
教科書		
使用しない。		
参考文献		

絵本とともに学ぶ 発達と教育の心理学 晃洋書房

履修条件・留意事項等

この講義では、積極的な授業参加態度が求められている。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		教育心理学Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木谷 岐子						

授業の位置づけ

教育学及び社会教育の基礎知識を身につける教育基礎に位置し、ディプロマポリシーの、「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯に渡り学び続ける教養を有している(知識・技能)」との関連が強い。また、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献する(関心・意欲・態度)」に関連する。教育心理学Ⅰとの連続性を有している。

授業の概要

本科目では、子どもを教育していく上で必要となる人間科学の知識を提示し、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から解説する。教育心理学の基礎とされる発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の4つの領域について基礎知識を深め、今日の教育の現場が必要としている問題解決のための諸要因を解説する。本科目では、以上のような基礎的知識の習得に加え、事例を用い、それらの知識をいかに教育の実践にやくだてていくのか検討する。併せて、現実の教育現場で起きている諸問題に対する支援の在り方についても考察する。

到達目標

- ① 不登校・いじめ・少年非行など、教育現場での心理的問題とその対応を理解できる。
- ② 自分自身の認知や行動特性を知ることを通して、発達障がい等のある児童生徒に対する理解を深めることができる。
- ③ 学校におけるカウンセリングの技法について、体験的に理解し考察することができる。

授業の方法

授業とグループ単位で取り組む演習を組み合わせで行う。アクティブな学習環境を提供し、受講学生中心の授業展開とする。

ICT活用

Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

臨床心理士/公認心理師として、発達相談及び、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事してきた実務経験を活かし、現実の教育現場で起きている諸問題についての知識と理解、さらに対応方法についての学びを提供する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートにコメントを書き添えてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 講義担当者の臨床実践や研究の経過を紹介し、講義の内容や目的、進め方についての説明を行う。教育現場での心理的問題に対してもっている印象や、各自のこれまでの経験を確認する。	シラバスを読み、学習内容を確認し、特に興味がある内容を書き出す。(90分)	配布された資料を基に、これからの授業の見通しを持つ。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	教育現場での心理的問題と対応一不登校①	不登校についてこれまでの自身の経験を想起し、その問題について確認する。(90 分)	他の受講生の発言や、授業で取り扱われた内容について、重要と思われる事柄を取り上げ、まとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	教育現場での心理的問題と対応一不登校②	前回の資料をもとに、不登校についてさらに興味をもった内容を調べる。(90分)	配布されたプリントを参考にして、不登校という状態像についての考え方をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第4回	教育現場での心理的問題と対応－いじめ①	いじめについてこれまでの自身の経験を想起し、その問題について確認する。(90分)	配付されたプリントを参考にして、いじめの構造やプロセスについてまとめておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第5回	教育現場での心理的問題と対応－いじめ②	前回の資料をもとに、いじめについてさらに興味をもった内容を調べる。(90分)	映像資料を振り返り、いじめ加害者の心情や被害者の心情についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	教育現場での心理的問題と対応－少年非行	少年非行について調べておく。(90分)	授業で紹介された事例について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第7回	学校におけるカウンセリングーカウンセリングマインドとは	カウンセリングマインドについて調べておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、カウンセリングマインドについて自身の理解をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	学校におけるカウンセリングーカウンセリング技法	どのようなカウンセリング技法があるのか調べておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、カウンセリング技法について自身の理解をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	学校におけるカウンセリングー身体性への着目	心と身体の繋がりについて自身の経験を振り返り、まとめておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、身体性について自身の理解をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第10回	特別な配慮を要するこどもの心理的問題と対応—発達障がいについて	自分自身の得意や苦手について書き出しておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、発達障がいについての自身の理解をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第11回	特別な配慮を要するこどもの心理的問題と対応—性の多様性について	性の多様性について自身の関心事をまとめておく。(90分)	配付されたプリントを参考にして、性の多様性についての自身の理解をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	教育心理学周縁の課題を自ら見つけてまとめる①	これまでの授業資料を振り返り、自身が最も興味関心のある内容に焦点を絞っておく。(90分)	自分が選択した教育心理学周縁の課題についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第13回	教育心理学周縁の課題を自ら見つけてまとめる②	自分が選択した教育心理学周縁の課題についてまとめ、発表の構想を立てる。(90分)	自分のまとめを発表する資料を完成させる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	学びのまとめを発表する	発表のリハーサルをし、時間内で充実した表現ができるように準備する。(90分)	他の受講生の発表を聞いて得た気づきを書き出す。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	この授業についての全体的な内容を振り返り、学びの定着を確認する。	第14回までの講義で配布された資料を見直し、学んだことを確認する。(90分)	授業全体を通しての感想や意見をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート内容と、学びの定着を確認するテストの点数(50%) ディスカッションへの参加の積極性等、授業参加態度(50%)
その他	0	
教科書		
使用しない。		
参考文献		

続・発達障害のある女の子・女性の支援: 自分らしさとカモフラージュの狭間を生きる 金子書房

履修条件・留意事項等

この講義では、積極的な授業参加態度が求められている。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 教育基礎					
科目名		アカデミックライティング				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。(知識・技能)」と「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。(知識・技能)」と特に関連する科目である。

授業の概要

本科目では、学術的な文章を書くために身に付けておくとい技能について触れる。アカデミック・ライティングとは学術的文章を作成することであるが、卒業論文はもとよりレポートの作成もアカデミック・ライティングに属する。高校までの教育課程における作文とは異なり、学術的文章では固有の形式が求められる。この授業では、その形式について学ぶとともに、実際に小レポートを作成し相互に批評することによって、各自の学習・研究活動に役立つ知識・技能を身につけることを目指す。衰退しつつある地域において、その基盤となっている固有の歴史や文化といった地域特性を、他者や後世に伝えることを視野に入れながら、それに必要な語彙や文章作成、論文構成について学ぶ。

到達目標

①学術的文章の特徴について理解し説明できる
 ②問いの立て方について説明できる
 ③文献の引用の意義と方法について説明できる

授業の方法

①各回の主題に対応する教科書の関連箇所を読み解く
 ②教科書が指摘しているポイントについて、少人数グループで具体例を挙げて検討し、そこで確認してきたことや生じた疑問を全体討議で発表する
 ③割り当てられた担当者が各回の授業のまとめ(気づき)を作成する
 ④各自が作成した小論文(合計3回を予定)をクラス内で発表し、それまでに学習した事柄に照らして相互に批評する

ICT活用

Google Classroomに担当者が各回の授業のまとめ(気づき)を記述する。必要に応じて教員がコメントを付す。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない

課題に対するフィードバックの方法

提出された小論文にコメントを付して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション:本講義の概要(到達目標・授業の方法・日程を含む)について理解する。 各回講義のまとめの担当者を確定する。 授業のノートの取り方について理解する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。 担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			
第2回	アカデミック・ライティングの必要性と意義について学ぶ。教科書の「卒論とは何か」の関連箇所を読み解き、論文としての卒論を書く意義について少人数で討議する。作文との違いについて議論し整理する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。 担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			
第3回	アカデミック・ライティングの前提となる論理的思考はゼミや文献講読によって鍛えられる。教科書の「ゼミでの学び方」の関連箇所を確認しながら、論理を読み取るための思考方法について検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。 担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			

第4回	教科書の「テキストクリティーク」を参照しながら、授業中に紹介する論文を基に、グループごとにテキストクリティークのレジュメを作成する。 グループ間の結果を比較し、改善のための課題を検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。 担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。 全ての受講者は小論文課題①に取り組む。授業内容を踏まえて、さらに検討を進めたテキストクリティークのレジュメを作成する。講義中にグループでまとめたものと同じである場合は評価対象外とする(300分)。
担当教員			
第5回	第4回授業で課した小論文課題①について各自が発表し、相互に批評する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。 担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			
第6回	レポートとは異なって、論文を作成する前提には研究がある。研究を進めるにはテーマを定める必要がある。教科書の「研究の進め方」の参考箇所を確認しながら、問いの立て方について検討する。各自の現時点での関心をグループごとに共有し、テーマの探索を行う。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。 担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			

第7回	問いを立てるためには先行研究を踏まえる必要がある。教科書の「文献の集め方」および「研究の進め方」の参考箇所を確認しながら、先行研究の収集の方法と読み方について検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			
第8回	図書館を利用した情報収集の方法について学ぶ。授業は図書館で行う予定。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			
第9回	論理的に表現するための方法について検討する。教科書の「論文の書き方」および「ゼミでの学び方」の関連箇所を読み解き、論理的な表現のための条件を確認する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			

第10回	論文の構成の仕方にかかわり、パラグラフ・ライティングについて学ぶ。教科書の「論文の書き方」の関連箇所及び補足資料を読み解き、文章を論理的に構成するための技法について学ぶ。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。全ての受講者は小論文課題②に取り組む。論文を書くための課題と方法についてまとめる(300分)。
担当教員			
第11回	第10回授業で課した小論文課題②について各自が発表し、相互に批評する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			
第12回	論文に求められる固有の形式について学ぶ。教科書の「論文の書き方」の関連箇所を確認し、論文の「決まり事」について検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			

第13回	卒業論文を前提として、論文の組立て方と各構成要素(序章等)の書き方について学ぶ。教科書の「卒論の書き進め方」の関連箇所を確認し、これまでの授業において学んだ内容との関連を読み解く。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			
第14回	研究倫理について学ぶ。教科書の「研究の進め方」と「研究の方法」の関連箇所を確認するとともに、補足資料によって研究および論文執筆に際して守らねばならない基準についての理解を深める。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。全ての受講者は小論文課題③に取り組む。再度、論文を書くための課題と方法についてまとめる。第二回課題と同一内容の場合は評価対象外とする(300分)。
担当教員			
第15回	第14回授業で課した小論文課題③について各自が発表し、相互に批評する。これまでの授業内容を総括し、アカデミック・ライティングの要点を確認する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく(60分)。	担当者は授業により学んだことや気づいたことをまとめ、Google Classroom で共有する(60分)。担当者以外の受講者は各自でノートに授業の要点をまとめておく(60分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小論文(90%) 担当回の授業のまとめ及び授業ノートの確認(10%)
その他	0	
教科書		
白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房、2015年		
参考文献		

戸田山和久『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版、2022年

履修条件・留意事項等

備考欄

授業ノート(手書き・ノートPCいずれも可)を定期的に確認する。提示がない回については減点する。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		地域未来概論(地域の未来を語る)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	熊野 稔、木村 俊昭						

授業の位置づけ

初年次教育科目として位置付け、地域未来学科で学ぶ入門編として専門的な基礎知識について理解させる。ディプロマ・ポリシーにおける「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する(思考・判断・表現)」ことに関連し地域づくり、地域創生学入門の科目である。

授業の概要

本科目は、地域未来学科のカリキュラムのダイジェストであり、イントロダクションである。地域創造に関連する専門の教員がオムニバス形式で、過疎地域、中山間地域、地方都市等が抱えるそれぞれの問題点や課題を解説し、各地で実施されている地域活性化の事例を通じて、地域社会の今後の方向性、まちづくりやむらづくりのマネジメント手法等基礎を学ぶ。達成目標は、地域社会がもつ課題や社会制度的仕組みの基礎知識を身に付けること、および地域の課題や問題解決に関する取組の情報を収集し、考察するために必要なコミュニケーション能力を身に付けることである。

到達目標

地域社会が持つ課題や地域づくり、社会制度的仕組みの基礎知識を身に着けること、及び地域の課題や問題解決に関する取り組みの情報を収集し、考察するために、必要なコミュニケーション能力を身に付けることができる。

授業の方法

オムニバス形式で1回目は熊野・木村、2回から8回目まで熊野、9回から14回目まで木村(ゲスト講師含む)、15回目の総括は熊野・木村で実施する。パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いる形で、地域に係るテーマやトピック、課題や事例についての学習を講義形式で展開し、各教員と学生間のディスカッションなども行う。また現場に精通しているゲスト講師の話も聞く。

ICT活用

インターネットのほか、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方教育行政、大学職員等、多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。現場に精通しているゲスト講師の講義も行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前学習を踏まえ、各教員が学生間とのディスカッションや討議等を通してフィードバックを行う、また授業後には演習シートの提出を行い、質問等には適切に対応する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. 講義内容の説明・概論 全国的な地域づくり、地域創生の基本的な考え方、手法及び先進事例等、本講義の概要と目的、スケジュールの説明と学生の自己紹介を含めた地域づくりへの思いを話し合う。	準備学習および必要時間(30分):シラバスを読み授業内容を理解しておく	事後学習および必要時間(150分):授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する
担当教員	熊野 稔		
第2回	2. まちづくりとしての地域未来学 まちづくりの基本や考え方及び内容や体系、プロジェクトの企画、調査、計画、実践、評価のフロー、先進事例などを学び、演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットでまちづくりについて検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) まちづくりの考え方、手法、先進事例を復習して演習シートを提出する。
担当教員	熊野 稔		
第3回	3. 「村おこし」としての地域未来学 過疎地域で人口減少に悩む町村地域の再生、特産品開発や観光開発、移住・定住施策他の村おこし事業についての基礎、考え方及び内容や体系を、北海道内外の先進事例のケーススタディも学習しながら学ぶ。演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで村おこしについて検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 村おこし事業について復習するとともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		

第4回	4. 国土開発と利用、都市計画及び地域マネジメント基礎 我が国の国土開発、国土計画を国土のグランドデザイン2050などから学び、都市計画とエリアマネジメント、農村計画と地域運営組織等の地域マネジメントの基礎を学習する。演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで国土開発と利用、都市計画及び地域マネジメントについて検索して学習する。	事後学習および必要時間(90分) 授業の復習とともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		
第5回	5. 全国の地域づくり先進事例 現代の地域課題の解決に向けて推進中の先進的な地域づくり事例を都市部、農山村地域から選抜して紹介する。演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域づくり先進事例について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 授業の復習とともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		
第6回	6. 北海道の先進地域づくり 北海道野の各地域課題の解決に向けて推進中の先進的な地域づくり事例を都市部、農山村地域から選抜して紹介する。演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで北海道の地域づくり先進事例について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 授業の復習とともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		

第7回	7. 地域づくりのイノベーションと法体系 地域課題を解決する革新的な手法で生み出された地域イノベーション体系の基礎を学習する。ポケットパークや道の駅、市街地再開発や温泉街の再生なども事例に取り上げて理解を深める。また地域づくりに関する都市計画法などの法体系の基礎も学習する。 演習シートに記入していくアクティブラーニングも実施する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域イノベーションの先進事例について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 授業の復習とともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		
第8回	8. 地域未来学演習:アクティブラーニング どこの町のどの地区の課題を浮き彫りにして、いかなる手法で解決していくかの地域のデザインを考えて1000字程度のレポートを仕上げて提出する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域づくりワークショップについて検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 授業の復習とともに演習シートを行い提出する。
担当教員	熊野 稔		
第9回	9. 地域創生学と地域創生・SDGsの本質 都心部への過度な人口集中を食い止め、少子高齢化や人口減少等で衰退する地方自治体の持続的発展のために、国・企業と一体となって地域経済を活性化しようとする取り組みを「地域創生」と考える。2014年に打ち出された「地方創生」という政策の名前から生まれた。また、SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称でSDGs(エス・ディー・ジーズ)と読む。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために持続可能でよりよい世界を目指すために掲げた17目標と169ターゲットからなる。この2つの基礎を学ぶ。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域創生、SDGsを検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		

第10回	10. 地域創生・SDGsと6次産業化の推進 ＊ゲスト農林水産省農村政策部長 地域創生・SDGsの基礎を学びながら、17の目標の様々な分野に関連する6次産業化の推進について、政策現場に精通した農林水産省農村政策部長をゲストに学ぶ。 6次産業化とは、1次産業を担う農林漁業者が、自ら2次産業である「加工」や3次産業の「販売・サービス」を手掛け、生産物の付加価値を高めて農林漁業者の所得を向上する取り組みを指す。「6次産業=1次産業(農林漁業)×2次産業(加工)×3次産業(販売・サービス)」と、1次産業にほかの産業を掛け算して6次産業としている。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域創生、SDGsと6次産業化を検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		
第11回	11. 地域創生・SDGsの実践 地域創生・SDGsの実践について講師の体験実践や先達事例等を通じて実証的に学ぶ。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域創生、SDGs実践を検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		
第12回	12. 地域創生・SDGsとデジタル化 デジタル庁審議官(経済産業省からの出向者) 地域創生・SDGsを推進するに際して労働生産性を高めるデジタル化は欠かせない。デジタル化とは、アナログな業務をデジタルに変えることを意味し、事務処理をペーパーレス化する、朱肉の押印の契約処理を電子契約化する、社内のマニュアルや資料を電子化・クラウド化する、ウェブ会議ツールを用いたりリモートワーク(テレワーク)なども含まれる。業務効率化やコスト削減、新規ビジネス創出、働きやすい環境づくりなどにおいて欠かせない手段とされ、デジタル庁審議官をゲスト講師でお呼びして学習する。	準備学習および必要時間(90分) インターネットで地域創生、SDGs、デジタル化を検索して学習する	事後学習および必要時間(90分) 復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		

第13回	13. 地域創生・SDGsと地域雇用の促進 厚生労働省審議官(地域雇用活性化担当)地域雇用開発促進法に基づき厚生労働省では、雇用機会が不足している地域や過疎化が進んでいる地域等による、地域の特性を生かした「魅力ある雇用」や「それを担う人材」の維持・確保を図るための創意工夫ある取組を地域雇用活性化推進事業等により支援している。厚生労働省審議官をゲスト講師にお招きして講義を行う。	準備学習および必要時間(90分)インターネットで地域創生、SDGs、地域雇用促進を検索して学習する	事後学習および必要時間(90分)復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		
第14回	14. 地域創生・SDGsの推進と人財養成 地域創生・SDGsの推進とその担い手となる人財養成について、自らの体験や先進事例、その手法と体系などについて学習する。	準備学習および必要時間(90分)インターネットで地域創生、SDGs、人財養成を検索して学習する	事後学習および必要時間(90分)復習を実施して課題等にも取り組む
担当教員	木村 俊昭		
第15回	15. 総括 今までの授業を振り返り、受講生と対話や議論を重ねながら重要点の復習や今後の地域創生の方向性を語り合う。	準備学習および必要時間(90分):今までの学習を振り返り重要事項を復習する。	事後学習および必要時間(90分):今までの復習と反省点に立ち、今後の学習の方向性を考える。
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各授業の出席状況(20%)と各授業の演習シート等の提出(30%)、全体レポート等(50%)による合計100%で評価する。
その他	0	なし
教科書		
オリジナル資料を配布する		
参考文献		

特になし

履修条件・留意事項等

原則、すべての授業に出席すること。各授業の出席と演習シート等の提出、全体レポート等で評価する。試験は無し。

備考欄

インターネットによる資料検索等を事前学習で行う

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		世界と北海道				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	中山 大将						

授業の位置づけ

地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目は、私たちが暮らす北海道と世界がどのようにつながっているかの理解を深め、北海道に関する知識を深めていく科目である。北海道の主力産業である第一次産業の産品は今や世界の高級ブランドとして消費され、北海道には世界中から観光客が訪れるようになった。また外国人居住者も増加しており、北海道のグローバル化の現状について、学生は様々な分野の統計や詳細データを収集し、その資料を多角的な視点で分析し、データの裏付けから現状と課題を映し出す手法を身に付ける。

到達目標

- ①北海道と世界の関係性についての最新情報を入手し、それを理解したうえで現状を分析できるようになる。
②北海道と世界の関係性を歴史的視野から理解し、長期的視野で現状認識ができるようになる。

授業の方法

- ①反転授業の形態をとりますので、参加者は事前学習(準備学習)として事前学習資料や教科書を事前にしっかり読んでおくことが求められます。
②毎回、事前課題と事後課題をGoogle のClass room(クラスコード:viiqmrllz)から提出することが求められます。
③授業では、事前学習資料や教科書のほか、参加者の提出した事前課題や事後課題も教材として用います。
④授業は、教員による解説の場と言うよりも、参加者の質問に回答したり、参加者が学習内容を理解できているかを確認する場として使います。
⑤授業では、教員が参加者に発言を求めます。

ICT活用

インターネット上の資料を適宜参照する他、Google Classroomを通じた双方向コミュニケーションで補充します。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

- ①毎回の事前課題・事後課題の内容については授業で教材として使います。
②授業最終回以後に提出期限のある事後課題やレポート試験課題については、成績確定後にClass room上で解説を行なう資料を公開します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	なぜ学ぶのか？ ①人はなぜ学ぶのか？ ②なぜ大学で学ぶのか？ ③なぜ「世界と北海道」を学ぶのか？ ④この科目の学習の仕方 ⑤教科書の読み方	合計150分 ①第01回事前学習資料を読む。 ②第01回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①第01回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第2回	「北海道」とは何か？ ①なぜ北海道に人が暮らしているのか？ ②北海道にはどんな人々が住んでいるのか？ ③北海道にはどんな産業があるのか？	合計150分 ①教科書②第1章および第02回事前学習資料を読む。 ②教科書②第1章および第02回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。 ③教科書②第1章および第02回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①第02回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第3回	北海道と国際経済 ①北海道はどのような国・地域と貿易しているのか？ ②北海道はどのような商品・サービスの国際取引をしているのか？	合計150分 ①第03回事前学習資料を読む。 ②第03回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。 ③第03回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①第03回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第4回	北海道と国際交流 ①北海道はどのような国・地域と交流しているのか？ ②北海道ではどのような国際交流を行なわれているのか？	合計150分 ①第04回事前学習資料を読む。 ②第04回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。 ③第04回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①第04回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第5回	北海道と外国人 ①北海道にはどの国・地域の人々がどれくらい暮らしているのか？ ②北海道に暮らす外国人はなぜ、どのように北海道に暮らしているのか？ ③北海道に暮らす外国人とその他の住民の間にどんな問題が起きているのか？	合計150分 ①第05回事前学習資料を読む。 ②第05回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。 ③第05回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①第05回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第6回	外国人技能実習生と北海道 ①なぜ外国人技能実習生が北海道に暮らしているのか？ ②外国人技能実習生は北海道でどのように暮らしているのか？ ③外国人技能実習生と地域社会はどのような関係性を築いているのか？	合計150分 ①教科書①および第06回事前学習資料を読む。 ②教科書①および第06回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。 ③教科書①および第06回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。	合計30分 第06回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第7回	先住民族と北海道(1):近代日本政府とアイヌ ①なぜ、どのようにアイヌは日本国民になったのか? ②旧土人保護法は何が問題だったのか?	合計150分 ①教科書②のはじめにと第2章を読む。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第8回	先住民族と北海道(2):近代日本政府とアイヌ ①近代日本においてアイヌはアイヌであることにどう向き合ったのか? ②現代日本においてアイヌであるとはどういうことか?	合計150分 ①教科書②の第3章を読む。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第9回	アメリカと北海道 ①北海道開拓にアメリカはどうかかわったのか? ②第二次世界大戦で北海道は米軍からどのような被害を受けたのか? ③第二次世界大戦後の米軍による占領は戦後北海道にどのような影響を与えたのか?	合計150分 ①第09回事前学習資料を読む。 ②第09回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識が変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。 ③第09回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第10回	中国と北海道 ①なぜ中国人農家が北海道開拓に参加したのか？ ②北海道華僑とはどのような人々だったのか？ ③中国人強制連行とは何か？ ④中国残留邦人帰国者とはどのような人々か？	合計150分 ①第10回事前学習資料を読む。 ②第10回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。 ③第10回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第11回	ロシアと北海道(1) 「北方領土」は何が問題なのか？	合計150分 ①教科書③第1部を読む。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第12回	ロシアと北海道(2) 千島にはどのような人々が暮らしてきたのか？	合計150分 ①教科書③第2部を読む。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第13回	ロシアと北海道(3) ①なぜ国境があるのか？ ②サハリン島は誰のものか？	合計150分 ①教科書④のはじめに、第1～2章を読む。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第14回	ロシアと北海道(4) ①なぜ日ロ間で何度も国境が変わったのか？ ②国境が変わることで住民の生活はどう変わったのか？	合計150分 ①教科書④の第13～4章、おわりにを読む。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第15回	まとめ ①学習内容の総復習 ②学び続けるための準備	合計150分 ①第15回事前学習資料を読む。 ②新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①第15回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行ないません(学期末のレポート試験課題はあります)。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①全回の授業への積極的参加、事前課題・事後課題の提出:60点。 *いずれかが1回でも欠ければ0点となり単位認定は行ないません(正当な事由による欠席・未提出の場合は特別な措置を講じます)。 ②期末のレポート試験課題:40点。
その他	0	
教科書		
①「お隣は外国人」編集委員会編『お隣は外国人:北海道で働く暮らす』北海道新聞社、2022年。 ②坂田美奈子『歴史総合パートナーズ⑤ 先住民アイヌはどんな歴史を歩んできたか』清水書院、2018年。 ③石郷岡建、黒岩幸子『北方領土の基礎知識』東洋書店新社、2016年。 ④中山大將『歴史総合パートナーズ⑩ 国境は誰のためにある?:境界地域サハリン・樺太』清水書院、2019年。 *本科目の教科書は大学の教科書販売では扱われません。各自で入手しましょう。		
参考文献		

桑原真人、川上淳『北海道の歴史がわかる本 増補版』珣璃西社、2018(2008)年。
＊高校で「公共」「政治・経済」などの科目や「日本史」などの科目を学んだ場合は、その教科書や参考書、ノートなどを用意しておきましょう。

履修条件・留意事項等

履修条件は特にありませんが、履修を予定している場合は第01回教室学習(授業)までに本科目のClass room(クラスコード:viiqmr1z)を観ておきましょう。

備考欄

この科目の授業では、学生に発言を求めますので、授業中の発話などが困難である事情を抱えている場合は、なるべく第01回授業の前までにClass roomなどから担当教員に連絡をとっておくようにしましょう。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		日本政治経済論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

本科目は、国際学部国際教養学科のディプロマ・ポリシー「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている。(知識・技能)。」等に関連する。国際教養学科に多く存在する政治系科目の一年生科目として「政治学入門」の役割も担い、ディプロマ・ポリシー「複数の専門分野を総合的に理解し、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている。(思考・判断・表現)」につながる複眼的な眼差しというものを体感してもらう。この科目は地域未来学科でも開講しており、地域未来学科のディプロマ・ポリシー「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」に特に関連している。

授業の概要

本科目は、世界の変化や現象をどのように分析するのかを学んでいくにあたり、その出発点として、現代の日本の政治についての基本的な知識を習得するための科目である。具体的には、日本の現代政治を主題としながら政治学の基本的な理論、観点を修得し、現代日本政治の特徴について、近代から現代に至る歴史的変遷を踏まえ、実証的に考察する力を養う。

到達目標

受講生は、
 ① 自ら関心を持つ政治分野をいくつか特定して現代の動きをフォローすることができる。
 ② その分析について必要な理論的枠組みの概要について、基礎的な知識に基づき、理解できるようになる。
 ③ 自らの見解を持つために必要な情報を、どのような形で(新聞、テレビ・ラジオ、ネット等から)収集し、どのような基準で取捨選択すべきかを判断し、解決策を主体的に提示できるようになる。
 以上を到達目標とする。

授業の方法

PowerPointを用いた講義形式で行う。受講生の積極的な議論参加を期待している。思いついた疑問をクラス内で共有し、双方向的な講義を行う。

ICT活用

Google Classroomにより、授業外においても日々のマスコミ情報の補充等を行うとともに受講生との対話を行う。また関連するインターネット上の資料や報道動画等を適宜参照する。

実務経験のある教員の教育内容

通商産業省(現・経済産業省)職員として、地球環境問題をはじめとする条約交渉やWTOを中心とする外交交渉の現場だけでなく、日米における政策決定過程に関与した経験および日本政治の実践に関わった経験を交えたエピソードも適宜紹介しながら、受講生の問題への関心を高める工夫をする。

課題に対するフィードバックの方法

講義中での積極的なディスカッションを称揚するほか、講義期間中2回程度の小課題を提出させ、理解度や受講者個人の関心の方向性を把握し、ケーススタディの選択の参考にする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	はじめに 1. 政治学とは何か 2. 政治学の学び方 3. 参考文献リストの使い方 4. 受講生の心得	シラバス及び参考文献を読み、自らの関心を明確にしつつ、指定された参考文献を読んでおくこと。(90分) 北村・久米・真淵『はじめて出会う政治学』第3版補訂 有斐閣アルマ 2010	配布プリントや参考文献を読了し、講義の内容をノート等で復習しておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	第1章 権力と支配 0. みんなの知ってる「〇〇」は「ブラック企業」か？ 1. 「権力」 (1) 権力の構成要素 (2) 権力の行使の態様 (3) 権力関係の類型 (4) 権力と権威 (5) 「〇〇」について考える	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 北村・久米・真淵『はじめて出会う政治学』第3版補訂 有斐閣アルマ 2010	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	第2章 「政治」と「国家」 1. 「政治」 (1) 「政治」現象の範囲 (2) 「政治」の定義 2. 「国家」観の歴史 (1) 古代における「国家」 (2) 中世における「国家」 (3) 近世における「国家」	指定された文献を読んでおくこと。(90分) ジャック・ル＝ゴフ(菅沼潤訳)『ヨーロッパは中世に誕生したのか？』藤原書店 2014 大澤真幸『社会学史』講談社現代新書 2019 p34~106 I 社会学の誕生ー近代の自己意識として 1. 古代の社会理論 アリストテレス 2. 社会契約の思想	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	第3章 欧州世界における「国家」 1. ヨーロッパとは何か～中世後期の欧州世界 2. ルネッサンスと国民国家形成 3. 絶対主義国家	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 高校世界史(できればB)教科書で、欧州中世から近代に至る過程を復習しておくこと。 高校時代世界史を受講しなかった受講生は、 「世界の歴史」編集委員会編『新 もう一度読む山川世界史』山川出版社 2017の該当箇所を読んでおくこと。	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	第4章「国家観」の近代 1. ドイツ国家論 2. 社会主義への道 3. マルクスとマルクス主義による批判 4. 20世紀アメリカ政治学と実証主義	指定された文献を読んでおくこと。(90分) Roman Szporluk, Communism and Nationalism: Karl Marx versus Friedrich List, Oxford UP. 1993 大澤真幸『社会学史』講談社現代新書 2019 p141~186, p364~431 I 社会学の誕生ー近代の自己意識として 1. 古代の社会理論 アリストテレス 2. 社会契約の思想 III システムと意味 1 パーソンズ 機能主義の定式化	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	第5章 現代政治学における「政治」と「国家」 1. 民主主義と権威主義 2. 「発展段階説」と「革命」 3. 「第三世界」と「Global South」における「国家」	指定された文献を読んでおくこと。(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	第6章 日本政治の最大命題としての「天皇制」 1. 日本の「国体」 (1) 明治維新の構造 (2) 「密教」としての大日本帝国憲法と「密教」としての教育勅語 (3) 帝国議会と立憲主義	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 藤田省三『天皇制国家の支配原理』みすず書房 2012 または市川弘正編『藤田省三セレクション』平凡社 2010	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	第6章 日本政治の最大命題としての「天皇制」 1. 日本の「国体」 (4) 大正デモクラシー (5) 日本型ファシズム 2. 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」を読む	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」杉田敦編『丸山眞男セレクション』平凡社 2010 苅部直『丸山眞男ーリベラリストの肖像』岩波新書 2006	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	第6章 日本政治の最大命題としての「天皇制」 2. 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」を読む 3. 戦後日本の天皇制 (1) 新憲法における象徴天皇制 (2) 戦争責任論 (3) 現代日本における天皇の役割	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 安丸良夫『近代天皇像の形成』岩波現代文庫 2007 山本雅人『天皇陛下の全仕事』講談社現代新書 2009 古川隆久『昭和天皇「理想の君主」の孤独』中公新書 2011	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	第7章 フェミニズムと日本政治 1. 上野千鶴子「東大入学式祝辞」を読む 2. 女性のいない日本政治 3. 政治学とフェミニズム	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 上野千鶴子「平成31年度東京大学入学式祝辞」 前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書 2019 安藤優子『自民党の女性認識 イエ中心主義の政治志向』明石書店 2022 岡野八代『ケアの倫理ーフェミニズムの政治思想』2024	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	第8章 民主主義の制度 1. Poliarchy 2. 議会	指定された文献を読んでおくこと。(90分) ロバート・A・ダール(高島通敏・前田脩 訳)『ポリアーキー』岩波文庫 2014	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	第8章 民主主義の制度 3. 体制変動における議院内閣制と大統領制 4. 首相公選制	指定された文献を読んでおくこと。(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	第8章 民主主義の制度 5. 政党 (1) 政党の役割 (2) 政党組織の分類学 (3) 政党システム～選挙区制と政党	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子『現代の政党と選挙』有斐閣アルマ 新版 2011	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	第9章 日本における政党政治 1. 大正デモクラシーと憲政の常道 2. 自由民主党	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 井上寿一『政友会と民政党 戦前の二大政党制に何を学ぶか』中公新書 2012	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	第10章 日本における政党政治 3. 「野党」論 まとめ 日本政治における「学び」	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 吉田徹『「野党論」何のためにあるのか』ちくま新書 2016	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。さらに、期末課題を作成すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加度・出席態度 40 % 中間課題 30 % 期末課題 30 %
その他	0	
教科書		
北村俊哉・久米郁男・真淵勝『はじめて出会う政治学』有斐閣アルマ		
参考文献		

久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『補訂版 政治学』有斐閣 2011
 佐々木毅『政治学講義』第2版 東京大学出版会 2012
 政治学の教科書として前者は標準的なものであり、手元に置いて用語集のように利用してほしい。後者は現時点でも日本語で書かれた最高水準の内容である。購入して手元におき、本講義はもとより日々のマスコミ等に接しての疑問に思ふ事項を検索するようにしてほしい。
 日本については、
 京極純一『日本の政治』東京大学出版会 1983
 かなり古くなったが、日本政治の古層に岩盤のように維持されている構造を現時点においても、最もよく分析している本の一つ。変わらない日本の組織のあり方に絶望すればするほど、深く納得させられる分析が随所に見られる。「オトナ」にならないとこれは理解されないことかもしれない。

履修条件・留意事項等

大学生としての出発点として、政治学・政治過程論の基礎概念の解説を行いながら、受講者の関心を反映することを検討するのであって、扱ってほしい課題のリクエスト等、積極的に参加してほしい。
 なお、2025年の参議院選挙を経て日本の政治の中心課題が大きく変わりうるので、扱う内容を一部変更することはありうるので、日々の政治報道に注目してほしい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		自治体を知る				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松田 祐						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。(知識・技能)」、「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考力・判断力・表現力)」と特に関係し、地域の歴史、文化、資源について理解するための科目である。

授業の概要

本科目では、(地方)自治体について広く学ぶ。各回、自治体に関連するトピックを扱い、場合によっては、首長をはじめとする自治体関係者をゲストスピーカーとして招く等、履修者の学びに立体的な深みを持たせながら、我が国の地域社会を支える自治体についての基礎的な理解を促進する。

到達目標

- ①地方自治体のしくみや総合計画及び行政の実態、関連法規等に触れ、地方自治体に関する知識や自分の意見を語ることができる。
 ②グループワークを通して、自らに与えられた役割や責務に応じた働きをグループで発揮し、協調的にまとめることができる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いたり、履修生間でのディスカッションを展開する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

民間企業や大学職員、地域における官学連携研究機関などの就業経験がある。地域と大学のよりよい関係性や官学連携などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜課すコメントシートやGoogleフォームを通して、知識の整理や派生的な知識の獲得を促す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業の進め方や評価基準等について説明する。	シラバスをよく読み、これまでに 得た知識や経験について整理 して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (90分)
担当教員			
第2回	総論：自治体を知る(1) 地域社会を支える地方自治体(パブリックセクター)にお ける基礎的な理解を深める。	授業内での指示課題や指定課 題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (90分)
担当教員			
第3回	総論：自治体を知る(2) 地域社会を支える地方自治体(パブリックセクター)にお ける基礎的な理解を深める。	授業内での指示課題や指定課 題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (90分)
担当教員			

第4回	総論：自治体を知る(3) 地域社会を支える地方自治体(パブリックセクター)における基礎的な理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	各論：自治体を支える人(1) 現役の自治体職員をゲストスピーカーとして招聘し、自治体での業務やキャリア形成、特定の自治体や地域について知る機会とする。 (招聘予定：恵庭市職員)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	各論：自治体の政策(1) 本学が本拠とする恵庭市の概況、及び市政の基盤、指針となる総合計画(恵庭市第6期総合計画)について理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	各論:自治体を支える人(2) ※学外視察 地方議員経験者をゲストスピーカーとして招聘し、自治体での業務やキャリア形成、特定の自治体や地域について知る機会とする。 (招聘予定:札幌市職員、市議経験者)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	各論:自治体の政策(2) ※学外視察 実際に政策立案に携わった関係者とともに政策の現場を視察し、まちづくりやその仕組みに関する理解を深める。 (視察予定:札幌市円山動物園)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	グループ調査:自治体を調査する(1)オリエンテーション/自治体の選定 履修生にゆかりのある自治体を複数選び、比較するテーマを設定した上でグループ単位で調査を行い、それぞれの自治体においてどのような共通点、あるいは差異が見られるのかについて分析し、整理する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	グループ調査:自治体を調査する(2)比較するテーマの検討・選定 履修生にゆかりのある自治体を複数選び、比較するテーマを設定した上でグループ単位で調査を行い、それぞれの自治体においてどのような共通点、あるいは差異が見られるのかについて分析し、整理する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	グループ調査:自治体を調査する(3)調査作業/中間報告 履修生にゆかりのある自治体を複数選び、比較するテーマを設定した上でグループ単位で調査を行い、それぞれの自治体においてどのような共通点、あるいは差異が見られるのかについて分析し、整理する。また、中間報告として、調査の進捗状況を小報告する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	グループ調査:自治体を調査する(4)調査作業 履修生にゆかりのある自治体を複数選び、比較するテーマを設定した上でグループ単位で調査を行い、それぞれの自治体においてどのような共通点、あるいは差異が見られるのかについて分析し、整理する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	グループ調査:自治体を調査する(5)調査作業 履修生にゆかりのある自治体を複数選び、比較するテーマを設定した上でグループ単位で調査を行い、それぞれの自治体においてどのような共通点、あるいは差異が見られるのかについて分析し、整理する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	グループ調査:自治体を調査する(6)調査作業 履修生にゆかりのある自治体を複数選び、比較するテーマを設定した上でグループ単位で調査を行い、それぞれの自治体においてどのような共通点、あるいは差異が見られるのかについて分析し、整理する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	グループ調査:最終報告/クロージング 履修生にゆかりのある自治体を複数選び、比較するテーマを設定した上でグループ単位で調査を行い、それぞれの自治体においてどのような共通点、あるいは差異が見られるのかについて分析し、整理した結果について報告を行い、考察について共有を図る。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に取り組む姿勢(50%)、記述による提出物(50%)
その他	0	なし
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

適宜、教員から指定または提供された、テーマやトピックに係る資料等

履修条件・留意事項等

2年次後期以降に開講する、本学科各教員ごとのゼミ(2～3年次「地域未来創造演習Ⅰ～Ⅲ」、4年次「地域未来創造探求」)において、松田ゼミを希望する可能性がある学生は、履修を強く推奨する科目である。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		北海道の食文化				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	藤井 駿吾、渡部 俊弘、松田 祐						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにおける「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」、および地域未来学科のディプロマ・ポリシー「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」こととも関係がある。							
授業の概要							
この授業は、北海道の先住民であるアイヌ民族の生活からの食文化について。シャケなどを例に挙げ、生活様式と食文化の関連をアイヌ文化の観点から講述する。一方、明治2年、蝦夷地は北海道に改名され、開拓とともに日本各地から人々が移住してきた。そのような歴史的背景と地域特性から食生活が多様化し、ジンギスカンや石狩鍋、鮭のちゃんちゃん焼きなどの郷土料理が生まれた。その観点からも北海道の食文化を講述する。							
到達目標							

1. (知識) 国際的かつ歴史的な観点から、食が文化の創造や現代社会の基盤形成に果たす役割について説明できる。 2. (思考・判断・表現) 「食文化」が社会の各分野に与える影響を多角的に観察し、様々な事象と関連づけることができる。 3. (思考・判断・表現) 絶えず変化する時代(VUCAの時代)において、獲得した食文化の基礎知識をもとに現代の社会構造を再考し、自身の考えを論じることができる。

授業の方法

教員作成パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いて講義形式で展開し、社会の実務者による講義も行う。また、学生間での対話(ディスカッション)を含むチーム学習も行う。

ICT活用

授業内容に関連するホームページや動画を用いる。課題などのやり取りにGoogle classroomを使用する。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッションなどのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	〈はじめに〉「北海道の食文化を理解するために」 北海道の食文化や、食べることは総合的な学問体系の基礎につながると考える。人々の食生活はその国や地域の歴史や地形、気候等を基礎として決定づけられており、例えばそこに派生する「農業」を理解するためには、食文化が総合的な学びであることへの理解が必須である。その他、民族や食生活、産業や海外文化等の要素と関連づけて講述する。	シラバスをよく読み、自らの問題意識を整理すること。また、「北海道の食文化」の自分なりのイメージを持っておくこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第2回	「北海道の食文化とアイヌ～漫画『ゴールデンカムイ』から～」 アイヌ民族と食との関係についての理解深化を目指し、アイヌ関連資料を用いて講述する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第3回	「北海道内各地の食文化を比較する(道北・道南・道東・道央など)」／「食を支える栄養学」 ・道内各地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第4回	「北海道の食と日本各地の食文化を比較する(関東・東北地方など)」／「食を支える栄養学」 ・関東・東北地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第5回	「北海道の食と日本各地の食文化を比較する(関西・九州・四国地方など)」／「食を支える栄養学」 ・関西・九州・四国地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第6回	「北海道の食と世界の食文化を比較する(ヨーロッパ編)」 ・イタリア:スローフード(Citta Slow)の考え方 ・フランス:食の都パリ、国が食を大事にする精神性・スペイン:食を柱とした地域の活性化の成功例 ・鶴岡新太郎とフランス料理(料理法百たい(1)、料理法百たいに学ぶ) など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第7回	「北海道の食と世界の食文化を比較する(アジア編)」 ・中国、韓国:日中韓の食事様式について	これまでの授業の全体像を見つめ直し、自分にとって必要な栄養や知識について整理しておくこと。(90分)	これまでの授業を踏まえ、今後自分にとって何が重要なポイントか、必要に応じて文献などを用いて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第8回	〈まとめ〉「食糧難の時代 2050年に備えて」 ・人口増大のピークにむかう地球(総人口90億人へ) ・世界情勢と食糧危機 ・国際学部生として大切なこと など	これまでの授業の全体像を見つめ直し、自分にとって必要な栄養や知識について整理しておくこと。(90分)	これまでの授業を踏まえ、今後自分にとって何が重要なポイントか、必要に応じて文献などを用いて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		
第9回	「ガイダンス／その他の学びへと派生する(北海道の)食」 ・「(北海道の)食や食べること×その他の総合的な学問体系」の関係性 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		

第10回	「北海道の食文化の誕生と郷土料理」 ・北海道の食文化と郷土料理(ジンギスカン、石狩鍋、鮭のちゃんちゃん焼き等)、食文化の歴史 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		
第11回	「北海道の遺跡からわかる食文化(仮)(恵庭市郷土資料館長町 章弘 学芸員)」 北海道及び恵庭市の歴史について展示等を通して学びに繋げる取組を行っている社会教育施設の現場に従事する実務者による実践的な講義を通して、北海道の歴史や民族について考察する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		
第12回	「北海道の食を支える人と産業」 ・北海道の食を支える主な食産業、歴史 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		

第13回	「地理と食産地の関係」 ・実は暗記科目ではない「地理」 ・「地理」から見つめてみる世界の食産地 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		
第14回	「海外の食について」 ・日本以外の国や地域で生産されている原材料 ・海外の食文化について	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		
第15回	〈まとめ〉「〈食べること〉がなぜ重要なのか？」 ・食糧自給率の仕組み ・学園のルーツである「食」と多様性を認める時代の「食」など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回に行う演習課題で評価する。
その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

「食の歴史」(ジャック・アタリ著、プレジデント社)、「ゴールデンカムイ」シリーズ(野田サトル著、集英社)。その他は授業中に適宜提示する。

履修条件・留意事項等

本授業は国際教養学科および国際コミュニケーション学科2年次の選択科目であるが履修することが望ましい。

備考欄

ゲストスピーカー(実務者)の講義内容、講義日程は変更となる場合がある。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		持続可能な地域社会と地域創生				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 俊昭						

授業の位置づけ

地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。(知識・技能)「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。

授業の概要

本科目は、地域創生・SDGs論の本質を分かりやすく解き、よく研ぎ、着実に育むものとする。具体的には、国や自治体職員、首長等、政策策定者や実践者による政策や予算策定のプロセスを重点的に講話の上、履修生との質疑応答と対話から、より深く物事の本質を学ぶものである。また、実学・現場重視の視点、部分・個別最適から全体最適思考、出番創出・役割分担によるストーリーの重要性を認識し、将来の地域創生リーダー・プロデューサー人材の養成を目的としている。

到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)や連携協定先(自治体)の最新情報を踏まえ、さらに知識や技能を高めること、随時。フィールドワークを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明できる。また、地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画したり、その実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。なお、詳細な授業方法については担当教員の指示による。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

実務経験のある教員の教育内容

地方公務員や国家公務員、大学教員の経験を持つ私のほか、必要に応じて、連携大学の教員、企業経営者等の実務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

担当教員の指示による。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)後、履修生の自己紹介を行う。また、講義内容の希望等に関して対話を行う。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知識や経験など、整理のうえ、講義に臨むこと(90分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	地域創生の背景、現状と課題に関する講義後、学び、習い、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	地域創生の背景、現状と課題に関する講義後、学び、習い、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	地域創生の先行研究(五感六育)に関する講義後、学び、習い、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。 「五感六育」とは、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の五感を研ぎ、食育・遊育・知育・木育・健育・職育の六育をバランスよく育むこと。豊かな感性と人間力を高め、地域社会の発展に貢献できる人材育成を目指す思考のこと。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	地域創生の先行研究(五感六育)に関する講義後、学び、習い、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	地域創生の先行研究(五感六育)に関する講義後、学び、習い、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	地域創生の先行研究(五感六育)に関する講義後、学び、習い、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	地域創生の調査研究の指標(ものさし)に関する講義後、学び、習い、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	地域創生の調査研究の指標(ものさし)に関する講義後、学び、習い、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	地域人財養成と定着のシステム形成に関する講義後、学び、習い、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	地域人財養成と定着のシステム形成に関する講義後、学び、習い、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	地域人財養成と定着のシステム形成に関する講義後、学び、習い、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	地域人財の類型に関する先駆事例に基づく講義後、学び、習い、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	地域人財の類型に関する先駆事例に基づく講義後、学び、習い、問い立て、対話し、講義内容の理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	これまでの講義、対話を踏まえ、地域創生に関する政策提言に関して各自発表。質疑応答し、総括する。	これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	これまでの配布資料や講義内容を復習し、自分の知識、知恵にすること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義時の課題提出(60%)、最終回による発表(40%)により、成績評価とする。
その他	0	なし。
教科書		
講義説明用の資料はメール添付にて配布する。		
参考文献		

講義時にその都度紹介する。

履修条件・留意事項等

日頃から地域創生の情報に関心を持つこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		北海道の社会と文化(多文化共生)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松田 剛史						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」や「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」とも関係する。							
授業の概要							
この授業は、北海道の歴史を再認識し、アイヌや外国人移住者も含めた多様な人々が安心して暮らせる地域社会の実現には何が必要か、これからの多文化共生社会のありかたを考えていく。ここでいう多文化共生とは、言語や民族、肌の色、背が高いか低い、左利きか、右利きか、男か女か、障がいの有無、宗教、出身、学歴、収入、家族形態、年齢など、皆異なっていることを優劣の価値観や偏見としてみるのではなく、個性としてとらえていく。授業では、ウポボイ(民族共生象徴空間)や北海道の歴史博物館の見学も行う。そこから、地域社会がみなで持続的に共生していくための意識化をはかる。							
到達目標							

1.共生社会とは何かを述べるができるようになる。
 2.自らが積極的に学習を進め、北海道のこれまでの歴史が説明できるようになる。
 3.これからの多文化共生のありかたについて述べるができるようになる。
 (2年次の配当科目であるため、各授業ごとに、事前・事後の課題を出します。事前・事後課題の提出が守れない場合は、この授業の到達目標に達することができないと判断し、成績を評価していきます)

授業の方法

テキストとスライド等を使用し講義を進める。また、2回の学外フィールドワーク授業やプレゼンテーション活動なども行っていく。

ICT活用

Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。また、Google formやGoogleスライドなどの作業ツールも活用する。さらに動画を使ったプレゼンテーション作成にも取り組む。

実務経験のある教員の教育内容

プロジェクトマネジメントやNPO運営、学校教員や自営業での実務経験があり幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、社会活動的な実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間やGoogleクラスルーム、LINEオープンチャット等において随時伝達、共有する

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 北海道を概観する① ～古代から近世～	テキストをもとに、北海道の古代から近世の内容をまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第2回	北海道を概観する② ～近代から現代～	テキストをもとに、北海道の近代から現代の内容をまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第3回	調査結果のプレゼン活動の計画	調査結果のプレゼンをどのような形で行うと効果的かについて情報を収集しまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

第4回	フィールドワーク①に向けて～北海道博物館(野外博物館含む)での調査企画と準備～	北海道博物館について調べ、内容をまとめること(90分)	授業内容を復習しまとめること(90分)
担当教員			
第5回	フィールドワーク①-1～北海道博物館～	北海道博物館での調査活動計画について情報を整理しておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめること(90分)
担当教員			
第6回	フィールドワーク①-2～北海道博物館～	北海道博物館での調査活動内容について情報を整理しておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめること(90分)
担当教員			

第7回	フィールドワーク①-3～北海道博物館～	北海道博物館での調査活動をもとにしたプレゼン活動に向け、計画を立てておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	フィールドワーク②に向けて～ウポポイと二風谷での調査企画と準備～	ウポポイと二風谷について調べ、内容をまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第9回	フィールドワーク②-1～ウポポイと二風谷～	ウポポイと二風谷での調査活動計画について情報を整理しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

第10回	フィールドワーク②-2～ウポポイと二風谷～	ウポポイと二風谷での調査活動 内容について情報を整理しておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容を まとめておくこと(90分)
担当教員			
第11回	フィールドワーク②-3～ウポポイと二風谷～	ウポポイと二風谷での調査活動 をもとにしたプレゼン活動に向け 、計画を立てておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容を まとめておくこと(90分)
担当教員			
第12回	プレゼン活動に向けての作業①～企画案の作成～	北海道博物館、ウポポイと二風 谷での調査活動をもとにしたプ レゼン活動に向け、情報を整理 しておく(90分)	プレゼン活動に向けて必要な作 業をしておくこと(90分)
担当教員			

第13回	プレゼン活動に向けての作業②～プレゼンの作成と準備～	プレゼン活動に向けて必要な作業をしておくこと(90分)	プレゼン活動に向けて必要な作業を完成させておくこと(90分)
担当教員			
第14回	調査結果プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分)	プレゼンテーション評価を完成させておくこと(90分)
担当教員			
第15回	北海道の社会と文化をまとめる	これまでの授業内容を復習しておくこと(90分)	これまでの内容を整理しまとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①学習内容の理解に向けて主体的に取り組むパフォーマンス(認知度)30%:学習者ログノート ②能動的かつ協働的に学習活動へと取り組むパフォーマンス(参加度)30%:学習状況の観察 ③各種学習成果(学修度)40%:考査や提出物等
その他	0	
教科書		
書籍名:ニッポンを解剖する! 北海道図鑑 出版社:ジェイティビィパブリッシング 発売日:2019/4/11 ISBN-13:978-4533133022		
参考文献		

講義内で連絡する

履修条件・留意事項等

- ・本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。
- ・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。
- ・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。
- ・授業計画は学習状況や外部講師／機関との調整によって講義回が前後したり変更することがある。
- ・Google formやGoogle スライド、mentimeter、MiroといったICTツールを活用して授業を展開する。また、活動にはzoomなどのオンライン会議ツールを活用する場合がある。
- ・フィールドワークでは講義日時以外(土日休含む)での活動がある。
- ・フィールドワークでは大型バスでの移動が伴うため、履修人数の制限がある。履修人数がオーバーした場合には、これまでの単位取得状況等により判定することがある。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門基礎科目 地域理解					
科目名		地域パートナーシップを知る				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松田 祐						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにおける「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。(知識・技能)」、「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」ことと特に関係する科目である。							

- ①地域社会におけるパートナーシップや連携の意義や役割、その重要性について自分の意見を語ることができる。
 ②学外視察やフィールドワークを通じて、様々な連携の形態があることを踏まえ、多岐にわたる地域社会の課題を解決に導ける。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いたり、履修生間でのディスカッションを展開する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

民間企業や大学職員、地域における官学連携研究機関などの就業経験がある。地域と大学のよりよい関係性や官学連携などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜課すコメントシートやGoogleフォームを通して、知識の整理や派生的な知識の獲得を促す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業の進め方や評価基準等について説明する。	シラバスをよく読み、これまでに得た知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	講義: パートナースhip・学科間連携について 本科目の趣旨にあたる「パートナースhip」、包括連携・企業連携についての理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	企業課題解決型プロジェクト(1)オリエンテーション 実際の企業が抱えるある経営課題をテーマに、課題の発見から解決策の提示までを一貫して行うPBL(課題解決型学習)の手法を用い、企業の方々をはじめ、他学科の教員や学生と協力してプロジェクト形式で進める。 ※2026年度対象企業(予定): 恵庭地域の小売業	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	企業課題解決型プロジェクト(2)キックオフミーティング 実際の企業が抱えるある経営課題をテーマに、課題の発見から解決策の提示までを一貫して行うPBL(課題解決型学習)の手法を用い、企業の方々をはじめ、他学科の教員や学生と協力してプロジェクト形式で進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	企業課題解決型プロジェクト(3)課題の設定(発見) 実際の企業が抱えるある経営課題をテーマに、課題の発見から解決策の提示までを一貫して行うPBL(課題解決型学習)の手法を用い、企業の方々をはじめ、他学科の教員や学生と協力してプロジェクト形式で進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	企業課題解決型プロジェクト(4)現状分析 実際の企業が抱えるある経営課題をテーマに、課題の発見から解決策の提示までを一貫して行うPBL(課題解決型学習)の手法を用い、企業の方々をはじめ、他学科の教員や学生と協力してプロジェクト形式で進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	企業課題解決型プロジェクト(5)現状分析 実際の企業が抱えるある経営課題をテーマに、課題の発見から解決策の提示までを一貫して行うPBL(課題解決型学習)の手法を用い、企業の方々をはじめ、他学科の教員や学生と協力してプロジェクト形式で進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	企業課題解決型プロジェクト(6)仮説構築(解決策の検討) 実際の企業が抱えるある経営課題をテーマに、課題の発見から解決策の提示までを一貫して行うPBL(課題解決型学習)の手法を用い、企業の方々をはじめ、他学科の教員や学生と協力してプロジェクト形式で進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	企業課題解決型プロジェクト(7)仮説構築(解決策の検討) 実際の企業が抱えるある経営課題をテーマに、課題の発見から解決策の提示までを一貫して行うPBL(課題解決型学習)の手法を用い、企業の方々をはじめ、他学科の教員や学生と協力してプロジェクト形式で進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	企業課題解決型プロジェクト(8)進捗報告・ミーティング 実際の企業が抱えるある経営課題をテーマに、課題の発見から解決策の提示までを一貫して行うPBL(課題解決型学習)の手法を用い、企業の方々をはじめ、他学科の教員や学生と協力してプロジェクト形式で進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	企業課題解決型プロジェクト(9)提案(解決策の提示) 実際の企業が抱えるある経営課題をテーマに、課題の発見から解決策の提示までを一貫して行うPBL(課題解決型学習)の手法を用い、企業の方々をはじめ、他学科の教員や学生と協力してプロジェクト形式で進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	企業課題解決型プロジェクト(10)実践 実際の企業が抱えるある経営課題をテーマに、課題の発見から解決策の提示までを一貫して行うPBL(課題解決型学習)の手法を用い、企業の方々をはじめ、他学科の教員や学生と協力してプロジェクト形式で進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	企業課題解決型プロジェクト(11)効果検証(フィードバック) 実際の企業が抱えるある経営課題をテーマに、課題の発見から解決策の提示までを一貫して行うPBL(課題解決型学習)の手法を用い、企業の方々をはじめ、他学科の教員や学生と協力してプロジェクト形式で進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	企業課題解決型プロジェクト(12)効果検証(フィードバック) 実際の企業が抱えるある経営課題をテーマに、課題の発見から解決策の提示までを一貫して行うPBL(課題解決型学習)の手法を用い、企業の方々をはじめ、他学科の教員や学生と協力してプロジェクト形式で進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	企業課題解決型プロジェクト(13)報告 これまで進めてきた課題解決のプロセスや、得られた知見とともに導き出した解決策について、報告を行う。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に取り組む姿勢(50%)、記述による提出物(50%)
その他	0	なし
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

適宜、教員から指定または提供された、テーマやトピックに係る資料等

履修条件・留意事項等

①本科目は前期(2ターム)及び後期(3ターム)にわたって開講し、一部夏季休業期間を活用した学外視察やフィールドワークを予定している。したがって、履修予定者は4月に履修登録の上、詳細な授業内容や日程についてはシラバス、クラスルームでの更新情報、初回オリエンテーション(6月予定)を参考にし、履修取消をする場合は2タームの履修取消期間を利用すること。

②「企業課題解決型プロジェクト」においては、取り扱う経営課題の性質上、協力企業の社員の方々や他学科教員・学生との連携が必須となるため、他者とのコミュニケーションにおいて基本的なルール・マナーの遵守のほか、自発的かつ柔軟な学修態度、協調的な対話姿勢等が履修者に求められる点に留意すること。(遵守が難しい場合は出席状況にかかわらず単位は付与しない旨を警告する)

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 生涯教育					
科目名		教育から考える地域と未来 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考力・判断力・表現力)」及び「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」と特に関係し、生涯学び続けることの重要性を理解するための科目である。							
授業の概要							
本科目は、変化が激しく、予測不能な時代の教育の在り方を見据え、教育学の知識を動員し、地域の諸課題の解消や未来を想像(創造)する能力の修得に向けた素地の涵養を目的とする。例えば、人口減少に伴う基幹産業の後継者不足においては「指導者(年上、上司、先輩…)/学習者(年下、部下、後輩…)」といった、旧来型の指導方法や枠組みからの脱却が求められているように、慣例や前例にとらわれない行動変容が必要であり、様々な先進事例のケーススタディやヒアリング等を通して、視野を広げ、履修者が教育という切り口から積極的に未来の地域の姿をデザインしていこうとする態度の醸成を目的とする。							
到達目標							

- ①地域づくりと教育の関連性や重要性について、事例をもとに理解し、説明できる。
- ②地域づくりのコーディネーターを担う人材が備えるべき特性について説明できる。
- ③課題意識を明確にし、的確に相手の回答引き出すことができる。
- ④「RESAS 地域経済分析システム」等の基本的な操作方法を理解し、活用できる。

授業の方法

・導入として、パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。

ICT活用

- ・プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。
- ・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

道立生涯学習推進センターや国立青少年教育施設等の教育行政勤務の中で、市町村教育委員会をはじめ、学校や社会教育関係団体へ指導・助言する経験があり、地域づくりに取り組む幅広いネットワークを有している。このネットワークを生かし、地域における教育と異業種との協働の実態や在り方等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- ・次回の講義で前時の気づき等について、受講生同士の意見交換やコメントの時間を設ける。
- ・提出を要する課題は、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業全体の構成を俯瞰し、地域のよさ、人口減少が地域に与える影響について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、人口減少が地域に与える影響についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	人口減少の時代と地域の課題 RESAS、Google classroom等の基本操作や事前・事後学習のポイントを学ぶ。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、RESAS、google classroom等の基本操作をふりかえる(90分)。
担当教員			
第3回	教育と地域とデータ1 表計算、地図作成等、教育と地域を考えるうえでのデータの整理について、基本的なPCの基本操作を学ぶ。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、文書作成、表計算の基本操作についてふりかえり、課題に取り組む(90分)。
担当教員			

第4回	教育と地域とデータ2 情報の検索や吟味、クラウドの活用等、教育と地域を考えるうえでの必要となる基本的なPCの操作を学ぶ。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、情報の検索や吟味、クラウドの活用等についてふりかえる(90分)。
担当教員			
第5回	教育と地域とデータ3 アンケートフォームや生成AIの活用等、教育と地域を考えるうえで必要となる基本的なPCの操作を学ぶ。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、アンケートフォームや生成AIの活用等についてふりかえり、課題に取り組む(90分)。
担当教員			
第6回	事例研究1-1 コミュニティ・スクールによる学校支援や地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体・団体等に関する基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点を整理する(90分)。
担当教員			

第7回	事例研究1-2 コミュニティ・スクールによる学校支援や地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体・団体等に関する基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点を整理する(90分)。
担当教員			
第8回	事例研究2-1 スポーツ振興による地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体・団体等に関する基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点を整理する(90分)。
担当教員			
第9回	事例研究2-2 スポーツ振興による地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体・団体等に関する基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点を整理する(90分)。
担当教員			

第10回	事例研究3-1 芸術・文化振興による地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体・団体等に関する基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点を整理する(90分)。
担当教員			
第11回	事例研究3-2 芸術・文化振興による地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体・団体等に関する基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点を整理する(90分)。
担当教員			
第12回	事例研究4-1 市民活動や市民の社会教育活動による地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体・団体等に関する基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点を整理する(90分)。
担当教員			

第13回	事例研究4-2 市民活動や市民の社会教育活動による地域づくりの取組事例から、教育が貢献できる可能性やつながりの重要性について理解を深める。	事例として取り上げる自治体・団体等に関する基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや疑問点を整理する(90分)。
担当教員			
第14回	まとめとふりかえり1 地域づくりに取り組むキーパーソンに共通することを考察し、グループ課題をまとめる。	事例研究全体をふりかえり、それぞれの気づきを整理しながら授業に臨む(90分)。	地域づくりに取り組むキーパーソンに共通することについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第15回	まとめとふりかえり2 グループ課題を発表し、講義全体をふりかえるとともに、学びや気づきを共有する。	グループ発表に向けて資料や役割分担などの準備を行う(90分)。	教育から考える地域と未来Ⅰを通しての気づきをふりかえり、整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業ごとのふりかえり15回 45% ②講義内課題2回 30% ③グループ課題1回 15% ④授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

適宜紹介する

履修条件・留意事項等

・できる限りPC(難しければスマートフォン)を持参する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 生涯教育					
科目名		教育から考える地域と未来Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考力・判断力・表現力)」及び「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」と特に関係し、生涯学び続けることの重要性を理解するための科目である。

授業の概要

本科目は、「教育から考える地域と未来Ⅰ」における学びや気づきをもとに、公教育と異業種、異校種が協働した取組の事例研究、企画書や助成金等による資金調達の計画書の作成・プレゼンテーション法、効果的な情報発信や社会から共感を得る広報戦略、協力者の獲得の方法やコーディネート等、地域の持続に資する学びを推進する総合的なプロデューサーとしての資質・技能の獲得と行動力の育成を目的とする。

到達目標

- ①教育と異業種の協働による取組における教育の意義や可能性を説明できる。
- ②学びと地域づくりにおけるネットワークやパートナーシップの重要性を説明できる。
- ③補助金や助成金等について理解し、申請書を作成できる。
- ④場に適した方法を用いてプレゼンテーションを行うことができる。

授業の方法

- ・導入として、パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。
- ・ゲストによる講話も予定する。

ICT活用

- ・プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。
 - ・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。
- ※Google meet等を活用し、ゲストによる講話等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

国立青少年教育施設での勤務の中で、子供の体験活動等を支援する「子どもゆめ基金」についての知識を有しており、地域の教育振興に向けた資金獲得方策等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- ・次回の講義で前時の気づき等について、受講生同士の意見交換やコメントの時間を設ける。
- ・提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 地域の未来につながる学びを実現させるためのつながりや 具体の行動に向けた資金調達の重要性について理解を深 める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	地域の未来につながる学びを実 現させるためのつながりや具体 の行動に向けた資金調達の重 要性についての気づきを整理す る(90分)。
担当教員			
第2回	教育とまちづくり 社会教育士の講話から、地域づくりにおける教育、特に住 民が主体となった社会教育の意義について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	ゲストの話やノートをもとに、授 業のテーマに関する気づきを整 理する。(90分)。
担当教員			
第3回	事例研究1 青少年教育や学校運営への貢献を通して進める地域づく り事例から、教育の果たす役割や課題について理解を深 める。	事例として取り上げる自治体の 基礎データを調べて授業に臨 む(90分)。	講義資料やノートをもとに、事例 を通しての気づきを整理する(90 分)。
担当教員			

第4回	事例研究2 防災・減災に取り組む自治体の事例から、教育の果たす役割や課題について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、事例を通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第5回	事例研究3-1 アウトドアによる過疎地域の地域課題の解決に向けた取組について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、事例を通しての気づきや講義内課題のフィードバックを整理する(90分)。
担当教員			
第6回	事例研究3-2 アウトドアによる過疎地域の課題解決に取り組むゲストの話を聞き、対話を通して、コーディネーターの役割や特性について理解を深める。	前時の内容を踏まえ、ゲストへの質問事項を想定して授業に臨む(90分)。	ゲストのコーディネーターとしての役割や特性についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第7回	事例研究4-1 青年の社会参画や起業に取り組む非営利組織の事例について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや講義内課題のフィードバックを整理する(90分)。
担当教員			
第8回	事例研究4-2 青年の社会参画や企業に取り組むゲストの話を聞き、対話を通して、コーディネーターの役割や特性について理解を深める。	前時の内容を踏まえ、ゲストへの質問事項を想定して授業に臨む(90分)。	ゲストのコーディネーターとしての役割や特性についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第9回	事例研究5-1 学校を核とした地域づくりの事例について理解を深める。	事例として取り上げる自治体の基礎データを調べて授業に臨む(90分)。	事例を通しての気づきや講義内課題のフィードバックを整理する(90分)。
担当教員			

第10回	事例研究5-2 学校を核とした地域づくりの事例についてストの話聞き、対話を通して、コーディネーターの役割や特性について理解を深める。	前時の内容を踏まえ、ゲストへの質問事項を想定して授業に臨む(90分)。	ゲストのコーディネーターとしての役割や特性についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第11回	資金調達の基礎1 行政予算の基本、補助金や助成金の仕組みなどについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、行政予算の基本等についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	資金調達の基礎2 助成金の申請の実務についての理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	グループで分担した役割に基づき、グループ発表の準備を行う(90分)。
担当教員			

第13回	資金調達の基礎3 助成金の申請書の作成を通して、学びや学習を届けたい人のニーズのつかみ方やPRの基本等を学び、具体的なアイデアを練り上げる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	グループで分担した役割に基づき、グループ発表の準備を行う(90分)。
担当教員			
第14回	資金調達の基礎4 作成した申請書類のプレゼンテーションを行い、グループ相互に批評し合う。	グループで分担した役割に基づき、グループ発表・ヒアリングの準備を行う(90分)。	グループで作成した成果物のブラッシュアップを行う(90分)。
担当教員			
第15回	まとめとふりかえり 教育と地域づくりの関係性について理解を深める。	講義資料やノートを読み返して授業に臨む(90分)。	講義全体を通しての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業ごとのふりかえり15回 45% ②授業内課題2回 30% ③グループ課題1回 15% ④授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

・北海道アウトドアネットワークHP<https://hokkaidooutdoor.jp/>
・事例として取り上げる自治体のHP
・だから僕は船をおりた 東京生まれの元漁師が挑む、フードアクション！ 近江正隆 著 講談社
・世の中への扉 ぼくの職場は富士山です 近藤光一 著 講談社
・子どもゆめ基金HP
※その他授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

・できる限りPC(難しければスマートフォン)を持参する。特に11回目以降。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 生涯教育					
科目名		社会教育論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考力・判断力・表現力)」、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」と特に関係し、生涯学び続けることの重要性を理解するための科目である。

授業の概要

本科目は、これからの時代を担う青少年に焦点を当て、社会教育施設(特に青少年教育施設)や社会教育団体等における教育活動の事例を題材に、学校教育と対比しながら、青少年教育の現状と課題、体験活動と青少年の健全育成、学習プログラムの企画と運営・効果や成果の検証、教えずに気づかせる学び方(体験学習法)、対象者の理解の手法、リスクマネジメントの基礎、ボランティアによる活動・学習支援の在り方やボランティアコーディネート等、学びのデザインや支援等に関する基本的な知識についての理解と技能の獲得を目的とする。

到達目標

①ニーズや効果・成果を明確にした学習プログラム・アクティビティを作成し、実施できる。
 ②学習の成果を定量的に評価し、改善策を説明できる。
 ③学習プログラムや社会教育事業の運営において、場に応じたファシリテーションを行うことができる。
 ④リスクマネジメントの基礎を理解し、学習プログラムに適用できる。

授業の方法

- ・導入として、パワーポイントや動画、配布資料等による説明・講義を行い、グループや個人のワーク・エクササイズによって考察を深め、必要に応じて解説を交えながら、気づきや学びが深まるよう、個人の内省やグループでわかちあう時間を設ける。
- ・学習プログラムのファシリテーション体験を行う。

ICT活用

- ・プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。
- ・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

道立生涯学習推進センターや国立青少年教育施設等の教育行政勤務の中で、社会教育事業の企画・運営をはじめ、市町村教育委員会、学校や社会教育関係団体へ指導・助言する経験を有している。これを生かし、学習プログラムの在り方等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- ・次回の講義で前時の気づき等について、受講生同士の意見交換やコメントの時間を設ける。
- ・提出を要する課題は、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 講義の進め方を理解するとともに、学習プログラムの企画者の有り方について理解を深める。	教育・学習・学びについて調べ、自分なりのイメージを持って授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、学習プログラムや企画者についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	学習プログラムとは何か 事業や学習プログラムの意図、目的や目標についての理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、プログラムの意図についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第3回	学習プログラムのデザインと支援1 プログラムとアクティビティの違いやアクティビティのデザインについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、アクティビティのデザインについての気づきを整理するとともに、課題に取り組む(90分)。
担当教員			

第4回	学習プログラムのデザインと支援2 プログラムの構成要素や参加者の理解など、学習プログラムの企画について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、プログラムのデザインについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第5回	学習プログラムのデザインと支援3 リスクとハザード、ヒューマンエラー、クライシスマネジメント等、リスクマネジメントの基本について理解を深める。	授業のテーマについて調べるとともに、レポートの発表練習を行い授業に望む(90分)。	講義資料やノートをもとに、リスクマネジメントについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第6回	学習プログラムのデザインと支援4 学習プログラムや事業を対象者に届ける方策、広報の基礎について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、広報についての気づきを整理するとともに、課題に取り組む(90分)。
担当教員			

第7回	学習プログラムのデザインと支援5 学びの場における声のかけ方や見取り方など、ファシリテーションスキルや対象者との関わり方について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、ファシリテーションについての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第8回	学習プログラムの評価 参加者や対象者へのアンケートの意義や作り方、分析についての理解を深める。	授業のテーマについて調べるとともに、レポートの発表練習を行い授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、参加者や対象者へのアンケートの意義や作り方、分析についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第9回	学習プログラムの支援の実践1 子どもを対象とした体験教室のプログラムの企画、運営を題材として、具体的な方法について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(90分)。	グループワークや講義資料、ノートをもとに、学習プログラムの企画・運営の方法についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第10回	学習プログラムの支援の実際2 プログラムの運営細案について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	グループワークや講義資料、ノ ートをもとに、学習プログラムの 企画・運営の方法についての気 づきを整理する(90分)。
担当教員			
第11回	学習プログラムの支援の実際3 プログラムの運営細案やロジスティックの在り方などについ て理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	グループワークや講義資料、ノ ートをもとに、学習プログラムの 企画・運営の方法についての気 づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	ボランティアのマネジメント 学習プログラムや事業を実施するに当たってのボランティ アの役割やボランティアコーディネートの基礎について理 解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	講義資料やノートをもとに、ボラ ンティアやボランティアマネジメ ントについての気づきを整理す る(90分)。
担当教員			

第13回	学習プログラムの実践1 作成した学習プログラムの指導・支援を実践する。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	実践をふりかえり、学習プログラムの企画や運営についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第14回	学習プログラムの実践2 作成した学習プログラムの指導・支援の実践から、成果や効果、改善点等について評価する。	授業のテーマについて調べて 授業に臨む(90分)。	実践をふりかえり、学習プログラムの企画や運営についての気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ グループごとに講義での学びや気づきをふりかえり、学習プログラムの企画者として必要な資質・能力について理解を深める。	これまでの講義資料やノート、課題を読み直し、授業に臨む(90分)。	講義全体を通しての学びや気づきをふりかえり、整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業外課題2回 60% ②グループ課題とレポート1回 30% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

・体験格差 今井悠介 著 講談社現代新書
・野外教育研究法 日本野外教育学会編 杏林書院
※その他、適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

・できる限りPC(難しければスマートフォン)を持参する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 生涯教育					
科目名		教育から考えるサステナビリティ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	松田 祐						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考力・判断力・表現力)」及び「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

履修者は、1年次の経験や体験を踏まえ、フィールドワークを復習、俯瞰、デザインすることや、下級生への教育的補助を行うことを通して、教育、指導、学習の在り方について、サステナビリティを題材としながら実践的に学ぶ。本科目は、SDGs等にあげられる持続可能な社会形成への理解のために、1年次にフィールドワーク先として大学近郊施設を訪れた、全学教養科目「総合教養講座」に並行する形をとって、2年次以上を配当年次に設定して開講する。

到達目標

- ①国連が主導・推進している「持続可能な開発目標(SDGs)」における基礎知識を理解するとともに、自分の意見を語ることができる。
 ②企業・行政・大学におけるSDGsを取り巻く多様な取組や課題について整理し、課題に対する解決策を提案できる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いたり、履修生間でのディスカッションを展開する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

民間企業や大学職員、地域における官学連携研究機関などの就業経験がある。地域と大学のよりよい関係性や官学連携などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜課すコメントシートやGoogleフォームを通して、知識の整理や派生的な知識の獲得を促す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業の進め方や評価基準等について説明する。	シラバスをよく読み、これまでに 得た知識や経験について整理 して授業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第2回	総論:サステナビリティとは(社会の持続可能性、SDGsの 17の目標) 社会の持続可能性をはじめ、国連が主導・推進している「 持続可能な開発目標(SDGs)」における基礎知識について 整理する。	授業内での指示課題や指定課 題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第3回	総論:身のまわりの社会課題・地域課題 履修者の生活圏、地域社会で発生する課題について整理 し、SDGsとの関連について整理する。	授業内での指示課題や指定課 題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			

第4回	各論:産官学(企業・行政・大学)におけるSDGs(1)企業におけるSDGs 社会の各セクターにおける事業活動・政策・教育・研究などの分野において、SDGsの観点を用いて展開されている事例をおさえ、各事例展開の原動力、エンパワメントといった各論的な理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第5回	各論:産官学(企業・行政・大学)におけるSDGs(2)行政におけるSDGs 社会の各セクターにおける事業活動・政策・教育・研究などの分野において、SDGsの観点を用いて展開されている事例をおさえ、各事例展開の原動力、エンパワメントといった各論的な理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第6回	各論:産官学(企業・行政・大学)におけるSDGs(3)大学におけるSDGs 社会の各セクターにおける事業活動・政策・教育・研究などの分野において、SDGsの観点を用いて展開されている事例をおさえ、各事例展開の原動力、エンパワメントといった各論的な理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第7回	各論:産官学(企業・行政・大学)におけるSDGs(4)あなたが社長・市長・学長だったら 社会の各セクターにおける事業活動・政策・教育・研究などの分野において、SDGsの観点を用いて展開されている事例をおさえ、各事例展開の原動力、エンパワメントといった各論的な理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第8回	各論:産官学(企業・行政・大学)におけるSDGs(5)連携することの強さと課題 社会の各セクターにおける事業活動・政策・教育・研究などの分野において、SDGsの観点を用いて展開されている事例をおさえ、各事例展開の原動力、エンパワメントといった各論的な理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第9回	各論:産官学(企業・行政・大学)におけるSDGs(6)成功事例と失敗事例 社会の各セクターにおける事業活動・政策・教育・研究などの分野において、SDGsの観点を用いて展開されている事例をおさえ、各事例展開の原動力、エンパワメントといった各論的な理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第10回	グループワーク:未来への作戦会議(1)チーム分け(企業・行政・大学) 各論フェーズでの学びを踏まえ、代表的な三つのセクターをチームとして構成してグループワークを行う。グループワークでは、課題の設定及び解決策の検討、セクター間連携の可能性について整理しつつ、最終的に教育的観点を踏まえた報告を行い、まとめとする。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第11回	グループワーク:未来への作戦会議(2)解決すべき課題の設定 各論フェーズでの学びを踏まえ、代表的な三つのセクターをチームとして構成してグループワークを行う。グループワークでは、課題の設定及び解決策の検討、セクター間連携の可能性について整理しつつ、最終的に教育的観点を踏まえた報告を行い、まとめとする。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第12回	グループワーク:未来への作戦会議(3)課題の解決策を検討する 各論フェーズでの学びを踏まえ、代表的な三つのセクターをチームとして構成してグループワークを行う。グループワークでは、課題の設定及び解決策の検討、セクター間連携の可能性について整理しつつ、最終的に教育的観点を踏まえた報告を行い、まとめとする。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第13回	グループワーク:未来への作戦会議(4)ポスター作成 各論フェーズでの学びを踏まえ、代表的な三つのセクターをチームとして構成してグループワークを行う。グループワークでは、課題の設定及び解決策の検討、セクター間連携の可能性について整理しつつ、最終的に教育的観点を踏まえた報告を行い、まとめとする。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第14回	グループワーク:未来への作戦会議(5)ポスター作成 各論フェーズでの学びを踏まえ、代表的な三つのセクターをチームとして構成してグループワークを行う。グループワークでは、課題の設定及び解決策の検討、セクター間連携の可能性について整理しつつ、最終的に教育的観点を踏まえた報告を行い、まとめとする。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第15回	グループワーク:未来への作戦会議(6)ポスター報告 各論フェーズでの学びを踏まえ、代表的な三つのセクターをチームとして構成してグループワークを行う。グループワークでは、課題の設定及び解決策の検討、セクター間連携の可能性について整理しつつ、最終的に教育的観点を踏まえた報告を行い、まとめとする。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に取り組む姿勢(50%)、記述による提出物(50%)
その他	0	なし
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

適宜、教員から指定または提供された、テーマやトピックに係る資料等

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 生涯教育					
科目名		人口減少時代の地域と大学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松田 祐						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

我が国は少子高齢化が急速に進展した結果として、人口減少時代を迎えている。これに伴い、主に都市圏以外の大学では、18歳人口の減少に起因する定員充足率の低下といった社会問題に直面している。本科目では「地域」と「大学」に焦点を当て、その関係性についての基礎知識を学ぶとともに、現状と課題、今後の展望について事例を通して学習することを目的とする。

到達目標

- ①大学における総論的な知識に触れ、人口減少下の我が国における大学の意義や役割、重要性について概論的に説明できる。
 ②大学における各論的な知識に触れ、地域と大学の互惠関係の構築に向けて必要なアプローチについて、実践や調査を通して提案できる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いたり、履修生間でのディスカッションを展開する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

民間企業や大学職員、地域における官学連携研究機関などの就業経験がある。地域と大学のよりよい関係性や官学連携などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜課すコメントシートやGoogleフォームを通して、知識の整理や派生的な知識の獲得を促す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション/導入:北海道文教大学について授業の進め方や評価基準等について説明する。	シラバスをよく読み、これまでに得た知識や経験について整理して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	導入:北海道文教大学について/総論:大学とは履修者が通学する北海道文教大学(学校法人鶴岡学園)についての基礎的な理解を深め、大学の総論的な理解につなげる。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	総論:大学に携わる人たち 大学の経営(運営)に関わるステークホルダー(関係者)についておさえ、各人が日々担っている役割や意義について理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	総論：大学の活動・取組・事業 大学で展開される様々な活動や取組、事業について基礎的な点からおさえ、特に本科目の趣旨である「地域とのつながり」に着目することで、各論（大学における地域連携）への理解につなげる。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。（90分）	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。（90分）
担当教員			
第5回	各論：大学と地域（大学地域連携） 地域連携、及び大学を拠点にした地域連携（大学地域連携）について基礎的な理解を深める。その上で地域、行政、企業、高校といった地域主体と大学がどのようなコラボレーション（連携）をしているかについて様々な事例を踏まえて整理する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。（90分）	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。（90分）
担当教員			
第6回	各論：学生と地域 大学地域連携の主体は必ずしも大学当局のみならず、学生が主体となって展開されるケースがある。大学地域連携には多様なスタイル（形態）があることを踏まえて、その意義について理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。（90分）	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。（90分）
担当教員			

第7回	各論:大学地域連携の課題/事例調査:本学の地域連携事例を調べる(1)オリエンテーション 大学での地域連携を展開する上での課題の一つとして「情報発信・広報の弱さ」が挙げられるが、こうした課題が発生する経緯を踏まえながら、実際に本学の地域連携事例についての調査をグループで行う。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	事例調査:本学の地域連携事例を調べる(2)本学の地域連携事例 本学の地域連携事例について学び、当該事例における活動内容、活動期間、実施主体、実施形態、活動実績・成果等について調査を行い、大学の情報リソースとして整理する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	事例調査:本学の地域連携事例を調べる(3)調査 本学の地域連携事例について学び、当該事例における活動内容、活動期間、実施主体、実施形態、活動実績・成果等について調査を行い、大学の情報リソースとして整理する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	フィールドワーク:他大学の地域連携事例を知る ※学外視察 他大学では地域とどのような目的で各種連携を図り、どのような実績があるのか等、事例の視察やブリーフィングを通して、事例調査に生かす。 (視察予定:北海道科学大学-札幌市手稲区)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	事例調査:本学の地域連携事例を調べる(4)調査/中間報告 本学の地域連携事例について学び、当該事例における活動内容、活動期間、実施主体、実施形態、活動実績・成果等について調査を行い、大学の情報リソースとして整理する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	事例調査:本学の地域連携事例を調べる(5)調査/中間報告 本学の地域連携事例について学び、当該事例における活動内容、活動期間、実施主体、実施形態、活動実績・成果等について調査を行い、大学の情報リソースとして整理する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	事例調査: 本学の地域連携事例を調べる(6) 調査 本学の地域連携事例について学び、当該事例における活動内容、活動期間、実施主体、実施形態、活動実績・成果等について調査を行い、大学の情報リソースとして整理する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	事例調査: 本学の地域連携事例を調べる(7) 調査 本学の地域連携事例について学び、当該事例における活動内容、活動期間、実施主体、実施形態、活動実績・成果等について調査を行い、大学の情報リソースとして整理する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	事例調査: 本学の地域連携事例を調べる(8) 最終報告 本学の地域連携事例について学び、当該事例における活動内容、活動期間、実施主体、実施形態、活動実績・成果等について調査を行い、大学の情報リソースとして整理した結果について、報告を行う。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に取り組む姿勢(50%)、記述による提出物(50%)
その他	0	なし
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

適宜、教員から指定または提供された、テーマやトピックに係る資料等

履修条件・留意事項等

2年次後期以降に開講する、本学科各教員ごとのゼミ(2～3年次「地域未来創造演習Ⅰ～Ⅲ」、4年次「地域未来創造探求」)において、松田ゼミを希望する可能性がある学生は、履修を強く推奨する科目である。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 生涯教育					
科目名		教育から考える社会貢献				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。							

- ①ボランティア活動の概念、内容、方法を説明できる。
 ②地域の実態、課題を理解するための方法について説明できる。
 ③ボランティアを行う者の学習過程、意識変容にかかわる理論について討議できる。

授業の方法

授業の前半は、パワーポイント資料、印刷物、動画資料などを用い、講義形式で行う。第1回、15回にグループワークを行う。授業の後半は、レポートのテーマ検討、各自が調査を行いまとめたレポートの経過報告および最終発表を行う。

ICT活用

Google classroom、Google formを用いた双方向授業を行う。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

市民活動として行っている子育て支援に関連する団体運営、学びの場づくり等でのコーディネーター経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom、Google formを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・ガイダンス ・ボランティア活動の概念、内容、方法について ・地域の実態および課題に関する理解を深め、地域課題に対する教育の役割を検討するため、まず受講生全員にテーマ(素材)を提示してもらいます。提示されたテーマについては授業内で複数回議論し、その過程を踏まえて最終的に扱うテーマを決定します。決定したテーマに基づき、各自が調査を行ってレポートを作成し、授業内で経過報告および最終発表を行います。進め方の詳細は、第1回の授業の中で受講生と調整した上で決定することとします。	興味関心のある地域課題について整理しておく。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第2回	地域社会におけるボランティア活動 ～恵庭市民による子育て支援活動を事例に①実践の概要	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第3回	地域社会におけるボランティア活動 ～恵庭市民による子育て支援活動を事例に②地域社会の実態・課題	授業のテーマについて調べる。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第4回	地域社会におけるボランティア活動 ～恵庭市民による子育て支援活動を事例に③学習過程・意識変容	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第5回	地域社会におけるボランティア活動 ～恵庭市民による子育て支援活動を事例に④考察	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第6回	地域社会におけるボランティア活動 ～稚内市民による子育て運動を事例に①実践の概要	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第7回	地域社会におけるボランティア活動 ～稚内市民による子育て運動を事例に②地域社会の実態・課題	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第8回	地域社会におけるボランティア活動 ～稚内市民による子育て運動を事例に③学習過程・意識変容	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第9回	地域社会におけるボランティア活動 ～稚内市民による子育て運動を事例に④考察	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第10回	地域社会におけるボランティア活動 ～韓国農村地域教育共同体を事例に①実践の概要	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第11回	地域社会におけるボランティア活動 ～韓国農村地域教育共同体を事例に②地域社会の実態・課題	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第12回	地域社会におけるボランティア活動 ～韓国農村地域教育共同体を事例に③学習過程・意識変容、考察	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第13回	レポートの発表①、講評の記入	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。 (90分)
担当教員			
第14回	レポートの発表②、講評の記入	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。 (90分)
担当教員			
第15回	講評の共有 まとめ～グループワーク	授業のテーマについて調べる。 (90分)	学習内容を振り返り、まとめる。 (90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート60%、リアクションペーパー30%、授業参加の態度10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 生涯教育					
科目名		生涯学習支援論				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」と「地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、学習を支援するということはどういうことなのか。グループワークによる事例検討を通して学ぶことを目指す。共同学習、子育てネットワーク実践等を事例に住民の学習過程を分析することで、学習内容と意識変容、支援の在り方について理解を深める。さらに学習が地域づくりへと展開するための支援の内容・方法を検討する。その際、社会教育行政、社会教育施設、社会教育職員、社会教育士の役割、NPO・市民組織の可能性について議論する。

到達目標

- ・学習者の多様な特性を理解し、効果的な学習支援内容、方法を説明できる。
- ・学習プログラムの企画・実施について、その構造と手法を説明できる。
- ・参加型学習の手法とファシリテーション技法について説明できる。

授業の方法

配布印刷物と視聴覚メディアを活用しながら講義形式ですすめる。後半は講義で学んだ参加型学習やファシリテーション技法を用いた学習プログラムの実施に取り組む。

ICT活用

Google classroom、Google formを用いた双方向授業を行う。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

市民活動として行っている子育て支援に関連する団体運営、学びの場づくり等でのコーディネーター、ファシリテーター経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom、Google formを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、生涯学習支援の意義	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第2回	学習者の理解①子ども、若者の生涯学習支援	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第3回	学習者の理解②成人の生涯学習支援	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第4回	学習者の理解③高齢者の生涯学習支援	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第5回	学習者の理解④障がい者の生涯学習支援	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第6回	学習プログラムの企画・実施① ～社会教育計画と学習プログラム	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第7回	学習プログラムの企画・実施② ～学習プログラムの構成要素	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第8回	学習プログラムの企画・実施③～学習プログラム編成の実 際・・・家庭教育支援	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第9回	学習プログラムの企画・実施④～学習プログラム編成の実 際・・・子どもの育ちを支える	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第10回	学習プログラムの企画・実施⑤～学習プログラム編成の実 際・・・高齢者の学習支援	授業のテーマについて準備を行 う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第11回	学習プログラムの企画・実施⑥～学習プログラム編成の実 際・・・障がいのある若者の学習支援	授業のテーマについて準備を行 う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第12回	参加型学習とファシリテーション①～ワールドカフェ、ラベ ルワーク	授業のテーマについて準備を行 う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第13回	参加型学習とファシリテーション②～アサーティブトレーニング、フィールドワーク	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第14回	参加型学習とファシリテーション③～シンポジウム、パネルディスカッション、フォーラム	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	学習プログラムの企画書 40% 授業内課題の達成度 30% リアクションペーパー 30%
その他	0	
教科書		
なし。適宜、資料を配布する。		
参考文献		

清國祐二『生涯学習支援論』ぎょうせい
高井正・中村香『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 生涯教育					
科目名		社会教育経営論				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考力・判断力・表現力)」と特に関係し、地域社会における教育の役割を理解するための科目である。

授業の概要

本科目は、グローバル化、人口減少や格差の拡大等の課題が山積する現代社会において、地域の再生や持続に向けた社会教育への期待が高まる中、企業や非営利セクター、地域住民等、多様な主体と連携・協働しながら、学習成果を地域課題の解決につなげていくため、今日的な課題の把握、社会教育行政と地域振興、社会教育施設の経営戦略、社会教育推進のためのネットワークづくり、行政組織のマネジメント等、社会教育経営に関する専門的な学びの場を提供し、社会教育に関わる職務遂行に必要な基礎的な資質と知識・技能の修得を目的としている。

到達目標

- ①社会教育経営に関する5つの要素について説明できる。
 ②地域課題の解決に向けて、限られた資源と時間を効果的に活用した社会教育計画等の意義を説明できる。
 ③社会教育事業等に伴うリスクを予測・回避・対処する方法を説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントや動画、配布資料等による説明・解説を行うとともに、気づきや学びが深まるよう、グループや個人のワークを取り入れる。

ICT活用

- ・プレゼンテーションソフトや動画を活用した説明を行う。
- ・Google classroom、Google form等を活用して、受講生の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

道立生涯学習推進センターや国立青少年教育施設等の教育行政勤務の中で、社会教育事業の企画・運営をはじめ、市町村教育委員会、学校や社会教育関係団体へ指導・助言する経験を有している。これを生かし、学習プログラムの在り方等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google formを活用し、気づきを整理する。
- ・前時の気づき等について、受講生同士の意見交換やコメントの時間を設ける。
- ・提出を要する課題は、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション なぜ社会教育に「経営」が必要なのか(社会教育経営の5つの視点)について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	社会教育行政の仕組みと法制度 社会教育法、生涯学習振興法等の関連法令等について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第3回	コンセプトマネジメント① 何をやるのかではなく、なぜやるのか、地域における社会教育の存在意義を言語化する。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第4回	コンセプトマネジメント② 地域の特性を活かした戦略(教育計画や社会教育計画等)の策定意義や手順等について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第5回	コンセプトマネジメント③ 地域の特性を活かした戦略(教育計画や社会教育計画等)へ落とし込むための現状の分析方法等について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第6回	ヒトのマネジメント① 行政組織やスタッフのモチベーション管理、チームビルディングについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第7回	ヒトのマネジメント② 地域人材の発掘やボランティアコーディネート、多様な主体(首長部局・NPO・企業等)とのネットワーク構築について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第8回	時間のマネジメント 社会教育事業や業務のスケジュール管理、業務処理の効率化と優先順位の付け方(プロジェクト管理)について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第9回	資源(リソース)・マネジメント① 社会教育施設の予算の仕組みや費用対効果の考え方、指定管理者制度等について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第10回	資源(リソース)・マネジメント② 施設・設備の維持管理と有効活用(ファシリティ・マネジメント)や環境への配慮などについて理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第11回	資源(リソース)・マネジメント③ SNSやメディアを活用した広報戦略、社会教育事業におけるDXの等、新たな学習資源の開発について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	リスクマネジメント① 体験活動における事故防止と安全管理マニュアルの整備について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第13回	リスクマネジメント② クライシスマネジメントやコンプライアンス、ハラスメント防止について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第14回	ふりかえりとまとめ1 小テストを行うとともに、グループごとに講義での学びや気づきをふりかえり、理解を深める。	これまでの講義資料やノート、課題を読み直し、授業に望む(90分)。	
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ2 レポートを発表し、得られたフィードバックから学びや気づきをさらに深める。	これまでの講義資料やノート、課題を読み直し、授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①授業外レポート1回 30% ②授業内の提出物 30% ③小テスト1回 30% ④授業の参加態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

- ・生涯学習・社会教育行政必携 令和6年版 生涯学習・社会教育行政研究会 編集 第一法規出版
- ・社会教育経営論 浅井 経子 編集代表 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
- ・社会教育計画策定ハンドブック～計画と評価の実際 平成24年3月 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
- ・非営利組織の経営 P.F.ドラッガー 著 上田惇生 訳 ダイヤモンド社
- ・その他適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

PCの持参を必須とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域教育					
科目名		コミュニティ教育論Ⅰ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。「コミュニティ教育論Ⅱ」へとつながる科目である。

授業の概要

本科目では、コミュニティの存在における意義・意味、現代社会における役割等について、教育学の観点から学ぶ。基礎的な知識にはじまり、場合によっては事例を挙げながらより深い理解を促す。履修者は、自らが地域社会の一員であることを踏まえ、コミュニティを通じた他者との関わりを具体的にデザインするための素養を身につける。

到達目標

- (1)コミュニティ教育の課題について説明できる。
 (2)暮らしの中での学習の論理について説明できる。
 (3)暮らしをつくり変える社会運動における学びの論理を説明できる。
 (4)コミュニティ教育との関わりで社会教育施設が有する可能性や課題を指摘できる。

授業の方法

講義では映像を含む資料を提示し、講義主題との関連を説明する。その後に小グループに分かれて各回の講義主題について検討し、グループごとに発表する。最後に教員から総評を行う。

ICT活用

Google classroomで資料を共有し、全体討議の際にGoogle formを使用する場合がある。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

講義内で発表に対するコメントを示すとともに、個別レポート提出後に全体に対し課題に対する解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①講義全体の主題及び進め方について説明する。 ②地域づくりにおいて求められる教育機能について、グループ討議によって検討する。 ③北海道内の地域づくりに関するインタビュー動画をもとに地域づくりにおいて求められる教育機能を検討する。 ④以上を踏まえてこの講義全体に関わる課題を確認する。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	地域づくりと教育の関連についての仮説的理解をまとめる。(60分)
担当教員			
第2回	地域づくりにおいて求められる教育機能を、戦前から戦後にかけての学校の歴史に関する資料映像を用いて、学校教育との対比で検討する。生活と学習の関連、学習者の意識変化、学習支援者の役割、カリキュラム構成等の点に即して、二つの教育概念の間の差異について検討する。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	教育の二つの概念について整理する。(60分)
担当教員			
第3回	コミュニティ教育は暮らしの場において展開する教育である。その特質を理解するために、人間形成に及ぼす作用を検討したうえで、形成と教育の関連と区別について検討する。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	形成と教育の区別について整理する。(60分) 課題レポート(1)をまとめる。課題はコミュニティ教育における教育概念について。(300分)
担当教員			

第4回	課題レポート(1)について、各自が発表する。発表をもとに地域づくりにおいて求められる教育機能について、中間的なまとめを行う。	課題レポート(1)を完成させ、持参すること。その上で、これまでの授業内容についての疑問点を整理しておく。(60分)	地域づくりにおいて求められる教育の特徴について整理する。(60分)
担当教員			
第5回	この回からは暮らしの中での学びと人間形成について検討する。地域の伝統産業を取材した映像資料をもとに、仕事を通じた人間形成の論理を探る。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	地域を支えた産業における人間形成と地域づくりの関連についてまとめる。(60分)
担当教員			
第6回	人間形成にとって地域文化が持つ意義を北海道・二風谷の事例をもとに検討する。アイヌ民族の文化的アイデンティティを育む実践を紹介した映像資料をもとに、地域づくりと文化との関連を考える。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	地域文化の継承・発展に関わる活動が人間形成にとって有する意義についてまとめる。(60分)
担当教員			

第7回	地域生活の破壊に対抗する住民の運動を事例に取り上げ、その運動の中での学習の特徴を検討する。近代化過程における地域の再編に対する住民の主体的対応が地域づくりにとって持つ意義について考える。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	住民運動における学習の特徴と意義についてまとめる。(60分)
担当教員			
第8回	都市部における社会資本・社会的共通資本の不足に対抗する住民運動として、保育所づくり運動を取り上げ、その運動における学習の展開過程と地域づくりの課題が意識される論理について検討する。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	保育所づくり運動における住民の意識変化についてまとめる。(60分)
担当教員			
第9回	社会的に排除された人々を包摂する地域づくりの課題について、地域福祉の実践事例(麦の郷)に即して検討する。ネットワークを形成しながら地域課題を解決する社会的企業が地域づくりについて持つ意義について考える。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	共同作業所から出発した麦の郷が地域づくりの担い手になっていった理由についてまとめる。(60分) 課題レポート(2)をまとめる。課題は、地域の人間形成力を高める住民の学習の特徴について。(300分)
担当教員			

第10回	課題レポート(2)を各自が発表する。発表をもとに地域の人間形成力を高める学習のありかたについて、中間的なまとめを行う。	課題レポート(2)を完成させ、持参すること。その上で、第5－9回の授業内容についての疑問点を整理しておく。(60分)	地域の人間形成力を高める学習のありかたについて整理する。(60分)
担当教員			
第11回	ここからは住民自治と地域づくりの関係について考える。地域生活のインフラである医療について、その在り方を問いながら、住民と共に再構築する実践事例(秋愛知県・南医療生協)に即して、暮らしを支える地域づくりの課題について検討する。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	南医療生協の取り組みの特徴についてまとめる。(60分)
担当教員			
第12回	住民自治を推進するために求められる社会教育の課題と方法について検討する。この回では公民館における健康学習から地域づくりが展開した事例を取り上げ、公民館実践の可能性について考える。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	住民自治と公民館実践の関連について整理する。(60分)
担当教員			

第13回	住民が協働で創造することを重視したニュー・ミニユシバリズムの実践について、国内外の事例を基に、その意義と可能性を検討する。自治体経営における効率性を規制する公共性を構築する課題について考える。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	ニュー・ミニユシバリズムの特徴について成立する。(60分)
担当教員			
第14回	新しい働き方に基づく協同組合である労働者協同組合の実践に即して、社会的連帯経済の実現に向けた取り組みが住民自治・地域づくりにとって持つ意義を検討する。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	労働者協同組合の特徴について整理する。(60分) 課題レポート(3)をまとめる。課題は、地域づくりと住民自治の関連について。(300分)
担当教員			
第15回	課題レポート(3)を各自が発表する。発表をもとに住民自治を進めるためのコミュニティ教育の課題を検討する。	シラバスを読んで疑問点を整理しておく。(60分)	地域づくりとコミュニティ教育の現代的課題と今後の学習課題について整理する。(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題提出(70%) グループ活動への参加度合い(30%)
その他	0	
教科書		
なし。授業資料を配布する。		
参考文献		

各回の課題に関連する文献を授業中に紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域教育					
科目名		コミュニティ教育論Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、「コミュニティ教育論Ⅰ」で得た学びを踏まえた内容を扱う。たとえば、我が国をはじめとする人口減少社会において重要な要素の一つとされる「社会関係資本」と訳されるソーシャル・キャピタル等についての理解をさらに深める等、履修者はコミュニティの存在が実際の地域社会に与える効用について観察し、分析できる能力を身につける。

到達目標

- (1)住民が地域に関心を持ち、地域づくりの課題を意識するようになる条件について説明できる。
 (2)地域が直面する現代的課題(外国人との共生や観光振興など)との関わりで、学習・教育実践の課題を分析できる。
 (3)地域を創る学びを組織し、促進するための支援者の課題について論じることができる。

授業の方法

事前に各回の講義主題を提示し、事前学習を求める。講義では映像を含む資料を提示し、講義主題との関連を説明する。その後に小グループに分かれて、各自が事前に検討した内容と資料に基づき考察した内容を総合し、グループごとの意見を集約する。最後に教員から総評を行う。

ICT活用

Google classroomで資料を共有し、全体討議の際にGoogle formを使用する場合がある。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

講義内で発表に対するコメントを示すとともに、個別レポート提出後に全体に対し課題に対する解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	講義の主題と構成について紹介する。「郷土意識」を振り返りながら、それを住民の間の対話と協働によって自治的に作りだすための課題について検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	「郷土意識」についての見方を整理する。(60分)
担当教員			
第2回	住民は常に地域を意識しているわけではない。しかし、地域をつくるのは住民である。この回では住民の日常意識の在り方について整理する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	住民の日常意識の特徴について整理する。(60分)
担当教員			
第3回	住民が地域を意識するための条件を検討する。小樽運河保存運動を取り上げ、運動の背後にあった共通の地域意識(集合的記憶)について検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	小樽運河運動に関わった人々の共通の思いを整理する。(60分)
担当教員			

第4回	住民の共通の記憶は時間とともに薄れていくが、何らかの働きかけによって想起され継承される。開発が進む地域での共通の記憶の継承の可能性や方法について多摩ニュータウンでの取り組みを参考に考える。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	共通の記憶の継承の方法について整理する。(60分) 課題レポート①に取り組む。課題は、住民の日常意識と郷土意識の関連について。(300分)
担当教員			
第5回	課題レポート①について、各自が発表する。その内容を踏まえてこれまでの授業内容を振り返る。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	住民の日常意識と郷土意識の関連について、再度整理していく。(60分)
担当教員			
第6回	ここからは自らの日常意識を住民が振り返り、暮らしと地域の価値を意識化していく学習過程に焦点を当てる。この回では、「地元学」と呼ばれる実践方法を紹介する。そのうえで、東近江市の図書館活動を事例に、地域の物語を住民自身が再編集する実践について、その意義を検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	東近江市立図書館の実践の意義についてまとめる。(60分)
担当教員			

第7回	日常意識の振り返りでは、「よそ者」が果たす役割も大きい が、必ずしもすべての「よそ者」が有効な役割を担うとは限 らない。その理由について事例(地域おこし協力隊とうらほ ろ楽舎)をもとに検討し、実践を左右する条件について考 える。	シラバスを読み、疑問点を整理 しておく。(60分)	紹介する事例の間の違いを整 理する。(60分)
担当教員			
第8回	住民とよそ者との間だけではなく、住民同士の間でも摩擦 や対立が起きることは避けられない。それらを乗り越えるに は自由で開かれ、排除性がない対話的空間が必要になる 。その空間を非決定空間として把握し、それを位置づける 必要性和意義について、被差別部落の解放運動を事例に して検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理 しておく。(60分)	紹介するNPOの取り組みの特徴 をまとめる。(60分)
担当教員			
第9回	非決定空間を地域社会に埋め込む上で、公民館などの社 会教育施設は大きな役割を担う。国立公民館の多文化共 生に関わる取り組みを参照しながら、共生社会を創るため の学びあいを産み出す場の在り方について検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理 しておく。(60分)	紹介する公民館の実践の意義 をまとめる。(60分)
担当教員			

第10回	アートは想像の領域を拡張することによって、日常意識を省察する可能性を産み出すと同時に、課題意識や希望を産み出す活動でもある。コミュニティ・アートやソーシャル・エンゲイジド・アートと呼ばれる実践に即して、その可能性を検討する。神戸市の事例と学校で展開するアート実践の事例を紹介する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	コミュニティ・アートがもつ可能性をまとめておく。(60分)
担当教員			
第11回	非決定空間を地域で生み出す仕組みの一つである労働者協同組合の取り組みを紹介する。全国の事例とともに、苫小牧市・恵庭市の事例も検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	労働者協同組合の可能性についてまとめる。(60分) 課題レポート②に取り組む。課題は、居場所づくりの実践が地域づくりにとってのもつ意義について。(300分)
担当教員			
第12回	ここからは、これまでの地域づくりへのアプローチが現代の地域課題の解決にとって持つ意義を確認していく。地域は多様な価値観を持つ人々の集まりであり、多様性を前提とし尊重しながら、同時に集合的な価値(必要性)を見出すことが必要である。多様な人々が多様なままに「共生」するための課題を検討する。ここでは滋賀県において循環型地域経済への挑戦を続けている菜の花プロジェクトの実践を事例に検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	菜の花PJの意義についてまとめる。(60分)
担当教員			

第13回	「共生」の重要な課題の一つは社会的排除の克服である。育成就労性(外国人技能実習生)の事例をもとに、地域共生社会の課題を恵庭の事例に即して検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	外国人との共生の課題についてまとめる。(60分)
担当教員			
第14回	現代の地域づくりにおいて、観光は大きなウェイトを持つ。地域外の人々との交流が増大する中で、共生の在り方も視野を広げて考える必要がある。地域内の共生を踏まえて地域外の人々との共生の課題について、観光を切り口に検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	事例を基に観光が地域学習にとって有する意義についてまとめる。(60分) 課題レポート③をまとめる。課題は、共生社会を創るための課題について。(300分)
担当教員			
第15回	課題レポート③を各自が発表する。その内容を踏まえて、コミュニティ教育・地域社会教育実践の課題について検討する。	シラバスを読み、疑問点を整理しておく。(60分)	発表された意見を踏まえてコミュニティ教育・地域社会教育実践の課題について改めて整理する。(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題提出(80%) グループ討議への参加状況(20%)
その他	0	
教科書		
使用しない。講義資料を毎回配布する。		
参考文献		

関連する文献を講義中に紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域教育					
科目名		こども家庭支援論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

本科目は、こども発達学科のディプロマポリシー「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている。(知識・技能)」、「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。「こども家庭支援の心理学」と関連し、「子育て支援」へとつながる科目である。また、地域未来学科のディプロマポリシー「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、保育士が行う家庭支援の原理を学ぶ。なぜ子育て家庭への支援が必要なのか。保育所に入所している子どもの保護者だけではなく、地域の子育て家庭への支援を含めた包括的な支援の在り方について理解を深める。とりわけ保育の専門性を活かした子ども家庭支援とはどのようなことなのか、その意義と基本の理解を深める。また、地域における子育て家庭への支援体制や支援施策、次世代育成支援施策についても学ぶ。後半は、保育士が行う相談等の子ども家庭支援の内容、関係機関との連携について学ぶ。

到達目標

- ・子ども家庭支援の意義と役割を説明できる。
- ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援について説明できる。
- ・子ども家庭支援にかかわる体制や施策について説明できる。
- ・保育所を利用している家庭、地域の子育て家庭、要保護児童等の家庭に対する相談や支援のあり方を説明できる。

授業の方法

テキスト・プリントを使用した講義形式で行う。必要に応じて映像資料を用い、理解を深める。適宜、授業内でwebによるリアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。子育て家庭に対する相談や支援のあり方について、第2回と第11回にグループワークを行い、理解を深める。

ICT活用

Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

子育て支援組織の実践者としての経験を活かし、理論と実践を往還する指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で配布するリアクションペーパーに記入された受講生の意見・感想等を共有、フィードバックする時間を設ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	子ども家庭支援とはなにか 1.子ども家庭支援とは 2.子ども家庭支援が必要とされる背景 3.子育てを取り巻く環境をどう捉えるか	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第2回	家庭生活の現在 1.家族構造の変化と子育て支援 2.「家族」とは何か 3.現代のライフスタイルと子育ての悩み 4.家族と子育て 5.子育て観の変容と現代の子どもが置かれている状況 グループワーク	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第3回	求められる保育、子ども家庭支援の内容 1.多様な保育・支援ニーズへの対応した施策と事業 2.気になる子ども、障害のある子どもとその家庭への支援	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			

第4回	保育者の専門性を活かした子ども家庭支援のあり方とその意義 1.保育者の3つの専門性 2.子ども家庭支援のあり方と意義	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第5回	保育者に求められる基本的役割と姿勢 1.保護者の子育て実践のための支援 2.子どもの理解(子どもの見方)の共有 3.相談支援の実際(相談, 助言, 情報提供, 行動見本の提示等) 4.受容的関わり, 自己決定の尊重, 秘密保持等(バイステイクの7原則等) 5.支援に生かされる保育技術 6.地域の社会資源の活用と自治体・関係機関との連携	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第6回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源 1.保育所保育指針における社会資源との連携 2.子ども家庭支援の対象と関係機関の特徴	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			

第7回	子育て支援施策と次世代育成支援施策の推進 1.制度のあらまし 2.子ども・子育て支援新制度 3.市町村子ども家庭支援指針(ガイドライン) 4.子育て支援・次世代育成支援施策の現状と課題	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第8回	子ども家庭支援の内容と対象 1.妊娠期からの切れ目のない支援 2.相談支援 3.情報提供 4.保育所等を利用している家庭への支援 5.地域の子育て家庭への支援	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第9回	子ども家庭支援の内容と対象 1.妊娠期からの切れ目のない支援 2.相談支援 3.情報提供 4.保育所等を利用している家庭への支援 5.地域の子育て家庭への支援	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			

第10回	保育所・こども園・幼稚園を利用する子ども家庭支援 1. 保護者に対する支援 2. 保護者や家庭が抱える多様な支援ニーズへの気づき 3. 保育施設の特性を生かした支援と方法	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第11回	保育所・こども園・幼稚園を利用する子ども家庭支援 1. 保護者に対する支援 2. 保護者や家庭が抱える多様な支援ニーズへの気づき 3. 保育施設の特性を生かした支援と方法 グループワーク	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第12回	要保護児童等とその家庭に対する支援 1. 要保護児童とは 2. 虐待の予防と対応 3. 要保護児童と家庭への支援 4. 社会的養護一乳児院・児童養護施設・里親一 5. 児童虐待予防に向けた支援の課題と展望	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			

第13回	要保護児童等とその家庭に対する支援 1.要保護児童とは 2.虐待の予防と対応 3.要保護児童と家庭への支援 4.社会的養護一乳児院・児童養護施設・里親一 5.児童虐待予防に向けた支援の課題と展望	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第14回	保育の場における子ども家庭支援の現状と課題 1.保育の場における子ども家庭支援の現状と課題 2.保育者の協働 3.保護者との協働、子育て	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第15回	まとめ	14回までの授業を教科書を参考にしながら振り返る(90分)	こども家庭支援論の到達目標と自己の理解について振り返りを行う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート(60%)、リアクションペーパー(30%)、授業参加の態度(10%)
その他	0	なし
教科書		
太田光洋 編著ほか「保育ニュー・スタンダード 子ども家庭支援論—保育を基礎とした子ども家庭支援—」、同文書院		
参考文献		

令和7年版「こども白書」、こども家庭庁

履修条件・留意事項等

授業内でweb配布するリアクションペーパーは、成績評価の対象となるものであるため、必ず提出のこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域教育					
科目名		こども家庭支援の心理学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						
授業の位置づけ							
本科目は、こども発達学科のディプロマポリシー「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。「保育者論」「乳幼児心理学」「こども家庭支援論」「子育て支援」に関連する。また、地域未来学科のディプロマポリシー「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。							
授業の概要							
子どもは社会に生まれ、社会の中で育つ。その中で子どもが最初に出会う最も身近な社会が家庭である。本科目では、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解すること、さらに家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等について発達の理解する。近年の社会の変化に伴う子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解し、包括的にとらえる視点を習得する。							
到達目標							

- 1心理学の基礎的な知識を生涯学習の観点から習得し、乳幼児期の重要性について各時期への移行と発達課題などを挙げることができる。
- 2家族・家庭の意義と機能について発達をふまえて理解し、子どもと家族を包括的に捉える視点について説明できる。
- 3子育て家庭を中心とした現代社会の課題を述べることができる。
- 4子どもの精神保健と課題を述べることができる。

授業の方法

教科書(または動画)を用い、講義形式ですすめる(1~15回目)
各回の一部をグループ学習にあてる。家庭支援に関する課題について、グループごとにプレゼンテーションを行う(2~14回目)

ICT活用

webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

子育て支援組織の実践者としての経験を活かし、理論と実践を往還する指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Webアプリを活用して意見、感想へのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	乳児期の発達の特徴と課題	教科書の該当ページを読む(90分)	教科書の復習(90分)
担当教員			
第2回	幼児期前期の発達の特徴と課題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第3回	幼児期後期の発達の特徴と課題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			

第4回	児童期の発達の特徴と課題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第5回	青年期の発達の特徴と課題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第6回	成人期・老年期の発達の特徴と課題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			

第7回	子どもの生活・生育環境とその影響 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第8回	子どもの心の健康に関わる問題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第9回	子どもの心の健康に関わる問題 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			

第10回	ライフコースと仕事・子育て ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第11回	多様な家庭とその理解 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第12回	多様な家庭とその理解 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			

第13回	家族・家庭の意義と機能 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	グループワークの準備と各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第14回	親子関係・家族関係の理解 ・グループワーク	教科書の該当ページを読む(90分)	各グループから提示された課題について理解を深める(90分)
担当教員			
第15回	子育ての経験と親としての育ち まとめ	教科書の該当ページを読む(90分)	到達目標を確認し振り返りを行う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート40%・発表30% 授業内のリアクションペーパー30%
その他	0	なし
教科書		
芝野松次郎ほか『事例で楽しく学ぶ 子ども家庭支援の心理学』中央法規出版		
参考文献		

父親ネットワーク北海道『シングルファザー ハンドブック』2018年、
リンク <https://fathers-net-hokkaido.org/>

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域教育					
科目名		教育行政学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる。(思考力・判断力・表現力)」と特に関係し、地域社会における教育の役割を理解するための科目である。

授業の概要

本科目は、法令や答申、国会や地方議会における議論等の文書資料と教育行政機関への聞き取りなどから、教育委員会制度や指定管理者制度、独立行政法人等の教育行政の仕組みや制度、教育行政と学校現場の関係性、教育予算の執行、人事管理の在り方、コンプライアンス、教育行政の現状、問題点とその背景や課題等についての理解を深めることを目的とする。あわせて、教育行政公務員を志す履修者に対して、公文書の仕組みや電子メールの作成等の実務に係る基本的な知識の理解と技能の獲得を目指す。

到達目標

- ①教育行政の仕組みや組織の課題について説明できる。
- ②様々な教育課題を理解し、解決に向けた取組を企画することができる。
- ③原則を理解し、ルールに則った公用文を作成することができる。

授業の方法

・パワーポイントや動画、配布資料等による説明・解説を行うとともに、気づきや学びが深まるとともに、実践的な技術が獲得できるよう、ケーススタディやロールプレイ、グループ協議等を取り入れる。

ICT活用

- ・プレゼンテーションソフトを活用した説明や事例研究を行う。
- ・Google classroom、Google form等を活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

道立生涯学習推進センターや国立青少年教育施設等の教育行政勤務の中で、社会教育事業の企画・運営をはじめ、市町村教育委員会、学校や社会教育関係団体へ指導・助言する経験を有している。これを生かし、学習プログラムの在り方等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google formを活用し、気づきや考えを整理する。
- ・講義での気づきについて、受講生同士の意見交換やコメントの時間を設ける。
- ・提出を要する課題は、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション・地方自治と教育行政 講義の進め方や評価の観点等について理解を深めるとともに、教育委員会制度の仕組みや現状と課題について学ぶ。	教育・学習・学びについて調べ、自分なりのイメージを持って授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第2回	教育委員会制度について 教育委員会制度や首長と教育委員会との関係についての理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第3回	義務教育の構造 学習指導要領の法的拘束力や教科書検定・採択の仕組みについての理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第4回	学校組織マネジメントと行政事務職の役割 学校事務の職務や役割等についての理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協 議をもとに、気づきを整理する (90分)。
担当教員			
第5回	中間まとめ1 教育委員会事務局職員の職務や課題等について意見交 流し、考えを整理する。	これまでの講義資料やノート、課 題を読み直し、授業に望む(90 分)。	講義資料やノート、グループ協 議をもとに、気づきを整理する (90分)。
担当教員			
第6回	教育格差と貧困 福祉行政と教育行政の連携の現状と課題について理解を 深める。	授業のテーマについて調べて 授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協 議をもとに、気づきを整理する (90分)。
担当教員			

第7回	学校統廃合・跡地利用について 学校施設の老朽化と公共施設マネジメントの在り方について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第8回	教育DXと情報セキュリティ GIGAスクール構想の現状と課題について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第9回	危機管理とコンプライアンス いじめ重大事態、教員の不祥事、体罰等への対応方策について理解を深める。	授業のテーマについて調べて 授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第10回	中間まとめ2 教育行政を巡る諸課題について意見交流し、考えを深める。	これまでの講義資料やノート、課題を読み直し、授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第11回	行政実務1 一般的なビジネスマナーや職場内の人間関係について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第12回	行政実務2 公用文の作成に関する基本的事項について理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			

第13回	行政実務3 窓口対応等の行政サービスやクレーム対応についての理解を深める。	授業のテーマについて調べて授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第14回	行政実務4 予算要求の一般的なプロセスや地方議会についての理解を深める。	これまでの講義資料やノート、課題を読み直し、授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ 小テストのほか、講義での学びや気づきをふりかえり、理解を深める。	これまでの講義資料やノート、課題を読み直し、授業に望む(90分)。	講義資料やノート、グループ協議をもとに、気づきを整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①講義中の成果物・課題 50% ②小テスト1回 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

- ・新訂第二版 公用文の書き表し方の基準(資料集)文化庁編集 第一法規株式会社
- ・令和時代の公用文～書き方のルール・小田順子・学陽書房
- ・その他適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

PCの持参を必須とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域創造					
科目名		地域商業概論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、小売業を起点にした地域づくりを批判的に考察し、市場経済・贈与・互酬の理論を踏まえ、持続可能な地域経済のモデルを分析する。商業の公共性や地域社会の相互作用を探究し、実践的な課題解決能力を養う。地域資源を活かす価値創造の視点を培い、持続可能な社会発展に貢献する理論とスキルを獲得する。ディプロマ・ポリシーの地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる、幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できることと関連する。

授業の概要

本科目では、小売業を起点としたまちづくりの全体像を広く理解する。具体的には、小売業起点のまちづくりの系譜や背景、行政の役割等を学ぶ。その上で、まちの客観的な現実をみつめるためのデータや、データだけでは捉えきれないまちの資源、まちづくりの主体と事業を支える仕組み等について学ぶ。これらを学んだ上で、防災・減災、観光、高齢者・子育て世代のためのまちづくり等に加え、商いの場と公共の場の両立を求められる商店街組織の実態や取組、そして、学生によるまちづくりをはじめとした、様々な事例を通して、まちづくりの理論と現状の理解を目指す。

到達目標

本科目を通じて、受講生は小売業を起点としたまちづくりの全体像を捉え、地域経済における商業の役割とその変遷を分析できるようになる。市場経済の構造を理解し、贈与や信用、負債といった異なる経済の枠組みを比較することで、地域商業の多様なあり方を探求できる。さらに、商業と社会の関係性を考察し、持続可能な経済の在り方について理論と事例の両面から検討できる。最後に、得られた知見をもとに、現代の商業と地域社会の未来について自らの視点を構築し、論理的に議論を展開できるようになる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、最終成果発表を実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職や、全国のまちづくり活動等での実務経験を活かして、実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、価値の概念とその意義を概観する。	「価値論」の序章を読み、その概念的基盤を批判的に分析すること。本書が「価値」をどのように定義しているのか、またその議論の背後にある認識論的前提を考察する。価値の創出に関する経済学的・哲学的・人類学的な異なる視点を検討し、これらの理論の限界と影響を問う批判的な問いを作成すること。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	価値を語る方法を整理し、理論的枠組みを検討する。	「価値論」の第1章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	交換理論の変遷と価値形成のプロセスを考察する。	「価値論」の第2章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	行為の価値とマルクス主義的視点を整理する。	「価値論」の第3章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	価値のフェティシズムと象徴的構造の役割を探る。	「価値論」の第3章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	富と権力、貨幣のフェティシズムの関係を考察する。	「価値論」の第4章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	ワンパムとイロコイ社会の構造と価値観を分析する。	「価値論」の第5章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	贈与経済と交換の倫理をめぐる理論を整理する。	「価値論」の第6章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	贈与と社会契約、ポトラッチの経済的意義を考察する。	「価値論」の第6章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第10回	フェティッシュの問題と経済的象徴の役割を探る。	「価値論」の第7章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第11回	これまでの議論を整理し、主要概念の相互関係を検討する。	「価値論」の第1-7章を読み、授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	既存の市場と国家の枠組みを超える経済の可能性を探る。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第13回	学生による最終発表テーマの設定と、資料作成の方向性について議論する。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学生によるプレゼンテーション①と、発表内容をめぐるディスカッションを実施する。	発表者:発表準備を実施し、発表資料を期日までに提出する。 発表者以外:事前に発表者のスライドを読み込み、質問を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	学生によるプレゼンテーション②と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	発表者:発表準備を実施し、発表資料を期日までに提出する。 発表者以外:事前に発表者のスライドを読み込み、質問を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	最終成果発表
その他	40	事前課題提出・授業態度や意欲等
教科書		
価値論/デヴィッド・グレーバー/以文社		
参考文献		

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

初回授業時に説明する。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域創造					
科目名		人口減少時代の対話と合意形成				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	松田 祐						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、人口減少社会に起因する労働力不足等の諸課題に際し、他者との協働が日頃求められる現況を踏まえ、自らと相容れない考え(方)を持つ他者との共存の在り方について考える。共存・共生に必要とされる有効なコミュニケーションや合意形成、関係調整、交渉等を円滑に行える諸能力について触れる。講義を通して、考え(方)の異なる他者とのより良い共存関係を目指すことを念頭に、コミュニケーションや合意形成、交渉における基本メカニズムをはじめ、実践的なアプローチ、実際事例について学ぶ。

到達目標

①人口減少時代における対話や合意形成、交渉等の必要性や重要性について説明できる。
 ②交渉の型や手法など諸要素や関連知識に触れ、実践的な事例において他者とのコミュニケーションを図り、問題解決や環境改善に導ける。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いたり、履修生間でのディスカッションを展開する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

民間企業や大学職員、地域における官学連携研究機関などの就業経験がある。地域と大学のよりよい関係性や官学連携などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜課すコメントシートを通して、知識の整理や派生的な知識の獲得を促す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業の進め方や評価基準等について説明する。	シラバスをよく読み、これまでに 得た知識や経験について整理 して授業に臨むこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (90分)
担当教員			
第2回	対話と合意形成について 限りあるリソースの選択と集中が求められる時代において、 他者との対話や合意形成の重要性について理解を深める。 また、人口減少時代における社会課題の論点をまとめた 文献の要約課題に対する解説を行う。	授業内での指示課題や指定課 題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (90分)
担当教員			
第3回	問題はなぜ起こるのか(1) 他者との間に起きる問題の本質について理解を深める。	授業内での指示課題や指定課 題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (90分)
担当教員			

第4回	問題はなぜ起こるのか(2) 他者との間に起きる問題の本質について理解を深める。また、人口減少時代における社会課題の論点をまとめた文献の要約課題に対する解説を行う。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	従来型の問題解決法を考える 従来の問題解決方法に触れ、他者との問題解決のプロセスについて理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	交渉による問題解決法を考える 交渉における2つのタイプについておさえ、協調、譲歩、妥協についての理解を深める。また、人口減少時代における社会課題の論点をまとめた文献の要約課題に対する解説を行う。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	協調的交渉で問題を解決する(1) 他者との「協調的交渉」における意義、手法、善後策などについて学び、日常的な事例を挙げながら実務的な活用を見据えた理解を進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	協調的交渉で問題を解決する(2) 他者との「協調的交渉」における意義、手法、善後策などについて学び、日常的な事例を挙げながら実務的な活用を見据えた理解を進める。また、人口減少時代における社会課題の論点をまとめた文献の要約課題に対する解説を行う。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	協調的交渉で問題を解決する(3) 前回に引き続き、他者との「協調的交渉」における意義、手法、善後策などについて学び、日常的な事例を挙げながら実務的な活用を見据えた理解を進める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	交渉・合意形成を実践する(1) これまでの学びを踏まえ、実事例を基に問題解決を目指したアプローチについて実践する。また、人口減少時代における社会課題の論点をまとめた文献の要約課題に対する解説を行う。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	交渉・合意形成を実践する(2) 前回は引き続き、これまでの学びを踏まえ、実事例を基に問題解決を目指したアプローチについて実践する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	交渉・合意形成を実践する(3) これまでの学びを踏まえ、実事例を基に問題解決を目指したアプローチについて実践する。また、人口減少時代における社会課題の論点をまとめた文献の要約課題に対する解説を行う。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	映像作品から交渉に触れる(1) 交渉を題材に扱った映像作品に触れ、作中の人物たちの考えや思い、立場について理解し、自分なりの解決像について模索する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	映像作品から交渉に触れる(2) 前回に引き続き、交渉を題材に扱った映像作品に触れ、作中の人物たちの考えや思い、立場について理解し、自分なりの解決像について模索する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	クロージング 講義全体を通して、対話や合意形成、交渉における重要なファクターについて改めて整理し、実際に活用できるような知見にするためにまとめを行う。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に取り組む姿勢(50%)、記述による提出物(50%)
その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

適宜、教員から指定または提供された、テーマやトピックに係る資料等

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域創造					
科目名		地域と文化				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、文化人類学の視点から、人間の経済行為と社会・文化の関係を探究する。贈与・互酬・消費等多様な経済形態を学び、社会構造の変容を考察し、地域経済の役割を分析、歴史・文化・資源の価値を理解し、持続可能な社会の実現を目指す。オルタナティブ経済の可能性を議論、地域課題の発見・解決する力を養う。ディプロマ・ポリシーの地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できるに関連する。

授業の概要

本科目では、まちづくりを構成する要素のひとつである、ひとや文化を広く理解する。具体的には、個人や社会、家族、コミュニティ、国家等の概念や、そのなりたち等を学ぶ。加えて、文化人類学等の概念の理解をおし、ひととひととのつながりについて理解する。これらの、日本社会をふくめた世界中の人々にあてはまる概念を学んだ上で、現代の日本社会における社会現象をとおして、日本社会がどのように位置づけられるかという、社会構造の分析に関する理論等を学習する。これにより、我々が日常で直面する様々な社会現象の理解を目指す。

到達目標

本科目では、受講生は、経済人類学の視点を用いて、経済行為が社会や文化の構造に与える影響を多角的に捉えることができる。市場経済、贈与経済、互酬経済といった異なる経済システムの特徴を把握し、それらが歴史的にどのように形成・変容してきたのかを説明することができる。また、経済活動を通じた社会関係や消費行動の特質を整理し、経済の枠組みが変化することで生じる社会的影響について論じることができる。さらに、経済の制度やそのオルタナティブな展開を踏まえ、現代社会における経済的営みを批判的に検討し、多様な視点から議論することができる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、最終成果発表を実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職や、全国のまちづくり活動等での実務経験を活かして、実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、地域・文化・経済の多様な視点等について概観する。	「経済人類学入門」の序章を読み、その主要な議論を批判的に検討する。著者が提示する理論的視点を特定し、それらが経済人類学の広範な議論にどのように貢献するかを考察すること。現代の経済システムへの応用可能性を検討し、批判的な問いを準備する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	経済人類学における「人間」概念と「経済」の定義を整理し、経済行為を文化的文脈において捉える視座を獲得する。これにより、以降の議論の理論的基盤を築く。	「経済人類学入門」の第1章を読み、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	「エコノミー」の歴史的・文化的イメージを分析し、経済学が成立する過程を批判的に検討することで、経済の学問的枠組みの相対性を理解する。	「経済人類学入門」の第2章を読み、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	人類学的に提示される「充足性の論理」と経済学的に前提とされる「希少性の論理」を比較し、資源観と生活戦略における文化的多様性を学ぶ。	「経済人類学入門」の第3章を読み、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	経済と社会の関係をめぐる理論的議論を整理し、形式主義と実体主義を架橋する視点を通じて、経済活動を社会的関係の中で理解する方法を考察する。	「経済人類学入門」の第4章を読み、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	経済行為における合理性の概念を再検討し、その文化的相対性や限界を考察することで、人間行動を一元的な合理性では説明できないことを理解する。	「経済人類学入門」の第5章を読み、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	文化が経済行為をいかに規定し、また経済実践を通じて再生産されるかを学び、経済人類学における文化概念の役割を理解する。	「経済人類学入門」の第6章を読み、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	人間社会が自然環境に適応してきた過程を検討し、エコロジーと文化進化の視点から経済行為の環境的基盤を理解する。	「経済人類学入門」の第7章を読み、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	贈与や互酬の仕組みを分析し、義務感や社会的連帯がいかに維持されるかを考察することで、経済行為の非市場的基盤を理解する。	「経済人類学入門」の第8章を読み、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第10回	人類学的・歴史的事例を通じて、分業と協業が社会秩序や経済的効率に果たす役割を学び、労働の組織化と社会関係の関連を理解する。	「経済人類学入門」の第9章を読み、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第11回	モノが持つ象徴的価値と、その社会的・時間的意味を考察することで、経済行為を超えたモノと人間の関係性を理解する。	「経済人類学入門」の第10章を読み、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	市場経済の拡大がもたらす倫理の変容を検討し、有償と無償の境界を分析することで、経済活動の規範的基盤を理解する。	「経済人類学入門」の第11章を読み、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第13回	社会的規範が崩壊する状況や資源が欠乏する状況における経済行為を分析し、危機下における人間行動の特質を理解する。	「経済人類学入門」の第12章を読み、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学生によるプレゼンテーション①と、発表内容をめぐるディスカッションを実施する。	発表者:発表準備を実施し、発表資料を期日までに提出する。 発表者以外:事前に発表者のスライドを読み込み、質問を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	学生によるプレゼンテーション②と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	発表者:発表準備を実施し、発表資料を期日までに提出する。 発表者以外:事前に発表者のスライドを読み込み、質問を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	最終成果発表
その他	40	事前課題提出・授業態度や意欲等
教科書		
経済人類学入門【理論的基礎】/鈴木康治/作品社		
参考文献		

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

本授業は、事前学習を前提としたディスカッション形式で進める。次回の授業範囲について配布する課題を、前日23:59までにGoogle Classroomへ提出することを推奨する。提出した課題は授業内ディスカッションにおいて活用し、また平常点において加点の対象とする。履修登録後のシラバスに関する申し立ては一切受け付けない。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域創造					
科目名		地域イノベーション論				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	熊野 稔、木村 俊昭						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの【知識・技能】

地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。

【思考・判断・表現】

幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。

授業の概要

地域イノベーションとは、地域の様々な課題を持続的発展のために解決していく革新的技術や仕組み、制度を意味する。

本科目では、地域づくりのイノベーションをハードとソフトに分けて理解する。地域創生、地域イノベーションの先進事例を学習して、各自の地域イノベーションのアイデア提言や提案も行う。レポート作成や発表を通じて実践的能力を培う。

到達目標

学生は地域の様々な課題を持続的発展のために解決していく革新的技術や仕組み、制度や先進事例を理解して実務で活かすことができる。

授業の方法

(オムニバス方式/全15回)
 (1 熊野 稔/8回) 各授業で演習シート提出
 都市・都市計画系として、大街区制度、地方都市中心部の再生等のほか、道の駅、まち中広場、ポケットパーク、産官学連携手法等様々な地域づくりのイノベーションを理解する。
 (2 木村 俊昭/7回)
 地域創生・SDGsを推進するための考え方や手法、ひと育て、まち育て等について、地域における先進事例に触れながら学ぶ。最終日に各自、地域課題をパワポを作成して発表する

ICT活用

映像やパワポ、演習等で活用

実務経験のある教員の教育内容

国家資格を有し地域コンサルや公務員の豊富な実務経験のある教員が現場や実務に役立つ授業の実施

課題に対するフィードバックの方法

質疑等に対応する

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	地域イノベーションとは何か、各自に問いながら解説。都市・都市計画系の先進事例を学ぶ	地域イノベーションや都市計画のカリキュラム上の予習をネット情報等を参考に学習する。90分	学習内容の復習や課題学習に取り組む。90分
担当教員	熊野 稔		
第2回	道路、道路交通系、道の駅等のイノベーション、先進事例を学ぶ	道路、道路交通系、道の駅等のイノベーション他、カリキュラム上の予習をネット情報等を参考に学習する。90分	学習内容の復習や課題学習に取り組む。90分
担当教員	熊野 稔		
第3回	緑地・公園系、ポケットパーク、地域イノベーション技術等の仕組みや先進事例を学ぶ	緑地・公園系、ポケットパーク、地域イノベーション技術等、カリキュラム上の予習をネット情報等を参考に学習する。90分	学習内容の復習や課題学習に取り組む。90分
担当教員	熊野 稔		

第4回	地域づくりの官民連携事業、複合化によるイノベーションの仕組み、先進事例を学ぶ	官民連携事業他、カリキュラム上の予習をネット情報等を参考に学習する。90分	学習内容の復習や課題学習に取り組む。90分
担当教員	熊野 稔		
第5回	観光論、回遊型まちづくり、観光まちづくり、新しいツーリズム等の仕組み・制度、先進事例等を学ぶ	観光論、回遊型まちづくり、観光まちづくり、新しいツーリズム等の仕組み・制度についてネット情報他を探索して事前学習。90分	学習内容の復習や課題学習に取り組む。90分
担当教員	熊野 稔		
第6回	人口減少化における学校まちづくり、廃校活用、空き家・空き店舗対策の仕組み、イノベーション事例を学ぶ	人口減少化における学校まちづくり、廃校活用、空き家・空き店舗対策の仕組み等について事前調査や学習を行う。90分	学習内容の復習や課題学習に取り組む。レポート作成等90分
担当教員	熊野 稔		

第7回	民間主導のエリアマネジメント、地域資源活用、SDGsのまちづくり等の制度や仕組み、先進事例等を学ぶ	民間主導のエリアマネジメント、地域資源活用、SDGsのまちづくり等の制度や仕組みの資料検索や事前学習を行う90分	レポート作成や課題学習に取り組む。レポート作成等90分
担当教員	熊野 稔		
第8回	総まとめ、レポート提出、確認テスト等を実施する	レポート作成と確認テスト準備90分	振り返り総復習 90分
担当教員	熊野 稔		
第9回	【食育】フードテックと「推し活」化する農業 特に新しい「食」の価値転換を扱うこととする。2020年代後半に入り、Z世代の消費行動は「価格・利便性」から「協働」「共創」「共感・ストーリー」へとシフトしている。2025年前後の消費者庁等の消費者調査では、「エシカル消費」と「推し活」の相関が顕著であり、特定の生産者や地域を継続的に支援する実践行動を確認できる。これは従来の「地産地消」を超え、「感情的地産地消」ともいうべき現象であろう。そこで、「食育」に関する「五感六育®+α」思考による地域創発を学び、習い、問い立てしたい。	【食育】フードテックと「推し活」化する農業についてネット情報等で事前学習を行う。90分	学習内容の復習、発表に向けての検索、90分
担当教員	木村 俊昭		

第10回	【職育】デジタルノマドと「関係人口2.0」 「居住しない関係人口」の進化形を扱うこととする。2024年に導入されたデジタルノマドビザは、単なる観光促進策ではなく、高付加価値人財の流動化政策として位置づけられている。デジタルノマドは消費者ではなく「共創者」であり、地域課題に対する外部知の提供者として機能することが示されている。	【職育】デジタルノマドと「関係人口2.0」に関する資料検索及び事前学習 90分	学習内容の復習、発表に向けての検索、90分
担当教員	木村 俊昭		
第11回	【木育・遊育】空き家・シャッター街を「第3の場所」へ「空間の再定義から関係性の再構築」の視点を扱うこととする。単身世帯の増加(2025年問題)により、「家でも職場でもない居場所(サードプレイス)」の需要が急増している。不動産に関する研究では、「おひとりさまリノベーション」が地域コミュニティ再生の鍵になるという。	【木育・遊育】空き家・シャッター街を「第3の場所」等の資料検索や事前学習 90分	学習内容の復習、発表に向けての検索、パワポ作成等90分
担当教員	木村 俊昭		
第12回	【+α・循環】メルカリ世代のサーキュラーエコノミー「所有から循環へ」、価値観の転換を扱うこととする。デジタルプラットフォームの普及により、若年層は「所有すること」よりも「使い回すこと」に価値を見出している。2025年の大阪・関西万博の日本館は、「埋め立てゼロ」の理念を掲げ、伝統と最先端技術の融合による循環モデルを提示した。	【+α・循環】メルカリ世代のサーキュラーエコノミーの資料検索や事前学習 90分	学習内容の復習、発表に向けての検索、パワポ作成等90分
担当教員	木村 俊昭		

第13回	【健育】MaaSと自動運転が描く「タイパ」の良いまち「移動の最適化＝生活の質の向上」の視点を扱うこととする。近年、移動の利便性は単なる交通問題ではなく、「幸福度(Well-being)」と強く関連することが明らかになっている。特にラストワンマイルの改善は、高齢者や観光客の行動範囲を大きく拡張するもの。	【健育】MaaSと自動運転が描く「タイパ」の良いまちに関しての資料検索や事前学習 90分	学習内容の復習、発表に向けての検索、パワポ作成等90分
担当教員	木村 俊昭		
第14回	【知育】地域で「稼ぐ」起業型協力隊の選択肢「雇用されるから稼ぐへ」、キャリア観の転換を扱うこととする。地域おこし協力隊の定住率は約6割前後であり、一定の成果を上げている。近年は「起業型」が注目されており、複数の収入源を持つ「多業(パラレルキャリア)」が、地域での所得安定モデルとなっている。	【知育】地域で「稼ぐ」起業型協力隊の選択肢についての資料検索、事前学習90分	授業の復習とパワポ作成、発表準備作成90分
担当教員	木村 俊昭		
第15回	最終プレゼンテーション（各自発表、総評、まとめ） テーマ（仮）「2030年の地域イノベーションの提案」 本講義の総括として、履修生には、これまでの講義、また、次の内容を踏まえた発表とする。 *「食」「働き方」「空間」「循環」「移動」「キャリア」の6領域 *「五感六育＋α」思考 *「自分自身の関与(当事者性)」 ※評価は、発表内容の「新規性」「実現可能性」「協働・共創性」の3軸で実施する。	資料を調査して、整理分析しての自分のオリジナルのパワーポイントの作成及び発表の練習等、発表準備120分	授業の振り返り等復習30分
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	無し
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席率演習シート提出50レポート20最終パワポ発表30
その他	0	
教科書		
参考文献		

履修条件・留意事項等

出席率100%を目指すこと。レポート提出と発表は単位取得要件。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域創造					
科目名		地域創生の実践と経営				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。

授業の概要

本科目では、まちづくりの担い手である、会社組織と個人の関係について広く理解する。具体的には、個人が経営組織のなかで直面すると想定される、社会化や組織文化、モチベーション、キャリア開発、リーダーシップ、対人葛藤、集団のダイナミズム、組織変革をはじめとする、さまざまな組織におけるジレンマと、そのダイナミズムを学ぶことをめざす。これらの経営組織の全体像の理解にくわえ、組織で用いられる課題解決のフレームワークや、マーケティングの手法などもあわせて広く理解するとともに、その活用をめざす。

到達目標

地域創生における組織と個人の関係性を、組織文化・社会化・リーダーシップ・対人葛藤・集団ダイナミズムなどの理論を用いて理解し、多面的に分析できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、最終成果発表を実施する。

※詳細は初回授業時に説明する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職や、全国のまちづくり活動等での実務経験を活かして、実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、地域創生の実践を「組織と個人の関係性」として捉え直し、公式の語りと現場実践のズレを分析する視角を理解する。	授業概要・評価方法を確認したうえで、地域(商店会・自治会・行政・大学等)における「建前(公式の語り)」の具体例を2つ収集し、各200字で記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	公的な言説(public transcript)と非公的な語り(hidden transcript)の関係を整理し、組織や地域で生じる“表と裏”の構造を理解する。	教科書の第1章を読み、重要概念(キーワード)を整理し、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	組織における社会化や役割期待を「演技」の観点から分析し、個人の行動が組織文化・権力関係により形成される過程を理解する。	教科書の第2章を読み、重要概念(キーワード)を整理し、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	公的言説が「尊敬可能なパフォーマンス」として機能する仕組みを分析し、地域創生における正当化の語り(協働・絆・持続可能性等)の役割を理解する。	教科書の第3章(前半)を読み、重要概念(キーワード)を整理し、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	会議・挨拶・儀礼・沈黙が組織秩序を維持する装置として働く点を分析し、対人葛藤や集団ダイナミズムが“表の語り”に吸収される過程を理解する。	教科書の第3章(後半)を読み、重要概念(キーワード)を整理し、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	過剰な賛同や礼儀、皮肉や“わざとらしさ”をコミュニケーション戦略として分析し、組織内ジレンマにおける適応と抵抗の境界を理解する。	教科書の第4章を読み、重要概念(キーワード)を整理し、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	非公式な関係や場が異議や本音を支える社会空間として機能する点を分析し、組織文化の二重構造を理解する。	教科書の第5章を読み、重要概念(キーワード)を整理し、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	支配関係下で用いられる婉曲表現や冗談、曖昧化などの「政治的擬装」を分析し、公式言説の内側で行われる発話戦略を理解する。	教科書の第6章(前半)を読み、重要概念(キーワード)を整理し、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	欠席・遅延・形だけ参加などの行為を「語られない抵抗／回避」の技法として分析し、参加の濃淡と組織秩序の関係を理解する。	教科書の第6章(後半)を読み、重要概念(キーワード)を整理し、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第10回	小さな回避・遅延・サボタージュなどの“Infrapolitics”を分析し、表向きの協働の背後で進む調整・摩耗・抵抗のプロセスを理解する。	教科書の第7章(前半)を読み、重要概念(キーワード)を整理し、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第11回	蓄積された不満や本音が公的空間へ噴出する局面を分析し、組織変革や分裂、炎上が生じるメカニズムを理解する。	教科書の第7章(後半)を読み、重要概念(キーワード)を整理し、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	これまでの議論を整理し、主要概念の相互関係を検討し、地域創生の実践における組織と個人の関係性を総合的に理解する。	教科書全体を振り返り、重要概念(キーワード)を整理し、自分なりの疑問や考えを記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第13回	学生による最終発表テーマの設定と、資料作成の方向性について議論する。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学生によるプレゼンテーション①と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	発表者:発表準備を実施する。 発表者以外:事前に発表者のスライドを読み込み、質問を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	学生によるプレゼンテーション②と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	発表者:発表準備を実施する。 発表者以外:事前に発表者のスライドを読み込み、質問を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	最終成果課題
その他	40	事前課題提出・授業態度や意欲等
教科書		
James C. Scott. Domination and the Arts of Resistance: Hidden Transcripts. Yale University Press, 1992.		
参考文献		

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

初回授業時に説明する。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域創造					
科目名		地域・防災まちづくり				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	熊野 稔						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの【知識・技能】

地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。

【思考・判断・表現】

幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。

授業の概要

本科目では、各種自然災害と対策、防災まちづくりの基本体系や手法を学習する。自然災害と地域防災計画および防災危機管理行政について、実社会や行政での実務を把握する。実務を通じた業務活動の実績を講義に取り入れ教材として活用する。また、各災害と対策、災害対策基本法、自助・共助・公助のまちづくりの体系や手法、予防対策と応急対策、避難方法、災害救助法、復旧・復興対策と被災者生活再建支援法、防災まちづくりと津波防災地域づくりに関する法および阪神淡路大震災や東日本大震災の復旧や復興まちづくり計画の事例も学ぶ

到達目標

学生は、各種自然災害と自助・共助・公助の防災対策、防災・復興まちづくりの基本体系や手法、法体系を理解して、防災演習やレポート課題を実施、提出することにより、防災対策の基本を身に付け、的確に判断できるようになる。

授業の方法

毎回の講義の受講とアクティブラーニングとしての演習シートの提出。自宅でのレポート課題を策定しての提出。

ICT活用

ノートパソコンによるパワーポイントの映像や動画による授業実施。

実務経験のある教員の教育内容

技術士(建設部門 都市及び地方計画)、防災士を取得している教員が、被災地に赴いて災害状況調査をしたり、社会実験等による避難訓練・避難活動を通しての実務経験を授業内容に盛り込んでいる。北海道庁からの防災担当のゲスト講師も招へいする。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業における質問や演習シートなどでの授業の疑問点を的確に把握して対応している。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	全体の講義概要、地域まちづくり計画とマネジメント・防災ライフ入門	教科書や講義資料の予習(90分)	授業の復習(90分)
担当教員	熊野 稔		
第2回	防災ライフと防災リテラシー入門、災害に立ち向かうために	教科書や講義資料の予習(90分)	授業の復習(90分)
担当教員	熊野 稔		
第3回	地震と津波とその対策、	教科書や講義資料の予習(90分)	授業の復習(90分)
担当教員	熊野 稔		

第4回	台風と豪雨、河川・土石流災害火災とその対策	教科書や講義資料の予習(90分)	授業の復習(90分)
担当教員	熊野 稔		
第5回	消防、災害と住宅、ライフライン、災害情報、について	教科書や講義資料の予習(90分)	授業の復習(90分)
担当教員	熊野 稔		
第6回	北海道の自然災害、地域防災計画及び防災危機管理行政について	教科書や講義資料の予習(90分)	授業の復習(90分)
担当教員	熊野 稔		

第7回	北海道の自然災害、地域防災計画及び防災危機管理行政について	教科書や講義資料の予習(90分)	授業の復習(90分)
担当教員	熊野 稔		
第8回	災害対策法律関係の学習	教科書や講義資料の予習(90分)	授業の復習(90分)
担当教員	熊野 稔		
第9回	自助・共助・公助のまちづくりと演習	教科書や講義資料の予習(90分)	授業の復習(90分)
担当教員	熊野 稔		

第10回	災害への予防対策と応急対策、避難方法と演習	教科書や講義資料の予習(90分)	授業の復習(90分)
担当教員	熊野 稔		
第11回	地域防災計画と地区防災計画、防災・減災のまちづくり	教科書や講義資料の予習(90分)	授業の復習(90分)
担当教員	熊野 稔		
第12回	南海トラフ巨大地震への備え、	教科書や講義資料の予習(90分)	レポート作成、授業の復習(90分)
担当教員	熊野 稔		

第13回	復旧・復興計画と復興まちづくり 事例も含む	教科書や講義資料の予習 (90分)	レポート作成、授業の復習 (90分)
担当教員	熊野 稔		
第14回	巨大地震への備え、災害リスクマネジメント、BCP、BCM 机上での防災計画を考える演習	教科書や講義資料の予習 (90分)	レポート作成、授業の復習 (90分)
担当教員	熊野 稔		
第15回	レポート提出、最後のまとめ、確認テスト	レポート仕上げ、確認テスト学習、教科書や講義資料の予習 (180分)	復習 (30分)
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	無し
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	毎回の授業の出席と演習シートの提出, 授業の最後に確認テストを実施する
その他	20	レポート課題提出
教科書		
防災リテラシー第2版(森北出版)		
参考文献		

新しい防災のきほん事典(朝日新聞出版)

履修条件・留意事項等

できるだけ遅刻、欠席しないように。6回欠席で単位無し。5回欠席でも確認テストやレポートの採点次第では単位無し。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門科目 地域創造					
科目名		地域とコミュニティ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

- ・地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。
- ・幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。

授業の概要

本科目では、人口減少時代において、地域が抱えるさまざまな課題を解決するための手段のひとつである、コミュニティの形成や、場づくりについて広く理解する。具体的には、日本社会や海外における、さまざまな実践的な事例研究や、実際にコミュニティを運営しているリーダーの思いなどに触れる。これにより、まちづくりにおける場の理解や、ひととひととのつながりをつくり、創発を生み出すため、場づくりのポイントとなる仕組みづくりや、そのための運営方法などの理解をめざす。

到達目標

Goffman『Interaction Ritual』の講読とディスカッションを通じて、対面相互行為における「顔(face)」や敬意、気まずさ、関与の義務などの主要概念を理解し、地域の場づくり・コミュニティ運営における人間関係の力学を具体事例に即して分析・説明できるようになる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
 - ・理解度確認のために、最終成果発表を実施する。
- ※詳細は初回授業時に説明する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職や、全国のまちづくり活動等での実務経験を活かして、実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、Goffmanが対象化する「共在 (co-presence) によって起こる出来事」と“small behaviors (視線・身振り・位置取り・発話)”の射程を整理し、本授業の進め方 (輪読・議論・短いケース分析)を確認する。	授業概要・評価方法を確認したうえで、「共在 (co-presence) によって起こる出来事」と“small behaviors (視線・身振り・位置取り・発話)”が観察できる具体例を2つ収集し、各例について①場面、②観察した行動、③それが示す意味 (推測)を200字程度で記述する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	相互行為の最小単位から社会的出来事までをつなぐ分析枠 (social gathering / social occasion 等)を確認し、「Not, then, men and their moments. Rather moments and their men.」という視点を理解する。	該当箇所を読んだ上で、授業内で提示する設問に従い、要点と疑問点を整理する。(90分) 該当箇所:Introduction (p.1～)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	人が接触の場で“line”を取り、そこから“face (肯定的な社会的価値)”が成立するという基本設定を整理し、地域活動・会議・教室場面での「線の取り方」を具体例で検討する。	該当箇所を読んだ上で、授業内で提示する設問に従い、要点と疑問点を整理する。(90分) 該当箇所:On Face-Work (前半)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	失面・無面の状態と、インシデントを未然に防ぐ回避的な作法(触れない・話題回避・見なかったことにする等)を整理し、日常の「気まずさ回避」が秩序維持として働く過程を分析する。	該当箇所を読んだ上で、授業内で提示する設問に従い、要点と疑問点を整理する。(90分) 該当箇所:On Face-Work(中盤)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	incidentが公認される条件と、修復の連鎖(challenge→offering→acceptance→thanks)を枠組みとして理解し、謝罪・釈明・言い換え・場の收拾を相互行為の「交通ルール」として読み解く。	該当箇所を読んだ上で、授業内で提示する設問に従い、要点と疑問点を整理する。(90分) 該当箇所:On Face-Work(後半)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	敬意を、①回避儀礼(avoidance)と②呈示儀礼(presentational)の両面から整理し、コミュニティ運営における「距離の作法(近づく／近づきすぎない)」を分析する。	該当箇所を読んだ上で、授業内で提示する設問に従い、要点と疑問点を整理する。(90分) 該当箇所:The Nature of Deference and Demeanor(前半)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	demeanor(身だしなみ・態度・身ぶり・自己統制)が「信頼できる相互行為者」を示す仕組みを検討し、deferenceとの補完関係(相手を立てる／自分を整える)を具体事例で読み替える。	該当箇所を読んだ上で、授業内で提示する設問に従い、要点と疑問点を整理する。(90分) 該当箇所:The Nature of Deference and Demeanor(後半)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	embarrassmentの兆候・典型場面・“incident(まずさ)”の語彙を整理し、恥や動揺が「相互行為を壊さないための社会的機能」を持つ点を、役割衝突(role segregationの崩れ)と絡めて理解する。	該当箇所を読んだ上で、授業内で提示する設問に従い、要点と疑問点を整理する。(90分) 該当箇所:Embarrassment and Social Organization (p.97～)(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	会話が成立するための“involvement obligations”を押さえた上で、逸脱形(external preoccupation/self-consciousness/interaction-consciousness/other-consciousness)を整理し、会議や授業で起きる「退屈・白け・温度差」のメカニズムを分析する。	該当箇所を読んだ上で、授業内で提示する設問に従い、要点と疑問点を整理する。(90分) 該当箇所:Alienation from Interaction (p.113～)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第10回	精神症状の一部を“public order(対面場面の秩序)”への違反として捉える視点を学び、social occasion／gathering／encounterという単位で、場のルールと破れ方を記述する訓練を行う。	該当箇所を読んだ上で、授業内で提示する設問に従い、要点と疑問点を整理する。(90分) 該当箇所:Mental Symptoms and Public Order(p.137～)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第11回	chance-takingの基本要素(賭け・確率・決定局面・開示・決済)を整理し、日常の「結果が重く、しかも不確実な場面(fatefulness)」が、どのように社会的に組織されるかを理解する。	該当箇所を読んだ上で、授業内で提示する設問に従い、要点と疑問点を整理する。(90分) 該当箇所:Where the Action Is(前半)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	actionを「結果が重い・不確実・自発的に引き受けられる状況」として捉え、character(特にcomposure/poise)が評価される仕組みを検討したうえで、全体(face-work／deference／embarrassment／alienation／public order／action)を統合し、各自の題材で分析をまとめる。	該当箇所を読んだ上で、授業内で提示する設問に従い、要点と疑問点を整理する。(90分) 該当箇所:Where the Action Is(後半)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第13回	学生による最終発表テーマの設定と、資料作成の方向性について議論する。	授業内で指示された課題を実施する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学生によるプレゼンテーション①と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	発表者:発表準備を実施する。 発表者以外:事前に発表者のスライドを読み込み、質問を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	学生によるプレゼンテーション②と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	発表者:発表準備を実施する。 発表者以外:事前に発表者のスライドを読み込み、質問を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	最終成果課題
その他	40	事前課題提出・授業態度や意欲等
教科書		
Erving Goffman. Interaction Ritual: Essays on Face-to-Face Behavior. Knopf Doubleday Publishing Group, 1982.		
参考文献		

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

詳細は初回授業時に説明する。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 国際理解教育					
科目名		国際社会が抱える課題と対応				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	青 晴海						

授業の位置づけ

本講義は、国際社会が抱える課題を政治・経済・社会の視点から理解し、国際協力や政策対応のあり方を学ぶ国際理解の基礎科目である。本講義は、「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。」というディプロマポリシーに関係するものであり、後期に実施される「国際地域開発論」と関連づけ、国際課題への取り組みを学講義である。

授業の概要

本科目では、グローバル化と反グローバル化が衝突する国際環境の中で、国家や個人、そしてグローバル市民社会の役割や、格差・紛争・環境問題といった地球規模の諸問題について考察し分析することを目標とする。この目標を達成するため、まず「グローバリゼーション」について検証し、複雑化する国際問題について、講義の中でディスカッションを行う。また、国際関係論の基礎概念を学ぶとともに、日本国内の社会問題解決にも、グローバルな視野が不可欠であることを再確認する。地域の身近な出来事についてもグローバルな視野で批判的思考をもちながら、社会の課題に対する問題意識を常に持ち続けるトレーニングを講義中に実施する。

到達目標

現代の国際社会が直面している主要な課題（貧困、環境問題など）について、その背景や構造を理解することができる。
国際社会の課題に対して、国際機関、各国政府、企業、NGOなどがどのような対応や取り組みを行っているかを説明することができる。
国際社会の課題を多角的な視点から考察し、自らの社会や生活との関係を踏まえて考えることができる。
国際社会の一員として、世界の課題に関心を持ち、主体的に学ぶことができる。

授業の方法

本講義は主として講義形式で行う。授業では、現代の国際社会が直面する課題について、資料や図表、事例などを用いながら解説する。また、ニュースや具体的な事例を取り上げることで、国際社会の課題を身近な問題として理解できるようにする。授業内容の理解を深めるため、適宜ミニレポートやリアクションペーパーを課し、学生自身が課題について考察する機会を設ける。必要に応じてディスカッションや意見交換を行い、多角的な視点から国際社会の問題を考える力を養う。

ICT活用

オンライン資料や映像資料、統計データなどのデジタル教材を用いて国際社会の現状を理解する。

実務経験のある教員の教育内容

国際協力分野(JICA)で約30年の経験を有する教員が授業を担当する

課題に対するフィードバックの方法

授業内で提出されたリアクションペーパーやミニレポートについては、次回の授業において全体的な講評を行い、優れた視点や代表的な意見を紹介することで理解の深化を図る。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	国際社会とは何か 授業の目的、進め方、評価方法について説明する。あわせて、国際社会とはどのような仕組みで成り立っているのかを概観し、国家・国際機関・企業・市民社会などの主体がどのように関わっているのかを理解する。ル課題の全体像について理解する。	ニュースや新聞記事などから、現在の国際社会で話題となっている課題を一つ調べておく。90分	授業で扱った国際社会の構造について整理し、国際社会の課題にはどのようなものがあるのかをまとめる。90分
担当教員			
第2回	グローバル化と国際社会の変化 グローバル化の進展による人・モノ・資本・情報の移動の拡大について学び、世界経済や社会構造にどのような変化をもたらしているのかを考察する。	グローバル化という言葉の意味について調べ、具体的な事例を一つ考えておく。90分	授業内容を振り返り、グローバル化が社会や経済にどのような影響を与えているのかを整理する。90分
担当教員			
第3回	国際社会の格差と貧困問題 世界の所得格差や貧困の現状を統計データなどから理解する。貧困が生まれる構造や歴史的背景を学び、国際社会の貧困削減の取り組みについて考える。	世界の貧困問題について、新聞記事やウェブ資料などを用いて基本的な現状を確認しておく。90分	世界の貧困問題について、原因や影響を整理し、国際社会の対応についてまとめる。90分
担当教員			

第4回	人口問題と社会構造の変化 人口増加、少子高齢化、都市化などの人口動態の変化が社会や経済に与える影響について理解し、人口問題が国際社会の課題となる理由を考える。	世界人口の推移や人口問題（人口増加・少子高齢化など）について基礎的な情報を調べておく。90分	人口問題が社会や経済にどのような影響を与えるのかを整理し、授業内容をまとめる。90分
担当教員			
第5回	食料問題と世界の農業 世界の食料生産と食料分配の現状を学び、飢餓や栄養不足の問題、食料安全保障の課題について理解する。また、国際社会の食料問題への取り組みについて考察する。	世界の食料問題や食料不足の原因について簡単に調べておく。90分	食料問題の背景や食料安全保障の重要性について授業内容を整理する。90分
担当教員			
第6回	境問題と持続可能な社会 地球温暖化、森林破壊、生物多様性の減少などの地球規模の環境問題について理解し、国際的な環境保護の取り組みについて学ぶ。	地球温暖化や環境問題に関する最近のニュースを一つ調べておく。90分	環境問題の原因と国際社会の取り組みについて授業内容をまとめる。90分
担当教員			

第7回	エネルギー問題と資源をめぐる課題 石油、天然ガス、再生可能エネルギーなどのエネルギー資源の現状と課題について学び、資源問題が国際政治や経済に与える影響を考える。	世界の主要なエネルギー資源(石油・天然ガスなど)について基礎的な情報を確認しておく。90分	エネルギー資源をめぐる国際的な課題について整理し、授業内容をまとめる。90分
担当教員			
第8回	国際紛争と安全保障 国際紛争が発生する背景や要因について理解し、国際社会が紛争解決や平和構築にどのように取り組んでいるのかを考察する。	現在の国際紛争に関するニュースを一つ調べ、その背景について簡単に整理しておく。90分	国際紛争が発生する背景や国際社会の対応について授業内容を振り返る。90分
担当教員			
第9回	移民・難民問題 移民や難民が増加する背景を学び、受け入れ国や国際社会が直面している課題について理解する。また、人道的支援や国際協力のあり方を考える。	移民や難民問題に関する最近のニュースを調べ、問題の概要を理解しておく。90分	移民・難民問題の背景や国際社会の対応について整理する。9分
担当教員			

第10回	感染症と国際保健 新型コロナウイルスやパンデミックが国際社会に与える影響を学び、国際保健分野における国際協力や国際機関の役割について理解する。	世界的な感染症の事例について調べ、国際社会への影響について考えておく。90分	感染症が国際社会に与える影響と国際協力の重要性についてまとめる。90分
担当教員			
第11回	国際機関の役割 国際連合をはじめとする国際機関の役割や機能について学び、国際社会の課題に対する国際協力の仕組みを理解する。	国際連合などの国際機関について、その基本的な役割を調べておく。90分	国際機関の役割と国際協力の仕組みについて授業内容を整理する。90分
担当教員			
第12回	NGO・企業の役割 国際社会の課題解決において、NGOや民間企業が果たしている役割について事例を通して学び、多様な主体による国際協力の可能性を考える。	国際社会の課題解決に取り組むNGOや企業の事例を一つ調べておく。90分	NGOや企業が国際社会の課題解決に果たしている役割についてまとめる。90分
担当教員			

第13回	持続可能な開発目標 (SDGs) SDGsの理念や目標を理解し、国際社会が持続可能な社会を実現するために取り組んでいる政策や活動について学ぶ。	SDGsの17の目標の内容を確認し、関心のある目標を一つ選んでおく。90分	SDGsの理念と国際社会の取り組みについて整理する。90分
担当教員			
第14回	地域から見る国際課題 特定の地域や国の事例を取り上げ、地域の歴史・文化・経済などの背景を踏まえながら国際社会の課題と対応について考察する。	関心のある国や地域を一つ選び、その地域が抱える社会課題について調べておく。90分	取り上げた地域の事例を整理し、国際社会の課題との関係をまとめる。9分
担当教員			
第15回	まとめ:国際社会の課題と将来 これまでの授業内容を振り返り、国際社会が抱える課題の相互関係を整理するとともに、今後の国際社会のあり方と私たち	これまでの授業内容を振り返り、印象に残った国際課題を一つ整理しておく。90分	授業全体を振り返り、国際社会の課題とその対応について総合的に整理する。90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行いません
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加度30%、出席態度20%、ミニレポート及びリアクションペーパーの提出状況(50%)及びその内容を考慮
その他	0	
教科書		
教科書はありません。		
参考文献		

池上彰『知らないで恥をかく世界の大問題』角川新書
 池上彰『世界のニュースを日本人は何も知らない』ワニブックス
 United Nations "Human Development Report"
 World Bank "World Development Report"

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 国際理解教育					
科目名		国際地域開発論				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	青 晴海						

授業の位置づけ

本講義は、国際学部・地域系学科の専門科目として、世界各地の地域開発の理論と実践を学び、地域社会の持続可能な発展について多角的に理解することを目的とする科目である。グローバル化の進展により、地域が直面する課題は経済、環境、文化、観光、食、資源管理など多様化している。本授業では、こうした地域課題に対して国際的な視点から開発の方法や政策、地域主体の取り組みを理解し、地域発展のメカニズムを考察する。特に、アジア・北米・ヨーロッパなどの地域開発事例を比較しながら、産業振興、観光開発、地域資源の活用、コミュニティ参加、先住民の視点などを取り上げることで、地域開発の多様なモデルを学ぶ。これにより学生は、地域を「経済」「文化」「環境」「社会」の複合的なシステムとして捉える視点を身につける。

また、本授業は将来的に地域政策、国際協力、観光開発、地域ビジネスなどに関わる人材の基礎的知識を養う位置づけにあり、他の科目（観光学、地域連携関連授業等）と連動しながら、地域課題を国際的な比較の中で理解するための基盤科目として機能する。

本講義は「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。」というディプロマポリシーに沿ったものである。

授業の概要

本科目では、開発をめぐる多様な考え方について学ぶとともに、国際開発の主な取組について理解を深めていく。開発途上国で起こっている諸問題が、私たちの生活とどのように結びついているのかという点について、持続的な開発目標(SDGs)の各項目を学ぶことで学習する。これにより、国際開発についての複眼的な視点を身に付けることを目標とする。更に、文化や社会の多様性を認め、国際社会の中での課題の発見や、課題解決を図る力を身に付ける。

到達目標

国際地域開発に関する基本的な概念や理論を理解し、地域発展の仕組みを説明できる。
世界各地の開発事例を通して、地域資源、産業構造、文化、環境などが地域発展に与える影響を理解できる。
観光、産業振興、地域資源の活用などの具体的な取り組みを比較しながら、地域開発の多様なモデルを説明できる。
国際的な視点から地域が抱える課題を分析し、持続可能な地域発展のあり方について自分の考えを述べることができる。
地域社会の実情を踏まえ、地域の発展に必要な視点や考え方を主体的に考察できる。

授業の方法

本授業は講義形式を基本とし、地域開発の理論や世界各地の事例について解説を行う。授業ではスライド資料や統計データ、地図、事例映像などを活用し、地域開発の背景や特徴を視覚的に理解できるように進める。また、学生が主体的に地域課題を考える機会として、各回のテーマに関連した簡単なディスカッションやミニレポートを取り入れる。特定の地域事例については、学生自身が資料を調べて整理する課題を課し、地域開発の多様な取り組みを比較・分析する力を養う。さらに、地域資源の活用や観光開発、持続可能な地域発展などのテーマについて、北海道や日本の地域事例と海外事例を比較しながら理解を深める。これにより、地域の特性を踏まえた地域開発の考え方を総合的に学ぶ。

ICT活用

オンライン資料や統計データ、地図情報(GISデータや国際機関の公開データ等)を活用し、地域開発の実態を視覚的に理解できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

国際協力機関(JICA)で約30年勤務経験ある教員が本講義を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートや課題については、コメントや評価を返却し、学生が自身の理解状況や改善点を確認できるようにする。また、授業内で代表的な意見や優れた視点、改善が必要な点などを紹介し、全体へのフィードバックとして共有する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス:国際地域開発とは何か 授業の目的や進め方を説明し、地域開発の基本概念や国際的な地域課題について概観する。	ニュースや資料を通して、世界の地域格差や地域課題の事例を1つ調べておく。90分	授業内容を整理し、地域開発とは何を目的とするものかを自分の言葉でまとめる。90分
担当教員			
第2回	地域開発の理論 近代化論、依存論、内発的発展論など、地域開発を理解するための主要な理論を学ぶ。	地域発展や経済発展に関する基本概念(発展、開発、地域格差など)を調べる。90分	授業で扱った地域開発理論の特徴を整理し、それぞれの違いをまとめる。90分
担当教員			
第3回	地域資源と地域発展 自然資源、文化資源、人的資源など、地域資源の活用と地域発展の関係について考える。	自分の出身地域または関心のある地域の資源(自然・文化・産業など)を調べる。90分	地域資源が地域発展にどのように活用されているかを具体例を挙げて整理する。90分
担当教員			

第4回	産業構造と地域経済の発展 農業・工業・サービス業の発展段階と地域経済の変化について学ぶ。	農業、工業、サービス業などの産業構造について基本的な特徴を確認する。90分	授業内容をもとに、産業構造の変化が地域経済に与える影響をまとめる。90分
担当教員			
第5回	観光開発と地域振興 観光産業が地域発展に与える影響と持続可能な観光開発の考え方を学ぶ。	国内または海外の観光地を一つ調べ、観光が地域に与える影響を考える。90分	観光開発の利点と課題について整理する。90分
担当教員			
第6回	地域ブランドと地域資源の活用 食文化や特産品などを活用した地域ブランド化の事例を紹介する。	地域ブランドとして知られている商品や地域(例:ワイン、コーヒー、特産品など)を調べる。90分	地域ブランドがどのように地域の価値向上に結びついているかをまとめる。90分
担当教員			

第7回	持続可能な地域開発 環境保全と経済発展を両立させる持続可能な地域開発の考え方を学ぶ。	SDGsや持続可能な開発の基本概念について確認する。90分 事	持続可能な地域発展を実現するために必要な要素を整理する。90分
担当教員			
第8回	中間まとめ:地域開発の分析視点 これまでの内容を整理し、地域開発を分析するための基本的な視点を確認する。	これまでの授業内容を復習し、地域発展に影響する要素を整理する。90分	地域開発を分析するための視点(経済・社会・文化・環境など)をまとめる。90分
担当教員			
第9回	アジアの地域開発 東南アジアなどの地域を事例に、急速な経済発展と地域社会の変化を考察する。	東南アジアのいずれかの国について、経済発展や地域政策を調べる。90分	アジア地域の開発の特徴と課題を整理する。90分
担当教員			

第10回	北米の地域開発 地域資源や先住民族文化を活かした地域発展の事例を紹介する。	北米地域の地域産業や地域資源について調べる。90分	地域資源の活用が地域発展にどのように影響しているかをまとめる。90分
担当教員			
第11回	ヨーロッパの地域政策 EUの地域政策や地域格差是正の取り組みについて学ぶ。	ヨーロッパにおける地域格差や地域政策の事例を調べる。90分	EUの地域政策の目的や特徴を整理する。90分
担当教員			
第12回	先住民族と地域開発 先住民族の文化や伝統的知識と地域発展の関係を考察する。	世界の先住民族の事例(アイヌ、北米先住民など)について調べる。90分	文化や伝統が地域発展に与える影響についてまとめる。90分
担当教員			

第13回	地域開発と国際協力 国際機関やNGOによる地域開発支援の取り組みについて理解する。	国際機関やNGOが関わる地域開発の事例を調べる。90分	国際協力による地域開発の役割と課題を整理する。90分
担当教員			
第14回	日本と北海道の地域開発 日本および北海道の地域振興の取り組みを国際的視点から考察する。	日本または北海道の地域振興政策や地域活性化の事例を調べる。90分	地域の特徴を活かした地域発展の可能性について考察する。90分
担当教員			
第15回	まとめ:これからの地域開発 これまでの内容を総括し、持続可能な地域発展のあり方について議論する。	これまでの授業内容を復習し、印象に残った地域開発事例を整理する。90分	地域の持続可能な発展のために重要だと考える点をまとめる。90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題(50%)・参加度(30%)・出席態度(20%)を総合的に判断して評価する。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

絵所秀紀『開発経済学』ミネルヴァ書房
 岡田知弘『地域づくりの経済学入門』自治体研究社
 矢作弘『地域再生のデザイン』岩波書店
 デービッド・エドワーズ『観光学入門』
 宮本憲一『地域経済学』岩波書店

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
科目名		健康社会と福祉				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松本 洋子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「国際社会における地域や組織で、職務に関する限定的な領域だけでなく、専門知識を活かしつつ、協働できるコミュニケーション力を有している(思考・判断・表現)」および「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」と関係がある科目である。
「健康社会と福祉」は、管理栄養士養成の初期に学ぶ専門基礎科目であり、「栄養教育論」、「食行動論」および「公衆栄養学」などの専門科目につながる科目である。また、地域未来学の幅広い教養を身につける「生活と社会環境」につながる科目である。

授業の概要

本科目では、急激な変容を続ける現代社会の下で、社会生活を営む住民が抱えている福祉の問題や課題を解決するための法令や関連施策について学習する。加えて、多様な職種が協業する病院等医療機関、老人保健施設、老人福祉施設および保育所等児童福祉施設における、福祉関連の基礎知識を修得する科目である。

到達目標

1. 社会福祉に係る専門用語と福祉施策等の現在について説明できる。
2. 社会保障制度と社会福祉を展開する行政や組織、マンパワーなどについて説明できる。
3. 子どもや高齢者などのライフステージ、障害や低所得など対象特性に施行されている福祉施策について説明できる。
4. 医療保険制度や介護保険制度の概要と、関わりを持つ専門職種に求められている役割について説明できる。

授業の方法

スライドと教科書を使いながら講義形式ですすめる。理解度を深めるための確認テストを行う。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて練習問題を繰り返し解かせて自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

確認テストの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	「社会福祉」に関して、福祉用語の語源や現状の定義などの学習、ソーシャルポリシー、社会保障など用語の学習、社会事業および社会福祉事業など、「社会福祉」の歴史を概括し、理解するためのガイダンスを行う。	シラバスにある科目の位置づけ、授業の概要を理解し「社会福祉」について準備学習に取り組み、授業に備える(90分)。	講義内容を取りまとめ、学習レポートを作成し提出する(90分)。
担当教員	松本 洋子		
第2回	「わが国における社会福祉の歴史」に関して、古代から近世までの慈善救済、第二次世界大戦後の社会福祉および新たな社会福祉の動向と、社会福祉と税の一体改革にいたる施策や制度の変遷について、それぞれ内容を整理して理解を図る。	「わが国における社会福祉の歴史」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、学習レポートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第3回	「社会保障制度と社会福祉を展開する組織」に関して、社会保障制度の体系、社会保険および公的扶助(必要性和現状)と、社会福祉を展開する行政機関、民間機関、施設および団体について、それぞれの内容を整理し理解を図る。	「社会保障制度と社会福祉を展開する組織」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、学習レポートを作成し提出する(90分)。
担当教員			

第4回	「子ども福祉」に関して、少子化対策、子ども福祉に関わる法制度(児童福祉法)、母子保健(母子保健法)、子どもの貧困および子育て支援事業について、それぞれ内容を整理し理解を図る。	「子ども福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、学習レポートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第5回	「障害者福祉」に関して、障害者を支える理念、障害者福祉関連法令(障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法)、障害者総合支援の目的について、それぞれ内容を整理し理解を図る。	「障害者福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、学習レポートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第6回	「高齢者福祉」に関して、高齢者を取り巻く状況、高齢者を対象とした法令(老人福祉法、老人保健法、高齢社会対策基本法、介護保険法、社会福祉法)について、それぞれの内容を整理して理解を図る。	「高齢者福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、学習レポートを作成し提出する(90分)。
担当教員			

第7回	「介護保険制度と専門職の役割:チームアプローチの必要性」に関して、介護保険制度創設の背景、制度の概要、制度を支えるチームアプローチと専門職の役割について、それぞれ内容を整理し理解を図る。	「介護保険制度と専門職の役割:チームアプローチの必要性」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、学習レポートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第8回	「低所得者福祉」に関して、社会における貧困、生活保護制度(基本原理・実施上の原則、保護の要件と最低生活費)、生活保護関連事業、低所得者対策および生活保護の現状について、それぞれ内容を整理し理解を図る。	「低所得者福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、学習レポートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第9回	「医療福祉」に関して、医療保険制度(給付の種類)、保険診療の仕組み(保険医療機関、保険医、診療報酬制度)、特定機能病院・地域医療支援病院、地域連携および医療福祉と専門職について、それぞれ内容を整理して理解を図る。	「医療福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、学習レポートを作成し提出する(90分)。
担当教員			

第10回	「精神保健福祉」に関して、精神保健福祉法(社会復帰、自立と社会参加、精神保健指定医、精神保健福祉手帳)、障害者雇用促進法、自殺防止対策について、それぞれ内容を整理して理解を図る。	「精神保健福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、学習レポートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第11回	「社会福祉施設の役割」に関して、施設の分類および目的と機能、社会福祉施設の推移(歩みと現状)、枠組み(社会福祉法人、設備および運営に関する最低基準)について、それぞれ内容を整理して理解を図る。	「社会福祉施設の役割」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、学習レポートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第12回	「地域福祉」に関し、ノーマライゼーションとコミュニティーケア、推進組織と担い手(社会福祉協議会、民生委員・福祉協力員、ボランティアとNPO)、日常生活自立支援事業について、それぞれ内容を整理して理解を図る。	「地域福祉」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、学習レポートを作成し提出する(90分)。
担当教員			

第13回	「社会福祉を担う人々」に関して、社会福祉従事者の現状、社会福祉専門職の資格制度、社会福祉を担う専門職・非専門職(民生委員、身体障害者・知的障害者相談員)および社会福祉従事者による連携・共働について、それぞれ内容を整理して理解を図る。	「社会福祉を担う人々」を教科書で学習する(90分)。	講義内容を取りまとめ、学習レポートを作成し提出する(90分)。
担当教員			
第14回	「社会福祉の諸問題とコメディカルへの期待」に関して、福祉従事者の確保、貧困対策、自殺者対策、在宅高齢者の介護、災害弱者対策、判断能力低下者への保険医療従事者の支援、虐待対策およびサービスの質について、それぞれ内容を整理し理解を図る。	「社会福祉の諸問題とコメディカルへの期待」を教科書で学習する(90分)。	教科書の該当箇所を読んで復習する(90分)。
担当教員			
第15回	確認テスト テスト範囲は、第1～14回までの学習内容から出題する。	教科書の該当箇所を読んで復習する(90分)。	教科書「社会福祉を担う人々」を読んで復習する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト(45%) 学習レポート(40%) 授業への参加態度(15%)
その他	0	なし
教科書		
「コメディカルのための社会福祉概論」／鬼崎信好・本郷秀和編著／講談社		
参考文献		

「国民衛生の動向」／(一財)厚生労働統計協会
 「国民福祉と介護の動向」／(一財)厚生労働統計協会

履修条件・留意事項等

履修条件なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
科目名		まちづくり法規				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	熊野 稔、浦田 洋						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる知識や技能を有する(知識・技能)」ことに特に関連する。

授業の概要

本科目では、地域づくりの人材養成に不可欠なまちづくり関連の法律の体系と基本を学習・理解する。

(オムニバス方式/全15回)

(1 熊野 稔/8回) 主に国土利用計画法、国土形成計画法、都市計画法、建築基準法、都市再生特別措置法、中心市街地活性化法、宅地建物取引業法等を中心に、まちづくりに関連する法体系を学習する。

③ (2 浦田 洋/7回)

主に地方自治法、地方財政法、地方公務員法や、地方自治制度等を中心に、地域社会の基盤を形成する法体系について学習する。

到達目標

まちづくりの関連法規の基礎を理解し、本学科で養成していく人材として掲げる「持続可能な社会を実現し」「地域の未来を担う」人材に求められる「好奇心をもってあらゆる情報に接し、咀嚼し、多角的な批評眼を用いて地域のあるべき将来像を描き、その実現に向かって多分野の人と協働して汗を流すことができる」資質・能力を身に着けることができる。

授業の方法

パワーポイントによる講義を行う。熊野は、主に国土利用計画法、国土形成計画法、都市計画法、建築基準法、都市再生特別措置法、中心市街地活性化法、宅地建物取引業法等を中心に、街づくりに関連する法体系を講義し学習する。浦田は地方自治法他、地域社会に関連する法体系の下に社会インフラの実例等を講義する。講義後に毎回演習シート等提出、試験、レポート作成・提出で成績評価する。

ICT活用

インターネット活用による学習のほか、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

地方行政、大学職員等、現場の実践経験が豊富な多様な職種における勤務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前学習を踏まえ、各教員が学生間とのディスカッションや討議等を通してフィードバックを行う。演習シート提出による質問には適切に対応する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1回目 まちづくり法規ガイダンス 法律の基本的考え方、まちづくり関連の法律体系 憲法 法律 政令 省令 条例 規則などのガイダンス学習を行う。	準備学習および必要時間(30分):シラバスを読み授業内容を理解しておく	事後学習および必要時間(150分):授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第2回	2回目 国土利用計画法、国土形成計画法、環境基本法、都市計画法 我が国の地域づくりに関連する国土利用計画法、国土形成計画法、環境基本法、環境関連法、都市計画法などの用語や考え方、重要法令などを学習する。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分):上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第3回	3回目 都市計画法 宅地造成等規制法 土地区画整理法 農地法など 都市計画法における都市計画行政の役割、土地利用規制、開発行為、都市施設、市街地開発事業等を主に学習し、盛土規制法 土地区画整理法 農地法の改正なども踏まえて基本を学習していく。	準備学習および必要時間(90分):インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分):上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		

第4回	4回目 都市再生特別措置法 中心市街地活性化法 その他まちづくり関連法 都市再生特別措置法 中心市街地活性化法等を実例も交えて基本を解説する。	準備学習および必要時間(90分): インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分): 上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第5回	5回目 建築基準法 用語と総則 制度規定 全国一律に適用される単体規定 都市計画区域のみ適用の集団規定などの基本を学習する。 アクティブラーニングとして容積率や建蔽率の計算問題等の演習も行う。	準備学習および必要時間(90分): インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分): 上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第6回	6回目 宅地建物取引業法 不動産業務の基礎となる宅地建物取引業法の重要点を学ぶ。用語の定義等の総則、免許制度、宅地建物取引士、保証金制度、業務上の規制、監督処分・罰則を学習する。 アクティブラーニングとして不動産関連の法規の演習を行う	準備学習および必要時間(90分): インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分): 上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		

第7回	7回目 宅地建物取引業法 借地借家法 建物区分所有法 不動産登記法 不動産業務に関連する法規の宅地建物取引業法 借地借家法 建物区分所有法 不動産登記法の基礎を学ぶ。アクティブラーニングとして不動産関連の法規の演習を行う	準備学習および必要時間(90分):インターネットで上記法律について検索して学習する	事後学習および必要時間(90分):上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第8回	8回目 まちづくり法規演習及び定期試験 7回までの内容に関する試験実施。建築法規用教材2025など教科書を参考としながら、まちづくりに関する法規のレポートを作成して提出する。	準備学習および必要時間(90分):まちづくりの法律について検索して復習し、学習する	事後学習および必要時間(90分):上記法律について重要事項等を理解し授業の概要を復習しレポートや演習シートに取り組み提出する。
担当教員	熊野 稔		
第9回	9回目 オリエンテーション 生活をしていく上で普段は意識することの少ない、しかし欠くことのできない「社会的共通資本」=社会インフラの役割と現状、取り組むべき課題についてガイダンス学習を行う	30分:e-govで憲法と地方自治法を総覧し、授業内容を理解しておく	事後学習および必要時間(150分):授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。提示された授業の参考資料について取り組む
担当教員	浦田 洋		

第10回	10回目 社会インフラの実例1:道路と河川 道路:新規工事が先細る人口減少局面下の維持業務・技術継承等に関する課題について考える 河川:市民生活を守る基礎的施設でありながら、省みられることの少ないインフラの概要を知り、平時の活用や気候変動への対応について学ぶ	90分:e-govで道路法と河川法を総覧し、日常生活との関連性について学習する	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
第11回	11回目 社会インフラの実例2:旅客運送事業 新幹線:札幌延伸事業の現状と課題、延伸後の在来線のあり方について学ぶ JR在来線:民有化後の状況を知り基幹的な社会資本としての役割を果たし続けるための方策を考える バス:事業を取り巻く社会環境を知り、事業継続の方策を学ぶ 地下鉄:経緯・現況について学び、最終授業で予定している施設見学の事前準備を行う	90分:e-govで鉄道事業法(軌道法)と道路運送法を総覧し、日常生活との関連性について学習する	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
第12回	12回目 社会インフラの実例3 水道・下水道:市民生活に欠かすことのできない存在である両施設の現状と課題について学ぶ 再開発:戦後80年を経て多くが新築後二回目に入った建築物の再構築の動きについて知る	90分:e-govで水道法と下水道法、都市再開発法を総覧し、日常生活との関連性について学習する	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		

第13回	13回目 自治体行政の本質 法定受託事務と異なり絶対的な正解のない「自治事務」において下された判断の妥当性について、実例を挙げて検証を試みる(交通機関の運行システム、大型イベントや大規模施設の招致・誘致活動など)	90分:e-govで地方自治法と新聞の地方版を総覧し、自治体行政のあり方について考えておく	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
第14回	14回目 自治体職員の仕事 自治体職員となって社会インフラに関わる仕事をするものの意味や実態について、身分上・職務上の長短所を踏まえた上で学習する	90分:e-govで地方自治法と新聞の地方版を総覧し、自治体行政のあり方について考えておく	事後学習および必要時間(90分):授業内容について重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
第15回	15回目 社会インフラの実例4 過去2年と同様、市民が日常生活を円滑に営むために利用している施設のバックヤードを実際に見て、そこでどのような作業が行われているかを知る 対象施設候補:地下鉄車両基地、路面電車事業所など(移動時間の確保・視察施設の予定により、日程変更の可能性あり)	90分:インターネット、図書館等を利用して、視察予定施設の概要を学んでおく	事後学習および必要時間(90分):視察した施設に関する重要事項等を理解し授業の概要を復習し演習シートに取り組み提出する。
担当教員	浦田 洋		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各授業の出席状況(20%)と各授業の演習シート等の提出(30%)、全体レポート(50%)による合計100%で評価する。
その他	0	なし
教科書		
建築法規用教材2026日本建築学会編 パワーポイントなどのオリジナル資料を配布する		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
出席、毎回演習シート提出、レポート作成・提出で成績評価する。
備考欄
インターネットによる資料検索等を事前学習で行う

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
科目名		公衆衛生学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	續 佳代						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「他分野と協働しながら、人々の栄養改善・健康増進を実現する指導者として必要な理論と技術を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。人間の健康を規定する要因である社会・環境に関する基礎知識、健康の維持・増進や疾病予防に役立てる基本的な考え方、保健・医療・福祉制度や関連法規の概要についての基礎知識を学ぶ科目である。「環境と化学」、「食品衛生学」の基礎となる。 また、地域未来学科のディプロマポリシーにある「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」と関係がある科目である。」							
授業の概要							
公衆衛生学は、人の集団の健康に関わる自然条件や人為的条件を分析して、集団としての人の健康の保持と増進を図る学問である。人の生命と健康を支える食と栄養の専門家として、健康について広い視野から考えるために、公衆衛生学の考え方や保健指標・分析方法などを学び、生活習慣病などの現状と対策について理解を進め、基礎的知識を修得することを目的とする。 地域未来学科の学生においては、まちづくり・地域政策にかかわる分野である本科目で、総合的に人々の健康を守り、増進するための基礎的知識を学ぶ。さらに、疾病に罹る前の予防から、健康障害を残した人々のより良い健康レベルの獲得までを目指すために、市町村や都道府県等の地域レベル、ないしは国や世界レベルの衛生活動について学び、理解を深める。							
到達目標							

・公衆衛生の基本を論じることができる。 ・保健統計、疫学、公衆衛生に関する情報などの要点を述べることができる。 ・生活習慣病、感染症などの疾患について説明できる。 ・地域保健、衛生行政、母子・学校・高齢者などについて説明できる。

授業の方法

パワーポイントと教科書を用いて講義形式で進める。 毎回配布する国家試験対策問題で知識が深まるよう解説する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回配布する国家試験対策問題は講義内でフィードバックします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	公衆衛生と健康の概念 ・公衆衛生の定義、健康の定義を理解する。 ・予防医学の概念を理解する。 ・プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションについて理解する。 ・行動変容と意識変容について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	感染症対策-Ⅰ ・感染症成立の三要因について理解する。 ・新興感染症、再興感染症について理解する。 ・人畜共通感染症について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	感染症対策-Ⅱ ・感染症法について理解する。 ・検疫法について理解する。 ・予防接種法について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	医療と社会- I ・医の倫理をめぐる歴史と医の倫理に関する規定を理解する。 ・患者の人権と尊重について理解する。 ・医療の質と安全の確保について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	成人保健と健康増進- I ・健康増進法について理解する。 ・健康日本21(第三次)の飲酒・喫煙について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	成人保険と健康増進- II ・健康日本21(第三次)について理解する。 ・生活習慣病について理解する。 ・肝炎対策、がん対策について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	地域保健法 ・保健所の業務について理解する。 ・保健所と市町村保健センターの役割について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	復習試験 ・第1回目から第7回目までの内容の復習試験を行う。 ・復習試験のフィードバックを行い、問題の内容を理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	食品保健 ・食品保健に関する法律について理解する。 ・食品の表示について理解する。 ・食品の種類と機能について理解する。 ・食の安全性について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	食中毒 ・三類感染症について理解する。 ・細菌性食中毒について理解する。 ・ウイルス性食中毒について理解する。 ・寄生虫による食中毒について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	母子保健-Ⅰ ・母子保健法について理解する。 ・母子保健の統計について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	母子保健-Ⅱ ・児童福祉法について理解する。 ・児童虐待防止法について理解する。 ・障害者福祉について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	保健統計 ・人口静態統計、人口動態統計について理解する。 ・人口構造の変化について理解する。 ・死因統計について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	学校保健 ・学校保健関係法規について理解する。 産業保健 ・産業保健に関する法律について理解する。 ・労働衛生の3管理について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第15回	復習試験 ・9回目から14回目までの講義の内容の復習試験を行う。 ・復習試験ののフィードバックを行い、問題の内容を理解する。	復習試験に備えて講義で配布した国家試験対策問題を勉強しておくこと。(90分)	復習試験の問題を復習すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	8回目と15回目に行う復習試験(各45点)と15回目の講義で出題する課題(10点)で評価する。
その他	0	
教科書		
公衆衛生がみえる 2026-2027 医療情報科学研究所 メディックメディア		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
10回以上出席すること。6回以上欠席した場合、単位は認定できない。 2回の復習試験は必ず受験すること。
備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
科目名		都市計画学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	熊野 稔						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。(知識・技能)」、「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考力・判断力・表現力)」と関係し、地域計画・都市計画学について理解するための科目である。

授業の概要

本科目では、地域づくりの人材養成に必要な地域計画・都市計画の歴史、基本的知識・考え方・法規、調査方法論、土地利用や都市施設、市街地開発事業等の計画論、都市計画マスタープラン、北海道や全国・世界各地の都市計画先進事例等を学習する。実務を通じた業務活動の実績を講義に取り入れて教材として活用する。達成目標は、地域・都市計画の体系を理解し、基本的知識と教養を習得して、演習やレポートにより研究課題を各自の創意工夫の元に解決しまとめて提出することにより、実務に十分生かせる実力を培う。

到達目標

地域・都市計画の体系を理解し、基本的知識を習得して、レポート研究課題をAIも活用して、各自の創意工夫の元に解決しまとめて提出することにより、学生は実務に生かせることができることを目標とする。

授業の方法

公務員や企業、コンサルタント等、地域づくりの人材養成として必要な地域計画・都市計画の歴史、基本的知識・考え方、方法論、計画論、全国や世界各地の先進事例等を学習する。毎回の講義出席と理解及び演習シートの提出、最終日の試験、AIを活用しての1課題のレポート作成・提出で成績評価する。パワーポイントによる講義を実施して、演習やアクティブ・ラーニングを取り入れ、クイズ形式での回答も取り入れる。また外部講師のオンライン講演等も取り入れる。毎回の講義には、最初に講義の目的と構成、最後に纏めや重要ポイントを整理し、次回の予習ポイントを話す、最後に演習シートを提出して出席確認をする。

ICT活用

パソコンによるパワーポイントによる講義。

実務経験のある教員の教育内容

該当する。都市計画の調査計画策定など数多くのコンサルタント経験があり、実務経験を授業内容にも取り入れる。

課題に対するフィードバックの方法

演習シートを返却しての解説等を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	講義の目的と構成・概要、地域・都市・都市計画とは、都市計画事例紹介	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第2回	都市と都市計画の歴史・その1 世界史、	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第3回	都市と都市計画の歴史・その2 日本史	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		

第4回	都市計画法の体系及び関連法規の体系・建築基準法集団規定 他	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第5回	土地利用計画 規制と誘導、都市計画区域 線引きと用途地域、地域地区など	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第6回	自治体の都市計画(その内容と動向及び課題)都市計画計画手法・各種データ・調査分析方法・計画策定手法、住民参加手法・ワークショップ	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		

第7回	都市計画区域マスタープランと市町村マスタープラン及び調査・計画策定方法論	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第8回	各種都市施設の配置計画 道路と交通 物資循環・供給処理施設計画	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第9回	各種都市施設 上下水道・都市河川、地区計画、建築協定、まちづくり協定他	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		

第10回	市街地開発事業 土地区画整理事業 仕組みと事例、計画演習含む	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第11回	市街地再開発事業 仕組みと事例、計画演習含む	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第12回	都市交通計画・需要推計法、交通マネジメント、公共交通、交通環境保全、交通安全論	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		

第13回	公園緑地計画、環境保全、低炭素都市・コンパクトシティのまちづくり・エリアマネジメント	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第14回	景観計画、都市デザイン、ポケットパーク、全国のまちづくりの先進事例紹介 今後の方向性、まとめ・総合演習	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
第15回	試験 全範囲(都市計画の定義、都市計画史、土地利用計画、調査計画方法、土地区画整理事業、市街地再開発事業、交通、公園緑地 他) 演習問題含む	教科書やネット環境による予習、言葉の意味などの準備学習。90分	授業の復習、レポートや演習課題実施。90分
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	無し
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内試験を実施する50%、授業内の課題・参加度・出席態度等50%
その他	0	
教科書		
図説都市計画(学芸出版社)		
参考文献		

無し

履修条件・留意事項等

可能な限り100%の出席を求めます。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
科目名		社会福祉				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 是伸						

授業の位置づけ

・ディプロマポリシー「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる」と関連する科目である。

・保育・教育の基礎的な専門知識を身に付けるための専門基礎科目である。社会福祉の理念や社会問題の構造を理解することで、「子ども家庭福祉」や「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」「こども家庭支援論」「子育て支援」等の基盤となる科目である。

・地域未来学科のディプロマポリシー「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目では、社会問題発生メカニズムを学び、現代における社会福祉の意義と役割を理解する。社会福祉の歴史・制度・行財政を基にした社会福祉サービスの展開について概観するとともに地域社会にとっての社会福祉の意味やグローバル下での社会福祉の在り方についても検討する。

到達目標

1. 社会福祉法制度の基礎的知識・理解を身に着け、法制度や自らの考えを説明できるようにする。
2. 私たちの生活の中に「社会福祉」が、どのように位置づいているかを理解し、述べることができる。
3. 「社会福祉・ソーシャルワーク」実践の基本的知識の理解と実際を知り、専門職者としての連携や保育士としての在り方を考え、自ら説明できるようにする。
4. 社会福祉の専門職としての基本的な知識を身に付け、実践につなげるよう考えることができる。

授業の方法

1. 本講義では、講義形式で展開される。そのうえで対話型講義となる場合がある。
2. 本講義の配布物・諸連絡等については、Googleクラスルームを活用する。そのため講義必要な資料とは、Googleクラスルームよりダウンロードもしくは印刷し、講義に参加すること。
3. 本講義では、毎講義終了後にリアクションペーパーを提出し、次回以降の講義にてフィードバックする。

ICT活用

Googleクラスルームを活用する。また必要に応じてデジタルデバイスを活用する

実務経験のある教員の教育内容

特になし

課題に対するフィードバックの方法

講義のリアクションペーパーに対して、定期的に講義内でフィードバック(講評・アドバイス等)を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業のオリエンテーション ・授業の進め方や評価方法などを説明 ・現代社会と社会福祉	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	社会福祉の理念・意義 ・社会福祉の基本理念と基礎理解	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	社会福祉の歴史(1) ・社会福祉史の意義 ・イギリスの社会福祉の史的展開	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	社会福祉の歴史(2) ・アメリカの社会福祉の史的展開 ・日本の社会福祉の史的展開	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	社会福祉法制と実施体制 ・社会福祉法制と行財政	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	子ども家庭と社会福祉(1) ・子ども家庭・児童福祉の概念・対象 ・子ども家庭・児童福祉の施策	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	子ども家庭と社会福祉(2) ・児童虐待と社会的養護 ・ひとり親家庭と母子保健 ・少子化対策・子育て支援等の施策	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	障がい者(児)と社会福祉 ・障がい者(児)の概念・対象 ・障がい者(児)福祉の施策	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	高齢者と社会福祉 ・高齢者の概念・対象 ・高齢者福祉の施策	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	貧困と社会福祉 ・貧困問題と社会福祉 ・生活保護・生活困窮者自立支援法等の貧困に対する施策	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	地域福祉の推進 ・地域福祉の現状と考え方 ・包括的相談支援体制と地域支援	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	社会保障制度 ・社会保障の概念・基本的理解 ・年金保険、医療保険、雇用保険・労災等の法制度の理解	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	社会福祉の担い手と専門職者 ・社会福祉専門職の概要、倫理、種類 ・専門職者間の連携	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	ソーシャルワーク実践 ・ソーシャルワークの基本的な理解 ・ソーシャルワークの実践事例 ・保育ソーシャルワークの基本的理解と実践事例	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	現代社会における社会福祉 ・社会福祉の動向と課題	指定されたテキストならびに講義配布資料を活用し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	講義を踏まえ、指定されたテキストや資料等をもとにの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート50%、リアクションペーパー20%、授業参加状況30%
その他	0	
教科書		
鈴木幸雄(編)『改訂現代の社会福祉』, 中央法規出版.		
参考文献		

特になし。

履修条件・留意事項等

- ・講義は対話型講義で進められる場合があるため、積極的な講義参加を望む。
- ・日常において社会や地域に関心をはらい、常に学究心を持ち、講義、予習・復習にのぞんでもらいたい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
科目名		景観デザイン論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	熊野 稔						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことに特に関連の強い科目である。

授業の概要

本科目では、地域づくりの人材養成に必要な景観工学・風景デザイン論の基本的知識・考え方、方法論、景観法と景観計画、歴史まちづくり法と歴史的風致維持向上計画、文化財保護法と重要文化的景観・重要伝統的建造物群保存地区の計画、北海道や全国各地の景観まちづくりの先進事例等を学習する。実務を通じた業務活動の実績を講義に取り入れて風景と景観論の教材として活用する。達成目標は、景観工学・風景デザイン論の教養と体系を理解し、基本的知識を習得して、デザイン基本演習も行いながら、実務に十分生かせる実力を培う。

到達目標

学生が、景観工学・風景デザイン論の体系を理解し、基本的知識を習得して、レポート課題を各自の創意工夫の元に解決しまとめて提出することにより、実務に生かせることができる。

授業の方法

パワーポイントによる映像を重視した講義やアクティブラーニングを行う。講義理解と演習シートの提出、確認テスト、1課題のレポート提出で成績評価する。

ICT活用

ノートパソコンの持ち込み必要。Google Form、Google Classroom等の活用含む。

実務経験のある教員の教育内容

実績あり。熊野稔は実際に景観デザインのコンサルタント経験があり、経験上の実務内容も授業に取り入れる。

課題に対するフィードバックの方法

演習シート等の返却や解説を行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	全体講義の説明、成績評価説明。景観、風景、デザインとは何か。(都市、農山漁村、自然景観等 映像解説)。クイズ方式での景観の解説も取り入れる。	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第2回	景観行政の歴史・経緯。北海道など自治体の景観条例、宮崎県沿道修景美化条例などの学習	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第3回	景観法の体系 基本用語 景観計画の構成と内容を学ぶ。北海道内の自治体景観計画事例なども学ぶ。	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		

第4回	地方自治体の景観計画、協定、計画の調査と手法、マネジメントの手法と体系	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第5回	都市景観 農山漁村景観 自然景観保全のデザインコード・ガイドライン体系	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第6回	道路・街路景観、街路樹、ストリートファニチャー等のデザイン	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		

第7回	河川景観、水辺景観、港湾景観等の景観ガイドライン	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第8回	公園緑地、ポケットパーク、緑の基本計画等の緑と花の景観ガイドライン	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第9回	都市の色彩と照明計画、夜間景観の計画と演出	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		

第10回	建築の景観ガイドラインと街並み景観のガイドライン・景観マネジメント	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第11回	歴史的町並み保全、重要伝統的建造物群保存地区、歴史まちづくり法、他。	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第12回	文化財保護法と重要文化的景観。北海道の事例。日南市等自治体の事例・計画と景観マネジメント。	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		

第13回	農山漁村地域の景観計画と景観保全マネジメント、景観保全支援	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第14回	景観計画・マネジメントの課題と今後の方向性 ポケットパークなど基本的パース作成演習、景観のリデザインとリデザイン演習。	教科書やネット環境での事前学習90分	授業の復習やレポート作成90分
担当教員	熊野 稔		
第15回	授業全体のまとめ及び確認試験実施。レポート提出。レポートは生成AIの活用も含む。	期末試験対策及びレポート作成(270分以上)	授業の復習90分
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の参加態度・レポート提出5割。確認テストの実施5割(授業の範囲全体(景観まちづくりの基本、専門用語、景観法の理解、ポケットパークの作成など)
その他	0	
教科書		
都市景観の景観デザイン(森北出版)石井一郎 他		
参考文献		

景観とデザイン(オーム社)

履修条件・留意事項等

できるだけ授業を欠席しないこと。遅刻厳禁。教科書をそろえること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 まちづくり・地域政策					
科目名		統計と社会調査法				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小田 史郎						

授業の位置づけ

健康栄養学科のディプロマ・ポリシー「地域や国際社会における食と健康にかかわる諸問題を解決するため、健康の維持・増進に必要とされる高度な専門知識を体系的に身につけている。(知識・技能)」、「データサイエンスを理解・活用し、科学的根拠に基づき、食環境および生活の質(Quality Of Life:QOL)向上に貢献するために必要な能力を身につけている。(知識・技能)」、「他分野と協働しながら、人々の栄養改善・健康増進を実現する指導者として必要な理論と技術を身につけている。(知識・技能)」,また地域未来学科ディプロマ・ポリシー「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」と関係がある科目である。また「統計の基礎」の応用科目に位置づけられる。

授業の概要

統計に関する基礎知識の上に立って、自らの課題解決のための調査実施の原理と方法を理解し、疫学的調査の基本技術を身につける。特に社会集団を観察するとはどのようなことなのか、母集団や標本の設定、質問票の作成や集計、統計処理など、社会調査全般について実践的に学ぶ。

到達目標

- ①学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、調査計画を立てることができるようになる。
 ②学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、質問紙を作成することができるようになる。
 ③学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、データを分析し、まとめることができるようになる。

授業の方法

パワーポイント、配付印刷物を活用しながら、講義形式で進める(全15回)。毎回、講義内容を小レポートにまとめる。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の小レポートに対しては、内容に関する質問に回答します。
 最終レポートについては第15回の講義時に講評します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンスにおいて講義の流れや評価の方法について確認する。また社会調査とは何か、社会調査の目的やその分類について学ぶ。	シラバスを読み、社会調査の定義について調べておく(30分)	自分が調査したいテーマについて関連する資料を探しておく(150分)。
担当教員			
第2回	社会調査の流れについて、フローチャートに基づいて学ぶ。全体像をつかんだ後、最初に行うべき基礎資料の収集法について学ぶ。	社会調査の流れについて示した文献を探し、読んでおく(60分)。	講義で習った方法を用いて、調査テーマに関連する文献検索と収集を行う(120分)。
担当教員			
第3回	文献の読み方について学ぶ。調査テーマに関連する学術論文を題材に、どこまで明らかにされており、何が課題として残っているか、またどのような方法が用いられているかを読み解く方法について学ぶ。	収集した文献を読み、必要な部分をまとめておく(90分)。	講義で習ったことを参考に、収集した論文で明らかにされていること、課題として残されていることをまとめる(90分)。
担当教員			

第4回	考察やまとめを意識した学術論文の収集方法、整理方法について学ぶ。調査テーマに関する論文だけでなく、関係性を説明できる学術論文の集め方について学ぶ。さらに社会調査における倫理的な配慮についても学ぶ。	収集した文献を読み、研究背景として使える部分をまとめておく(90分)。	先行研究を参考に、研究背景と研究目的をレポートにまとめる(90分)。
担当教員			
第5回	調査バイアスや交絡因子について学ぶ。バイアスが入ったデータは精度が低くなることを理解し、調査の精度を高めるためにこれらをできるだけ少なくするための方法を学ぶ。	調査時に起きるバイアスや交絡の考え方について事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査質問紙の構成について整理する。また文献検討により、「方法」の部分に記載する事項について調べる(150分)。
担当教員			
第6回	妥当性と信頼性について学び、調査質問紙を作成する際にどのような点に注意するかについて学ぶ。また報告書の「方法」の部分の記載方法について学ぶ。	調査における妥当性や信頼性について事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査質問紙の構成や内容について精査する。また講義で習った記載方法に基づいて、自分の調査の「方法」の部分を文章化する(150分)。
担当教員			

第7回	質問の文章化、選択肢の作り方のルール、質問紙のレイアウトについても学ぶ。	調査質問紙作成のルールについて事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査内容を具体的に文章化する。また選択肢も作成する(150分)。
担当教員			
第8回	アンケート実施後のデータの編集方法、パソコンへの入力方法、集計方法について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの集計方法について復習する(30分)。	講義内容をもとに、自分の調査結果を入力するデータベースを作成する(150分)
担当教員			
第9回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。分割表の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの検定方法について復習する(60分)。	調査質問紙を精査する。また自分のデータをどのように解析するかについてのレポート作成を開始する(120分)。
担当教員			

第10回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。 差の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの 検定方法について復習する(60 分)。	架空のデータを入れて集計・解 析する。その結果に基づき、調 査質問紙の修正する(120分)。
担当教員			
第11回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。 相関係数の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの 検定方法について復習する(60 分)。	調査質問紙、自分のデータをど のように解析するかについての レポートを作成する(120分)。
担当教員			
第12回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。 重複測定一分散分析法について学ぶ。さらに母集団と標 本について理解し、母集団から標本を抽出する無作為抽 出法について学ぶ。	全数調査と標本調査について 調べておく(30分)。	講義の内容を復習するとともに、 レポートを作成する(150分)。
担当教員			

第13回	標本誤差の考え方と社会調査で必要とされる標本数の求め方について学ぶ。	標本誤差や必要なサンプル数について事前に調べておく(30分)。	講義の内容を復習するとともに、レポートを完成させる(150分)。
担当教員			
第14回	有効回収率とこれを高める必要性について学ぶ。さらに有効回収率を高める工夫について学ぶ。最終レポートの提出を行う。	有効回収率に関して事前に調べておく。また最終レポートを完成し、提出できるように印刷しておく(120分)。	講義の内容をまとめる(60分)。
担当教員			
第15回	最終レポートへの講評により学びを深める。研究デザインとエビデンスレベルについて学び、症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験の特徴について理解する。	症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験について事前に調べておく(30分)。	第15回の講義内容をまとめるとともに、講義全体で習ったことを整理する(150分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回の小レポート、あるいは課題(50点)、研究背景、研究目的、質問紙、解析計画に関するレポート(50点)の総合点で評価する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

「統計の基礎」で使用した「4stepエクセル統計」をデータ解析の説明時に用います。
第8-12回の授業時には持参ください。

履修条件・留意事項等

この講義は、「統計の基礎」の応用科目に位置づけられる。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 実務実践					
科目名		アントレプレナーシップ概論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 真理恵						
授業の位置づけ							
本授業は、地域の歴史や文化、多様な資源の価値を理解し、それらを活かした新たな価値創造の視点を養うことを目的とする。地域や組織が直面する課題を幅広い視点から捉え、構造的に分析し、主体的に行動しながら他者と協働するための基礎的な思考力を身につける。本授業は、人間科学部地域未来学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造する能力(知識・技能)」および「地域課題を発見し、主体的に行動し、協働できる能力(思考・判断・表現)」の育成に資する科目として位置づけられる。							
授業の概要							
アントレプレナーシップ概念は、新しい企業の設立にとどまらず、新事業開発、新製品やサービスの開発、新しいマーケットの開発等、イノベーションの担い手である企業の意識や行動を捉える概念である。本科目では、アントレプレナーが演じるイノベーションの仕組みを理解することに焦点をおいている。講義ではまず、企業活動を支える経営戦略や組織構造等組織の仕組みを理解する。その上でアントレプレナーシップに関わるイノベーションのタイプ、イノベーションプロセス、イノベーションと外部環境、製品・サービス開発と組織についての理論を企業の事例分析を通じて理解していく。							
到達目標							

1. 経営戦略や価値創造の基本概念と分析枠組みを理解し、地域や組織の課題に応用できる。
2. イノベーションのプロセスやタイプ、課題解決に影響する戦略・組織要因を理解し、分析・整理できる。

授業の方法

アントレプレナーシップに関わる理論や概念の講義を行うとともに、講義中に小テストやディスカッション、ケーススタディを行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

講義中に小テスト、レポートなどの解答についてフィードバックを行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イノベーションとは何か:社会と課題への向き合い方 本講義の目的、到達目標、評価方法、授業の進め方を説明する。アントレプレナーシップを起業に限定せず、組織や地域が直面する課題に向き合い、考え続ける姿勢として捉える。イノベーションを特別な成功事例ではなく、既存の構造に疑問を持ち、価値の生み方を問い直す過程として理解することで、講義全体の問題意識を共有する。	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第2回	組織のしくみと課題への対応 組織とは何かをテーマに、個人ではなく組織として課題に向き合う必要性を考察する。組織が目的を持ち、役割分担を通じて価値を生み出す仕組みを整理する。組織であるがゆえに生じる課題や制約を検討し、課題に直面した際、どのように組織として考え、行動するかを意識する。	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第3回	事業とは何か:価値創造の視点 事業と価値の関係を整理し、課題と価値創造のつながりを考える。事業を単なる活動の集合ではなく、課題に対する解決構造として捉える視点を学ぶ。誰のどのような課題に向き合うかを明確にする重要性を、身近な事例を通じて理解し、考察する。	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第4回	市場と競争の仕組みを理解する 市場や競争の基本構造を学び、なぜ競争が生じ、価値を生み続けることが難しいのかを整理する。競争環境の違いが組織の行動や意思決定に与える影響を考察し、課題を環境との関係から捉える視点を養う。	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第5回	組織の戦略と課題への向き合い方 競争戦略の基礎を理解し、組織が課題への向き合い方をどのように選択しているかを整理する。戦略を単なる計画や目標設定ではなく、課題に対する考え方の枠組みとして捉える。限られた条件の中で価値創造の方向性を定める過程を検討する。	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第6回	競争優位と差別化の考え方 競争優位と差別化の概念を通じ、組織ごとに成果の違いが生まれる理由を考察する。短期的成果ではなく、課題に継続的に向き合う姿勢がどのように差となって表れるかを整理し、身近な事例を用いて選ばれ続ける理由を分析する。	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第7回	バリューチェーンで課題の構造を理解する バリューチェーンの考え方を学び、課題がどの活動で生じ、なぜ解決されにくいかを構造的に捉える視点を身につける。個々の活動ではなく、活動同士のつながりに注目することで、課題の本質を見極める力を養う。部分改善ではなく全体を考える姿勢を重視する。	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第8回	バリューチェーンと成果の関係を考える バリューチェーンと競争優位の関係を検討し、課題への向き合い方がどのように成果の違いとして現れるかを理解する。特定の活動だけでなく全体の組み合わせを見直すことで新たな価値が生まれる可能性を考察し、構造を問い直す姿勢を学ぶ。	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第9回	経営資源と価値創造の基本 経営資源(人材、知識、経験など)が課題に向き合う中でどのように活用されるかを整理する。目に見える資源だけでなく、考え方や姿勢といった無形の要素が価値創造に与える影響についても考察し、組織や地域での課題対応力を理解する。	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第10回	イノベーションの理論と課題への対応 イノベーションの基本理論を通じ、既存のやり方が通用しなくなる理由を整理する。変化の背景を理解し、成功体験が新たな課題を生む可能性を考察する。イノベーションを特別な出来事ではなく、課題に向き合い続ける過程として捉える視点を養う。	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第11回	組織構造とイノベーションの関係 組織の仕組みが課題解決を促進する場合と阻害する場合を理解する。構造そのものが課題となる可能性を考え、課題を個人の問題にせず、組織全体でどう向き合うかを検討する。	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第12回	製品・サービス開発と価値創造のプロセス 製品・サービス開発を題材に、課題がどのように価値へと転換されるかを考察する。顧客の声や現場の違和感を出発点として試行錯誤を重ねる過程の重要性を理解し、完成度よりも課題に向き合う姿勢が価値創造につながることを確認する。	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			

第13回	地域・身近な事例で課題を分析する 地域や身近な事例を用いて、実際の課題を理論的に分析する。成功事例をなぞるのではなく、どの課題が存在し、どのように向き合ったかに注目する。理論を使って現実を説明する力を養い、自分なりの考えを持つ姿勢を重視する。	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第14回	理論を統合して課題への向き合い方を考える これまでの講義内容を整理し、各理論や概念が課題への向き合い方にどうつながるかを統合的に理解する。断片的知識ではなく、構造として捉え直すことで、複雑な課題に対して考え続ける視点を再確認する。	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
第15回	講義全体の振り返り:考え方と姿勢を整理する 講義全体を振り返り、知識の習得だけでなく、課題に直面した際の考え方や姿勢を整理する。正解のない状況で自ら問いを立て、考え続けることの意味を再確認し、今後の学修や実践にどうつなげるかを考察する。	授業のテーマについて準備を行う。(90分)	学習内容を振り返り、まとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加度(20%)小テスト、レポート(80%)
その他	0	
教科書		
特に指定しない		
参考文献		

一橋大学イノベーション研究センター編(2017)『イノベーションマネジメント入門』、日本経済新聞出版社

履修条件・留意事項等

特になし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 実務実践					
科目名		公務員講座Ⅰ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋 保夫						

授業の位置づけ

この科目は、ディプロマ・ポリシーより、公務員を目指す学生への対策講座である。集中講義形式であるので、自然・社会・人文科学を広く網羅的に勉強する強い意志を有する学生の履修を希望する。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目である。また、地域未来学科のディプロマポリシー「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」と特に関係のある科目であり、「公務員講座Ⅱ」と連動する。

授業の概要

本科目は、主に大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することを目指した公務員試験対策のための講座である。公務員試験に合格するためには、広い一般常識と高度の専門知識が求められ、相当の学習時間が要求される。「合格する」という強い精神力を持ち、すべての時間に出席する積極的な参加姿勢を持った学生の受講を歓迎する。

到達目標

・公務員をいう仕事に対する理解を深め、公務員を志す理由が明確にすることができる。 ・合格するにはどのような努力が必要なのか明確にすることができる。 ・大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することができる。

授業の方法

配布教材と配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして質問を授業後受け付ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	判断推理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	公僕たる公務員を目指すにあたって、その気概と初志を明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	判断推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	判断推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第4回	判断推理(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	日本史(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「日本史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	日本史(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「日本史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第7回	図形(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図形(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	図形(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第10回	図形(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	世界史(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「世界史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	世界史(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「世界史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	数的推理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	数的推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	数的推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加度90% チャレンジテスト等10%
その他	0	
教科書		
東京アカデミー 公務員講座テキストを使用する。		
参考文献		

講座中に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

留意事項等

全ての回の講義への積極的参加を必須とする。集中講義方式で履修するので、1日休んでしまうと3～4回の欠席になってしまう。
開講時期・場所等について事前の告知に注意を払うこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 実務実践					
科目名		公務員講座Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋 保夫						

授業の位置づけ

この科目は、ディプロマ・ポリシーより、公務員を目指す学生への対策講座である。集中講義形式であるので、自然・社会・人文科学を広く網羅的に勉強する強い意志を有する学生の履修を希望する。「公務員受験講座Ⅰ」の履修学生が対象である。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目である。また、地域未来学科のディプロマポリシー「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」と特に関係のある科目であり、「公務員講座Ⅰ」と連動する。

授業の概要

本科目は、主に大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することを目指した公務員試験対策のための講座である。公務員試験に合格するためには、広い一般常識と高度の専門知識が求められ、相当の学習時間が要求される。「合格する」という強い精神力を持ち、すべての時間に出席する積極的な参加姿勢を持った学生の受講を歓迎する。

到達目標

・公務員をいう仕事に対する理解を深め、公務員を志す理由が明確にすることができる。 ・合格するにはどのような努力が必要なのか明確にすることができる。 ・大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することができる。

授業の方法

配布教材と配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして授業後質問を受ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	地理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「地理」分野を対象とする。	公僕たる公務員を目指すにあたって、その気概と初志を明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	地理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「地理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	数的推理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第4回	数的推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	数的推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	数的推理(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第7回	政治経済(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	政治経済(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	政治経済(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第10回	政治経済(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	政治経済(5) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	政治経済(6) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	時事(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「時事」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	時事(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「時事」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	チャレンジテスト いままで受講してきた内容を理解できているかどうかの確認を公務員模擬試験によって行う。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加度90% チャレンジテスト等10%
その他	0	
教科書		
東京アカデミー 公務員講座テキストを使用する。		
参考文献		

講座中に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

全ての回の講義への積極的参加を必須とする。集中講義方式で履修するので、1日休むと3～4回の欠席となる。開講時期・場所等について事前の告知に注意を払うこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 実務実践					
科目名		日本語ビジネスライティング				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木 雅哉						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの、「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている【知識・技能】」と関連があり、ビジネスシーンに羽ばたく上での文章作成能力を習得する科目である。
「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。【知識・技能】」ことと関係する科目である。

授業の概要

本科目は、日本語でビジネスをする上で欠かせない文書作成の基本を学ぶ。電子媒体が主流の今日であっても、仕事でやりとりする文書には一定の様式とマナーがある。情報技術の進展とともに、ビジネス文書の書き方は少しずつ簡略化され、言葉遣いも変化してきているとはいえ、相手に失礼な表現や言い回し、敬語の誤った使い方では、仕事への信頼を失うことがある。そこで、ここでは、敬語について理論的に学ぶとともに、日常業務における依頼・謝罪・お礼・断り・問い合わせ等の社外文書と、要請や報告、連絡等仕事をスムーズにするための社内文書の基本的な書き方を身に付けていく。

到達目標

・社会に存在する様々なビジネスライティングについて理解できるようになる。 ・各講義の目標とするライティング技術を習得し、実際的な文書作成ができるようになる。 ・文の正誤・適否・美醜等が区別でき、適切な言葉選びが出来るようになる。

授業の方法

1.講義形式で、作成する文章の形式を中心に説明を行う。 2.説明に基づいて実際に各自で文章作成・添削・相互評価を行う。 3.完成させた文章は毎時間提出して担当教員の指導を受け、指定されたものを締め切りまでに提出する。

ICT活用

・必要に応じて遠隔授業システム等を用いた授業を実施し、ICT技術の修得を促す。

実務経験のある教員の教育内容

・公立小学校の担任としての国語教育、また校長としての学校経営や対外的な渉外の知識と経験を有する。これを生かし、実践的な指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

・作成した課題は原則マンツーマンのセッションを経て添削し受理する。 ・作成した課題の相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【ビジネス文書とは】 個人的な文書、社用文書、公用文書など、文書の種類について、その内容や性格を学ぶ。 【就職課と連絡が取れるようになろう】 就職課へのメールアドレス(携帯電話)登録を通して依頼文のメールを学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第2回	社会人の先輩に聞いてみよう。 大学内外の社会人に、職場や業界などの状況を聞き取り、「働くこと」のイメージを学ぶ。 事前の依頼状、事後の礼状など、手紙やメールにおける正しい言葉遣いを学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第3回	【ビジネス文書の作成1】テキストp10-41 ・取引に関わる文書について、その種類や形式、構成について学ぶ。 ・文書作成演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第4回	【ビジネス文書の作成2】 テキストp42-61 ・社内に関わる文書について、その種類や形式、構成について学ぶ。 ・文書作成演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第5回	【ビジネス文書の作成3】 テキストp62-93 ・社交文書や電子的な文書について、その種類や形式、構成について学ぶ。 ・文書作成演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第6回	【文書の受発信業務1】 テキストp94-108 ・受発信に際する取り扱い方、郵便の知識などについて学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第7回	【管理職に聞く】 採用側、会社はどんな人材を期待しているのか。 説明会申込から始まる一連の流れの中で必要とされる文書の作成を体験し、その体裁を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第8回	【文書管理の基本】テキストp109-115 ・ファイリングの知識、効果、効率的な用具等について学ぶ。 ・演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第9回	【就職関連文書1】テキストp122-126 ・履歴書を書いてみよう。 ・就職における文書の役割を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第10回	【就職関連文書2】 テキストp127-132 ・エントリーシートや送付状を書いてみよう。 ・就職活動の過程で必要な文書を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第11回	【就職に必要な文章読解と表記1】 ・基本的な文章読解法を学ぶ。 ・簡潔な表記を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第12回	【就職に必要な文章読解と表記2】 ・難易度が高い文章読解法を学ぶ。 ・複雑な表記について学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第13回	【手書き文字を美しく1】 ・自分の手書き文字を客観的にみつめる。 ・美しさとは	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第14回	【手書き文字を美しく2】 ・美しさと丁寧さ ・「美文字」に見せるコツ	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 作成課題の最終チェックとまとめ問題への取り組みを行い 自己評価することを学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	全課題の提出(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の提出:70%(70点) 出席率、参加態度30%(30点)
その他	0	
教科書		
ビジネス文書ーオフィスワーカーの実務ー(横山秀世 編著／建帛社)		
参考文献		

必要に応じて提示する。

履修条件・留意事項等

「自分の書いた文章に責任を持つ」ことを目的とする。
外部講師の都合等により、授業の順番が変わることがある。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		専門関連科目 実務実践					
科目名		ビジネス会計の基礎				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	旗本 智之						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる」と関係がある科目である。

授業の概要

古今東西、会計はビジネスの言語と言われている。言語習得のポイントはある程度の理屈と慣れである。本授業では、ビジネスに関わるアントレプレナーや経営者のみならず新社会人にとっても重要な知的基盤となる会計リテラシーを基礎から丁寧に講義し、トレーニングしてもらいながら、使えるスキルとすることを目標とする。具体的には商品販売業を想定し、企業の意義、企業会計と家計簿との違い、資本の提供者と会社の設立、商品の仕入・販売活動と記録、試算表の作成を扱う。

到達目標

- ①会社の設立の内容と会計処理方法を説明できる。
- ②商品の仕入と販売の内容と会計処理方法を説明できる。
- ③そのほか会社に関わる取引の内容と会計処理方法を説明できる。
- ④試算表の作成方法と内容を説明できる。

授業の方法

準備学習として指定した範囲の教科書を読んできてもらう。授業では教科書に沿ってパワーポイントや板書を用いて説明し、理解度を確認するため練習問題を解答してもらい、復習すべき箇所や問題を明確にし、事後学習に備えてもらう。

ICT活用

授業のパワーポイント資料をGoogle Classroomにアップロードし、予習・復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

課題に対するフィードバックの方法

講義内容に関する疑問や質問について、次回の授業時に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	企業と会計の概論を講義する。特に企業が何故必要なのか、企業が存続するためには何が必要かを学習する。また、授業の基本的な進め方を説明する。	教科書の色刷り3頁から17頁まで音読し、読めなかった漢字にふりがなを付けてくること(90分)。	講義ハンドアウトの最後にある文章について、出来るだけひらがなを漢字に書き換えることと用意していない人は教科書と電卓を用意すること(90分)
担当教員			
第2回	簿記とは何であるのかについて講義する。	教科書本文の19頁まで音読し、読めなかった漢字を余白に書き込み、ふりがなを付けてくること(90分)。	講義ハンドアウトの最後にある文章について、出来るだけひらがなを漢字に書き換えることと間違えた練習問題を再度解いてくること(90分)
担当教員			
第3回	商品の仕入と販売に関する基本的な取引を講義する。扱う勘定科目は現金、仕入、売上、繰越商品、買掛金。売掛金である。	教科書本文の29頁まで音読し、読めなかった漢字を余白に書き込み、ふりがなを付けてくること(90分)。	講義ハンドアウトの最後にある文章について、出来るだけひらがなを漢字に書き換えることと間違えた練習問題を再度解いてくること(90分)
担当教員			

第4回	商品の仕入と販売に関する応用的な取引を講義する。新たに扱う勘定科目はクレジット売掛金、支払手数料、発送費である。	教科書本文の35頁まで音読し、読めなかった漢字を余白に書き込み、ふりがなを付けてくること(90分)。	講義ハンドアウトの最後にある文章について、出来るだけひらがなを漢字に書き換えることと間違えた練習問題を再度解いてくること(90分)
担当教員			
第5回	現金と預金に関する取引を講義する。新たに扱う勘定科目は当座預金、定期預金、普通預金である。	教科書本文の43頁まで音読し、読めなかった漢字を余白に書き込み、ふりがなを付けてくること(90分)。	講義ハンドアウトの最後にある文章について、出来るだけひらがなを漢字に書き換えることと間違えた練習問題を再度解いてくること(90分)
担当教員			
第6回	手形と電子記録債権・債務に関する取引を講義する。新たに扱う勘定科目は支払手形、受取手形、電子記録債権、電子記録債務である。	教科書本文の52頁まで音読し、読めなかった漢字を余白に書き込み、ふりがなを付けてくること(90分)。	講義ハンドアウトの最後にある文章について、出来るだけひらがなを漢字に書き換えることと間違えた練習問題を再度解いてくること(90分)
担当教員			

第7回	貸付金と借入金に関する取引を講義する。新たに扱う勘定科目は貸付金、受取利息、借入金、支払利息である。	教科書本文の57頁まで音読し、読めなかった漢字を余白に書き込み、ふりがなを付けてくること(90分)。	講義ハンドアウトの最後にある文章について、出来るだけひらがなを漢字に書き換えることと間違えた練習問題を再度解いてくること(90分)
担当教員			
第8回	売掛金・買掛金以外の営業債権・債務に関する取引を講義する。新たに扱う勘定科目は未払金、土地、未収入金、前払金、前受金である。	教科書本文の67頁まで音読し、読めなかった漢字を余白に書き込み、ふりがなを付けてくること(90分)。	講義ハンドアウトの最後にある文章について、出来るだけひらがなを漢字に書き換えることと間違えた練習問題を再度解いてくること(90分)
担当教員			
第9回	仮払金・仮受金・立替金に関する取引を講義する。新たに扱う勘定科目は仮払金、旅費交通費、仮受金、立替金である。	教科書本文の75頁まで音読し、読めなかった漢字を余白に書き込み、ふりがなを付けてくること(90分)。	講義ハンドアウトの最後にある文章について、出来るだけひらがなを漢字に書き換えることと間違えた練習問題を再度解いてくること(90分)
担当教員			

第10回	預り金と消耗品に関する取引を講義する。新たに扱う勘定科目は給料、預り金、消耗品費である。	教科書本文の81頁まで音読し、読めなかった漢字を余白に書き込み、ふりがなを付けてくること(90分)。	講義ハンドアウトの最後にある文章について、出来るだけひらがなを漢字に書き換えることと間違えた練習問題を再度解いてくること(90分)
担当教員			
第11回	固定資産に関する取引を講義する。新たに扱う勘定科目は建物、固定資産売却益、減価償却費、減価償却累計額である。	教科書本文の90頁まで音読し、読めなかった漢字を余白に書き込み、ふりがなを付けてくること(90分)。	講義ハンドアウトの最後にある文章について、出来るだけひらがなを漢字に書き換えることと間違えた練習問題を再度解いてくること(90分)
担当教員			
第12回	租税公課・消費税・資本金に関する取引を講義する。新たに扱う勘定科目は租税公課、未払固定資産税、仮払消費税、仮受消費税、資本金である。	教科書本文の102頁まで音読し、読めなかった漢字を余白に書き込み、ふりがなを付けてくること(90分)。	講義ハンドアウトの最後にある文章について、出来るだけひらがなを漢字に書き換えることと間違えた練習問題を再度解いてくること(90分)
担当教員			

第13回	帳簿の記入方法を講義する。	教科書本文の108頁まで音読し、読めなかった漢字を余白に書き込み、ふりがなを付けてくること(90分)。	講義ハンドアウトの最後にある文章について、出来るだけひらがなを漢字に書き換えることと間違えた練習問題を再度解いてくること(90分)
担当教員			
第14回	試算表の作成方法を講義する。	教科書本文の117頁まで音読し、読めなかった漢字を余白に書き込み、ふりがなを付けてくること(90分)。	講義ハンドアウトの最後にある文章について、出来るだけひらがなを漢字に書き換えることと間違えた練習問題を再度解いてくること(90分)
担当教員			
第15回	伝票と仕訳日計表について講義する。	教科書本文の131頁まで音読し、読めなかった漢字を余白に書き込み、ふりがなを付けてくること(90分)。	講義ハンドアウトの最後にある文章について、出来るだけひらがなを漢字に書き換えることと間違えた練習問題を再度解いてくること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する小テスト70%、授業への参加態度30%
その他	0	
教科書		
滝澤 ななみ・TAC出版開発グループ『スッキリわかる 日商簿記初級 第3版』TAC出版、2019年、ISBN-10 : 4813287360。		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
・教科書と電卓を毎回持ってくること。電卓については I 回目の授業でも説明するが、出来るだけ大きいものが良い。
備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(熊野 稔)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	熊野 稔						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。さらに、初年次教育の一環として、これから専門領域を学習するに当たっての心構えを養うための科目である。

授業の概要

本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の地域資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。

② 持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、まちづくり、地域創生学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で論じたり、述べることができる。

授業の方法

パワーポイント資料、印刷物、動画資料などを用い、各回の地域にかかわるテーマについて事前学習を講義形式で行う。その後、テーマに関連する施設等へのフィールドワークを行う。まとめでは受講生がプレゼンテーションを行う。

ICT活用

Google classroom、Google formを用いた双方向授業を行う。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

地域都市計画等の調査計画等の実務を通して培ったノウハウを生かし、フィールド調査の手法や課題解決の方向性などの基礎を学ぶ

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom、Google formを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深めると共に、本科目で学びの対象とする「地域(フィールド)」や「地域資源」の定義について協議し、情報を共有する。	シラバスをよく読んで授業に臨む。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておく。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第2回	フィールドワークの意義 恵庭市等、大学周辺の「地域資源」を探り、それらの有する価値やフィールドワークにおける着眼点、留意事項についての理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておく。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第3回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～道の駅・郷土資料館、図書館などの公共施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第4回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～道の駅等・郷土資料館、図書館などの公共施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや写真画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理し纏める。(60分)
担当教員	熊野 稔		
第5回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域産業・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第6回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域産業・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分) 配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第7回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域振興・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第8回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域振興・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第9回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～社会教育施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第10回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～社会教育施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第11回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～子育て支援・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第12回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～子育て支援・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第13回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～郊外部、自然環境・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第14回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～郊外部、自然環境・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワークの中から、一つの事例を取り上げ、地域創生の観点からの地域づくりについて自分の考えを述べ、発表する。レポート提出	これまでの講義資料やノート、フィールドワークのふりかえりを読み直し、授業に臨む。レポート作業 (60分)	フィールドワークを通しての学びや気づきを整理し、後期のゼミ活動に対する課題意識を整理する。(25分)
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 レポート40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
無し		
参考文献		

授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」に連繋する科目である点から、原則、割り当てられた担当教員については後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」についても変更しないものとする。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 俊昭						

授業の位置づけ

初年次教育科目として位置付け、地域未来学科で学ぶ入門編として専門的な基礎知識について理解させること、また、ディプロマ・ポリシーにおける地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能) 幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度) 幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)

授業の概要

本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることが手掛かりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。

到達目標

地域社会が持つ課題や地域づくり、社会制度的仕組みの基礎知識を身に着けること、及び地域の課題や問題解決に関する取り組みの情報を収集し、考察するために、必要なコミュニケーション能力を高め、未来の地域創生リーダー・プロデューサー人財を目指すものである。

授業の方法

地域創生に関する関連書籍、国・自治体の先駆的事例に基づくパワーポイント資料や動画資料などを使用し、学び、習い、問い立ての実学教育を行う。また、教員と学生、学生間の対話を通じて、理解度を深めていく。自治体等に直接訪問し、地域現場を体験する機会を創出し、現状と課題、あるべき姿や政策立案のあり方などを実感する機会とする。

ICT活用

インターネットのほか、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方公務員の現場、学会代表や企業等の立上げ経験を持つ私のほか、随時、必要に応じ、行政職員、大学職員や起業家等のゲストが対面・オンラインにて講義を行うものとする。

課題に対するフィードバックの方法

事前学習を踏まえ、担当教員が学生とのディスカッション等を通じて、フィードバックを行う。また講義後に、演習シートの提出を行い、学び、習い、問い立てには適切に対応する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	国内のひと育て・まち育て、地域創生の基本的な考え方、手法や先駆事例など、本講義の概要と目的、スケジュールの説明、学生の自己紹介を実施し、地域創生に関する考え方などの対話を行う。	準備学習および必要時間(25分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(20分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員	木村 俊昭		
第2回	国内のひと育て・まち育て、地域創生の現状と課題を講義し、その後、学生の住み暮らすまちの現状と課題を発表のうえ、発表内容に基づき、対話を行う。	準備学習および必要時間(25分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(20分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員	木村 俊昭		
第3回	都市部、生産地の過疎地域、離島や被災地など、人口減少や高齢化が進むまちの政策立案や実践に関して学び、習い、問い立てを実施する。特に、北海道内の自治体の先駆事例を基に、「なぜ？」成功事例となっているのか、具体的に因果構造を分析し、要因を解明するなど、対話を行う。	準備学習および必要時間(25分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(20分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員	木村 俊昭		

第4回	国内の自治体における、地形や気候、地域資源の特性に関する講義を行う。自然環境が地場産業や歴史・文化、生活にどのような影響を与えているのか対話を行う。また、地域の防災・減災対策に関する講義を行い、自然災害への備えの重要性など、対話をする。	準備学習および必要時間(25分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(20分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員	木村 俊昭		
第5回	地域産業の変遷や産業構造に関して講義を行う。基幹産業としての、農業・漁業や製造業・観光業等の現状と課題を整理し、地域経済の持続可能性について対話を行う。また、外的要因としての企業誘致のあり方など、地域創生の政策に関する対話をする。	準備学習および必要時間(25分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(20分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員	木村 俊昭		
第6回	地域のものづくり伝統工芸、音楽や祭りなどの「地域文化」に関する講義を行い、文化を通じての地域の歴史的背景や「五感」を活用しての地域の魅力とは何かなど、対話をする。	準備学習および必要時間(25分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(20分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員	木村 俊昭		

第7回	地域課題を解決する手法や地域イノベーション体系の基礎を学習する。ポケットパーク、道の駅、市街地再開発や温泉街再生などの先駆事例を講義後、対話をする。	準備学習および必要時間(25分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(20分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員	木村 俊昭		
第8回	自治会や町内会、NPOなど地域コミュニティの役割に関する講義を行い、市民主体のまち育ての先駆事例を紹介し、地域の課題解決に向けた市民参加の意義を対話する。また、若者が地域コミュニティにどのように関わることができるのかなど、対話をする。	準備学習および必要時間(25分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(20分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員	木村 俊昭		
第9回	都心部への人口集中を食い止め、少子高齢化や人口減少等で衰退する自治体の持続的発展のため、国・自治体や企業団体等が一体となって、今、地域創生やSDGsの推進、地域人財養成が進められている。その現場の状況と今後の展開の講義後、対話をする。	準備学習および必要時間(25分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(20分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員	木村 俊昭		

第10回	自治体における食文化の特徴や変遷、食と健康に関する講義を行い、地元食材を使った5つの味の「食育」教育のあり方と地域創生のつながりを対話する。また、「健育」としての健康運動や発酵食品、伝統料理の効果などに関して対話をする。	準備学習および必要時間(25分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(20分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員	木村 俊昭		
第11回	地域創生において、地域医療は欠かせない。その現状や、福祉介護の現状と課題に関する講義を行い、少子高齢化が地域社会に与える影響や持続可能な医療・福祉のあり方などの対話をする。地域の医療機関や福祉施設の先駆事例を紹介し、地域現場の実情を理解する機会とする。	準備学習および必要時間(25分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(20分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員	木村 俊昭		
第12回	北海道における森林資源とその持続可能な活用に関する学びは欠かせない。林業や木材産業の現状と課題の講義を行う。その後、地域の建築業や家具産業への可能性など、特に「木育」としての木工体験や森林浴の散策などに関して対話を行う。また、地域の商店街、企業、公共施設、観光地などを実際に訪問し、現場調査を実施する。訪問先のインタビューを通じ、地域の魅力、現状や課題を発見し、フィールドワークの成果を最終講義時(15回目)に発表する。	準備学習および必要時間(25分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(20分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員	木村 俊昭		

第13回	北海道の観光産業の可能性、観光資源と地域創生に関する講義を行い、インバウンド観光の現状と課題、持続可能な観光業のあり方などの対話を行う。観光と市民のバランス(オーバーツーリズム等)に関して対話を行い、地域に適した観光振興プランを考えてみる。また、地域の商店街、企業、公共施設、観光地などを実際に訪問し、現場調査を実施する。訪問先のインタビューを通じ、地域の魅力、現状や課題を発見し、フィールドワークの成果を最終講義時(15回目)に発表する。	準備学習および必要時間(25分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(20分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員	木村 俊昭		
第14回	地域の商店街、企業、公共施設、観光地などを実際に訪問し、現場調査を実施する。訪問先のインタビューを通じ、地域の魅力、現状や課題を発見し、フィールドワークの成果を最終講義時に発表する。	準備学習および必要時間(25分) 関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(20分) 講義内容を復習して演習シートを提出すること。
担当教員	木村 俊昭		
第15回	これまでの講義を振り返り、各自の学び、習い、問い立てを整理する。講義と現場体験を通じて、訪問先のインタビューから、地域の魅力、現状や課題の知り気づき、フィールドワークの成果を発表する。また、地域活動や将来のキャリアに活かすための方向性を見出す機会とする。	これまでの講義内容の学習および必要時間(25分) 全体の復習として、関連書籍やインターネットで関連情報を検索して学習すること。	事後学習および必要時間(20分): 今までの復習と反省点に立ち、今後の学習の方向性を考える。
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各授業の出席状況と各授業の演習シートの提出(40%)、全体レポート(60%)により評価する。
その他	0	なし。
教科書		
書籍「地域創生学の人財論－理論編・実学編 概論－」(北海道文教大学出版会・木村俊昭)の内容ほか、オリジナル資料を講義時に配布する。		
参考文献		

随時、講義時に紹介する。

履修条件・留意事項等

原則、すべての授業に出席すること。各授業の出席と演習シート等の提出、全体レポート等で評価する。試験はなし。

備考欄

インターネットや書籍による関連資料検索等を事前学習で行うこと。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(中田 和彦)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。さらに、初年次教育の一環として、これから専門領域を学習するに当たっての心構えを養うための科目である。

授業の概要

本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。

② 持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、教育学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で述べることができる。

授業の方法

地域に係るテーマやトピックについて印刷物や動画等による資料で事前学習を行い、フィールドワークやグループ協議を行う。

ICT活用

- Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。
- Goproを用いて、動画を撮影するなどして、まとめに活用する。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校教諭、校長として9年の学校現場勤務と市町村や国立青少年教育施設への派遣等、24年の社会教育行政の勤務経験があり、公教育や生涯学習について幅広いの知識を有している。この経験を活かし、これからの時代に求められる教育や学び、教育と地域づくりの関連性等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- 提出を要する課題は、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深めるるるもに、本科目で学びの対象とする「地域(フィールド)」や「地域資源」の定義について協議し、情報を共有する。	シラバスをよく読んで授業に臨む。(30分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておく。(15分)
担当教員			
第2回	フィールドワークの意義 大学周辺の「地域資源」を探り、それらの有する価値やフィールドワークにおける着眼点、留意事項についての理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員			
第3回	地域資源の意義や価値1(前半) 恵庭市の自然環境や景観等の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第4回	地域資源の意義や価値1(後半) 恵庭市の自然環境や景観等の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第5回	地域資源の意義や価値2(前半) 恵庭市の教育環境や教育施設の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第6回	地域資源の意義や価値2(後半) 恵庭市の教育環境や教育施設の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第7回	地域資源の意義や価値3(前半) 恵庭市の産業資源の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第8回	地域資源の意義や価値3(後半) 恵庭市の産業資源の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第9回	地域資源の意義や価値4(前半) 恵庭市の福祉環境・施設の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第10回	地域資源の意義や価値4(後半) 恵庭市の福祉環境・施設の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第11回	地域資源の意義や価値5(前半) 恵庭市の市民生活や市民環境の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第12回	地域資源の意義や価値5(後半) 恵庭市の市民生活や市民環境の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第13回	地域資源の意義や価値6(前半) 恵庭市のまちづくりに関係する人的資源の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第14回	地域資源の意義や価値6(後半) 恵庭市のまちづくりに関係する人的資源の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワークの中から、一つの事例を取り上げ、教育の観点からの地域づくりについて自分の考えを述べ、交流する。	これまでの講義資料やノート、フィールドワークのふりかえりを読み直し、授業に臨む。(25分)	フィールドワークを通しての学びや気づきを整理し、後期のゼミ活動に対する課題意識を整理する。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 60% ②個人課題 30% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

恵庭市のホームページをはじめとするフィールドワーク先に関するWeb上の情報や適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等を使用する。

履修条件・留意事項等

学外者等の協力を得てフィールドワークを展開する科目の性質上、日程や時間、会場等の変更や調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」につながる科目であるため、原則的に担当教員は「地域未来創造基礎(Adventure)」においても変更しないものとする。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(宮崎 隆志)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。さらに、初年次教育の一環として、これから専門領域を学習するに当たっての心構えを養うための科目である。

授業の概要

本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。

② 持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、教育学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で述べることができる。

授業の方法

地域に係るテーマやトピックについて印刷物や動画等による資料で事前学習を行い、フィールドワークやグループ協議を行う。

ICT活用

- Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。
- Goproを用いて、動画を撮影するなどして、まとめに活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない

課題に対するフィードバックの方法

- Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- 提出を要する課題は、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深めるるるもに、本科目で学びの対象とする「地域(フィールド)」や「地域資源」の定義について協議し、情報を共有する。	シラバスをよく読んで授業に臨む。(30分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておく。(15分)
担当教員			
第2回	フィールドワークの意義 大学周辺の「地域資源」を探り、それらの有する価値やフィールドワークにおける着眼点、留意事項についての理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員			
第3回	地域資源の意義や価値1(前半) 恵庭市の自然環境や景観等の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第4回	地域資源の意義や価値1(後半) 恵庭市の自然環境や景観等の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第5回	地域資源の意義や価値2(前半) 恵庭市の教育環境や教育施設の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第6回	地域資源の意義や価値2(後半) 恵庭市の教育環境や教育施設の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第7回	地域資源の意義や価値3(前半) 恵庭市の産業資源の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第8回	地域資源の意義や価値3(後半) 恵庭市の産業資源の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第9回	地域資源の意義や価値4(前半) 恵庭市の福祉環境・施設の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第10回	地域資源の意義や価値4(後半) 恵庭市の福祉環境・施設の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第11回	地域資源の意義や価値5(前半) 恵庭市の市民生活や市民環境の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第12回	地域資源の意義や価値5(後半) 恵庭市の市民生活や市民環境の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第13回	地域資源の意義や価値6(前半) 恵庭市のまちづくりに関係する人的資源の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第14回	地域資源の意義や価値6(後半) 恵庭市のまちづくりに関係する人的資源の現状に触れるとともに、その機能や価値について理解を深める。	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(25分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワークの中から、一つの事例を取り上げ、教育の観点からの地域づくりについて自分の考えを述べ、交流する。	これまでの講義資料やノート、フィールドワークのふりかえりを読み直し、授業に臨む。(25分)	フィールドワークを通しての学びや気づきを整理し、後期のゼミ活動に対する課題意識を整理する。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 60% ②個人課題 30% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

恵庭市のホームページをはじめとするフィールドワーク先に関するWeb上の情報や適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等を使用する。

履修条件・留意事項等

学外者等の協力を得てフィールドワークを展開する科目の性質上、日程や時間、会場等の変更や調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」につながる科目であるため、原則的に担当教員は「地域未来創造基礎(Adventure)」においても変更しないものとする。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(吉岡 亜希子)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	吉岡 亜希子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。さらに、初年次教育の一環として、これから専門領域を学習するに当たっての心構えを養うための科目である。							
授業の概要							
本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。							
到達目標							

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。

② 持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、教育学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で論じたり、述べることができる。

授業の方法

パワーポイント資料、印刷物、動画資料などを用い、各回の地域にかかわるテーマについて事前学習を講義形式で行う。その後、テーマに関連する施設等へのフィールドワークを行う。まとめでは受講生がプレゼンテーションを行う。

ICT活用

Google classroom、Google formを用いた双方向授業を行う。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

市民活動として行っている子育て支援に関連する団体運営、学びの場づくり等でのコーディネーター経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom、Google formを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について理解を深めると共に、本科目で学びの対象とする「地域(フィールド)」や「地域資源」の定義について協議し、情報を共有する。	シラバスをよく読んで授業に臨む。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておく。(25分)
担当教員			
第2回	フィールドワークの意義 大学周辺の「地域資源」を探り、それらの有する価値やフィールドワークにおける着眼点、留意事項についての理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておく。(25分)
担当教員			
第3回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域福祉・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第4回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域福祉・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員			
第5回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域産業・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第6回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域産業・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員			

第7回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域振興・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第8回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～地域振興・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員			
第9回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～社会教育施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第10回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～社会教育施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員			
第11回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～子育て支援・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第12回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～子育て支援・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員			

第13回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～自然環境・施設に関連する事前学習	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第14回	地域資源やその価値を理解すると共に関連する課題を把握する。～自然環境・施設に関連するフィールドワーク	事前の指示による情報の収集や課題を行う。(20分)	メモや画像等によって、フィールドワークの概要や気づきを整理する。(25分)
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワークの中から、一つの事例を取り上げ、教育の観点からの地域づくりについて自分の考えを述べ、交流する。	これまでの講義資料やノート、フィールドワークのふりかえりを読み直し、授業に臨む。(20分)	フィールドワークを通しての学びや気づきを整理し、後期のゼミ活動に対する課題意識を整理する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」に連繋する科目である点から、原則、割り当てられた担当教員については後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」についても変更しないものとする。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(木村 悠里菜)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。さらに、初年次教育の一環として、これから専門領域を学習するに当たっての心構えを養うための科目である。							
授業の概要							
本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることが手掛かりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。							
到達目標							

本科目を通じて、受講生は基本的なアカデミック・スキルを活用し、文献の要点を整理・批判的に分析できるようになる。また、論理的な文章を構成し、簡潔かつ説得力のある発表ができることを目指す。さらに、議論を通じて異なる視点を理解し、自らの考えを発展させる力を習得することを到達目標とする。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、最終成果発表を実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職や、全国のまちづくり活動等での実務経験を活かして、実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、アカデミック・スキルの意義および本授業の目的を確認する。	大学と高校の学習スタイルの主な違いを特定する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第2回	学術的思考の基盤としてのアカデミック・スキルの概念を整理し、研究の出発点としての「問いの立て方」について考察する。①研究の起点:アカデミック・スキルズと問いの立て方	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第3回	学術的思考の基盤としてのアカデミック・スキルの概念を整理し、研究の出発点としての「問いの立て方」について考察する。②思考の礎:学術的探究を支える問いの構築法	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第4回	大学講義の特性を踏まえ、ノート・テイキングの技法を分析し、聴講と記録の関係を批判的に検討する。①大学講義の記録術:ノート・テイキングの理論と実践	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第5回	大学講義の特性を踏まえ、ノート・テイキングの技法を分析し、聴講と記録の関係を批判的に検討する。②聴講から思考へ:効果的なノート・テイキングの技法	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第6回	情報収集における学術的態度を学び、データベースやアーカイブを活用した高度な文献検索の手法を実践する。①研究の扉を開く:データベースとアーカイブの活用法	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第7回	情報収集における学術的態度を学び、データベースやアーカイブを活用した高度な文献検索の手法を実践する。② 情報収集の技法:学術的リテラシーと高度な文献検索	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第8回	批判的読解(クリティカル・リーディング)の意義を探究し、論理的思考の枠組みを用いた文献分析を行う。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第9回	知識の体系化を目的とした情報整理の技法を学び、アウトライン作成やKJ法の適用可能性を検討する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第10回	研究の成果を適切に表現するための論理構成を学び、学問的問いの洗練と明晰な議論の展開を試みる。①学術論文の組み立て方:問いの精練と論理展開	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第11回	研究の成果を適切に表現するための論理構成を学び、学問的問いの洗練と明晰な議論の展開を試みる。②明晰な議論の技法:研究成果を的確に表現する	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第12回	効果的なプレゼンテーションの要素を分析し、視覚資料・レトリックの活用法を踏まえた発表技術を実践する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第13回	学術的な文章作成の原則を整理し、論文・レポートにおける引用の方法と学問的誠実性の意義を考察する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第14回	学生によるプレゼンテーション①と、発表内容をめぐるディスカッションを実施する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第15回	学生によるプレゼンテーション②と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	最終成果発表
その他	40	事前課題提出・授業態度や意欲等
教科書		
本科目では、学術的な視座を深めるための基本文献を指定する。具体的な文献については、初回授業時に共有し、授業の進行に応じて補助的な参考資料を適宜提示する。		
参考文献		

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

初回授業時に説明する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域を知る(地域未来創造入門)(松田 祐)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	松田 祐						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。さらに、初年次教育の一環として、これから専門領域を学習するに当たっての心構えを養うための科目である。							
授業の概要							
本科目では、恵庭市等の身近な地域に実際に触れ、地域主体(ステークホルダー)による講話や体験談、意見交換等、見る・聞くといった行為を通して、地域そのものへの理解を深める。地域を知ることを手がかりに、地域資源や地域課題とは何であるかについて気づき、地域の未来を創造していく力を養うことを目的とする。							
到達目標							

本学が本拠とする地域(恵庭市)が持つ固有の資源や価値、ならびに地域が抱える課題等について幅広く知り、現状を把握することができる。また、持続可能な地域社会の形成や発展に向けて必要となるアプローチについて、教育学の観点から見つめ、地域社会を支えるステークホルダーとの関係の構築や協働の重要性について、自らの言葉で論じたり、述べることができる。

授業の方法

パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いる形で、地域に係るテーマやトピックについての事前学習を講義形式で展開し、事後のフィールドワークに備える。各教員と学生間のディスカッションなども行う。

ICT活用

課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

民間企業や大学職員、地域における官学連携研究機関などの就業経験がある。地域と大学のよりよい関係性や官学連携などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

事前学習を踏まえ、学生間とのディスカッションや討議等を通してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ゼミの進め方や評価基準等について説明する。	シラバスをよく読み、自分なりの“ 地域”のイメージを持って授業に 臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第2回	講義: 大学で学ぶ意味(1) 大学生として「学ぶ」ことの意義や意味、社会人(実務者) への準備期間である4年間の過ごし方について基本的な事 項について確認し、学ぶ意識を共有する。	授業内での指示課題や指定課 題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第3回	講義: 大学で学ぶ意味(2) 大学生として「学ぶ」ことの意義や意味、社会人(実務者) への準備期間である4年間の過ごし方について基本的な事 項について確認し、学ぶ意識を共有する。	授業内での指示課題や指定課 題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			

第4回	講義:大学を知る(1)大学とは/北海道文教大学について 自らが通う教育機関について、マクロ的視点(大学)、ミクロ的視点(北海道文教大学)の双方から見ることによって、様々な見え方ができる大学という機関についての理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第5回	フィールドワーク:大学を知る(2)北海道文教大学 本学がもつ施設・設備や貴重な現存資料について実際に視察を行い、出身大学となる本学への帰属意識や地域社会での役割についての理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第6回	フィールドワーク:大学を知る(3)道内他大学 比較対象校として、本学以外の道内他大学への視察を行い、その共通点や差異について整理する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第7回	講義:行政を知る(1)恵庭市 地方行政・自治体関係者からのブリーフィングを通して、自らの進路選択や研究関心における意識を高め、理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第8回	講義:行政を知る(2)恵庭市の政策・計画 恵庭市が展開する政策や行政計画について触れ、行政・自治体に関する理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第9回	フィールドワーク:行政を知る(3)恵庭市の現場 恵庭地域における行政インフラや地域社会の実際について、現場視察を通して理解を深める。 (視察予定:恵庭市役所)	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第10回	演習:フリーディスカッション 学年の異なるゼミ生同士で交流を図ることにより、進路選択や研究関心における意識を高め、より具体的なイメージ構築につなげる。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第11回	フィールドワーク:地域を知る(1)恵庭地域の農業 恵庭地域における社会・公共インフラや地域社会の実際について、現場視察を通して理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第12回	フィールドワーク:地域を知る(2)恵庭地域の商業施設、社会教育施設 恵庭地域における社会・公共インフラや地域社会の実際について、現場視察を通して理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第13回	フィールドワーク:地域を知る(3)恵庭地域の複合施設、公園 恵庭地域における社会・公共インフラや地域社会の実際について、現場視察を通して理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第14回	フィールドワーク:地域を知る(4)恵庭地域の森林管理 恵庭地域における社会・公共インフラや地域社会の実際について、現場視察を通して理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第15回	期末報告 恵庭地域における社会・公共インフラや地域社会の実際について、現場視察を通して理解を深め、本科目での学び全体を踏まえた報告を行う。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業(座学、フィールドワーク等)に取り組む姿勢(50%)、記述による提出物(50%)
その他	0	なし
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

各教員から適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等

履修条件・留意事項等

時間割で指定された曜日・開講時にて原則授業を行うが、学外者等との協力で展開する科目の性質上、日程・時間調整を行う場合がある旨、留意願う。なお、その場合は事前にお知らせする予定である。

備考欄

1年後期の必修科目「地域未来創造基礎(Adventure)」に連繋する科目である点から、原則、割り当てられた担当教員については後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」についても変更しないものとする。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(熊野 稔)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	熊野 稔						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学やまちづくり、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高め、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明ができる。
 ② 地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する解決に向けての具体的な方策について、企画及びその実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

印刷物・動画資料などを用いた事前学習を経て、フィールドワークやボランティア体験を行い、地域で主体的に活動するキーパーソンへのヒアリングやグループによるディスカッションを展開する。

ICT活用

生成AIの活用、Google classroom、Google form等を活用する。

実務経験のある教員の教育内容

まちづくり、地域都市計画の調査計画等の実務経験の知識やノウハウ及び、コーディネーター経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom、Google formを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第2回	①前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先等を再訪し、取組の詳細を学ぶ。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第3回	②前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先等を再訪し、実務やコーディネーターの役割について学びを深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第4回	地域課題の解決先進地でのフィールドワークの事前準備(ニセコ町等を想定) ①地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、課題解決の実情や課題について学ぶ。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第5回	地域課題の解決先進地でのフィールドワークのフィールドワーク(ニセコ町等を想定) ①地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、課題解決の実情や課題について学ぶ。コーディネーターや実践者との意見交換を行う。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第6回	地域課題の解決先進地でのフィールドワークのまとめ(ニセコ町等を想定)	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第7回	今までのフィールド調査等による地域課題の解決に向けた方向性を考え、取りまとめる。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第8回	高校生の地域貢献活動について調査し、ネットや新聞等で調査し取りまとめる。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第9回	高校生の地域貢献活動について調査し、ネットや新聞等で調査し取りまとめる。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第10回	生成AI等も活用し、高校生の地域貢献活動について調査し、ネットや新聞等で調査し取りまとめる。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第11回	生成AI等も活用し、高校生の地域貢献活動について調査し、ネットや新聞等で調査し取りまとめる。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第12回	生成AI等も活用し、高校生の地域貢献活動について調査し、ネットや新聞等で調査し取りまとめる。実際に高校訪問等フィールド調査を行う。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第13回	高校訪問調査から得たデータ等を取りまとめる。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第14回	テーマの中からレポート作成作業	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワーク体験等の中から、一つの事例を取り上げ、それに対する成果、課題とそれに対する具体的な改善方策等について発表する。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題への取り組み、出席状況、資料収集、まとめ30% レポート50% 報告発表20%
その他	0	
教科書		
無し		
参考文献		

適宜資料を配布し、紹介する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

なお本授業は、9月等の集中体験実習に置き換えることも可能。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 俊昭						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(思考・判断・表現)」ことを実践する科目である。

授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高めること、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明できる。また、地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画したり、その実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。なお、詳細な授業方法については担当教員の指示による。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

実務経験のある教員の教育内容

地方公務員や国家公務員、大学教員の経験を持つ私のほか、必要に応じて、連携大学の教員、企業経営者等の実務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

担当教員の指示による。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)後、履修生の自己紹介を行う。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(25分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(20分)。
担当教員	木村 俊昭		
第2回	地域の宝ものとは何か、あるもの探しに関して講義後、問い立て、対話することにより、地域創生の本質を理解する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(25分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(20分)。
担当教員	木村 俊昭		
第3回	地域の現状と課題は何かについて、講義後、問い立て、対話することにより、地域創生の本質を理解する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(25分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(20分)。
担当教員	木村 俊昭		

第4回	地域のつながりとは何か、地域コミュニティ形成に関して、講義後、問い立て、対話することにより、地域創生の本質を理解する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(25分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(20分)。
担当教員	木村 俊昭		
第5回	地域の「ひと・こと・もの」の分析方に関する講義後、問い立て、対話することにより、地域創生の本質を理解する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(25分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(20分)。
担当教員	木村 俊昭		
第6回	地域のひと育て・まち育てに関する講義後、問い立て、対話することにより、地域創生の本質を理解する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(25分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(20分)。
担当教員	木村 俊昭		

第7回	地域の役割分担(ストーリー化)に関する講義後、問い立て、対話することにより、地域創生の本質を理解する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(25分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(20分)。
担当教員	木村 俊昭		
第8回	地域の人間関係づくりとコミュニケーションについて、講義後、問い立て、対話することにより、地域創生の本質を理解する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(25分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(20分)。
担当教員	木村 俊昭		
第9回	地域創生・SDGsの実践現場を訪問し、実学としての地域創生の学び、習い、問い立てを現場で実践し、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(25分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(20分)。
担当教員	木村 俊昭		

第10回	地域創生・SDGsの実践現場を訪問し、実学としての地域創生の学び、習い、問い立てを現場で実践し、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(25分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(20分)。
担当教員	木村 俊昭		
第11回	地域創生・SDGsの実践現場を訪問し、実学としての地域創生の学び、習い、問い立てを現場で実践し、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(25分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(20分)。
担当教員	木村 俊昭		
第12回	地域創生・SDGsの実践現場を訪問し、実学としての地域創生の学び、習い、問い立てを現場で実践し、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(25分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(20分)。
担当教員	木村 俊昭		

第13回	地域創生・SDGsの実践現場を訪問し、実学としての地域創生の学び、習い、問い立てを現場で実践し、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(25分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(20分)。
担当教員	木村 俊昭		
第14回	地域創生・SDGsの実践現場を訪問し、実学としての地域創生の学び、習い、問い立てを現場で実践し、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(25分)。	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと(20分)。
担当教員	木村 俊昭		
第15回	最終講義として、各自の地域創生の本質、解決策を成果として発表し、全体を総括する。	これまでのシラバスをよく読み、これまでに得た地域創生に関する知り気づきや経験に関して整理のうえ、講義に臨むこと(25分)。	14回目までの配布資料や講義内容を復習し、よく理解すること(20分)。
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業時の課題提出(40%)、最終回による発表(60%)により、成績評価とする。
その他	0	なし。
教科書		
講義時に説明資料をメール添付配布する。		
参考文献		

授業時に紹介する。

履修条件・留意事項等

日頃から地域創生の情報に関心を持つこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(中田 和彦)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高め、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明ができる。

② 地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画及びその実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

印刷物・動画資料などを用いた事前学習を経て、フィールドワークやボランティア体験を行い、地域で主体的に活動するキーパーソンへのヒアリングやグループによるディスカッションを展開する。

ICT活用

- Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。
- Goproを用いて、動画を撮影するなどして、まとめて活用する。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校教諭、校長として9年の学校現場勤務と市町村や国立青少年教育施設への派遣等、24年の社会教育行政の勤務経験があり、公教育や生涯学習について幅広いの知識を有している。この経験を活かし、これからの時代に求められる教育や学び、教育と地域づくりの関連性等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- 提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	社会福祉の作業体験(前半) 前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先を再訪し、取組の詳細、コーディネーターの役割などについて、さらに学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第3回	社会福祉の作業体験(後半) 前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先を再訪し、取組の詳細、コーディネーターの役割などについて、さらに学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第4回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク1 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、課題解決の実情や課題に直接触れる。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第5回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク2 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、コーディネーターや実践者へのヒアリングを行う。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第6回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク3 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、コーディネーターや実践者との意見交換を行う。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第7回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク4 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、今後における本格的な調査研究活動に向けた着眼点や対応の仕方などについて学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第8回	中間まとめ 2つのフィールドワークをふりかえり、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表し、他者の気づきに触れ、学びを深めるとともに、今後のフィールドワークに対する見通しを持つ。	2つのフィールドワークをふりかえり、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表できるよう準備する。(25分)	発表に対するフィードバックやコメントを整理し、後半のフィールドワークに向けての課題を整理する。(20分)
担当教員			
第9回	地域活動のボランティア体験(前半) 高齢化が進む地域を訪れ、住民の自治活動の現場にボランティアとして関わる中から、地域課題の現状や解決に対する基本的な考え方について、学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第10回	地域活動のボランティア体験(後半) 高齢化が進む地域を訪れ、住民の自治活動の現場にボランティアとして関わる中から、地域課題の現状や解決に対する基本的な考え方について、学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第11回	市民イベントへの参画の準備 2年生の作成した企画書について情報を共有し、イベントの意義や自らの役割等について理解を深める。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、参画時の視点や留意事項、コーディネーターの関わり方等について整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第12回	市民イベントへの参画1 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して、企画や運営の基本的な考え方について理解を深める。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、参画時の視点や留意事項、コーディネーターの関わり方等について整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第13回	市民イベントへの参画2 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して、コーディネーターの役割について理解を深める。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、参画時の視点や留意事項、コーディネーターの関わり方等について整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第14回	市民イベントへの参画3 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して取組の改善点について協議する。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、参画時の視点や留意事項、コーディネーターの関わり方等について整理する。(25分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワークやボランティア体験等の中から、一つの事例を取り上げ、それに対する成果、課題とそれに対する具体的な改善方策等について発表する。	資料やメモ等によって、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表資料を整理する。(25分)	フィールドワークやボランティア体験等を通しての学びや気づきを整理し、2年時以降のゼミ活動に対する見通しを持つ。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等を使用する。

履修条件・留意事項等

学外者等の協力を得てフィールドワークを展開する科目の性質上、日程や時間、会場等の変更や調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

宿泊(1泊2日)を伴うフィールドワークあり。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(宮崎 隆志)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高め、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明ができる。

② 地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画及びその実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

印刷物・動画資料などを用いた事前学習を経て、フィールドワークやボランティア体験を行い、地域で主体的に活動するキーパーソンへのヒアリングやグループによるディスカッションを展開する。

ICT活用

・Google classroom、Google formを活用して、受講生の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない

課題に対するフィードバックの方法

・Google formを活用し気づきを整理する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(15分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(30分)
担当教員			
第2回	社会福祉の作業体験-1 前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先を再訪し、取組の詳細について、さらに学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第3回	社会福祉の作業体験-2 前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先を再訪し、コーディネーターの役割などについて、さらに学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			

第4回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク1 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、課題解決の実情や課題に直接触れ、調査研究活動の課題について学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、地域課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第5回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク2 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、コーディネーターや実践者との意見交換等を通して、今後における本格的な調査研究活動に向けた着眼点や対応の仕方などについて学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第6回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク3 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、住民・参加者との意見交換等を通して、今後における本格的な調査研究活動に向けた着眼点や対応の仕方などについて学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、住民・参加者の意見や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			

第7回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク4 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、行政関係者等との意見交換等を通して、今後における本格的な調査研究活動に向けた着眼点や対応の仕方などについて学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、行政関係者等の意見や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第8回	中間まとめ 2つのフィールドワークをふりかえり、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表し、他者の気づきに触れ、学びを深めるとともに、今後のフィールドワークに対する見通しを持つ。	2つのフィールドワークをふりかえり、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表できるよう準備する。(15分)	発表に対するフィードバックやコメントを整理し、後半のフィールドワークに向けての課題を整理する。(30分)
担当教員			
第9回	地域活動のボランティア体験ー1 高齢化が進む地域を訪れ、住民の自治活動の現場にボランティアとして関わる中から、地域課題の現状や解決に対する基本的な考え方について、リーダーシップに焦点を置いて学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、地域課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			

第10回	地域活動のボランティア体験ー2 高齢化が進む地域を訪れ、住民の自治活動の現場にボランティアとして関わる中から、住民の意識変化について検討し、地域課題の現状や解決に対する基本的な考え方について、学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、住民の意識変化や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第11回	市民イベントへの参画ー1 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して、取組の企画や運営の基本的な考え方について学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、イベント企画の課題と解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第12回	市民イベントへの参画ー2 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して、コーディネーターの役割について学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、コーディネーターの役割や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			

第13回	市民イベントへの参画ー3 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して、参加者・住民にとっての意義について、学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、参加者・住民にとっての意義や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第14回	市民イベントへの参画ー4 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して、学生を含む子ども・若者にとっての意義について、学びを深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問時の視点や想定の問題事項等を整理する。(15分)	メモや画像・映像など、フィールドワークの記録を整理し、学生を含む子ども・若者にとっての意義や課題の解決方策についての気づきを整理する。(30分)
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワークやボランティア体験等の中から、一つの事例を取り上げ、それに対する成果、課題とそれに対する具体的な改善方策等について発表する。	資料やメモ等によって、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表資料を整理する。(15分)	フィールドワークやボランティア体験等を通しての学びや気づきを整理し、2年時以降のゼミ活動に対する見通しを持つ。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
指定しない。		
参考文献		

授業中に紹介する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(吉岡 亜希子)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高め、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明ができる。

② 地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画及びその実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

印刷物・動画資料などを用いた事前学習を経て、フィールドワークやボランティア体験を行い、地域で主体的に活動するキーパーソンへのヒアリングやグループによるディスカッションを展開する。

ICT活用

印刷物・動画資料などを用いた事前学習を経て、フィールドワークやボランティア体験を行い、地域で主体的に活動するキーパーソンへのヒアリングやグループによるディスカッションを展開する。

実務経験のある教員の教育内容

市民活動として行っている子育て支援に関連する団体運営、学びの場づくり等でのコーディネーター経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom、Google formを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第2回	社会福祉の作業体験(前半) 前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先を再訪し、取組の詳細、コーディネーターの役割などについて、さらに学びを深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第3回	社会福祉の作業体験(後半) 前期の科目「地域を知る(地域未来創造入門)」のフィールドワーク先を再訪し、取組の詳細、コーディネーターの役割などについて、さらに学びを深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第4回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク1 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、課題解決の実情や課題に直接触れる。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第5回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク2 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、コーディネーターや実践者へのヒアリングを行う。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第6回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク3 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、コーディネーターや実践者との意見交換を行う。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第7回	地域課題の解決先進地でのフィールドワーク4 地域課題の解決に向けた取組の先進地を訪れ、今後における本格的な調査研究活動に向けた着眼点や対応の仕方などについて学びを深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第8回	中間まとめ 2つのフィールドワークをふりかえり、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表する。他者の気づきに触れ、学びを深めるとともに、今後のフィールドワークに対する見通しを持つ。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第9回	地域の子育て支援にかかわる講演会・学習会の企画立案～地域住民による実行委員会形式の子育て講演会・学習会にボランティアとして関わり、コーディネーターの役割について学びを深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第10回	地域の子育て支援にかかわる講演会・学習会の実施・運営 ～地域住民による実行委員会形式の子育て講演会・学習会にボランティアとして関わり、運営について学びを深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第11回	市民イベントへの参画の準備 2年生の作成した企画書について情報を共有し、イベントの意義や自らの役割等について理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第12回	市民イベントへの参画1 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して、企画や運営の基本的な考え方について理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第13回	市民イベントへの参画2 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して、コーディネーターの役割について理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第14回	市民イベントへの参画3 市民団体、地域住民による地域振興のイベントへの参画を通して取組の改善点について協議する。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第15回	ふりかえりとまとめ フィールドワークやボランティア体験等の中から、一つの事例を取り上げ、それに対する成果、課題とそれに対する具体的な改善方策等について発表する。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

宿泊を伴うフィールドワークを予定している。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(木村 悠里菜)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、商業と都市空間の形成・変遷を経済・政策・社会的文脈から多角的に分析し、地域資源の活用や市場・行政の相互作用を探究する。特に、持続可能な地域経済の構築と新たな価値創造に焦点を当て、商業が単なる経済活動ではなく、社会的・文化的な構築物として機能することを理解する。また、行政の役割や地域主体の取組を考察し、地域課題を発見し、解決に向けて主体的に行動できる力を育む。さらに、商業の変遷を教育的視点から捉え、学び続ける素養を養う。市場経済・贈与経済・都市ガバナンスの視点を通じて、商業と地域社会の未来を理論と実践の両面から探究し、都市と地方の商業の在り方を批判的に考察する力を養う。

授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

本科目を通じて、受講生は、都市と地方の商業の変遷とその社会的・文化的意義を批判的に理解し、市場経済・贈与経済・都市ガバナンスの相互作用を分析できる。行政・地域コミュニティ・企業の関係性を多角的に考察し、持続可能な地域経済の在り方を理論と実践の両面から検討できる。さらに、地域課題を発見し、主体的に議論を深めることで、商業と社会の未来について独自の視点を構築できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、最終成果発表を実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職や、全国のまちづくり活動等での実務経験を活かして、実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の趣旨と進め方を確認し、本ゼミで扱う「文化」という視点の意義を共有する。日常生活で当たり前に使われる概念を批判的に見直し、人類学的な枠組みから社会や地域を相対化するための出発点とする。	「小売業」、「まちづくり」について考え、調べる。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第2回	授業の進め方を確認しながら、日常語としての「文化」の多義性と社会的意味を整理し、人類学における「文化」概念の基本的な理解を得ることで、以降の学習の基盤を築く。 ①日常語からの出発	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第3回	授業の進め方を確認しながら、日常語としての「文化」の多義性と社会的意味を整理し、人類学における「文化」概念の基本的な理解を得ることで、以降の学習の基盤を築く。 ②学問的概念への導入	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第4回	人類学における集団の区分や内集団・外集団の関係を学び、親族関係が生み出す結束と排除の仕組みを理解する。 ①内集団と外集団	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第5回	人類学における集団の区分や内集団・外集団の関係を学び、親族関係が生み出す結束と排除の仕組みを理解する。 ②親族関係と社会的つながり	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第6回	家族を血縁でとらえる文化的背景を確認し、養子や擬制的親族などの事例を通じて、多様な家族のあり方を基礎的に理解する。 ①血縁と家族像	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第7回	家族を血縁でとらえる文化的背景を確認し、養子や擬制的親族などの事例を通じて、多様な家族のあり方を基礎的に理解する。②血縁を超えるつながり	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第8回	贈与によって生じる義務や「お返し」の慣習を学び、返礼が人間関係や共同体を維持する仕組みを理解する。①贈与と義務感	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第9回	贈与によって生じる義務や「お返し」の慣習を学び、返礼が人間関係や共同体を維持する仕組みを理解する。②返礼と共同体のつながり	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第10回	身体や排泄物に対する感覚を比較し、社会秩序との関係を理解するとともに、禁忌が文化や日常生活で果たす役割を学ぶ。①汚れの感覚	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第11回	身体や排泄物に対する感覚を比較し、社会秩序との関係を理解するとともに、禁忌が文化や日常生活で果たす役割を学ぶ。②禁忌と社会のルール	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第12回	人生の節目に行われる通過儀礼の基本的なしくみを学び、現代日本における就職活動を儀礼の一例として理解する。①通過儀礼のしくみ	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第13回	人生の節目に行われる通過儀礼の基本的なしくみを学び、現代日本における就職活動を儀礼の一例として理解する。 ②現代社会の儀礼としての就活	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第14回	学生によるプレゼンテーション①と、発表内容をめぐるディスカッションを実施する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第15回	学生によるプレゼンテーション②と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	最終成果発表
その他	40	事前課題提出・授業態度や意欲等
教科書		
本科目では、学術的な視座を深めるための基本文献を指定する。具体的な文献については、初回授業時に共有し、授業の進行に応じて補助的な参考資料を適宜提示する。		
参考文献		

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

本授業では、出欠管理を授業内で実施し、グループワークへの積極的参加を必須とする。準備・事後学習に取り組まない、またはグループワークに参加しない場合は、退室・欠席扱いとなることがある。フィールドワークの実施有無や形式については、受講生の意向や実施可能性を踏まえ、授業内で相談の上決定する。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来基礎					
科目名		地域未来創造基礎(Adventure)(松田 祐)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	松田 祐						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる人材を養成する。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目は、地域の未来を創造していくための基礎を身に付けることを目的とする。教育学をはじめ、地域創生に資する学術分野における基礎知識の理解と習得を踏まえた上で、道内の地域を広く調査し、地域特性や地域間の違いを認識しながら、マネジメントやマーケティングの側面を通して、地域の性質に合わせたアプローチの必要性を理解することを目指す。

到達目標

① 本学が本拠とする地域(恵庭市)での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高め、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明ができる。

② 地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画及びその実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

実務経験のある教員の教育内容

民間企業や大学職員、地域における官学連携研究機関などの就業経験がある。地域と大学のよりよい関係性や官学連携などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜課すコメントシートへの記入及び添削を通して、知識の整理や派生的な知識の獲得を促す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ゼミの進め方や評価基準等について説明する。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第2回	フィールドワーク:地域を知る(1)恵庭地域の自然 恵庭地域における社会・公共インフラや地域社会の実際について、現場視察を通して理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第3回	フィールドワーク:地域を知る(2)恵庭地域の商業施設、社会教育施設 恵庭地域における社会・公共インフラや地域社会の実際について、現場視察を通して理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第4回	フィールドワーク:地域を知る(3)恵庭地域の複合施設、公園 恵庭地域における社会・公共インフラや地域社会の実際について、現場視察を通して理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第5回	講義:行政を知る(1)恵庭市について 恵庭地域の住民生活を支える行政について、関係者等からの講話や行政計画などを踏まえ、行政に関する知見への理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第6回	講義:行政を知る(2)恵庭市と北海道文教大学の取組 恵庭地域の住民生活を支える行政と、恵庭市を本拠とする北海道文教大学との新しい取組について、関係者等からの講話や行政計画などを踏まえ、行政に関する知見への理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第7回	演習:フリーディスカッション 学年の異なるゼミ生同士で交流を図ることにより、進路選択や研究関心における意識を高め、より具体的なイメージ構築につなげる。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第8回	演習:フリーディスカッション 学年の異なるゼミ生同士で交流を図ることにより、進路選択や研究関心における意識を高め、より具体的なイメージ構築につなげる。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第9回	フィールドワーク:行政を知る(3)恵庭市議会 恵庭地域における社会・公共インフラや地域社会の実際について、現場視察を通して理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第10回	フィールドワーク:行政を知る(4) 国立の民族博物館 道内地域における社会・公共インフラや地域社会の実際について、現場視察を通して理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第11回	フィールドワーク:行政を知る(5) 国立の民族博物館 道内地域における社会・公共インフラや地域社会の実際について、現場視察を通して理解を深める。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第12回	演習:期末報告準備(1) 本科目及び1年間の学びの成果報告に向けたオリエンテーション、準備を行う。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第13回	演習:期末報告準備(2) 本科目及び1年間の学びの成果報告に向けたオリエンテーション、準備を行う。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第14回	期末報告 恵庭地域における社会・公共インフラや地域社会の実際について、現場視察を通して理解を深め、本科目及び1年間の学び全体を踏まえた報告を行う。 ※オープンゼミ形式:他年次と合同実施にて行い、学外者も招聘する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第15回	期末報告/クロージング 恵庭地域における社会・公共インフラや地域社会の実際について、現場視察を通して理解を深め、本科目及び1年間の学び全体を踏まえた報告を行い、まとめとする。 ※オープンゼミ形式:他年次と合同実施にて行い、学外者も招聘する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業(座学、フィールドワーク等)に取り組む姿勢(50%)、記述による提出物(50%)
その他	0	なし
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

適宜、ゼミ教員から指定または提供された、テーマやトピックに係る資料等

履修条件・留意事項等

原則は時間割で指定された曜日・開講時にて授業を行うが、地域で活動する人や組織などの学外の協力体制との調整が不可欠であるため、日程・時間調整を行う場合があり、その場合は事前にお知らせする。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習 I (Beginning) (熊野 稔)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	熊野 稔						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」、「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、全国地域を対象に、2年次前期までに受講した講義や、地域でのフィールドワークで習得した知識やスキルと、2年次後期以降で関心を深めたい専門分野の両方を踏まえつつ、少人数グループで協働して意見交換およびプレゼンテーションを実施し、地域の現状と課題および自らの強い関心分野について、発見することを目指す。

到達目標

- ①自己の問題意識を説明できる。
- ②フィールドワークにおけるヒアリング項目や行程など、調査計画を作成することができる。
- ③フィールドワークの結果から自己の問題意識にかかわる地域の現状や課題を指摘できる。
- ④多様な立場や考えに配慮しながらディスカッションに参加できる。

授業の方法

問題意識の明確化、事前準備、フィールドワークの計画等は受講生のディスカッションによって進める。フィールドワークの報告、まとめでは受講生がプレゼンテーションを行う。また、1年次後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」の補助を行う。

ICT活用

Google classroom、Google form を用いた双方向授業を行う。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

地域づくりや都市計画に関する調査研究報告書策定などの業務経験を活かして、実務能力を高めるように指導する。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom、Google form等を活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第2回	フィールドワーク①に向け、自己の関心分野、問題意識を発見するためのディスカッションを行う。資料検索等実施～a) 関心分野の分析	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第3回	フィールドワーク①に向け、自己の関心分野、問題意識を発見するためのディスカッションを行う。資料検索等実施～b) 問題意識の分析	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第4回	フィールドワーク①に向け、自己の関心分野、問題意識を発見するためのディスカッションを行う。資料検索等実施～c)問題意識の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第5回	フィールドワーク①の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～ a) 情報収集の手法	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第6回	フィールドワーク①の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの企画・計画書づくり ～b) 情報の収集	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第7回	フィールドワーク①の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～ c)フィールドワークの計画書づくり	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第8回	フィールドワーク①の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～d)フィールドワーク計画書の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第9回	フィールドワーク①の実施 調査、写真撮影、ヒアリング等～ a)ヒアリングの実施・前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第10回	フィールドワーク①の実施 調査、ヒアリング等～ b)ヒアリングの実施・後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第11回	フィールドワーク①で得た内容の整理～a)内容の整理	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第12回	フィールドワーク①で得た内容の整理・分析 ～b)内容の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第13回	フィールドワーク①の報告、共有～a)前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第14回	フィールドワーク①の報告、共有～b)後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第15回	フィールドワーク①のまとめ、講評～a)前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	全体を通じて、学習内容を振り返り、レポートをまとめる。(90分)
担当教員	熊野 稔		

第16回	フィールドワーク①のまとめ、講評～b)後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第17回	フィールドワーク②に向け、自己の関心分野、問題意識を深めるためのディスカッションを行う。資料収集等 ～a)関心分野の分析	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第18回	フィールドワーク②に向け、自己の関心分野、問題意識を深めるためのディスカッションを行う。～b)問題意識の分析・共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第19回	フィールドワーク②の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～a) 情報収集の手法	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第20回	フィールドワーク②の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～b) 情報の収集	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第21回	フィールドワーク②の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～c) フィールドワーク計画書づくり	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第22回	フィールドワーク②の準備 各自の問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～d)フィールドワーク計画書の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第23回	フィールドワーク②の実施 調査、ヒアリング等～a)ヒアリングの実施・前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第24回	フィールドワーク②の実施 調査、ヒアリング等～b)ヒアリングの実施・後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第25回	フィールドワーク②で得た内容の整理～a) 内容の整理	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第26回	フィールドワーク②で得た内容の整理～b) 内容の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第27回	フィールドワーク②の報告、共有～a) 報告、共有・前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		

第28回	フィールドワーク②の報告、共有～b) 報告、共有・後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第29回	フィールドワーク②のまとめ、講評～a) 前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員	熊野 稔		
第30回	フィールドワーク②のまとめ、講評～b) 後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	全体を通じて学習内容を振り返り、まとめる。(60分)
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークの事前準備・計画書40% ②フィールドワークのレポート報告・プレゼンテーション50% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
無し		
参考文献		

授業内で適宜資料を配布し、紹介する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

本演習は、9月等にフィールドに赴き、集中演習で済ませることも可能とする。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅰ (Beginning) (木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	木村 俊昭						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」、「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、道外地域も対象に、2年次前期までに受講した講義や、地域でのフィールドワークで習得した知識やスキルと、2年次後期以降で関心を深めたい専門分野の両方を踏まえつつ、少人数グループで協働して意見交換およびプレゼンテーションを実施し、地域の現状と課題および自らの強い関心分野について、発見することを目指す。

到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)や連携自治体での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高めること、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明できる。また、地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策について企画したり、その実施に向けた検討を行うことができる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。なお、詳細な授業方法については担当教員の指示による。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

実務経験のある教員の教育内容

国家公務員や地方公務員、大学教員の経験を持つ私のほか、必要に応じて、連携大学の教員、企業経営者等の実務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

担当教員の指示による。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)後、履修生の自己紹介を行う。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第2回	地域創生の現状と政策課題に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第3回	地域創生の現状と政策課題に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第4回	地域創生の政策研究の整理に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第5回	地域創生の政策研究の整理に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第6回	地域創生の政策研究の整理に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第7回	地域創生の政策主体としての自治体のあり方に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第8回	地域創生の政策主体としての自治体のあり方に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第9回	地域創生の政策主体としての自治体のあり方に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第10回	地域政策の変遷と地域創生に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第11回	地域政策の変遷と地域創生に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第12回	地域政策の変遷と地域創生に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第13回	地域人財の養成と定着に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第14回	地域人財の養成と定着に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第15回	地域人財の養成と定着に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を再度復習し、知識と知恵として身に付けること。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第16回	地域人財の養成と定着に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第17回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第18回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第19回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第20回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第21回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第22回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第23回	地域創生の現場入りし、実践者から政策・事業構想内容をヒアリング後、問い立て、対話のうえ、あるべき姿、その解決策を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第24回	地域創生の現場入りし、実践者から政策・事業構想内容をヒアリング後、問い立て、対話のうえ、あるべき姿、その解決策を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第25回	地域創生の現場入りし、実践者から政策・事業構想内容をヒアリング後、問い立て、対話のうえ、あるべき姿、その解決策を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第26回	地域創生の現場入りし、実践者から政策・事業構想内容をヒアリング後、問い立て、対話のうえ、あるべき姿、その解決策を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第27回	地域創生の現場入りし、実践者から政策・事業構想内容をヒアリング後、問い立て、対話のうえ、あるべき姿、その解決策を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第28回	学び、習い、問い立てした内容を整理し、地域の課題解決に向けての地域創生策を各自発表する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第29回	学び、習い、問い立てした内容を整理し、地域の課題解決に向けての地域創生策を各自発表する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第30回	学び、習い、問い立てした内容を整理し、地域の課題解決に向けての地域創生策を各自発表する。最終回として全体を総括する。	これまでの講義で得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義時の課題提出(40%)、最終回による発表(60%)により、成績評価とする。
その他	0	なし。
教科書		
授業説明用の資料はメール添付にて配布する。		
参考文献		

授業時にその都度紹介する。

履修条件・留意事項等

日頃から地域創生の情報に関心を持つこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅰ (Beginning) (中田 和彦)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」、「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、道外地域も対象に、2年次前期までに受講した講義や、地域でのフィールドワークで習得した知識やスキルと、2年次後期以降で関心を深めたい専門分野の両方を踏まえつつ、少人数グループで協働して意見交換およびプレゼンテーションを実施し、地域の現状と課題および自らの強い関心分野について、発見することを目指す。

到達目標

- ①地域課題の解決に取り組むキーパーソンの役割について説明できる。
- ②フィールドワークにおけるヒアリング項目や行程など、調査計画を作成することができる。
- ③フィールドワークや2年次前期までに得た知見を活かして地域の現状や課題を指摘できる。
- ④多様な立場や考えに配慮しながらグループの協議に参加できる。

授業の方法

印刷物・動画資料などを用いた事前学習を経て、フィールドワークやボランティア体験を計画するなどして、地域の課題を探るとともに、多様な人材へのヒアリングやグループによるディスカッションを展開するほか、1年次後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」の補助を行う。

ICT活用

- ・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。
- ・Goproを用いて、動画を撮影するなどして、まとめて活用する。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校教諭、校長として9年の学校現場勤務と市町村や国立青少年教育施設への派遣等、24年の社会教育行政の勤務経験があり、公教育や生涯学習について幅広いの知識を有している。この経験を活かし、これからの時代に求められる教育や学び、教育と地域づくりの関連性等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- ・提出を要する課題は、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た知識や経験を整理して授業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べ、講義全体に対する見通しを持つ。(20分)
担当教員			
第2回	フィールドワーク①の準備1 地域課題の解決に向けた取組の先進地(浦幌町)でのフィールドワークに向け、諸情報の収集・整理を行う。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			
第3回	フィールドワーク①の準備2 地域課題の解決に向けた取組の先進地(浦幌町)でのフィールドワークに向け、調査等の計画を作成する。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			

第4回	フィールドワーク①-1 計画に基づき、視察等のフィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワークの調査内容等を整理する。(20分)
担当教員			
第5回	フィールドワーク①-2 計画に基づき、ヒアリング等のフィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワークの調査内容等を整理する。(20分)
担当教員			
第6回	フィールドワーク①-3 計画に基づき、フィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワークの調査内容や気づき等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			

第7回	フィールドワーク①-4 フィールドワークのデータを整理する。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワークの調査内容や気づき等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第8回	フィールドワーク①のふりかえり フィールドワーク①をふりかえり、意見交換し、学びや気づきを深める。	フィールドワークの報告書を取りまとめ、発表の準備を行う。(25分)	発表に対するコメントや講評を整理する。(20分)
担当教員			
第9回	フィールドワーク②の準備1 課題の設定、情報の収集・整理、調査等、ゼミ生相互が協力してフィールドワークの計画を作成する。	資料やWeb等によって、フィールドワークの内容に対して見通しを持つ。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			

第10回	フィールドワーク②の準備2 課題の設定、情報の収集・整理、調査等、ゼミ生相互が協力してフィールドワークの計画を作成する。	フィールドワークに対する情報を集めておく。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			
第11回	フィールドワーク②の準備3 課題の設定、情報の収集・整理、調査等、ゼミ生相互が協力してフィールドワークの計画を作成する。	フィールドワークに対する情報を集めておく。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			
第12回	フィールドワーク②-1 作成した計画に基づいてフィールドワーク(見学・視察、聞き取り等)を行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワークでの調査内容等を整理する。(20分)
担当教員			

第13回	フィールドワーク②-2 作成した計画に基づいてフィールドワーク(見学・視察、聞き取り等)を行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワークでの調査内容等を整理する。(20分)
担当教員			
第14回	フィールドワーク②-3 作成した計画に基づいてフィールドワーク(見学・視察、聞き取り等)を行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワークでの調査内容や気づき等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第15回	フィールドワーク②-4 作成した計画に基づいてフィールドワーク(見学・視察、聞き取り等)を行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワークでの調査内容や気づき等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			

第16回	フィールドワーク②のふりかえり フィールドワーク②をふりかえり、学びや気づき等について発表し、全体で協議する。	フィールドワークの報告書を取りまとめ、発表の準備を行う。(25分)	発表に対するコメントや講評を整理する。(20分)
担当教員			
第17回	フィールドワーク③の準備1 地域行事の実行委員会に参画する。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			
第18回	フィールドワーク③の準備2 地域行事のコーディネーターの活動について理解を深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			

第19回	フィールドワーク③-1(前半) 地域行事のボランティア体験を通して、地域課題の解決現場についての理解を深める。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第20回	フィールドワーク③-2(後半) 地域行事のボランティア体験を通して、地域課題の解決現場についての理解を深める。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第21回	フィールドワーク④の準備1 市民イベントの実行委員会へ参画し、ボランティアのネットワークやコーディネートの在り方について理解を深める。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			

第22回	フィールドワーク④の準備2(前半) 市民イベントへ参画するためのプログラムの企画、運営等に関する企画会議を行う。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			
第23回	フィールドワーク④の準備3(後半) 市民イベントへ参画するためのプログラムの企画、運営等に関する企画会議を行い、企画書を決定する。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			
第24回	フィールドワーク④の準備4 企画書の内容について、ゼミの1年生と情報を共有し、役割分担や諸準備を進める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			

第25回	フィールドワーク④-1(前半) 市民イベントの前日準備を通して、物品の準備等、ロジスティックの基本について理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			
第26回	フィールドワーク④-2(後半) 市民イベントの前日準備を通して、ボランティアコーディネートの基本について理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			
第27回	フィールドワーク④-3(前半) 市民イベントへの参画を通して、全体の調整や細部への配慮など、プロジェクトマネジメントについて理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			

第28回	フィールドワーク④-4(後半) 市民イベントへの参画を通して、全体の調整や細部への配慮など、プロジェクトマネジメントについて理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			
第29回	フィールドワーク④-5 市民イベントへの参画を通して、全体の調整や細部への配慮など、プロジェクトマネジメントについて理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			
第30回	ふりかえりとまとめ フィールドワークやボランティア体験等を通して、取組の成果や課題、改善方策等についてチームで協議し、発表する。	資料やメモ等によって、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表資料を整理する。(25分)	フィールドワークやボランティア体験等を通しての学びや気づきを整理し、3年時のゼミ活動に対する見通しを持つ。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等を使用する。

履修条件・留意事項等

学外者等の協力を得てフィールドワークを展開する科目の性質上、日程や時間、会場等の変更や調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

フィールドワークの予定
 フィールドワーク① 1泊2日(浦幌町)
 フィールドワーク② 日帰り(学生の企画による)
 フィールドワーク③ 恵庭市の市民イベント(シーニックナイト)

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習 I (Beginning) (宮崎 隆志)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」、「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、道外地域も対象に、2年次前期までに受講した講義や、地域でのフィールドワークで習得した知識やスキルと、2年次後期以降で関心を深めたい専門分野の両方を踏まえつつ、少人数グループで協働して意見交換およびプレゼンテーションを実施し、地域の現状と課題および自らの強い関心分野について、発見することを目指す。

到達目標

- ①地域課題の解決に取り組むキーパーソンの役割について説明できる。
- ②フィールドワークにおけるヒアリング項目や行程など、調査計画を作成することができる。
- ③フィールドワークや2年次前期までに得た知見を活かして地域の現状や課題を指摘できる。
- ④多様な立場や考えに配慮しながらグループの協議に参加できる。

授業の方法

印刷物・動画資料などを用いた事前学習を経て、フィールドワークやボランティア体験を計画するなどして、地域の課題を探るとともに、多様な人材へのヒアリングやグループによるディスカッションを展開するほか、1年次後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」の補助を行う。

ICT活用

- ・Google classroom、Google formを活用して、受講生の毎時の気づきの言語化、把握やフィードバックを行う。
- ・Goproを用いて、動画を撮影するなどして、まとめて活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google formを活用し、毎回の気づきを整理する。
- ・提出を要する課題に対しては、以降につながるコメントを付してフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た知識や経験を整理して授業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べ、講義全体に対する見通しを持つ。(20分)
担当教員			
第2回	フィールドワーク①の準備1 地域課題の解決に向けた取組の先進地でのフィールドワークに向け、諸情報の収集・整理を行う。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			
第3回	フィールドワーク①の準備2 地域課題の解決に向けた取組の先進地でのフィールドワークに向け、調査等の計画を作成する。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			

第4回	フィールドワーク①-1 計画に基づき、視察等のフィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第5回	フィールドワーク①-2 計画に基づき、ヒアリング等のフィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第6回	フィールドワーク①-3 計画に基づき、フィールドワークを行う。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			

第7回	フィールドワーク①-4 フィールドワークのデータを整理する。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第8回	フィールドワーク①のふりかえり フィールドワーク①をふりかえり、学びや気づきについて、全体で協議する。	フィールドワークの報告書を取りまとめ、発表の準備を行う。(25分)	発表に対するコメントや講評を整理する。(20分)
担当教員			
第9回	フィールドワーク②の準備 長沼町でのフィールドワークに向け、諸情報の収集・整理をはじめ、調査等の計画を作成する。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			

第10回	フィールドワーク②-1 長沼町でのフィールドワークに向け、諸情報の収集・整理をはじめ、調査等の計画を作成する。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			
第11回	フィールドワーク②-2 長沼町における地域づくりに関する問題意識について理解を深める。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を整理する。(20分)
担当教員			
第12回	フィールドワーク②-3(前半) 長沼町における地域起こし協力隊の取り組みを事例に、地域課題解決に向けた取組についての理解を深める。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を整理する。(20分)
担当教員			

第13回	フィールドワーク②-4(後半) 長沼町の社会教育の歴史についての理解を深める。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を整理する。(20分)
担当教員			
第14回	フィールドワーク②-5 長沼町の社会教育の歴史についての理解を深める。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を整理する。(20分)
担当教員			
第15回	フィールドワーク②-6 長沼町の地域づくりについての振り返り。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	調査内容等を整理し報告書作成の準備をする。(20分)
担当教員			

第16回	フィールドワーク②のふりかえり 各自のレポートにもづきフィールドワーク②をふりかえり、学びや気づきについて、全体で協議する。	フィールドワークのレポートをとりまとめ、発表の準備を行う。(25分)	発表に対するコメントや講評を整理する。(20分)
担当教員			
第17回	フィールドワーク③の準備-1 地域行事の実行委員会に参画する。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			
第18回	フィールドワーク③の準備-2 地域行事のコーディネーターの活動について理解を深める。	資料やWeb等によって、フィールドワーク先の地域や団体・取組の情報を調べ、訪問に当たっての諸準備、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			

第19回	フィールドワーク③-1(前半) 地域行事のボランティア体験を通して、地域課題の解決現場についての理解を深める。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第20回	フィールドワーク③-2(後半) 地域行事のボランティア体験を通して、地域課題の解決現場についての理解を深める。	フィールドワークの進め方や調査内容等を確認する。(25分)	フィールドワーク先で、調査内容等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第21回	フィールドワーク④の準備1 市民イベントの実行委員会へ参画し、ボランティアのネットワークやコーディネートの在り方について理解を深める。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			

第22回	フィールドワーク④の準備2(前半) 市民イベントへ参画するためのプログラムの企画、運営等に関する企画会議を行う。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			
第23回	フィールドワーク④の準備3(後半) 市民イベントへ参画するためのプログラムの企画、運営等に関する企画会議を行い、企画書を決定する。	資料やWeb等によって、取組の情報を調べ、調整事項等を整理する。(25分)	講義やグループ協議を踏まえ、フィールドワークのテーマや準備について確認する。(20分)
担当教員			
第24回	フィールドワーク④の準備4 企画書の内容について、ゼミの1年生と情報を共有し、役割分担や諸準備を進める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			

第25回	フィールドワーク④-1(前半) 市民イベントの前日準備を通して、物品の準備等、ロジスティックの基本について理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			
第26回	フィールドワーク④-2(後半) 市民イベントの前日準備を通して、ボランティアコーディネートの基本について理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			
第27回	フィールドワーク④-3(前半) 市民イベントへの参画を通して、全体の調整や細部への配慮など、プロジェクトマネジメントについて理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			

第28回	フィールドワーク④-4(後半) 市民イベントへの参画を通して、全体の調整や細部への配慮など、プロジェクトマネジメントについて理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			
第29回	フィールドワーク④-5 市民イベントへの参画を通して、全体の調整や細部への配慮など、プロジェクトマネジメントについて理解を深める。	プログラムの企画書や役割分担等について確認する。(25分)	企画書や運営細案等の修正点について確認する。(20分)
担当教員			
第30回	ふりかえりとまとめ フィールドワークやボランティア体験等を通して、取組の成果や課題、改善方策等についてチームで協議し、発表する。	資料やメモ等によって、地域課題の解決やコーディネーターの役割等についての発表資料を整理する。(45分)	フィールドワークやボランティア体験等を通しての学びや気づきを整理し、3年時のゼミ活動に対する見通しを持つ。(45分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

適宜指定ないし提供された、テーマ・トピックに係る知識獲得に資する資料等を使用する。

履修条件・留意事項等

・学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

宿泊を伴うフィールドワークあり。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅰ (Beginning) (吉岡 亜希子)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」、「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、道外地域も対象に、2年次前期までに受講した講義や、地域でのフィールドワークで習得した知識やスキルと、2年次後期以降で関心を深めたい専門分野の両方を踏まえつつ、少人数グループで協働して意見交換およびプレゼンテーションを実施し、地域の現状と課題および自らの強い関心分野について、発見することを目指す。

到達目標

- ①自己の問題意識を説明できる。
- ②フィールドワークにおけるヒアリング項目や行程など、調査計画を作成することができる。
- ③フィールドワークの結果から自己の問題意識にかかわる地域の現状や課題を指摘できる。
- ④多様な立場や考えに配慮しながらディスカッションに参加できる。

授業の方法

問題意識の明確化、事前準備、フィールドワークの計画等は受講生のディスカッションによって進める。フィールドワークの報告、まとめでは受講生がプレゼンテーションを行う。また、1年次後期の「地域未来創造基礎(Adventure)」の補助を行う。

ICT活用

Google classroom、Google formを用いた双方向授業を行う。意見や感想の共有、議論に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

市民活動として行っている子育て支援に関連する団体運営、学びの場づくり等でのコーディネーター経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom、Google formを活用してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第2回	フィールドワーク①の準備1 地域課題の解決に向けた取組の先進地(浦幌町)でのフィールドワークに向け、諸情報の収集・整理を行う。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第3回	フィールドワーク①の準備2 地域課題の解決に向けた取組の先進地(浦幌町)でのフィールドワークに向け、調査等の計画を作成する。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第4回	フィールドワーク①-1 計画に基づき、視察等のフィールドワークを行う。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第5回	フィールドワーク①-2 計画に基づき、ヒアリング等のフィールドワークを行う。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第6回	フィールドワーク①-3 計画に基づき、フィールドワークを行う。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第7回	フィールドワーク①-4 フィールドワークのデータを整理する。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第8回	フィールドワーク①のふりかえり フィールドワーク①をふりかえり、意見交換し、学びや気づきを深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第9回	フィールドワーク②の準備1 課題の設定、情報の収集・整理、調査等、ゼミ生相互が協力してフィールドワークの計画を作成する。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第10回	フィールドワーク②の準備2 課題の設定、情報の収集・整理、調査等、ゼミ生相互が協力してフィールドワークの計画を作成する。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第11回	フィールドワーク②の準備3 課題の設定、情報の収集・整理、調査等、ゼミ生相互が協力してフィールドワークの計画を作成する。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第12回	フィールドワーク②-1 作成した計画に基づいてフィールドワーク(見学・視察、聞き取り等)を行う。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第13回	フィールドワーク②-2 作成した計画に基づいてフィールドワーク(見学・視察、聞き取り等)を行う。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第14回	フィールドワーク②-3 作成した計画に基づいてフィールドワーク(見学・視察、聞き取り等)を行う。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第15回	フィールドワーク②-4 作成した計画に基づいてフィールドワーク(見学・視察、聞き取り等)を行う。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第16回	フィールドワーク②のふりかえり フィールドワーク②をふりかえり、学びや気づき等について発表し、全体で協議する。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第17回	フィールドワーク③の準備1 地域行事の実行委員会に参画する。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第18回	フィールドワーク③の準備2 地域行事のコーディネーターの活動について理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第19回	フィールドワーク③-1(前半) 地域行事のボランティア体験を通して、地域課題の解決現場についての理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第20回	フィールドワーク③-2(後半) 地域行事のボランティア体験を通して、地域課題の解決現場についての理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第21回	フィールドワーク④の準備1 市民イベントの実行委員会へ参画し、ボランティアのネットワークやコーディネートの在り方について理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第22回	フィールドワーク④の準備2(前半) 市民イベントへ参画するためのプログラムの企画、運営等に関する企画会議を行う。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第23回	フィールドワーク④の準備3(後半) 市民イベントへ参画するためのプログラムの企画、運営等に関する企画会議を行い、企画書を決定する。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第24回	フィールドワーク④の準備4 企画書の内容について、ゼミの1年生と情報を共有し、役割分担や諸準備を進める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第25回	フィールドワーク④-1(前半) 市民イベントの前日準備を通して、物品の準備等、ロジスティックの基本について理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第26回	フィールドワーク④-2(後半) 市民イベントの前日準備を通して、ボランティアコーディネートの基本について理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第27回	フィールドワーク④-3(前半) 市民イベントへの参画を通して、全体の調整や細部への配慮など、プロジェクトマネジメントについて理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第28回	フィールドワーク④-4(後半) 市民イベントへの参画を通して、全体の調整や細部への配慮など、プロジェクトマネジメントについて理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第29回	フィールドワーク④-5 市民イベントへの参画を通して、全体の調整や細部への配慮など、プロジェクトマネジメントについて理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第30回	ふりかえりとまとめ フィールドワークやボランティア体験等を通して、取組の成果や課題、改善方策等についてチームで協議し、発表する。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークごとのふりかえり 50% ②個人課題 40% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

学外者等との協力の下、フィールドワークを展開する科目の性質上、日程・時間及び会場等の調整を行う場合があり、その場合は事前に知らせる。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅰ (Beginning) (木村 悠里菜)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」、「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、道外地域も対象に、2年次前期までに受講した講義や、地域でのフィールドワークで習得した知識やスキルと、2年次後期以降で関心を深めたい専門分野の両方を踏まえつつ、少人数グループで協働して意見交換およびプレゼンテーションを実施し、地域の現状と課題および自らの強い関心分野について、発見することを目指す。

到達目標

地域商業の歴史の変遷と政策介入の影響について説明できる。
 地域経済の持続可能性について多角的に分析できる。スコットのアナキズム理論を踏まえ、国家・市場の枠を超えた経済活動の可能性について考察できる。フィールドワークを通じて商店街の現状を実証的に分析し、地域の課題を発見したうえで解決策を立案できる。地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体と連携しながら、新たな価値の創出と地域コミュニティの持続可能な発展に貢献できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、最終成果発表を実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職や、全国のまちづくり活動等での実務経験を活かして、実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の趣旨と進め方を確認しつつ、日常語としての「文化」がもつ多義性と社会的意味を整理したうえで、人類学における「文化」概念の定義や理論的展開を学び、以降の議論の基盤を築く。①日常語からの出発	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第2回	授業の趣旨と進め方を確認しつつ、日常語としての「文化」がもつ多義性と社会的意味を整理したうえで、人類学における「文化」概念の定義や理論的展開を学び、以降の議論の基盤を築く。②学問的概念としての展開	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第3回	人類学における集団分類や内集団・外集団の境界概念を通じて、親族構造が生み出す結束と排除の両義性を学び、社会的排除と連帯の仕組みを批判的に考察する。①内集団と外集団の境界	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第4回	人類学における集団分類や内集団・外集団の境界概念を通じて、親族構造が生み出す結束と排除の両義性を学び、社会的排除と連帯の仕組みを批判的に考察する。②親族構造の包摂と排除	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第5回	血縁を家族の基盤とみなす文化的背景とその「自然」視を整理するとともに、養子縁組や擬制的親族などの事例から「血」に依存しない家族の可能性を検討し、家族概念の相対性を理解する。①血縁と家族の定義	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第6回	血縁を家族の基盤とみなす文化的背景とその「自然」視を整理するとともに、養子縁組や擬制的親族などの事例から「血」に依存しない家族の可能性を検討し、家族概念の相対性を理解する。②血縁を超える家族像	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第7回	贈与行為が生み出す負債感や義務意識を整理しつつ、返礼の循環が共同体の秩序や信頼を維持する仕組みを理解し、贈与と権力・社会的結束の関係を批判的に考察する。 ①贈与がもたらす義務感	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第8回	贈与行為が生み出す負債感や義務意識を整理しつつ、返礼の循環が共同体の秩序や信頼を維持する仕組みを理解し、贈与と権力・社会的結束の関係を批判的に考察する。 ②返礼と社会的結束	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第9回	身体や排泄物をめぐる「汚れ」の感覚を文化的に比較し、社会秩序との結びつきを理解するとともに、禁忌が宗教・儀礼・日常生活において果たす役割を分析し、社会的規範の基盤を探究する。①汚れの感覚と社会秩序	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第10回	身体や排泄物をめぐる「汚れ」の感覚を文化的に比較し、社会秩序との結びつきを理解するとともに、禁忌が宗教・儀礼・日常生活において果たす役割を分析し、社会的規範の基盤を探究する。②禁忌と文化的境界	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第11回	誕生・結婚・死など人生の節目をめぐる儀礼の構造を学び、現代日本における就職活動を「通過儀礼」として位置づけ、その心理的・社会的影響を通じて現代的儀礼の意義を考察する。①通過儀礼の構造	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第12回	誕生・結婚・死など人生の節目をめぐる儀礼の構造を学び、現代日本における就職活動を「通過儀礼」として位置づけ、その心理的・社会的影響を通じて現代的儀礼の意義を考察する。②現代社会の儀礼としての就活	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第13回	宗教の定義や多様な形態を検討し、西洋近代的な宗教理解を相対化するとともに、日本における葬送儀礼や年中行事などの事例を通じて、表層的な「無宗教」観を問い直し、宗教的実践の持続性を明らかにする。①宗教概念の相対化	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第14回	宗教の定義や多様な形態を検討し、西洋近代的な宗教理解を相対化するとともに、日本における葬送儀礼や年中行事などの事例を通じて、表層的な「無宗教」観を問い直し、宗教的実践の持続性を明らかにする。②日常に残る宗教的実践	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第15回	不運や災厄を説明するための呪術的思考や実践を比較し、人間の合理性の多様性を理解するとともに、科学的因果と呪術的因果の交錯を分析し、現代社会における「努力」や「自己責任」言説の呪術性を批判的に検討する。①呪術的思考の構造	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第16回	不運や災厄を説明するための呪術的思考や実践を比較し、人間の合理性の多様性を理解するとともに、科学的因果と呪術的因果の交錯を分析し、現代社会における「努力」や「自己責任」言説の呪術性を批判的に検討する。②呪術と科学の境界	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第17回	民族や国民の概念が歴史的・政治的に構築されてきた過程を学び、その恣意性を理解するとともに、エスニシティが個人や集団のアイデンティティ形成に与える影響を考察し、現代日本社会における民族概念の揺らぎを検討する。①民族概念の構築性	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第18回	民族や国民の概念が歴史的・政治的に構築されてきた過程を学び、その恣意性を理解するとともに、エスニシティが個人や集団のアイデンティティ形成に与える影響を考察し、現代日本社会における民族概念の揺らぎを検討する。②エスニシティとアイデンティティ	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第19回	人類学的思考が「常識」を相対化する営みであることを理解し、自らの経験を批判的に振り返るとともに、文化の相対化を通じて人間社会の多様性を把握し、他者理解と自己理解を結びつける視点を獲得する。①常識を相対化する視点	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第20回	人類学的思考が「常識」を相対化する営みであることを理解し、自らの経験を批判的に振り返るとともに、文化の相対化を通じて人間社会の多様性を把握し、他者理解と自己理解を結びつける視点を獲得する。②文化を通じた自己理解と他者理解	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第21回	これまでの議論を総合し、文化・親族・贈与・儀礼・宗教など多様な人類学的概念が、地域社会や商業空間の理解にいかに関与するかを整理する。受講生は、自らの学びを小売業やまちづくりの具体的課題に結びつけ、持続可能な地域経済を考えるための理論的基盤を形成する。①文化人類学の視点から地域を読む	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第22回	これまでの議論を総合し、文化・親族・贈与・儀礼・宗教など多様な人類学的概念が、地域社会や商業空間の理解にいかに関与するかを整理する。受講生は、自らの学びを小売業やまちづくりの具体的課題に結びつけ、持続可能な地域経済を考えるための理論的基盤を形成する。②理論をまちづくりへ接続する	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第23回	アナキズム的視点から社会科学を捉え直し、秩序と支配の概念を批判的に考察する。組織論と知の権力性に焦点を当て、支配を超えた社会の可能性を探る。①支配のない秩序:アナキズムの社会科学への挑戦	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第24回	アナキズム的視点から社会科学を捉え直し、秩序と支配の概念を批判的に考察する。組織論と知の権力性に焦点を当て、支配を超えた社会の可能性を探る。②知と権力の再構築:社会的統制とオルタナティブの探求	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第25回	不服従の役割とリーダーシップの逆説を検討し、組織における権威と自主性の緊張関係を分析する。①権威と反逆：組織における自主性の力学	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第26回	不服従の役割とリーダーシップの逆説を検討し、組織における権威と自主性の緊張関係を分析する。②支配を拒むリーダーシップ：権威の転覆と社会変革	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第27回	学生による最終発表テーマの設定と、資料作成の方向性について議論する。①研究テーマの確立：論理的構成と実証的アプローチ	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第28回	学生による最終発表テーマの設定と、資料作成の方向性について議論する。②資料作成の実践:効果的なプレゼンテーションの戦略	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第29回	学生によるプレゼンテーション①と、発表内容をめぐるディスカッションを実施する。	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第30回	学生によるプレゼンテーション②と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	事前に指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	最終成果課題
その他	40	事前課題提出・授業態度や意欲等
教科書		
本科目では、学術的な視座を深めるための基本文献を指定する。具体的な文献については、初回授業時に共有し、授業の進行に応じて補助的な参考資料を適宜提示する。		
参考文献		

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

初回授業時に説明する。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅰ (Beginning) (松田 祐)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	松田 祐						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」、「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」の基礎となる科目である。							

- ①講義や文献精読を通して、特定の分野における総論的な情勢の説明ができる。
- ②フィールドワークにおいて、自分の知識を活用して学外の関係者に的確な質問ができる。
- ③フィールドワークを通して、特定の分野における各論的な事例における課題と解決策を明示できる。
- ④自分以外のゼミ生や学外の関係者とのコミュニケーションを介して、自分の興味関心と就業意識の違いについて整理できる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

実務経験のある教員の教育内容

民間企業や大学職員、地域における官学連携研究機関などの就業経験がある。地域と大学のよりよい関係性や官学連携などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜課すコメントシートへの記入及び添削を通して、知識の整理や派生的な知識の獲得を促す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ゼミの進め方や評価基準等について説明する。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第2回	講義:きみが大学で学ぶ意味(1) 各個人が入学時から現在において積み重ねてきた学びについていま一度整理をし、ゼミ内での比較や気づきを通して、本ゼミで学ぶべき内容について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第3回	講義:きみが大学で学ぶ意味(2) 各個人が入学時から現在において積み重ねてきた学びについていま一度整理をし、ゼミ内での比較や気づきを通して、本ゼミで学ぶべき内容について理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第4回	時事基礎:系統地理(1)大地形 基礎的な地理分野の知識(主に系統地理)に関する講義を通して、日々世界で発生する様々な事象に対して理解を深めることができる地理的思考力を養うことで、社会人として兼備すべき一般的な知識への理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第5回	時事基礎:系統地理(2)大気と気候 基礎的な地理分野の知識(主に系統地理)に関する講義を通して、日々世界で発生する様々な事象に対して理解を深めることができる地理的思考力を養うことで、社会人として兼備すべき一般的な知識への理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第6回	ゼミプロ:大学広報コンテンツ開発プロジェクト(1)オリエンテーション 大学の地域連携をテーマに、大学広報コンテンツの開発に向けたプロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第7回	ゼミプロ: 大学広報コンテンツ開発プロジェクト(2) 大学の地域連携 大学の地域連携をテーマに、大学広報コンテンツの開発に向けたプロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第8回	ゼミプロ: 大学広報コンテンツ開発プロジェクト(3) 企画立案 大学の地域連携をテーマに、大学広報コンテンツの開発に向けたプロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第9回	時事基礎: 系統地理(3) 気候と植生・土壌 基礎的な地理分野の知識(主に系統地理)に関する講義を通して、日々世界で発生する様々な事象に対して理解を深めることができる地理的思考力を養うことで、社会人として兼備すべき一般的な知識への理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第10回	時事基礎:系統地理(4)農業 基礎的な地理分野の知識(主に系統地理)に関する講義を通して、日々世界で発生する様々な事象に対して理解を深めることができる地理的思考力を養うことで、社会人として兼備すべき一般的な知識への理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第11回	中間報告:個人研究のハジマリ～語れるテーマで伝える～ 個人で設定した“自分が語れること”を報告テーマに、制限時間などの諸制約の中で調査した内容について報告を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第12回	ゼミプロ:大学広報コンテンツ開発プロジェクト(4)企画立案 大学の地域連携をテーマに、大学広報コンテンツの開発に向けたプロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第13回	ゼミプロ: 大学広報コンテンツ開発プロジェクト(5) 企画立案～コンテンツ・構成作成 大学の地域連携をテーマに、大学広報コンテンツの開発に向けたプロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第14回	ゼミプロ: 大学広報コンテンツ開発プロジェクト(6) コンテンツ・構成作成 大学の地域連携をテーマに、大学広報コンテンツの開発に向けたプロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第15回	演習: フリーディスカッション 各回最後に記入しているコメントシートでの質問についてゼミ内で共有、解説(コメント返し)を行い、他者の視点から事象を観察する。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第16回	時事基礎:系統地理(5)エネルギーと鉱産資源 基礎的な地理分野の知識(主に系統地理)に関する講義を通して、日々世界で発生する様々な事象に対して理解を深めることができる地理的思考力を養うことで、社会人として兼備すべき一般的な知識への理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第17回	時事基礎:系統地理(6)工業 基礎的な地理分野の知識(主に系統地理)に関する講義を通して、日々世界で発生する様々な事象に対して理解を深めることができる地理的思考力を養うことで、社会人として兼備すべき一般的な知識への理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第18回	演習:フリーディスカッション 学年の異なるゼミ生同士で交流を図ることにより、進路選択や研究関心における意識を高め、より具体的なイメージ構築につなげる。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第19回	演習:フリーディスカッション 学年の異なるゼミ生同士で交流を図ることにより、進路選択や研究関心における意識を高め、より具体的なイメージ構築につなげる。	自分の興味・関心や就職などの諸要素を踏まえ、中間の振り返り準備を行うこと。(20分)	他者の中間報告も踏まえ、最終報告に向けた周辺知識の整理に努めること。(25分)
担当教員			
第20回	ゼミプロ: 大学広報コンテンツ開発プロジェクト(7)コンテンツ・構成作成 大学の地域連携をテーマに、大学広報コンテンツの開発に向けたプロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第21回	ゼミプロ: 大学広報コンテンツ開発プロジェクト(8)コンテンツ・構成作成～レイアウト・デザイン 大学の地域連携をテーマに、大学広報コンテンツの開発に向けたプロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第22回	ゼミプロ:大学広報コンテンツ開発プロジェクト(9)レイアウト・デザイン 大学の地域連携をテーマに、大学広報コンテンツの開発に向けたプロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第23回	フィールドワーク準備 自治体もしくは自治体に関する機関、団体、施設に訪問するフィールドワークに向けて、訪問先に関するレクや先方担当者への質問の準備を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第24回	フィールドワーク(FW) 自治体もしくは自治体に関する機関、団体、施設に訪問し、視察を行う。また、先方担当者への質問の準備を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第25回	フィールドワーク(意見交換会) 訪問機関のスタッフや他大学の学生らと交流や意見交換を図ることで、卒業研究や就職活動における自らの現在位置をつかみ、また、新たな知見を獲得する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第26回	ゼミプロ: 大学広報コンテンツ開発プロジェクト(10)レイアウト・デザイン～完成 大学の地域連携をテーマに、大学広報コンテンツの開発に向けたプロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			
第27回	ゼミプロ: 大学広報コンテンツ開発プロジェクト(11)レイアウト・デザイン～完成 大学の地域連携をテーマに、大学広報コンテンツの開発に向けたプロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導の内容を復習し、必要に応じて調べること。(25分)
担当教員			

第28回	ゼミプロ: 大学広報コンテンツ開発プロジェクト(12)完成 大学の地域連携をテーマに、大学広報コンテンツの開発 に向けたプロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	講義や配布した資料、添削指導 の内容を復習し、必要に応じて 調べること。(25分)
担当教員			
第29回	期末報告(個人研究) 中間報告で報告した“自分が語れること”を踏まえ、改めて 現時点での個人的な研究関心・テーマ・トピックについて整理 し、報告を行う。 ※オープンゼミ形式: 他年次と合同実施にて行い、学外者 も招聘する。	大学生活の折り返しを意識した 振り返りとできるよう、準備する こと。(20分)	3年次以降につながるよう、切れ 目なく自発的な知識獲得や実 践参画を行うこと。(25分)
担当教員			
第30回	最終報告(2) 前回に引き続き、本ゼミを通して得た知識や実践経験、自 ら調査した知見などを総動員し、最終報告を行う。	大学生活の折り返しを意識した 振り返りとできるよう、準備する こと。(20分)	3年次以降につながるよう、切れ 目なく自発的な知識獲得や実 践参画を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業(座学、フィールドワーク等)に取り組む姿勢(50%)、記述による提出物(50%)
その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

適宜、ゼミ教員から指定または提供された、テーマやトピックに係る資料等

履修条件・留意事項等

原則は時間割で指定された曜日・開講時にて授業を行うが、地域で活動する人や組織などの学外の協力体制との調整が不可欠であるため、日程・時間調整を行う場合があり、その場合は事前にお知らせする。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅱ (Creative) (熊野 稔)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	熊野 稔						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの【知識・技能】

地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。

【思考・判断・表現】

幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。

授業の概要

本科目では、「地域未来創造演習Ⅰ (Beginning)」を通して考えた、地域課題や自らの関心分野をもとに、実際に地域の方々との協働を視野に入れながら、地域の諸課題を解決することを目指し、自らの学びの俯瞰を通して、プロジェクトの立案や提案、実践といった具体的なアプローチについて学ぶ。かつ卒業研究論文作成を視野に入れた先行研究調査や文献調査、課題研究に取り組む。

到達目標

学生は、①地域課題や自らの関心分野をもとに、実際に地域の方々との協働で作業を行うことができる。②地域の諸課題を発掘し、整理分析して解決する行動を起こすことができる。③プロジェクトの立案や提案、実践といった具体的なアプローチの基本を成すことができる。④卒業研究をまとめ上げていく基礎的能力を高めることができる。

授業の方法

地域の各課題に取り組む演習を基本として、文献探索と調査、先行研究の調査、現地調査、データを集めての分析、分析結果をもとにプロジェクトの立案や提案、実践といった基本を学んで、レポートを提出し、最後にはパワーポイントを作成して発表する。各授業で必要に応じてフィールドワークも行う。

ICT活用

全ての授業で多変量解析ソフトや生成AIを活用し、ノートパソコンを活用する

実務経験のある教員の教育内容

博士号のみならず、技術士(建設部門 都市及び地方計画)、一級建築士等の国家資格を持ち、地域計画コンサルティング及び、地域振興アドバイザー等の豊富な実務経験を有す教員が、現場で役立つ実務レベルに近い形で演習教育を行う。また実務家によるゲスト講師による講習やアドバイスも取り入れる。

課題に対するフィードバックの方法

提出レポートや発表の後の添削や事後指導、調査等にお世話になった現場への研究成果の配布を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	全体概要を通しての授業ガイダンス。成績評価説明、地域課題の抽出方法、文献調査、生成AIの活用手法、調査研究方法論等を学び、様々な地域課題解決のアクティブラーニングとしてのディスカッションも行う。第1回課題テーマとして、100メートル大通り(札幌市、名古屋市、広島市)の比較調査研究を行う	自分が何をやりたいのか、研究方法論を再考する。予習25分	調査研究方法論や100メートル大通りについて復習 20分
担当教員	熊野 稔		
第2回	具体的な地域抽出、地域課題の抽出、文献調査、生成AIの活用手法、調査研究方法論等を学び、様々な地域課題解決のアクティブラーニングとしてのディスカッションも行う。100メートル大通り(札幌市、名古屋市、広島市)の比較調査研究を行う。課題の具体的説明。	具体的な地域抽出、地域課題の抽出、文献調査、生成AIの活用手法、調査研究方法論等予習25分	100メートル大通り(札幌市、名古屋市、広島市)の比較調査研究復習20分
担当教員	熊野 稔		
第3回	具体的な地域抽出、地域課題の抽出、文献調査、データ収集、生成AIの活用しての分析、調査研究方法論等を学び、様々な地域課題解決のアクティブラーニングとしてのディスカッションも行う。100メートル大通り(札幌市、名古屋市、広島市)の比較調査研究を纏める。	100メートル大通り(札幌市、名古屋市、広島市)の比較調査 予習25分	100メートル大通り(札幌市、名古屋市、広島市)の比較調査 復習20分
担当教員	熊野 稔		

第4回	100メートル大通り(札幌市、名古屋市、広島市)の比較調査研究を纏める、パワーポイント資料を作成する。	100メートル大通り(札幌市、名古屋市、広島市)の比較調査研究、パワポ作成予習25分	パワポ作成復習20分
担当教員	熊野 稔		
第5回	100メートル大通り(札幌市、名古屋市、広島市)の比較調査研究を纏める、3大通りの比較表(歴史、ハード、ソフト、評価と課題、方向性)を纏め、パワーポイント資料を作成する。	100メートル大通り(札幌市、名古屋市、広島市)の比較調査研究を纏める、3大通りの比較表(歴史、ハード、ソフト、評価と課題、方向性)を予習25分	100メートル大通り(札幌市、名古屋市、広島市)の比較調査研究を纏める、3大通りの比較表(歴史、ハード、ソフト、評価と課題、方向性)復習20分
担当教員	熊野 稔		
第6回	100メートル大通り(札幌市、名古屋市、広島市)の比較調査研究を纏める、パワーポイント資料を作成終了後に発表する。	100メートル大通り(札幌市、名古屋市、広島市)の比較調査研究を纏める、パワーポイント資料を作成、発表練習、予習25分	100メートル大通り(札幌市、名古屋市、広島市)の比較調査研究の復習20分
担当教員	熊野 稔		

第7回	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる。地方都市の中心市街地、温泉街、観光地、産業団地、農山漁村他。	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を事前調査予習25分	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例復習20分
担当教員	熊野 稔		
第8回	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる。フィールドワークの検討等も行う	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧する準備、予習25分	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧する復習20分
担当教員	熊野 稔		
第9回	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる予習25分	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる復習20分
担当教員	熊野 稔		

第10回	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる予習25分	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる復習20分
担当教員	熊野 稔		
第11回	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる予習25分	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる復習20分
担当教員	熊野 稔		
第12回	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる予習25分	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる復習20分
担当教員	熊野 稔		

第13回	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる予習25分	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる復習20分
担当教員	熊野 稔		
第14回	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる予習25分	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる復習20分
担当教員	熊野 稔		
第15回	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる予習25分	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる復習20分
担当教員	熊野 稔		

第16回	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる予習25分	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる復習20分
担当教員	熊野 稔		
第17回	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる。レポートとパワーポイント資料を作成する。	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる予習25分	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる復習20分
担当教員	熊野 稔		
第18回	北海道や国内の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめ、レポートとパワーポイント資料を作成して発表する	レポートとパワーポイント資料を作成予習25分	レポートとパワーポイント資料の訂正等復習20分
担当教員	熊野 稔		

第19回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例や先行研究を調査する。	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する予習25分	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する復習20分
担当教員	熊野 稔		
第20回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。予習25分	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。復習20分
担当教員	熊野 稔		
第21回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。予習25	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。復習20分
担当教員	熊野 稔		

第22回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。予習25分	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査復習20分
担当教員	熊野 稔		
第23回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する予習25分	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。復習20分
担当教員	熊野 稔		
第24回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する予習25分	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する復習20分
担当教員	熊野 稔		

第25回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。調査分析、先行研究を整理する。レポート作成と発表パワポ準備。	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する予習25分	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する復習20分
担当教員	熊野 稔		
第26回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。調査分析、先行研究を整理する。レポート作成と発表パワポ準備。	レポート作成と発表パワポ準備予習25分	レポート作成と発表パワポ準備復習20分
担当教員	熊野 稔		
第27回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、調査分析、先行研究を整理する。レポート作成と発表パワポ準備。	予習25分	復習20分
担当教員	熊野 稔		

第28回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、調査分析、先行研究を整理する。レポート作成と発表パワポ準備。	レポート、パワーポイント資料作成、予習25分	レポート20分、パワーポイント資料作成20分
担当教員	熊野 稔		
第29回	最終レポート提出、パワーポイント資料を作成しての最終発表	最終レポート提出、パワーポイント資料を作成予習、準備40分	発表後の復習5分
担当教員	熊野 稔		
第30回	レポートの評価、反省と訂正後の提出。パワーポイントの加筆修正後の提出。最終的なアクティブラーニングとしてのディスカッション。	レポート最終作成20分、パワーポイント最終作成15分	全体の振り返り復習10分
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題レポート提出30、パワポ発表20、出席率と演習態度50
その他	0	
教科書		
オリジナル資料		
参考文献		

履修条件・留意事項等

すべて出席して課題や発表を優秀にこなして秀とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅱ (Creative) (木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	木村 俊昭						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」、幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)を实践する科目である。

授業の概要

本科目では、「地域未来創造演習Ⅰ Beginning)」を通して考えた、地域課題や自らの関心分野をもとに、実際に地域の方々との協働を視野に入れながら、地域の諸課題を解決することを目指し、自らの学びの俯瞰を通して、プロジェクトの立案や提案、実践といった具体的なアプローチについて学ぶもの。

到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)や連携自治体での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高めること、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明ができる。また、地域が直面する特性的な課題を発見し、それらに対する具体的な方策に関する企画や、その実施に向けた持続可能な政策提言ができる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行う。地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。なお、詳細な授業方法については担当教員の指示によるものとする。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示によるものとする。

実務経験のある教員の教育内容

地方公務員や国家公務員、大学教員の経験と具体的な実践事例を持つ私のほか、必要に応じて、連携大学の教員、企業経営者等の実務経験のある教員が指導を行うものとする。

課題に対するフィードバックの方法

担当教員の指示による。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)後、履修生の自己紹介、地域創生に関する経験・実績や考え方等の対話、質疑応答を行う。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第2回	地域創生の現場の現状と政策課題に関して講義後、学び・習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第3回	地域創生の現場の現状と政策課題に関して講義後、学び・習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第4回	地域創生の現場の現状と政策課題に関して講義後、学び・習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第5回	地域創生の現場の現状と政策課題に関して講義後、学び・習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第6回	地域創生の現場の現状と政策課題に関して講義後、学び・習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第7回	地域創生の政策主体としての国や自治体のあり方に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第8回	地域創生の政策主体としての国や自治体のあり方に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第9回	地域創生の政策主体としての国や自治体のあり方に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第10回	国や自治体の地域政策の変遷と地域創生の本質に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第11回	国や自治体の地域政策の変遷と地域創生の本質に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第12回	国や自治体の地域政策の変遷と地域創生の本質に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第13回	地域リーダー・プロデューサー人財の養成と定着に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第14回	地域リーダー・プロデューサー人財の養成と定着に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第15回	地域リーダー・プロデューサー人財の養成と定着に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を再度復習し、知識と知恵として身に付けること。(25分)
担当教員			

第16回	地域リーダー・プロデューサー人財の養成と定着に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第17回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第18回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第19回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第20回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第21回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第22回	地域創生の実践的な先駆事例に関して講義後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第23回	地域創生の現場(都市部・生産地の過疎地域・被災地等)入りし、現場の実践者から政策・事業構想内容をヒアリング後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、あるべき姿、その解決策を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第24回	地域創生の現場(都市部・生産地の過疎地域・被災地等)入りし、現場の実践者から政策・事業構想内容をヒアリング後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、あるべき姿、その解決策を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第25回	地域創生の現場(都市部・生産地の過疎地域・被災地等)入りし、現場の実践者から政策・事業構想内容をヒアリング後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、あるべき姿、その解決策を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第26回	地域創生の現場(都市部・生産地の過疎地域・被災地等)入りし、現場の実践者から政策・事業構想内容をヒアリング後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、あるべき姿、その解決策を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第27回	地域創生の現場(都市部・生産地の過疎地域・被災地等)入りし、現場の実践者から政策・事業構想内容をヒアリング後、学び、習い、問い立てし、対話のうえ、あるべき姿、その解決策を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第28回	講義や地域現場にて、学び、習い、問い立てした内容を整理のうえ、地域創生の課題解決に向けての具体的な政策を各自発表する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第29回	講義や地域現場にて、学び、習い、問い立てした内容を整理のうえ、地域創生の課題解決に向けての具体的な政策を各自発表する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第30回	講義や地域現場にて、学び、習い、問い立てした内容を整理のうえ、地域創生の課題解決に向けての具体的な政策を各自発表する。最終回として、質疑応答後、全体を総括する。	これまでの講義で得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義時の課題提出(60%)、最終回による発表(40%)により、成績評価とする。
その他	0	なし。
教科書		
授業説明用の資料はメール添付にて配布する。		
参考文献		

授業時にその都度紹介する。

履修条件・留意事項等

日頃から地域創生の情報に関心を持つこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅱ (Creative) (中田 和彦)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次後期の「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」と併せて、4年次の「地域未来創造探究 (Explore)」、「卒業研究」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、「地域未来創造演習Ⅰ (Beginning)」を通して考えた、地域課題や自らの関心分野をもとに、実際に地域の方々との協働を視野に入れながら、地域の諸課題を解決することを目指し、自らの学びの俯瞰を通して、プロジェクトの立案や提案、実践といった具体的なアプローチについて学ぶ。

到達目標

①グループで協力して地域課題の解決に資する調査やヒアリングなどのフィールドワークやイベント等のボランティア体験、インターンシップ等(以下、FW等)の計画を作成することができる。 ②計画に基づき、FW等の相手先との諸調整や結果を整理することができる。 ③文字起こしや写真・映像の記録方法等、FW等に関する基本的な技能を実践することができる。 ④卒業研究に向けたテーマについて見通しをもつことができる。			
授業の方法 受講生の合意形成を重視しながら、地域の課題の解決に関連したFW等を計画し、それに基づいた取組を進め、成果を報告書として取りまとめ、発表する。			
ICT活用 •Google Geminiを活用して、ヒアリングや調査等のデータを整理する。 •動画を撮影するなどして、まとめに活用する。			
実務経験のある教員の教育内容 公立小学校教諭、校長として9年の学校現場勤務と市町村や国立青少年教育施設への派遣等、24年の社会教育行政の勤務経験があり、公教育や生涯学習について幅広いの知識を有している。この経験を活かし、これからの時代に求められる教育や学び、教育と地域づくりの関連性等について指導する。			
課題に対するフィードバックの方法 •成果物に対して、対面によって個別にフィードバックする。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容等)について理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た知識や経験を整理して授業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べ、講義全体に対する見通しを持つ。(20分)
担当教員			
第2回	FW等における情報の収集技術1 情報の収集の基本的技術(文字起こし、写真や映像等)と留意点を学ぶ。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第3回	FW等における情報の収集技術2 情報の収集の基本的技術(文字起こし、写真や映像等)と留意点を学ぶ。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			

第4回	FW等における情報の収集技術3 情報の収集の基本的技術(文字起こし、写真や映像等)と留意点に関する課題に取り組む。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第5回	FW等における情報の収集技術4 情報の収集の基本的技術(文字起こし、写真や映像等)と留意点に関する課題に取り組む。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第6回	FW等の計画作成に係る情報の収集・整理1 FW等に向け、協力して諸情報を収集・整理し、計画の目的・目標を明確にする。	収集する情報について下調べし、見通しを持つ。(25分)	収集・整理した情報を見直す。(20分)
担当教員			

第7回	FW等の計画作成に係る情報の収集・整理2 FW等に向け、協力して諸情報を収集・整理し、計画の概略をつかむ。	収集する情報について下調べし、見通しを持つ。(25分)	収集・整理した情報を見直す。(20分)
担当教員			
第8回	FW等の計画作成1 FW等に向けた計画に必要な項目をリストアップと役割分担を行う。	収集・整理した情報を見直す。(25分)	作成した計画を見直す。(20分)
担当教員			
第9回	FW等の計画作成2 FW等に向けた計画を作成する。	収集・整理した情報を見直す。(25分)	作成した計画を見直す。(20分)
担当教員			

第10回	FW等の計画作成3 FW等に向けた計画を作成し、発表の準備を行う。	収集・整理した情報を見直す。 (25分)	作成した計画を見直す。(20分)
担当教員			
第11回	FW等の計画の発表 地域課題の解決に向けた取組の先進地でのFW等に向けた計画を発表する。	作成した計画書の発表の準備を行う。(25分)	発表後の指摘や改善事項を整理する。(20分)
担当教員			
第12回	FW等の計画のブラッシュアップ1 指摘事項を踏まえ、計画のブラッシュアップを行う。	質疑の内容等を整理する。(25分)	作成した計画を見直す。(20分)
担当教員			

第13回	FW等の計画のブラッシュアップ2 ブラッシュアップの結果について、教員のチェックを受け、最終確認を行う。	質疑の内容等を整理する。(25分)	最終的な計画書を確認する。(20分)
担当教員			
第14回	FW等の準備1 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の準備の進捗を確認する。(20分)
担当教員			
第15回	FW等の準備2 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の準備の進捗を確認する。(20分)
担当教員			

第16回	FW等の準備3 FW等の相手先との諸調整の結果について報告する。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の計画や心構えなどについて最終確認する。(20分)
担当教員			
第17回	FW等の実践1 計画に基づき、FW等を実践する。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			
第18回	FW等の実践2 計画に基づき、FW等を実践する。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			

第19回	FW等の実践3 計画に基づき、FW等を実践する。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			
第20回	FW等の実践4 計画に基づき、FW等を実践する。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			
第21回	FW等の実践5 計画に基づき、FW等を実践する。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			

第22回	FW等の実践6 計画に基づき、FW等を実践する。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			
第23回	FW等の実践7 計画に基づき、FW等を実践する。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			
第24回	FW等の実践8 計画に基づき、FW等を実践する。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			

第25回	FW等の実践9 計画に基づき、FW等を実践する。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			
第26回	FW等の実践10 計画に基づき、FW等を実践する。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			
第27回	FW等のまとめ1 FW等について成果や課題を分析する。	FW等の実践の内容や気づき等を整理した内容を読み返す。(25分)	分析や発表媒体の作成等の課題を通しての気づきを整理する。(20分)
担当教員			

第28回	FW等のまとめ2 FW等のまとめの発表媒体・説明要旨等を作成する。	FW等の実践の内容や気づき等を整理した内容を読み返す。(25分)	分析や発表媒体の作成等の課題を通しての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第29回	FW等のまとめ3 FW等を通して、取組の成果や課題、改善方策等について発表し、実践をふりかえる。	報告書の発表準備を行う。(25分)	分析や発表媒体の作成等の課題を通しての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第30回	ふりかえり 授業全体をふりかえるとともに、「地域未来創造演習Ⅲ(Driven)」で取り組む課題についての見通しを持つ。	これまでの資料や報告書等を読み返して授業に臨む。(25分)	「地域未来創造演習Ⅲ(Driven)」で取り組む課題(こついでのアイディアを整理する。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①FW等計画書 30% ②FW等の報告書 60% ③授業への参加度・出席態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

本科目は、チームとしての合意形成を重視したFW等の計画・準備・実施・まとめを行う。FW等は2～3日の日程で集中的に行う場合があることや、土日祝日に行う場合があることに留意のこと。また、PCは必須とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅱ (Creative) (宮崎 隆志)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次後期の「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」と併せて、4年次の「地域未来創造探究 (Explore)」、「卒業研究」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、「地域未来創造演習Ⅰ (Beginning)」を通して考えた、地域課題や自らの関心分野をもとに、実際に地域の方々との協働を視野に入れながら、地域の諸課題を解決することを目指し、自らの学びの俯瞰を通して、プロジェクトの立案や提案、実践といった具体的なアプローチについて学ぶ。

到達目標

- ①地域課題の解決に資する調査やヒアリングなどのフィールドワークの計画を作成することができる。
- ②研究課題に関する既存情報の収集と整理ができる。
- ③計画に基づき、FW等の相手先との諸調整や結果を整理することができる。
- ④文字起こしや写真・映像の記録方法等、FW等で得た情報の整理ができる。

授業の方法

受講生の合意形成を重視しながら、現代的課題に関する事例調査を計画し、それに基づいた情報収集行い、成果を報告書として取りまとめ、発表する。

ICT活用

- ・Google Gemini等を活用して、ヒアリングや調査等のデータを整理する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない

課題に対するフィードバックの方法

- ・成果物に対して、対面によってフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容等)について)理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た知識や経験を整理して授業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べ、講義全体に対する見通しを持つ。(20分)
担当教員			
第2回	受講者の課題意識に基づき、調査の課題と対象地域についての検討を進める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第3回	受講者の課題意識に基づき、調査の課題と対象地域についての検討を進める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			

第4回	受講者の課題意識に基づき、調査の課題と対象地域についての検討を進める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第5回	設定した調査の課題に関する先行研究を収集する。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第6回	設定した調査の課題に関する先行研究を収集する。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			

第7回	設定した調査の課題に関する先行研究を収集する。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第8回	設定した調査の課題に関する先行研究を収集する。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第9回	収集した先行研究等の情報を分析し、分析課題を明確化する。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			

第10回	収集した先行研究等の情報を分析し、リサーチ・クエスチョンを立てる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第11回	収集した先行研究等の情報を分析し、リサーチ・クエスチョンを立てる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第12回	収集した先行研究等の情報を分析し、リサーチ・クエスチョンを立てる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			

第13回	事例調査の対象地域を選定し、地域情報を収集しながらリサーチ・クエスチョンを立てる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第14回	事例調査の対象地域を選定し、地域情報を収集しながらリサーチ・クエスチョンを立てる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第15回	事例調査の対象地域を選定し、地域情報を収集しながらリサーチ・クエスチョンを立てる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			

第16回	事例調査の対象地域を選定し、地域情報を収集しながらリサーチ・クエスチョンを立てる。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第17回	調査の設計を行い、実施計画を立て、調査依頼を行う。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第18回	調査の設計を行い、実施計画を立て、調査依頼を行う。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			

第19回	事例調査の実施。チーム内で役割分担を行い進める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第20回	事例調査の実施。チーム内で役割分担を行い進める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第21回	事例調査の実施。チーム内で役割分担を行い進める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			

第22回	事例調査の実施。チーム内で役割分担を行い進める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第23回	事例調査から得られたデータにの分析を進める。チーム内で役割分担を行い進める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第24回	事例調査から得られたデータにの分析を進める。チーム内で役割分担を行い進める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			

第25回	事例調査から得られたデータにの分析を進める。チーム内で役割分担を行い進める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第26回	事例調査から得られたデータにの分析を進める。チーム内で役割分担を行い進める。	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第27回	分析結果のまとめと発表の準備	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			

第28回	分析結果のまとめと発表の準備	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第29回	分析結果のまとめと発表の準備	授業のテーマについて調べて授業に臨む(20分)。	講義やノート等をもとに、復習する(20分)。
担当教員			
第30回	調査結果の発表会	報告の準備(20分)。	「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」で取り組む個人課題についてのアイデアを整理する。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①課題設定:20% ②データ整理と分析の技術:30% ③発表:50%
その他	0	
教科書		
使用しない		
参考文献		

授業中に紹介する。

履修条件・留意事項等

前半はテキストや統計情報の読み込みを行い、後半はフィールドワーク形式で進める。調査は集中形式で実施する場合がある。課題は一つに絞り込み、チームで探求する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅱ (Creative) (吉岡 亜希子)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次後期の「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」と併せて、4年次の「地域未来創造探究 (Explore)」、「卒業研究」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、「地域未来創造演習Ⅰ (Beginning)」を通して考えた、地域課題や自らの関心分野をもとに、実際に地域の方々との協働を視野に入れながら、地域の諸課題を解決することを目指し、自らの学びの俯瞰を通して、プロジェクトの立案や提案、実践といった具体的なアプローチについて学ぶ。

到達目標

- ①グループで協力して地域課題の解決に資する調査やヒアリングなどのフィールドワークやイベント等のボランティア体験、インターンシップ等(以下、FW等)の計画を作成することができる。
 ②計画に基づき、FW等の相手先との諸調整や結果を整理することができる。
 ③文字起こしや写真・映像の記録方法等、FW等に関する基本的な技能を実践することができる。
 ④卒業研究に向けたテーマについて見通しをもつことができる。

授業の方法

グループワークを基本とする。

ICT活用

ヒアリングデータは、AIボイスレコーダーを活用して整理する。

実務経験のある教員の教育内容

市民活動として行っている子育て支援に関連する団体運営、学びの場づくり等での経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

成果物に対してコメントを返し、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第2回	フィールドワークの準備 グループメンバーで共通する関心分野、問題意識を発見するためのディスカッションを行う。～a) 関心分野の分析	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第3回	フィールドワークの準備 グループメンバーで共通する関心分野、問題意識を発見するためのディスカッションを行う。～b) 問題意識の分析	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第4回	フィールドワークの準備 グループでメンバーで共通する関心分野、問題意識を発見するためのディスカッションを行う。～c)問題意識の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第5回	フィールドワークの準備 グループとしての問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～a)情報収集の手法	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第6回	フィールドワークの準備 グループとしての問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～b)情報の収集	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第7回	フィールドワークの準備 グループとしての問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～c)フィールドワークの計画書づくり前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第8回	フィールドワークの準備 グループとしての問題意識に対応した情報収集、フィールドワークの計画書づくり～d)フィールドワーク計画書づくり後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第9回	フィールドワークの実施 調査、ヒアリング等～前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第10回	フィールドワークの実施 調査、ヒアリング等～後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第11回	フィールドワークで得た内容の整理～a) 内容の整理	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第12回	フィールドワークで得た内容の整理～b) 内容の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第13回	フィールドワークの報告～前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第14回	フィールドワークの報告～後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第15回	フィールドワークのまとめ、講評～前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第16回	フィールドワークのまとめ、講評～後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第17回	学習計画と学習実践:グループ活動～フィールドワークでまとめた問題意識に対応した学習計画を立案①	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第18回	学習計画と学習実践:グループで学習計画を立案②	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第19回	学習計画と学習実践:グループで学習計画を立案③	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第20回	学習計画と学習実践:グループで学習実践の調整を行う①	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第21回	学習計画と学習実践:グループで学習実践の調整を行う②	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第22回	学習計画と学習実践:グループで学習実践の調整を行う ③	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第23回	学習計画と学習実践:グループで学習実践の調整を行う ④	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第24回	学習会の準備①会場、備品等	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第25回	学習会の準備②会場、備品等	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第26回	学習会の開催①	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第27回	学習会の開催②	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第28回	学習会の振り返り①～事後に行う諸活動の確認	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第29回	学習会の振り返り②	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第30回	まとめ、後期の「地域未来創造演習Ⅲ」に向けた課題の共有。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークの事前準備・計画書・報告・まとめ 45% ②学習会の調整・準備・開催・振り返り 45% ③授業への参加度・態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅱ (Creative) (木村 悠里菜)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有した人材を養成する。(知識・技能)」、幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)を実践する科目である。

授業の概要

本科目では、「地域未来創造演習Ⅰ (Beginning)」を通して考えた、地域課題や自らの関心分野をもとに、実際に地域の方々との協働を視野に入れながら、地域の諸課題を解決することを目指し、自らの学びの俯瞰を通して、プロジェクトの立案や提案、実践といった具体的なアプローチについて学ぶ。

到達目標

輪読と発表を通じて地域課題を根拠に基づき整理し、地域の方々との協働を視野に入れたプロジェクト提案書を作成できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、最終成果発表を実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職や、全国のまちづくり活動等での実務経験を活かして、実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションを行い、アカデミック・スキルの意義と本授業の到達目標を確認するとともに、学修の進め方(輪読・発表・フィードバックの流れ)を共有する。①授業設計と学修ルールの確認(ゼミの進め方)	アカデミック・スキルズについて調べ、主要項目(読む・書く・発表する・引用／文献管理等)を整理したうえで、なぜ重要かを自分の言葉で説明する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第2回	オリエンテーションを行い、アカデミック・スキルの意義と本授業の到達目標を確認するとともに、学修の進め方(輪読・発表・フィードバックの流れ)を共有する。②個別目標設定と研究環境セットアップ	アカデミック・スキルズについて調べ、主要項目(読む・書く・発表する・引用／文献管理等)を整理したうえで、なぜ重要かを自分の言葉で説明する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第3回	アカデミック・スキルズの全体像と「知／教養」の基本概念を整理し、学びを俯瞰する視点を獲得する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第4回	研究の出発点としての「問い」の立て方と研究テーマ設定の要点を理解し、自分の関心領域から問いを試作する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第5回	AI時代の学習環境を整理し、生成AIの特性と大学学習における位置づけを理解する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第6回	日常学習での生成AI活用法とリスク・マネジメントを検討し、授業内ルール(引用・開示・禁止事項)を確認する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第7回	大学講義の特徴を踏まえ、ノート・テイキングの目的と基本姿勢(良い聴き手)を理解する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第8回	具体的なノート術を練習し、講義・議論から要点を抽出して構造化する方法を身につける。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第9回	情報に対するアカデミックな態度を確認し、資料の種類と特徴を整理する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第10回	図書館・データベースを用いた文献探索を実践し、文献一覧(暫定)を作成する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第11回	批判的・論理的思考の基礎を整理し、クリティカル・リーディングの観点を理解する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第12回	クリティカル・リーディングを実践し、主張・根拠・前提を抽出して要約と論点整理を行う。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第13回	記録の重要性と情報整理の基本を理解し、ノート作成の方法を比較検討する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第14回	情報カード作成とアウトライン化を練習し、レポート・提案書作成へつなげる。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第15回	研究成果のアウトプットを整理し、「学問的問い」と論理的記述の要件を理解する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第16回	論理を曇らせる典型的な誤りを検討し、明晰な主張構成の練習を行う。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第17回	口頭発表の設計(目的・聴衆・構成)を整理し、プレゼンの基本を理解する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第18回	スライド・ツール運用と発表技法を練習し、短い発表を実施して相互フィードバックを行う。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第19回	論文・レポート執筆の基本プロセスを理解し、文章構成と推敲の観点を整理する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第20回	引用・注・書式の作法を確認し、提出物(レポート・提案書)の体裁を整える。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第21回	最終成果発表の目的と評価観点を確認し、各自のテーマと到達成果(何を示すか)を明確化する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第22回	収集した資料・メモを整理し、主張を支える根拠(データ・文献・事例)を取捨選択する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第23回	主張・根拠・結論の流れを設計し、発表のストーリーライン(論理構成)を組み立てる。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第24回	発表アウトライン(見出し・各スライド要旨)を作成し、相互レビューを通じて論理と焦点を改善する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第25回	資料の初稿を作成し、可視化の工夫(図表・構造・読みやすさ)を検討して改善する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第26回	作成した資料(スライド・配布物)を用いて試行発表(短時間)を行い、主張の明確さ・論理構成・根拠の妥当性・時間配分の観点から相互フィードバックを通じて改善点を整理する。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第27回	学生による最終発表テーマの設定と、資料作成の方向性について議論する。①発表テーマ設定と論点整理	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第28回	学生による最終発表テーマの設定と、資料作成の方向性について議論する。②スライド／資料の骨組みづくり	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第29回	学生によるプレゼンテーション①と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第30回	学生によるプレゼンテーション②と、発表内容をめぐるディスカッションを実施し、授業全体の振り返りを行う。	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	最終成果発表
その他	40	事前課題提出・授業態度や意欲等
教科書		
本科目では、学術的な視座を深めるための基本文献を指定する。具体的な文献については、初回授業時に共有し、授業の進行に応じて補助的な参考資料を適宜提示する。		
参考文献		

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

初回授業時に説明する。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅱ (Creative) (松田 祐)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	松田 祐						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。後期の「地域未来創造演習Ⅲ (Driven)」、4年次の「地域未来創造探求 (Explore)」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、「地域未来創造演習Ⅰ (Beginning)」を通して考えた、地域課題や自らの関心分野をもとに、実際に地域の方々との協働を視野に入れながら、地域の諸課題を解決することを目指し、自らの学びの俯瞰を通して、プロジェクトの立案や提案、実践といった具体的なアプローチについて学ぶ。

到達目標

- ①演習やフィールドワークを通して、特定の分野における総論的な情勢の説明ができ、文章を作成することができる。
- ②演習やフィールドワークを通して、特定の分野における各論的な事例における課題と解決策を明示できる。
- ③実践型のプロジェクトを通して、多様な主体とともに課題の解決に向けた協調的な行動をとることができる。
- ④実践型のプロジェクトを通して、バックキャストイングの考え方をもとに、責務分担や工程管理などをマネジメントできるようになる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

実務経験のある教員の教育内容

民間企業や大学職員、地域における官学連携研究機関などの就業経験がある。地域と大学のよりよい関係性や官学連携などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜課すコメントシートへの記入及び添削を通して、知識の整理や派生的な知識の獲得を促す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ゼミの進め方や評価基準等について説明する。	シラバスをよく読み、これまでに 得た知識や経験について整理 して授業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第2回	時事応用:系統地理(1)村落と都市 基礎的な地理分野の知識(主に系統地理)に関する講義を 通して、日々世界で発生する様々な事象に対して理解を 深めることができる地理的思考力を養うことで、社会人とし て兼備すべき一般的な知識への理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第3回	演習:個人研究基礎(1) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当 該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係 者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係で けるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			

第4回	演習:個人研究基礎(2) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第5回	演習:個人研究基礎(3) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第6回	演習:個人研究基礎(4) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			

第7回	ゼミプロ:大学の地域連携を企画する(1)オリエンテーション 大学の地域連携をテーマに、学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。 ※2026年度3年ゼミプロテーマ(予定):学生食堂におけるメニューの分析・魅力化、地域や高校生への開放に向けての企画立案・実施	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第8回	ゼミプロ:大学の地域連携を企画する(2)キックオフミーティング 大学の地域連携をテーマに、学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第9回	ゼミプロ:大学の地域連携を企画する(3)目標の設定 大学の地域連携をテーマに、学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			

第10回	ゼミプロ:大学の地域連携を企画する(4)学食利用者へのアンケート 大学の地域連携をテーマに、学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第11回	演習:個人研究基礎(5) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に係ることができるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第12回	演習:個人研究基礎(6) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に係ることができるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			

第13回	演習:個人研究基礎(7) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第14回	演習:個人研究基礎(8) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第15回	中間報告(個人研究:6月) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて報告を行い、研究の進捗状況、成果について共有する。	自分の興味・関心や就職などの諸要素を踏まえ、中間の振り返り準備を行うこと。(20分)	他者の中間報告も踏まえ、最終報告に向けた周辺知識の整理に努めること。(25分)
担当教員			

第16回	時事応用:系統地理(2)商業・観光 基礎的な地理分野の知識(主に系統地理)に関する講義を通して、日々世界で発生する様々な事象に対して理解を深めることができる地理的思考力を養うことで、社会人として兼備すべき一般的な知識への理解を深める。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第17回	ゼミプロ:大学の地域連携を企画する(5)学食利用者へのアンケート 大学の地域連携をテーマに、学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第18回	ゼミプロ:大学の地域連携を企画する(6)学食利用者へのアンケート 大学の地域連携をテーマに、学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			

第19回	ゼミプロ:大学の地域連携を企画する(7)アンケート分析 大学の地域連携をテーマに、学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第20回	ゼミプロ:大学の地域連携を企画する(8)メニュー分析 大学の地域連携をテーマに、学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第21回	演習:個人研究基礎(9) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、 必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			

第22回	演習:個人研究基礎(10) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第23回	演習:個人研究基礎(11) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第24回	演習:個人研究基礎(12) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第25回	ゼミプロ: 大学の地域連携を企画する(9)調理企業や他学科との合同試作会 大学の地域連携をテーマに、学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第26回	ゼミプロ: 大学の地域連携を企画する(10)地域連携企画の立案 大学の地域連携をテーマに、学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第27回	ゼミプロ: 大学の地域連携を企画する(11)地域連携企画の検討 大学の地域連携をテーマに、学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			

第28回	ゼミプロ:大学の地域連携を企画する(12)地域連携企画の検討 大学の地域連携をテーマに、学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第29回	期末報告(個人研究:8月) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて報告を行い、研究の進捗状況、成果について共有する。	大学生活の残された時間を意識した振り返りとできるよう、準備すること。(20分)	卒業研究や就職活動の両立が可能となるような自律的な体制を整えること。(25分)
担当教員			
第30回	クロージング 個人研究及びゼミプロに関する進捗状況の確認等を行い、夏休みや後期ゼミにおいて取り組むべきことについて共有する。	大学生活の残された時間を意識した振り返りとできるよう、準備すること。(20分)	卒業研究や就職活動の両立が可能となるような自律的な体制を整えること。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業(座学、フィールドワーク等)に取り組む姿勢(50%)、記述による提出物(50%)
その他	0	なし
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

適宜、ゼミ教員から指定または提供された、テーマやトピックに係る資料等

履修条件・留意事項等

原則は時間割で指定された曜日・開講時にて授業を行うが、地域で活動する人や組織などの学内外の協力体制との調整が不可欠であるため、日程・時間調整を行う場合があり、その場合は事前にお知らせする。なお、ゼミプロにおいては変則日程かつ夏季休業期間を活用したプロジェクトとなるため、アルバイトやインターンなど各自予定と調整の上、参加すること。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅲ (Driven) (熊野 稔)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	熊野 稔						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの【知識・技能】

地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。

【思考・判断・表現】

幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。 4年次の「地域未来創造探究 (Explore)」、「卒業研究」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」に続き、どのようなアプローチ、方策、政策が実際の地域を動かしていくのかについて、その稼働する仕組みやそのために必要な知識、経験の蓄積を重ねる等、学際的視点も交えながら、地域等の方々との連携も視野に課題解決や改善プランの策定等を学ぶ。さらに、自らの学びの集大成に向けての助走段階に入ること、将来の自己イメージの形成を図る。

到達目標

学生は、地域課題や自らの関心分野をもとに、実際に地域の方々との協働を視野に入れながら、地域の諸課題を解決することを目指し、プロジェクトの立案や提案、実践といった具体的なアプローチの基本と活用を成すことができる。卒業研究作成のための基礎と手法を身に着けることができる。

授業の方法

地域の各課題に取り組む演習を基本として、文献探索と調査、先行研究の調査、現地調査、データを集めての分析、分析結果をもとにプロジェクトの立案や提案、実践といった基本を学んで、レポートを提出し、最後にはパワーポイントを作成して発表する。各授業で必要に応じてフィールドワークも行う。

ICT活用

全ての授業で多変量解析ソフトや生成AIを活用し、ノートパソコンを活用する

実務経験のある教員の教育内容

博士号のみならず、技術士(建設部門 都市及び地方計画)、一級建築士等の国家資格を持ち、地域計画コンサルティング及び、地域振興アドバイザー等の豊富な実務経験を有す教員が、現場で役立つ実務レベルに近い形で演習教育を行う。また実務家によるゲスト講師による講習やアドバイスも取り入れる。

課題に対するフィードバックの方法

提出レポートや発表の後の添削や事後指導、調査等にお世話になった現場への研究成果の配布を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	全体概要を通しての授業ガイダンス。成績評価説明、地域課題の抽出方法、文献調査、生成AIの活用手法、調査研究方法論等を学び、様々な地域課題解決のアクティブラーニングとしてのディスカッションも行う。第1回課題テーマとして、関心ある研究の先行研究の比較調査研究を行う	自分が何をやりたいのか、地域課題の抽出方法、文献調査、生成AIの活用手法、調査研究方法論等を学び、様々な地域課題解決のアクティブラーニング予習25分。	地域課題の抽出方法、文献調査、生成AIの活用手法、調査研究方法論等を学び、様々な地域課題解決のアクティブラーニング復習20分
担当教員	熊野 稔		
第2回	具体的な地域抽出、地域課題の抽出、文献調査、生成AIの活用手法、調査研究方法論等を学び、様々な地域課題解決のアクティブラーニングとしてのディスカッションも行う。課題の具体的説明。道の駅、中心市街地再生、観光地・温泉街再生、官民連携事業など。	予習25分	復習20分
担当教員	熊野 稔		
第3回	具体的な地域抽出、地域課題の抽出、文献調査、データ収集、生成AIの活用しての分析、調査研究方法論等を学び、様々な地域課題解決のアクティブラーニングとしてのディスカッションも行う。道の駅、中心市街地再生、観光地・温泉街再生、官民連携事業など。	具体的な地域抽出、地域課題の抽出、文献調査、データ収集、生成AIの活用しての分析、調査研究方法論等を学び、様々な地域課題解決の予習25分	具体的な地域抽出、地域課題の抽出、文献調査、データ収集、生成AIの活用しての分析、調査研究方法論等を学び、様々な地域課題解決復習20分
担当教員	熊野 稔		

第4回	道の駅、中心市街地再生、観光地・温泉街再生、官民連携事業など地域課題解決のイノベーション事例を纏めて、レポートやパワーポイント資料を作成する。	道の駅、中心市街地再生、観光地・温泉街再生、官民連携事業など地域課題解決のイノベーション事例予習25分	道の駅、中心市街地再生、観光地・温泉街再生、官民連携事業など地域課題解決のイノベーション事例復習20分
担当教員	熊野 稔		
第5回	道の駅、中心市街地再生、観光地・温泉街再生、官民連携事業など地域課題解決のイノベーション事例を纏めて、レポートやパワーポイント資料を作成する。	道の駅、中心市街地再生、観光地・温泉街再生、官民連携事業など地域課題解決のイノベーション事例の予習30分	道の駅、中心市街地再生、観光地・温泉街再生、官民連携事業など地域課題解決のイノベーション事例の復習15分
担当教員	熊野 稔		
第6回	道の駅、中心市街地再生、観光地・温泉街再生、官民連携事業など地域課題解決のイノベーション事例を纏めて、レポートやパワーポイント資料を作成する。パワーポイント資料を作成終了後に発表する。	レポートやパワーポイント資料を作成予習25分	レポートやパワーポイント資料を作成復習25分
担当教員	熊野 稔		

第7回	道の駅、中心市街地再生、観光地・温泉街再生、官民連携事業など地域課題解決のイノベーション事例を纏めて、レポートやパワーポイント資料を作成する。	道の駅、中心市街地再生、観光地・温泉街再生、官民連携事業など地域課題解決のイノベーション事例予習25分	道の駅、中心市街地再生、観光地・温泉街再生、官民連携事業など地域課題解決のイノベーション事例復習15分
担当教員	熊野 稔		
第8回	道の駅、中心市街地再生、観光地・温泉街再生、官民連携事業など地域課題解決のイノベーション事例を纏めて、レポートやパワーポイント資料を作成して加筆修正後に提出する。	道の駅、中心市街地再生、観光地・温泉街再生、官民連携事業など地域課題解決のイノベーション事例予習25分	道の駅、中心市街地再生、観光地・温泉街再生、官民連携事業など地域課題解決のイノベーション事例復習20分
担当教員	熊野 稔		
第9回	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。予習25分	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。復習20分
担当教員	熊野 稔		

第10回	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。	予習90分	復習90分
担当教員	熊野 稔		
第11回	卒業研究を視野に入れて、国内外の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。予習25分	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。復習20分
担当教員	熊野 稔		
第12回	卒業研究を視野に入れて、国内外の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。予習25分	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。復習20分
担当教員	熊野 稔		

第13回	卒業研究を視野に入れて、国内外の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる	予習90分	復習90分
担当教員	熊野 稔		
第14回	卒業研究を視野に入れて、国内外の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。予習25分	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。復習20分
担当教員	熊野 稔		
第15回	卒業研究を視野に入れて、国内外の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。予習25分	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。復習20分
担当教員	熊野 稔		

第16回	卒業研究を視野に入れて、国内外の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。予習25分	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。復習20分
担当教員	熊野 稔		
第17回	卒業研究を視野に入れて、国内外の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめる。レポートとパワーポイント資料を作成する。	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。予習25分	卒業研究を視野に入れてテーマと構成を配慮する。先行研究と文献調査、資料収集の実施。復習20分
担当教員	熊野 稔		
第18回	卒業研究を視野に入れて、国内外の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめ、レポートとパワーポイント資料を作成して発表する	卒業研究を視野に入れて、国内外の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめ、レポートとパワーポイント資料を作成して発表する予習30分	卒業研究を視野に入れて、国内外の地域課題を解決したイノベーション事例を調査して類型して一覧にまとめ、レポートとパワーポイント資料を作成して発表する復習15分
担当教員	熊野 稔		

第19回	卒業研究を視野に入れて、各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。	卒業研究を視野に入れて、各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。予習30分	卒業研究を視野に入れて、各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。復習15分
担当教員	熊野 稔		
第20回	卒業研究を視野に入れて、各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。	卒業研究を視野に入れて、各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。予習30分	卒業研究を視野に入れて、各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。復習15分
担当教員	熊野 稔		
第21回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。予習30分	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。復習15分
担当教員	熊野 稔		

第22回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。予習30分	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。復習15分
担当教員	熊野 稔		
第23回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。予習30分	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマを探索する。先行事例研究を調査する。復習15分
担当教員	熊野 稔		
第24回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。予習30分	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。復習15分
担当教員	熊野 稔		

第25回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。調査分析、先行研究を整理する。レポート作成と発表パワポ準備。	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。予習30分	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。復習15分
担当教員	熊野 稔		
第26回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。調査分析、先行研究を整理する。レポート作成と発表パワポ準備。	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。調査分析、先行研究を整理する。レポート作成と発表パワポ予習30分	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。調査分析、先行研究を整理する。レポート作成と発表パワポ復習15分
担当教員	熊野 稔		
第27回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、調査分析、先行研究を整理する。レポート作成と発表パワポ準備。	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。調査分析、先行研究を整理する。レポート作成と発表パワポ予習30分	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。調査分析、先行研究を整理する。レポート作成と発表パワポ復習15分
担当教員	熊野 稔		

第28回	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、調査分析、先行研究を整理する。レポート作成と発表パワポ準備。	卒業研究を視野に入れて各自行ってみたい研究テーマとデータ資料、先行研究を整理する。調査分析、先行研究を整理する。レポート作成と発表パワポレポート、パワーポイント資料作成、予習30分	レポート90分、パワーポイント資料作成15分
担当教員	熊野 稔		
第29回	最終レポート提出、パワーポイント資料を作成しての最終発表	レポート、パワーポイント作成40分	全体を通しての復習10分
担当教員	熊野 稔		
第30回	レポートの評価、反省と訂正後の提出。パワーポイントの加筆修正後の提出。最終的なアクティブラーニングとしてのディスカッション。	レポート最終作成20分、パワーポイント最終作成20分	全体の振り返り復習5分
担当教員	熊野 稔		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題レポート提出30、パワポ発表20、出席率と演習態度50
その他	0	
教科書		
オリジナル資料		
参考文献		

履修条件・留意事項等

すべて出席して課題や発表を優秀にこなして秀とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅲ (Driven) (木村 俊昭)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	木村 俊昭						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次前期の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」と併せて、4年次の「地域未来創造探究 (Explore)」、「卒業研究」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」に続き、どのようなアプローチ、方策、政策が実際の地域を動かしていくのかについて、その稼働する仕組みやそのために必要な知識、経験の蓄積を重ねる等、学際的視点も交えながら、地域等の方々との連携も視野に課題解決や改善プランの策定等を学ぶ。さらに、自らの学びの集大成に向けての助走段階に入ること、将来の自己イメージの形成を図る。

到達目標

本学が本拠とする地域(恵庭市)や連携自治体での学習経験を踏まえ、さらに知識や技能を高めること、フィールド範囲をより広げることを通じて、地域特性や地域間格差といった特長や差異について比較や説明できる。また、地域が直面する特性的な課題に知り気づき、それらに対する具体的な方策について企画したり、持続可能な実践行動に向けた検討を行うことができる。さらに、地域が抱える課題を「自分事」として捉え、データ収集と現地入りによる現場の声に基いた実践可能な方策を立案できる。なお、4年次の卒業論文の執筆を踏まえて、学び、習い、問い立てのほか、書くことを意識して講義を進める。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。なお、詳細な授業方法については担当教員の指示による。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

実務経験のある教員の教育内容

地方公務員や国家公務員、大学教員の経験を持つ私のほか、必要に応じて、連携大学の教員、企業経営者等の実務経験のある教員が指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

担当教員の指示による。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 本科目の概要説明(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等について)後、履修生の自己紹介を行う。自己紹介では「自分の出身地、又は、好きなまち」の「好き」「楽しい」「面白い」のプレゼン(1分間)。これにより問題意識を可視化する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第2回	(1)地域創生の本質とは何か？ 人口減少の構造と消滅可能性を学び、習う。 地域創生の現状と政策課題に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第3回	(2)地域創生の本質とは何か？ 関係人口とシビックプライドを学び、習う。 地域創生の現状と政策課題に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第4回	(1)国内外の地域創生に関する先行研究 起業家やアーティストと地域愛着を学び、習う。地域創生の政策研究に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第5回	(2)国内外の地域創生に関する先行研究 地域経済循環とレジリエンス(災害に強い)を学び、習う。地域創生の政策研究に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第6回	(1)国内の地域創生に関する事例研究 北海道東川町「写真甲子園」、ブランド化を学び、習う。地域創生の政策主体としての自治体政策や民間事業構想に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第7回	(2)国内の地域創生に関する事例研究 北海道夕張市「財政再建と市民の選択」を学び、習う。 地域創生の政策主体としての自治体政策や民間事業構想に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第8回	(3)国内の地域創生に関する事例研究 茨城県行方市「廃校再生」、生産性の向上を学び、習う。 地域創生の政策主体としての自治体政策や民間事業構想に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第9回	(4)国内の地域創生に関する事例研究 奈良県御所市「6次産業化」「全体最適化」を学び、習う。 地域創生の政策主体としての自治体政策や民間事業構想に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第10回	(5)国内の地域創生に関する事例研究 京都府宮津市「行政と自治会の共創」手づくり映画を学び、習う。地域創生の政策主体としての自治体政策や民間事業構想に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第11回	(6)国内の地域創生に関する事例研究 宮崎県日南市「商店街再生」「IT企業誘致」を学び、習う。地域創生の政策主体としての自治体政策や民間事業構想に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第12回	事例研究の比較分析 6つの事例研究の総括と「主体・地域資源・手法」による比較等の講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第13回	自治体の地域診断・構造分析に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。 国勢調査データ、地域経済分析システム(RESAS)を活用し、人口動態や産業動態等を可視化する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第14回	(1)北海道江別市の地域診断・構造分析に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。 国勢調査データ、地域経済分析システム(RESAS)を活用し、人口動態や産業動態等を可視化する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第15回	(2)北海道栗山町の地域診断・構造分析に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。 国勢調査データ、地域経済分析システム(RESAS)を活用し、人口動態や産業動態等を可視化する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を再度復習し、知識と知恵として身に付けること。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第16回	(3)北海道南幌町の地域診断・構造分析に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。 国勢調査データ、地域経済分析システム(RESAS)を活用し、人口動態や産業動態等を可視化する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第17回	(4)北海道当別町の地域診断・構造分析に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。 国勢調査データ、地域経済分析システム(RESAS)を活用し、人口動態や産業動態等を可視化する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第18回	(5)北海道仁木町の地域診断・構造分析に関して講義後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。 国勢調査データ、地域経済分析システム(RESAS)を活用し、人口動態や産業動態等を可視化する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第19回	フィールドワークと検証ヒアリング 地域創生の現場を回り、行政や地域住民にヒアリングをする問いの立て方とマナーを学び、習う。講義後、問い立て、対話のうえ、ヒアリング調査票を作成、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第20回	(1)現地入り調査・学生ヒアリングの実施 現地入り調査・ヒアリング(五感六育分析等)に関する講義後、自治体政策担当者及びまちのキーパーソン等にヒアリング。実施後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。現地入り自治体は学生の意向を聞き、対話後に決定する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第21回	(2)現地入り調査・学生ヒアリングの実施 現地入り調査・ヒアリング(五感六育分析等)に関する講義後、自治体政策担当者及びまちのキーパーソン等にヒアリング。実施後、問い立て、対話のうえ、理解を深める。現地入り自治体は学生の意向を聞き、対話後に決定する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第22回	地域創生のデータ収集の整理と仮説の確認 現地入りによる調査結果を持ち寄り、構造分析(理論)と現場ヒアリング(現実)のギャップを整理後、現実の最大の問題点や課題を可視化する。問い立て、対話のうえ、理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第23回	自治体政策提言の骨子とストーリー化の作成 自治体の現場分析、課題の特定、解説策(提言)、費用対効果の論理的構成を学び、習い、問い立てする。さらに、持続するまちとして、役割分担と出番創出を明確化するため、ストーリー化を検討する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第24回	政策提言の具体化 伝わること、共創することが重要であるため、キャッチコピー、プロモーションを学び、習う。学生の柔軟な発想力を研ぎ、地域住民が「好き」「楽しい」「面白い」と感じ参加したくなるネーミングや広報案等を対話のうえ、最適な自治体政策・事業構想を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第25回	実施主体と予算の検討 実施主体の検討のほか、自治体の既存予算、民間団体・企業等との連携、クラウドファンディング等の現実的な資金に関して、学び、習い、問い立てする。その後、対話のうえ、最適な実施主体と予算を思考する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第26回	分かりやすい図解と政策提言資料の作成 現場から得た独自データ等をグラフ、写真、地図等を生かしての分かりやすい、イメージしやすい図解や政策提言資料の作成に関する学び、習いを行う。問い立て、対話のうえ、政策提言用のプレゼン資料を作成する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		
第27回	ブレ発表会とピアレビューの実施 学生の発表事前練習の機会を設け、学生間でお互いの政策提言内容を学び、習い、評価し合い、高め合う。対話のうえ、政策提言を研ぎ上げる。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村 俊昭		

第28回	自治体政策提言の発表会の実施　プレゼンテーションの重要ポイント、最大の目的・目標等に関する学び、習いの講義を実施。質疑応答、問い立てを行う。その後、履修生から、これまでの学び、習い、問い立て内容を整理し、課題解決に向けての地域創生に関する政策提言を発表する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村　俊昭		
第29回	自治体政策提言の発表会の実施　履修生から、これまでの学び、習い、問い立て内容を整理し、課題解決に向けての地域創生に関する政策提言を発表する。	シラバスをよく読み、これまでに得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村　俊昭		
第30回	自治体政策提言の発表会の実施と総括・リフレクション 履修生から、これまでの学び、習い、問い立て内容を整理し、課題解決に向けての地域創生に関する政策提言を発表する。発表会后、これまでの学び、習い、問い立てを、再度、振り返る。その上で、「地域創生の本質とは何か？」など、履修生の自らの言葉で定義し、説明できるかなど、対話し、4年次の卒業論文や進路に向けての動機付けとする。	これまでの講義で得た地域創生の知り気づきや経験を整理のうえ、講義業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(20分)
担当教員	木村　俊昭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義時の課題提出(40%)、最終回による発表(60%)により、成績評価とする。
その他	0	なし。
教科書		
授業説明用の資料はメール添付にて配布する。		
参考文献		

授業時にその都度紹介する。

履修条件・留意事項等

日頃から地域創生の情報に関心を持つこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅲ (Driven) (中田 和彦)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	中田 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次前期の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」と併せて、4年次の「地域未来創造探究 (Explore)」、「卒業研究」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」に続き、どのようなアプローチ、方策、政策が実際の地域を動かしていくのかについて、その稼働する仕組みやそのために必要な知識、経験の蓄積を重ねる等、学際的視点も交えながら、地域等の方々との連携も視野に課題解決や改善プランの策定等を学ぶ。さらに、自らの学びの集大成に向けての助走段階に入ること、将来の自己イメージの形成を図る。

到達目標

①「地域未来創造演習Ⅱ(Creative)」における調査やヒアリングなどのフィールドワークやイベント等のボランティア体験、インターンシップ等(以下、FW等)の成果と課題を踏まえ、卒業研究につながるFW等の計画を作成することができる。 ②表計算ソフトや生成AI等を活用し、データを整理することができる。 ③適切な方法を用いて、FW等からの学びをプレゼンテーションすることができる。

授業の方法

「地域未来創造演習Ⅱ(Creative)」におけるFW等の成果と課題を踏まえ、個々の興味や関心をもとにしたFW等を計画・実践し、成果を報告書として取りまとめ、発表する。

ICT活用

•Google Geminiを活用して、ヒアリングや調査等のデータを整理する。 •動画を撮影するなどして、まとめに活用する。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校教諭、校長として9年の学校現場勤務と市町村や国立青少年教育施設への派遣等、24年の社会教育行政の勤務経験があり、公教育や生涯学習について幅広いの知識を有している。この経験を活かし、これからの時代に求められる教育や学び、教育と地域づくりの関連性等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

•成果物に対して、対面によって個別にフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」をふりかえるとともに、本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容等)について)理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た知識や経験を整理して授業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べ、講義全体に対する見通しを持つ。(20分)
担当教員			
第2回	FW等の計画作成に係る情報の収集・整理1 FW等に向け、協力して諸情報を収集・整理し、計画の目的・目標を明確にする。	収集する情報について下調べし、見通しを持つ。(25分)	収集・整理した情報を見直す。(20分)
担当教員			
第3回	FW等の計画作成に係る情報の収集・整理2 FW等に向け、協力して諸情報を収集・整理し、計画の概略をつかむ。	収集する情報について下調べし、見通しを持つ。(25分)	収集・整理した情報を見直す。(20分)
担当教員			

第4回	FW等の計画作成 FW等に向けた計画を作成する。	収集・整理した情報を見直す。 (25分)	作成した計画を見直す。(20分)
担当教員			
第5回	FW等の計画の発表 地域課題の解決に向けた取組の先進地でのFW等に向けた計画を発表し、批評し合う。	作成した計画書の発表の準備を行う。(25分)	発表後の指摘や改善事項を整理する。(20分)
担当教員			
第6回	FW等の計画のブラッシュアップ 作成した計画のブラッシュアップを行い、教員の最終チェックを受ける。	質疑の内容等を整理する。(25分)	最終的な計画書を確認する。(20分)
担当教員			

第7回	FW等の準備1 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の準備の進捗を確認する。 (20分)
担当教員			
第8回	FW等の準備1 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の準備の進捗を確認する。 (20分)
担当教員			
第9回	FW等の準備1 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			

第10回	FW等の準備2 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			
第11回	FW等の準備3 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			
第12回	FW等の準備4 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			

第13回	FW等の準備5 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			
第14回	FW等の準備6 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			
第15回	FW等の準備7 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			

第16回	FW等の準備8 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			
第17回	FW等の準備9 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			
第18回	FW等の準備10 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を整理する。(20分)
担当教員			

第19回	FW等の準備11 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第20回	FW等の準備12 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第21回	FW等の準備13 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			

第22回	FW等の準備14 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第23回	FW等の準備15 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	FW等の実践の内容や気づき等を報告書として整理する。(20分)
担当教員			
第24回	FW等の準備16 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	報告書の発表の準備を行う。(20分)
担当教員			

第25回	FW等の準備17 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	報告書の発表の準備を行う。(20分)
担当教員			
第26回	FW等の準備18 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	報告書の発表の準備を行う。(20分)
担当教員			
第27回	FW等の準備19 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	報告書の発表の準備を行う。(20分)
担当教員			

第28回	FW等の準備20 FW等の相手先との諸調整を行う。	FW等の計画を確認する。(25分)	報告書の発表の準備を行う。(20分)
担当教員			
第29回	FW等のまとめ FW等を通して、取組の成果や課題、改善方策等について発表し、実践をふりかえる。	報告書の発表準備を行う。(25分)	分析や発表媒体の作成等の課題を通しての気づきを整理する。(20分)
担当教員			
第30回	ふりかえり 授業全体をふりかえるとともに、「地域未来創造探究(Explore)」、「卒業研究」についての見通しを持つ。	これまでの資料や報告書等を読み返して授業に臨む。(25分)	「地域未来創造探究(Explore)」で取り組む課題についてのアイディアを整理する。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①FW等計画書 30% ②FW等の報告書 60% ③授業やFW先での態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

本科目は、受講者の興味や関心に基づき、FW等の計画・準備・実施・まとめを行う。FW等は4～5日程度の日程で集中的に行う場合があることや、土日祝日に行う場合があることに留意のこと。また、PCは必須とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅲ (Driven) (宮崎 隆志)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	宮崎 隆志						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次前期の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」と併せて、4年次の「地域未来創造探究 (Explore)」、「卒業研究」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」に続き、どのようなアプローチ、方策、政策が実際の地域を動かしていくのかについて、その稼働する仕組みやそのために必要な知識、経験の蓄積を重ねる等、学際的視点も交えながら、地域等の方々との連携も視野に課題解決や改善プランの策定等を学ぶ。さらに、自らの学びの集大成に向けての助走段階に入ること、将来の自己イメージの形成を図る。

到達目標

①自らの問題関心を説明できる。
 ②「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」における調査やヒアリングなどのフィールドワーク等の成果と課題を踏まえ、卒業研究につながるFW等の計画を作成することができる。
 ③FW等からの学びの成果を整理し、分かりやすく説明(プレゼンテーション)することができる。

授業の方法

「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」におけるFW等の成果と課題を踏まえ、個々の興味や関心をもとにしたFW等を計画・実践し、成果を報告書として取りまとめ、発表する。

ICT活用

・Google Gemini等を活用して、ヒアリングや調査等のデータを整理する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない

課題に対するフィードバックの方法

対面によって個別にフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」をふりかえるとともに、本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容等)について)理解を深める。	シラバスをよく読み、これまでに得た知識や経験を整理して授業に臨むこと。(25分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べ、講義全体に対する見通しを持つ。(20分)
担当教員			
第2回	FW等の計画作成に係る情報の収集・整理1 FW等に向け、文献を含む諸情報を収集・整理し、計画の目的・目標を明確にする。	自身の問題関心を振り返り、関心のある実践事例について調べる。(25分)	授業で得た情報を整理し、気づきと新たな問いを整理する。(25分)
担当教員			
第3回	FW等の計画作成に係る情報の収集・整理2 FW等に向け、文献を含む諸情報を収集・整理し、計画の目的・目標を明確にする。	自身の問題関心を振り返り、関心のある実践事例について調べる。(25分)	授業で得た情報を整理し、気づきと新たな問いを整理する。(25分)
担当教員			

第4回	FW等の計画作成に係る情報の収集・整理3 FW等に向け、文献を含む諸情報を収集・整理し、計画の目的・目標を明確にする。	自身の問題関心を振り返り、関心のある実践事例について調べる。(25分)	授業で得た情報を整理し、気づきと新たな問いを整理する。(25分)
担当教員			
第5回	FW等の計画作成に係る情報の収集・整理4 FW等に向け、文献を含む諸情報を収集・整理し、計画の目的・目標を明確にする。	自身の問題関心を振り返り、関心のある実践事例について調べる。(25分)	授業で得た情報を整理し、気づきと新たな問いを整理する。(25分)
担当教員			
第6回	FW等の計画作成に係る情報の収集・整理5 FW等に向け、文献を含む諸情報を収集・整理し、計画の目的・目標を明確にする。	自身の問題関心を振り返り、関心のある実践事例について調べる。(25分)	授業で得た情報を整理し、気づきと新たな問いを整理する。(25分)
担当教員			

第7回	FW等の計画作成に係る情報の収集・整理 FW等に向け、文献を含む諸情報を収集・整理し、計画の目的・目標を明確にする。	自身の問題関心を振り返り、関心のある実践事例について調べる。(25分)	授業で得た情報を整理し、気づきと新たな問いを整理する。(25分)
担当教員			
第8回	FW等の計画の作成 地域課題の解決に向けた取組の先進地でのFW等に向けた計画を発表し、批評し合う。	FW等の計画を検討する。(25分)	授業で得た情報を整理し、気づきと新たな問いを整理する。(25分)
担当教員			
第9回	FW等の計画の発表 地域課題の解決に向けた取組の先進地でのFW等に向けた計画を発表し、批評し合う。	FW等の計画の改善点を確認する。(25分)	授業で得た情報を整理し、気づきと新たな問いを整理する。(25分)
担当教員			

第10回	FW等の計画のブラッシュアップ 作成した計画のブラッシュアップを行い、教員の最終チェックを受ける。	FW等の計画の改善点を確認する。(25分)	授業で得た情報を整理し、気づきと新たな問いを整理する。(25分)
担当教員			
第11回	FW等に着手する。FWの形態に応じた情報収集を進め、記録を作成する。	FW等の記録を整理し、気づきと改善点をまとめる。(25分)	次回のFWの課題を整理する。(25分)
担当教員			
第12回	FW等の形態に応じた情報収集を進め、記録を作成する。	FW等の記録を整理し、気づきと改善点をまとめる。(25分)	次回のFWの課題を整理する。(25分)
担当教員			

第13回	FW等の形態に応じた情報収集を進め、記録を作成する。	FW等の記録を整理し、気づきと改善点をまとめる。(25分)	次回のFWの課題を整理する。(25分)
担当教員			
第14回	FW等の形態に応じた情報収集を進め、記録を作成する。	FW等の記録を整理し、気づきと改善点をまとめる。(25分)	次回のFWの課題を整理する。(25分)
担当教員			
第15回	FW等の形態に応じた情報収集を進め、記録を作成する。	FW等の記録を整理し、気づきと改善点をまとめる。(25分)	次回のFWの課題を整理する。(25分)
担当教員			

第16回	FW等の形態に応じた情報収集を進め、記録を作成する。	FW等の記録を整理し、気づきと改善点をまとめる。(25分)	次回のFWの課題を整理する。(25分)
担当教員			
第17回	FW等の形態に応じた情報収集を進め、記録を作成する。	FW等の記録を整理し、気づきと改善点をまとめる。(25分)	次回のFWの課題を整理する。(25分)
担当教員			
第18回	FW等の形態に応じた情報収集を進め、記録を作成する。	FW等の記録を整理し、気づきと改善点をまとめる。(25分)	次回のFWの課題を整理する。(25分)
担当教員			

第19回	FW等の形態に応じた情報収集を進め、記録を作成する。	FW等の記録を整理し、気づきと改善点をまとめる。(25分)	次回のFWの課題を整理する。(25分)
担当教員			
第20回	FW等の形態に応じた情報収集を進め、記録を作成する。	FW等の記録を整理し、気づきと改善点をまとめる。(25分)	FW等の成果を整理する。(25分)
担当教員			
第21回	FW等の成果を中間的にまとめ発表する。	FW等の成果を整理する。(25分)	発表によって得た気づきを整理する。(25分)
担当教員			

第22回	FW等の成果を中間的にまとめ発表する。	FW等の成果を整理する。(25分)	発表によって得た気づきを整理する。(25分)
担当教員			
第23回	FW等の成果の中間検討で明らかになった課題を解決するための方法を検討する。	問題に迫るために必要な追加情報について整理する。(25分)	検討によって得た気づきを整理する。(25分)
担当教員			
第24回	FW等の成果の中間検討で明らかになった課題を解決するための方法を検討する。	問題に迫るために必要な追加情報について整理する。(25分)	検討によって得た気づきを整理する。(25分)
担当教員			

第25回	FW等での補足調査や文献検討等を行い、それまでに得た知見の妥当性を検証する。	問題に迫るために必要な追加情報を得るための方法について整理する。(25分)	検討によって得た気づきを整理する。(25分)
担当教員			
第26回	FW等での補足調査や文献検討等を行い、それまでに得た知見の妥当性を検証する。	問題に迫るために必要な追加情報を得るための方法について整理する。(25分)	検討によって得た気づきを整理する。(25分)
担当教員			
第27回	FW等での補足調査や文献検討等を行い、それまでに得た知見の妥当性を検証する。	問題に迫るために必要な追加情報を得るための方法について整理する。(25分)	検討によって得た気づきを整理する。(25分)
担当教員			

第28回	FW等で得た知見の取りまとめを行う。	自分が設定した問いに対し、何がどこまで明らかにできたのかを振り返る。	発表に向けた準備を行う。(25分)
担当教員			
第29回	FW等で得た知見を発表する。	発表の際に受けた指摘を整理する。(25分)	これまでの学びの成果を振り返る。(25分)
担当教員			
第30回	ふりかえり 授業全体をふりかえるとともに、「地域未来創造探究(Explore)」、「卒業研究」についての見通しを持つ。	これまでの学びの成果を振り返る。(25分)	「地域未来創造探究(Explore)」で取り組む課題についてのアイディアを整理する。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①FW等計画書: 40% ②FW等の報告書 :50% ③授業やFW先での応答性 :10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

授業の中で紹介する。各自の関心や課題に対応し、情報収集の方法(調査方法)に関する文献等を紹介する。

履修条件・留意事項等

フィールドワークの形態は、課題解明の観点から妥当性を持つ限りで自由である。したがって、演習での検討は各自の課題と方法に即して個別的になるが、互いのアプローチの仕方から相互に学び、また意見を出し合うことにより、集团的・協働的な学びとして展開する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅲ (Driven) (吉岡 亜希子)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次前期の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」と併せて、4年次の「地域未来創造探究 (Explore)」、「卒業研究」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」に続き、どのようなアプローチ、方策、政策が実際の地域を動かしていくのかについて、その稼働する仕組みやそのために必要な知識、経験の蓄積を重ねる等、学際的視点も交えながら、地域等の方々との連携も視野に課題解決や改善プランの策定等を学ぶ。さらに、自らの学びの集大成に向けての助走段階に入ること、将来の自己イメージの形成を図る。

到達目標

①地域課題の解決に資する調査やヒアリングなどのフィールドワークやイベント等のボランティア体験、インターンシップ等(以下、FW等)の計画を作成することができる。
 ②計画に基づき、FW等の相手先との諸調整や結果を整理することができる。
 ③文字起こしや写真・映像の記録方法等、FW等に関する基本的な技能を実践することができる。
 ④卒業研究に向けたテーマについて見通しをもつことができる。

授業の方法

受講生の調査活動と学習実践の企画実施等の体験学習を基本とする。準備のためのディスカッションを行う。

ICT活用

ヒアリングデータは、AIボイスレコーダーを活用して整理する。
 学習会のアンケート等は、Googleフォームを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

市民活動として行っている子育て支援に関連する団体運営、学びの場づくり等での経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

成果物に対してコメントを返し、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の概要(授業の進め方、目指す到達点、内容、日程等)について)理解を深める。	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第2回	フィールドワークの準備 各自の関心分野、問題意識を明確にするためのディスカッションを行う。～a) 関心分野の分析	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第3回	フィールドワークの準備 各自の関心分野、問題意識を明確にするためのディスカッションを行う。～b) 問題意識の分析	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第4回	フィールドワークの準備 問題意識の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第5回	フィールドワークの準備 情報収集の手法	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第6回	フィールドワークの準備 情報収集	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第7回	フィールドワークの準備 フィールドワークの計画書づくり前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第8回	フィールドワークの準備 フィールドワーク計画書づくり後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第9回	フィールドワークの実施 調査、ヒアリング等～前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第10回	フィールドワークの実施 調査、ヒアリング等～後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第11回	フィールドワークで得た内容の整理～a) 内容の整理	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第12回	フィールドワークで得た内容の整理～b) 内容の共有	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第13回	フィールドワークの報告～前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第14回	フィールドワークの報告～後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第15回	フィールドワークのまとめ、講評～前半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第16回	フィールドワークのまとめ、講評～後半	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第17回	学習計画と学習実践:各自で学習計画を立案①	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第18回	学習計画と学習実践:各自で学習計画を立案②	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第19回	学習計画と学習実践:各自で学習計画を立案③	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第20回	学習計画と学習実践:各自で学習実践の調整を行う①	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第21回	学習計画と学習実践:各自で学習実践の調整を行う②	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第22回	学習計画と学習実践:各自で学習実践の調整を行う③	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第23回	学習計画と学習実践:各自で学習実践の調整を行う④	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第24回	学習計画と学習実践:各自で学習実践の調整を行う④	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第25回	学習会の準備②	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第26回	学習会の開催①	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第27回	学習会の開催②	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			

第28回	学習会の振り返り①～事後に行う諸活動の確認	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第29回	学習会の振り返り②	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
第30回	まとめ	授業のテーマについて準備を行う。(20分)	学習内容を振り返り、まとめる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①フィールドワークの事前準備・計画書・報告・まとめ 45% ②学習会の調整・準備・開催・振り返り 45% ③授業への参加度・態度 10%
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

授業内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅲ (Driven) (木村 悠里菜)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。3年次前期の「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」と併せて、4年次の「地域未来創造探究 (Explore)」、「卒業研究」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」に続き、どのようなアプローチ、方策、政策が実際の地域を動かしていくのかについて、その稼働する仕組みやそのために必要な知識、経験の蓄積を重ねる等、学際的視点も交えながら、地域等の方々との連携も視野に課題解決や改善プランの策定等を学ぶ。さらに、自らの学びの集大成に向けての助走段階に入ること、将来の自己イメージの形成を図る。

到達目標

①自ら関心のあるテーマを設定し、文献調査やフィールドワーク(インタビュー、観察、資料収集等)を通じて地域社会の課題や実践について理解を深めることができる。
 ②調査を通じて得られた情報やデータを整理・分析し、研究計画や調査結果としてまとめることができる。
 ③調査の成果をプレゼンテーションやレポートとして整理し、他者にわかりやすく伝えることができる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料および教科書等を併用しながら、研究計画の立て方や調査方法、成果のまとめ方などについて視覚的に理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用して配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参すること。
- ・本授業では、文献講読や研究計画の作成に加え、各自が設定したテーマに基づきフィールドワーク(インタビュー、観察、資料収集等)を実施する。調査の進捗や成果についてはゼミ内で共有し、討議や発表を通じて理解を深める。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職や、全国のまちづくり活動等での実務経験を活かして、実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション:ゼミの目的、年間計画、フィールドワークの概要説明 文献講読①:卒業研究の基本と研究テーマ設定の考え方	授業概要・評価方法を確認したうえで、卒業論文で取り上げたいテーマを考える。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第2回	文献講読②:研究計画書の構成と調査方法の基礎	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第3回	調査計画書作成①:研究テーマの設定と問いの整理	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第4回	調査計画書作成②: 先行研究の整理と研究目的の明確化	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第5回	調査計画書作成③: 研究方法(インタビュー・観察等)の検討	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第6回	調査計画書作成④: 研究計画書の作成とゼミ内共有	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第7回	調査準備①:調査対象の設定とフィールド選定	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第8回	調査準備②:調査依頼の方法、連絡・調整の進め方	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第9回	調査準備③:インタビュー項目・観察記録の作成	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第10回	調査準備④:調査計画の最終確認と安全・倫理の確認	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第11回	フィールドワーク実施①:調査の進め方の確認および各自の調査活動	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第12回	フィールドワーク実施②:各自の調査活動	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第13回	フィールドワーク実施③:各自の調査活動	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第14回	フィールドワーク実施④:各自の調査活動	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第15回	フィールドワーク実施⑤:各自の調査活動	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第16回	フィールドワーク実施⑥:各自の調査活動	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第17回	フィールドワーク実施⑦:各自の調査活動	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第18回	フィールドワーク実施⑧:各自の調査活動	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第19回	フィールドワーク実施⑨: 各自の調査活動	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第20回	フィールドワーク実施⑩: 各自の調査活動	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第21回	フィールドワーク実施⑪: 各自の調査活動	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第22回	フィールドワーク実施⑫:各自の調査活動	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第23回	フィールドワーク実施⑬:各自の調査活動	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第24回	フィールドワーク実施⑭:各自の調査活動	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第25回	成果整理①:調査結果の整理とデータのまとめ方	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第26回	成果整理②:分析の進め方と考察の整理	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第27回	発表準備①:プレゼンテーション資料の作成	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			

第28回	発表準備②:プレゼンテーション資料の作成	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第29回	最終成果発表①:調査成果の発表と質疑応答	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
第30回	最終成果発表②:総括・振り返りと今後の卒業研究への展開	授業内で指示された課題を実施する。(45分)	授業内容を整理する。(45分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	40	最終成果課題
その他	60	課題提出状況、ゼミ内での報告・討議への参加、授業態度等を総合的に評価する。
教科書		
本科目では、学術的な視座を深めるための基本文献を指定する。具体的な文献については、初回授業時に共有し、授業の進行に応じて補助的な参考資料を適宜提示する。		
参考文献		

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

初回授業時に説明する。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		人間科学部 地域未来学科					
区分		演習科目 地域未来演習					
科目名		地域未来創造演習Ⅲ (Driven) (松田 祐)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	松田 祐						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーにおける「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」、及び「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。また、4年次の「地域未来創造探求 (Explore)」の基礎となる科目である。

授業の概要

本科目では、「地域未来創造演習Ⅱ (Creative)」に続き、どのようなアプローチ、方策、政策が実際の地域を動かしていくのかについて、その稼働する仕組みやそのために必要な知識、経験の蓄積を重ねる等、学際的視点も交えながら、地域等の方々との連携も視野に課題解決や改善プランの策定等を学ぶ。さらに、自らの学びの集大成に向けての助走段階に入ること、将来の自己イメージの形成を図る。

到達目標

①演習やフィールドワークを通して、特定の分野における総論的な説明及び各論的な事例における課題と解決策を明示し、独自の解釈を加えながら論述することができる。
 ②実践型のプロジェクトを通して、多様な主体とともに課題の解決に向けた協調的な行動をとり、責務分担や工程管理などをマネジメントを踏まえて、完成・終了までたどりつくことができる。

授業の方法

主に、パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用い、必要に応じてフィールドワークを行ったり、地域で主体的に活動する人からのブリーフィングやディスカッションを展開する。

ICT活用

主に、課題や授業連絡などのやり取りにGoogle classroomを活用する。なお、詳細については担当教員の指示による。

実務経験のある教員の教育内容

民間企業や大学職員、地域における官学連携研究機関などの就業経験がある。地域と大学のよりよい関係性や官学連携などについて指導する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜課すコメントシートへの記入及び添削を通して、知識の整理や派生的な知識の獲得を促す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ゼミの進め方や評価基準等について説明する。	シラバスをよく読み、これまでに得た“地域”に係る知識や経験について整理して授業に臨むこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第2回	ゼミプロ: 大学の地域連携を实践する(1) 地域連携企画の实践 大学の地域連携をテーマに、前期での学びを踏まえて学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第3回	ゼミプロ: 大学の地域連携を实践する(2) 地域連携企画の实践 大学の地域連携をテーマに、前期での学びを踏まえて学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第4回	ゼミプロ:大学の地域連携を実践する(3)地域連携企画の実践 大学の地域連携をテーマに、前期での学びを踏まえて学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第5回	ゼミプロ:大学の地域連携を実践する(4)地域連携企画の実践 大学の地域連携をテーマに、前期での学びを踏まえて学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第6回	演習:個人研究応用(1) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に係ることができるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			

第7回	演習:個人研究応用(2) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第8回	演習:個人研究応用(3) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第9回	演習:個人研究応用(4) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			

第10回	演習:個人研究応用(5) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第11回	演習:個人研究応用(6) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第12回	演習:個人研究応用(7) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第13回	演習:個人研究応用(8) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第14回	中間報告(個人研究:11月) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて報告を行い、研究の進捗状況、成果について共有する。	自分の興味・関心や就職などの諸要素を踏まえ、中間の振り返り準備を行うこと。(90分)	他者の中間報告も踏まえ、最終報告に向けた周辺知識の整理に努めること。(90分)
担当教員			
第15回	ゼミプロ:大学の地域連携を实践する(5)プロジェクト結果報告準備 大学の地域連携をテーマに、前期での学びを踏まえて学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第16回	ゼミプロ: 大学の地域連携を実践する(6)プロジェクト結果報告準備 大学の地域連携をテーマに、前期での学びを踏まえて学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第17回	ゼミプロ: 大学の地域連携を実践する(7)プロジェクト結果報告 大学の地域連携をテーマに、前期での学びを踏まえて学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第18回	ゼミプロ: 大学の地域連携を実践する(8)プロジェクト結果報告 大学の地域連携をテーマに、前期での学びを踏まえて学科横断的な実践型プロジェクトを展開する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			

第19回	演習:個人研究応用(9) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第20回	演習:個人研究応用(10) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第21回	演習:個人研究応用(11) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			

第22回	演習:個人研究応用(12) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第23回	演習:個人研究応用(13) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第24回	演習:個人研究応用(14) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第25回	演習:個人研究応用(15) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第26回	演習:個人研究応用(16) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			
第27回	演習:個人研究応用(17) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。(20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。(25分)
担当教員			

第28回	演習:個人研究応用(18) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて、当該分野における知識獲得をはじめ、実社会で携わる関係者との意見交換、現場視察を踏まえて、卒業研究に連係できるように整理を行う。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	配布資料や講義内容を復習し、必要に応じて調べておくこと。 (25分)
担当教員			
第29回	期末報告(個人研究:1～2月) 現時点の個人的に研究関心・テーマ・トピックについて報告を行い、研究の進捗状況、成果について共有する。 ※オープンゼミ形式:他年次と合同実施にて行い、学外者も招聘する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	就職活動とのバランスを考慮しつつ、4年次に取り組む卒業研究を見据えた準備を着実にを行うこと。(25分)
担当教員			
第30回	期末報告(個人研究:1～2月)/クロージング 個人研究及びゼミプロに関する進捗状況の確認等を行い、春休みや4年次の卒業研究において取り組むべきことについて共有する。 ※オープンゼミ形式:他年次と合同実施にて行い、学外者も招聘する。	授業で指示した課題を行うこと。 (20分)	就職活動とのバランスを考慮しつつ、4年次に取り組む卒業研究を見据えた準備を着実にを行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業(座学、フィールドワーク等)に取り組む姿勢(50%)、記述による提出物(50%)
その他	0	なし
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

適宜、ゼミ教員から指定または提供された、テーマやトピックに係る資料等

履修条件・留意事項等

原則は時間割で指定された曜日・開講時にて授業を行うが、地域で活動する人や組織などの学内外の協力体制との調整が不可欠であるため、日程・時間調整を行う場合があり、その場合は事前にお知らせする。なお、ゼミプロにおいては前期同様、変則日程でのプロジェクトとなるため、アルバイトやインターンなど各自予定と調整の上、参加すること。

備考欄

なし